岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第700集

長途遺跡発掘調査報告書

2019

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第700集

長途（おさんど）遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2019

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

長途遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県下閉伊郡普代村の三陸沿岸道路建設事業に関連して平成 28 年度に発掘調査を実施した、長途遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査で本遺跡は、縄文時代集落と狩猟場、弥生時代の集落として利用されていたことが明らかとなりました。特に竪穴建物と土坑から出土した遺物は、岩手県沿岸北部の縄文時代前期の土器様相を考える上で貴重な資料となりました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました普代村教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成 31 年 2 月

公益財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　　菅　野　洋　樹

例　　言

1．本書は、岩手県下閉伊郡普代村第19地割字白井91番地1、93番地9ほかに所在する長途遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2．本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3．本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡コードはJE82-1007、遺跡略号はOSD-16である。

4．野外調査及び室内整理期間、調査担当者は次の通りである。

野外調査　期　間　平成28年9月16日～12月16日
面　積　2,800㎡
担当者　米田　寛・鈴木貞行・久保友咲

室内整理　期　間　平成28年11月1日～平成29年3月31日
担当者　米田　寛・久保友咲
期　間　平成30年 4 月1日～平成30年6月30日
担当者　星　雅之

5．本報告書の作成は、米田・鈴木・久保・星で分担し、本文執筆は、第Ⅰ章1節調査経緯を国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、第Ⅴ章自然科学分析1をパリノ・サーヴェイ株式会社、第Ⅲ章の遺構に関する記載を米田・鈴木・久保で分担し、文末に執筆者名を記した。
なお、全体の編集・校正は星が行った。

6．分析・鑑定、座標原点の測量は次の機関等に委託した。
・放射性炭素年代測定（ＡＭＳ）……パリノ・サーヴェイ株式会社
・石　質　鑑　定……花崗岩研究会・柳沢忠昭
・基 準 点 測 量……株式会社ダイヤ

7．本書では以下の地形図・地質図を使用した。
・「1/25,000地形図　陸中野田・玉川・普代」（国土地理院）
・「普代村全図」19-（年代不明）普代村（国立国会図書館複写）
・「地形分類図　1/50,000　陸中野田」『土地分類基本調査』（岩手県：1975）

8．発掘調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

9．調査成果の一部については、平成28年度発掘調査報告書調査概報（岩埋文第676集）等に公表したが、本書の記載内容が優先するものである。

凡　　例

１．遺構図の用例は次の通りである（凡例図参照）。

（１）遺構実測図の縮尺は竪穴建物の平面・断面図 1/50、炉・焼土平面・断面図 1/20、土坑・陥し穴状遺構平面・断面図 1/50 で表した。ただし規模の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

（２）推定線は破線で表した。また、遺構同士の切り合いは線種を変えて表現した。

（３）層位は、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土などにアラビア数字を使用した。

（４）土層色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。

２．遺物実測図の用例は次の通りである（凡例図参照）。

（１）遺物実測図の縮尺は土器・礫石器 1/3、剥片石器・土製品 2/3 で表した。

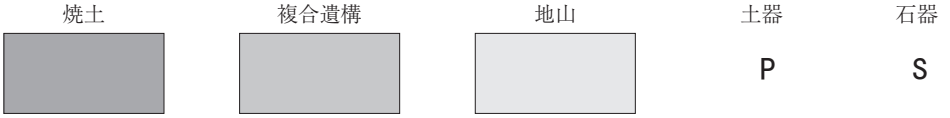
３．写真図版の用例は次の通りである。

（１）遺構写真図版については、基本的に平面及び断面写真をセットとし掲載した。

（２）遺物写真図版については、縮尺は不定である。

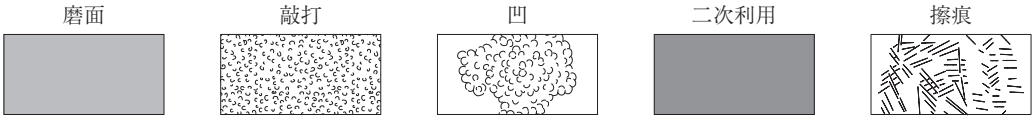
４．本書で使用した記号（略号）やトーンは次のとおりである。

（１）遺構



（２）遺物

［石器類］



目　　次

Ⅰ　調査に至る経過

1　調　査　経　緯 …… 1

2　調　査　経　過 …… 1

Ⅱ　立 地 と 環 境

1　遺跡の位置と立地 …… 2

2　周 辺 の 遺 跡 …… 2

3　基　本　層　序 …… 7

Ⅲ　調査・整理の方法

1　野外調査方法 …… 8

2　整　理　方　法 …… 8

(1)　遺 構 の 整 理 …… 8

(2)　遺 物 の 整 理 …… 8

(3)　遺物写真撮影 …… 8

Ⅳ　検出遺構と出土遺物

1　全 体 の 概 要 …… 9

(1)　土 器 の 分 類 …… 9

(2)　石 器 の 分 類 …… 10

2　検出遺構と出土遺物 …… 10

(1)　竪　穴　建　物 …… 10

(2)　性格不明遺構 …… 12

(3)　陥し穴状土杭 …… 13

(4)　土　　坑 …… 15

(5)　焼　　土 …… 18

(6)　遺物包含層（捨て場状遺構） …… 19

3　出　土　遺　物 …… 19

(1)　縄　文　土　器 …… 19

(2)　弥　生　土　器 …… 20

(3)　石　　器 …… 20

(4)　土　　製　　品 …… 21

Ⅴ　自然科学分析

1　放射性炭素年代測定 …… 89

Ⅵ　総　　括

１　概　　要 …… 93

２　検　出　遺　構 …… 93

３　出　土　遺　物 …… 94
（1）縄　文　土　器 …… 94
（2）弥　生　土　器 …… 94

４　ま　と　め …… 96

引用参考文献 …… 96

報　告　書　抄　録 …… 139

図版目次

遺物凡例図
第１図　遺跡位置図 …… 3
第２図　地形分類図 …… 4
第３図　遺跡分布図 …… 5
第４図　古地図にみる遺跡範囲図 …… 6
第５図　遺構配置図 …… 23
第６図　基本土層 …… 24
第７図　１・２号竪穴建物 …… 25
第８図　３号竪穴建物 …… 26
第９図　４号竪穴建物１ …… 27
第10図　４号竪穴建物２ …… 28
第11図　５号竪穴建物 …… 29
第12図　１・２号性格不明遺構 …… 30
第13図　３号性格不明遺構 …… 31
第14図　１～４号陥し穴状土坑 …… 32
第15図　５～８号陥し穴状土坑 …… 33
第16図　１～３・７・８号土坑 …… 34
第17図　４・５号土坑 …… 35
第18図　６号土坑 …… 36
第19図　９～11号土坑 …… 37
第20図　１～７号焼土 …… 38
第21図　谷部遺物包含層断面 …… 39
第22図　１～３号竪穴建物出土土器 …… 40
第23図　４・５号竪穴建物出土土器 …… 41
第24図　１・３号性格不明遺構、２号陥し穴状土坑、１～４号土坑出土土器 …… 42
第25図　４号土坑出土土器 …… 43
第26図　５・６号土坑出土土器 …… 44
第27図　７・８・10号土坑、遺構外出土土器（１）…… 45
第28図　遺構外出土土器（２）…… 46
第29図　遺構外出土土器（３）…… 47
第30図　遺構外出土土器（４）…… 48
第31図　遺構外出土土器（５）…… 49
第32図　遺構外出土土器（６）…… 50
第33図　遺構外出土土器（７）…… 51
第34図　遺構外出土土器（８）…… 52
第35図　遺構外出土土器（９）…… 53
第36図　遺構外出土土器（10）…… 54
第37図　遺構外出土土器（11）…… 55
第38図　遺構外出土土器（12）、土製紡錘車 …… 56
第39図　１号竪穴建物、３号竪穴建物・１号土坑出土石器 …… 57
第40図　３号竪穴建物・１号土坑、４号竪穴建物出土石器 …… 58
第41図　４・５号竪穴建物出土石器 …… 59
第42図　５号竪穴建物出土石器 …… 60
第43図　５号竪穴建物、３号性格不明遺構、２～４号陥し穴状土坑、４号土坑出土石器 … 61
第44図　10号土坑、２・３号焼土、遺構外出土石器（１）…… 62
第45図　遺構外出土石器（２）…… 63
第46図　遺構外出土石器（３）…… 64
第47図　遺構外出土石器（４）…… 65
第48図　遺構外出土石器（５）…… 66
第49図　遺構外出土石器（６）…… 67
第50図　遺構外出土石器（７）…… 68
第51図　遺構外出土石器（８）…… 69
第52図　遺構外出土石器（９）…… 70
第53図　遺構外出土石器（10）…… 71
第54図　遺構外出土石器（11）…… 72
第55図　遺構外出土石器（12）…… 73
第56図　土器集成図１ …… 95
第57図　土器集成図２ …… 96

表　目　次

第１表　石器組成表 …… 22
第２表　土器・土製品観察表１ …… 74
第３表　土器・土製品観察表２ …… 75
第４表　土器・土製品観察表３ …… 76
第５表　土器・土製品観察表４ …… 77
第６表　土器・土製品観察表５ …… 78
第７表　土器・土製品観察表６ …… 79
第８表　土器・土製品観察表７ …… 80
第９表　土器・土製品観察表８ …… 81
第10表　土器・土製品観察表９ …… 82
第11表　土器・土製品観察表10 …… 83
第12表　土器・土製品観察表11 …… 84
第13表　石器観察表１ …… 85
第14表　石器観察表２ …… 86
第15表　石器観察表３ …… 87
第16表　石器観察表４ …… 88

写真図版目次

写真図版１　遺跡遠景 …… 98
写真図版２　調査区全景・基本土層 …… 99
写真図版３　調査区近景 …… 100
写真図版４　１号竪穴建物 …… 101
写真図版５　２号竪穴建物 …… 102
写真図版６　３号竪穴建物 …… 103
写真図版７　４号竪穴建物 …… 104
写真図版８　５号竪穴建物 …… 105
写真図版９　１～３号性格不明遺構、１号陥し穴状土坑 …… 106
写真図版10　２～５号陥し穴状土坑 …… 107
写真図版11　６～８号陥し穴状土坑、１号土坑… 108
写真図版12　２～４・９号土坑 …… 109
写真図版13　４～６号土坑 …… 110
写真図版14　６～８・10号土坑 …… 111
写真図版15　11号土坑、１～３号焼土 …… 112
写真図版16　４～７号焼土 …… 113
写真図版17　１～３号竪穴建物出土土器 …… 114
写真図版18　４・５号竪穴建物出土土器 …… 115
写真図版19　１・３号性格不明遺構、２号陥し穴状土坑、１～４号土坑出土土器… 116
写真図版20　４号土坑出土土器 …… 117
写真図版21　５・６号土坑出土土器 …… 118
写真図版22　７・８・10土坑、遺構外出土土器（１） …… 119
写真図版23　遺構外出土土器（２）…… 120
写真図版24　遺構外出土土器（３）…… 121
写真図版25　遺構外出土土器（４）…… 122
写真図版26　遺構外出土土器（５）…… 123
写真図版27　遺構外出土土器（６）…… 124
写真図版28　遺構外出土土器（７）…… 125
写真図版29　遺構外出土土器（８）…… 126
写真図版30　遺構外出土土器（９）…… 127
写真図版31　遺構外出土土器（10）、土製紡錘車 128
写真図版32　１号竪穴建物、３号竪穴建物・１号土坑、４号竪穴建物出土石器… 129
写真図版33　４・５号竪穴建物出土石器 …… 130
写真図版34　５号竪穴建物、３号性格不明遺構、２・３号陥し穴状土坑出土石器 … 131
写真図版35　４・10号土坑、２・３号焼土、遺構外出土石器（１）…… 132
写真図版36　遺構外出土石器（２）…… 133
写真図版37　遺構外出土石器（３）…… 134
写真図版38　遺構外出土石器（４）…… 135
写真図版39　遺構外出土石器（５）…… 136
写真図版40　遺構外出土石器（６）…… 137
写真図版41　遺構外出土石器（７）…… 138

Ⅰ　調査に至る経過

1．調　査　経　緯

長途遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（普代～久慈）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359㎞の自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年4月9日付け国東整陸二工第6号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年4月24日～26日にわたり試掘調査を行い、平成25年5月31日付け教生第333号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成28年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所）

2．調　査　経　過

平成28年9月16日より調査を開始した。現況は造成林で、下草が生い茂っていた。重機による表土掘削で、第Ⅱ層面を露出させて粗掘作業を進めたところ、弥生時代後期の土製紡錘車・弥生土器、焼土数箇所を確認した。よって第Ⅱ層上面を第1遺構検出面（弥生面）と捉えて、遺構検出作業を行った。Ⅱ層を堆積土とする遺構は2号竪穴建物、1～4号焼土である。これらの調査を終えて、人力でⅢ層（Ⅲａ層がTo-Cu包含層、Ⅲｂ層がTo-Cuに覆われた地層）の掘削と遺構検出を繰り返し、最終的にはⅣ層上面を最終遺構検出面とした。Ⅲ層上面では、谷状地形を横断するように列状配置となる陥し穴状土坑群を確認した。その平面形状から縄文時代後期以降の構築と考えられる。Ⅲ層内では縄文時代前期前葉の建物や土坑等を確認した。特に、谷状地形範囲のⅢａ層除去後には、Ⅲｂ層を堆積土とする土坑群の存在が明らかとなり、このいくつかは墓壙の可能性があると認識できた。当初面積は2,100㎡であったが、調査区際で多量の縄文土器が出土することから、県生涯学習文化課に照会し、調査区西側を拡張することとなった。最終的な終了面積2,800㎡である。

平成28年12月7日に岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる遺跡調査終了確認検査を実施した。調査成果として、縄文時代前期の集落、縄文時代後期以降の狩猟場、弥生時代後期の集落の一部が判明したことを報告した。各遺構調査終了後に調査区全景の航空写真撮影と安全確保のための深い遺構の埋め戻し作業を行い、平成28年12月16日に野外調査を終了した。

室内整理作業は平成28年11月1日から開始し、遺物洗浄、注記、接合・復元、遺物実測トレースを平成29年3月31までに終了した。平成30年4月～6月に遺物写真撮影を含む整理作業を行い、平成31年2月に本書を刊行した。

（星・米田）

Ⅱ　立 地 と 環 境

1　遺跡の位置と立地

遺跡の所在する普代村は、岩手県下閉伊郡の最北端に位置し、東側は太平洋に面し、南には下閉伊郡田野畑村、北は九戸郡野田村、西は下閉伊郡岩泉町に接している。村域は、東経 141° 47′ 49″～141° 57′ 08″、北緯 39° 57′ 31″～40° 03′ 10″、東西 8,953m、南北 12,487m、総面積 69.66㎢である。人口は、2,823 人、世帯数は、1,162 世帯 (2016 年 12 月 31 日現在) を数える。村の主産業は、漁業であるが、近年、観光産業にも力を注いでいる。

長途遺跡は、岩手県下閉伊郡普代村第 19 地割字白井地内、普代村役場の北北西約 4.2㎞に所在し、南東方向に国道 45 号を挟んで北緯 40 度運動公園野球場が隣接する。

本遺跡は海岸段丘起源の丘陵地に位置し、標高は 100 ～ 104 mである。東側の海岸線には断崖絶壁のリアス式海岸が連なっている。野田村玉川地区から普代村太田名部地区までの海岸部の基盤は、花崗岩質岩石である。本遺跡でも花崗岩帯上に、花崗岩風化土（通称マサ土）が形成されている。

2　周 辺 の 遺 跡

平成 27 年度岩手県遺跡情報検索システムによると普代村の遺跡は 60 箇所、隣接する野田地区で 47 箇所である。このうち近年の三陸沿岸道路建設に伴う発掘調査の成果は以下 5 遺跡である。

普代村力持遺跡は、平成 13 ～ 15 年・26 年・28 年に調査が実施され、縄文時代前期～後期の竪穴住居跡のほか、土抗、粘土採掘坑、焼土、柱穴等が検出された。なお、普代村の遺跡分布は力持遺跡発掘調査報告書を参照されたい。

野田村では、伏津館跡の調査が平成 25・26 年に行われ、縄文時代の陥し穴状遺構、古代の炭窯跡、中世の堀跡・土塁・曲輪・切岸・武者走り状遺構・掘立柱建物跡などの遺構が検出された。

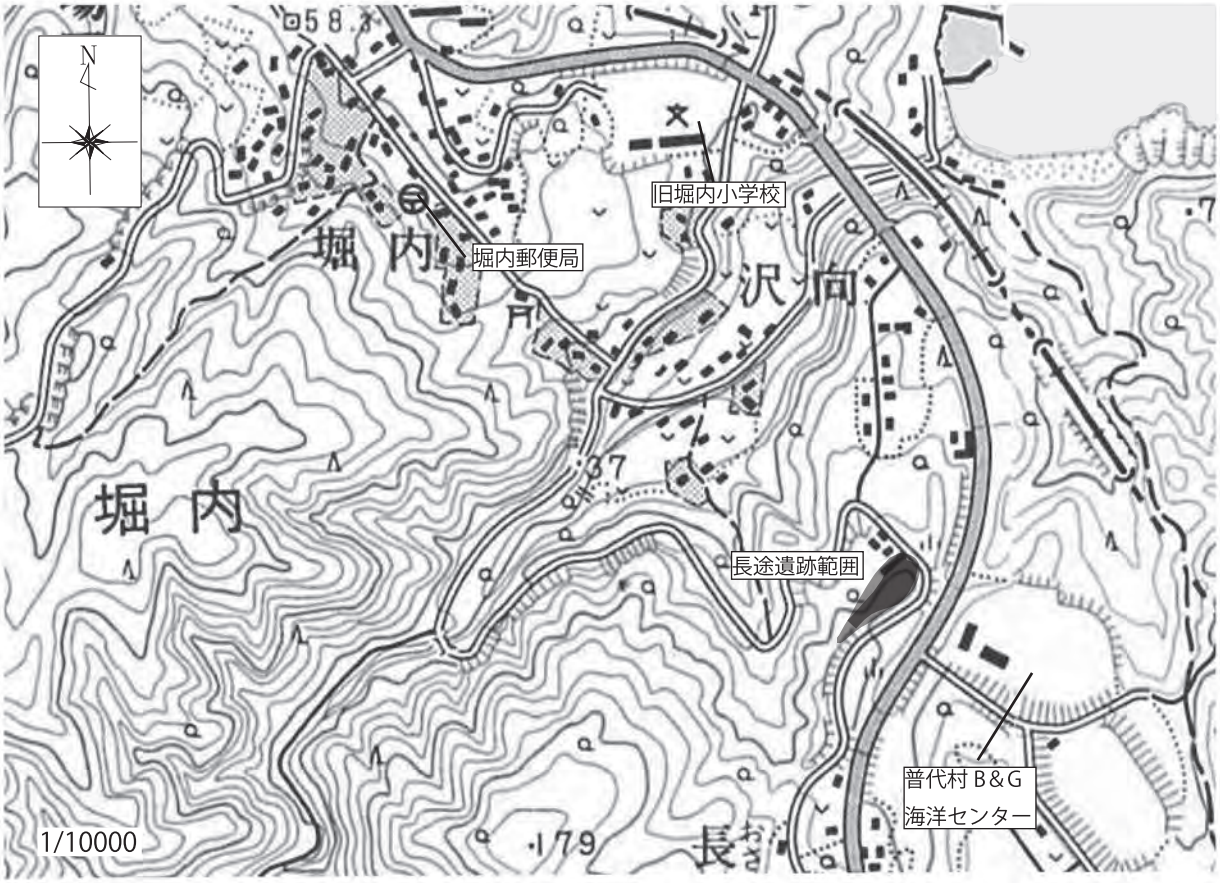
同じく野田村上代川遺跡は、平成 28 年の調査で縄文時代の土抗・陥し穴状遺構、弥生時代の竪穴建物・土器埋設遺構・土抗・焼土、古墳末～奈良時代の竪穴建物、古代末～中世の製鉄炉を伴う工房・鍛冶炉・土抗・木炭焼成遺構・廃滓場などが検出された。特に弥生時代集落は、本遺跡とほぼ同時期と推測される。

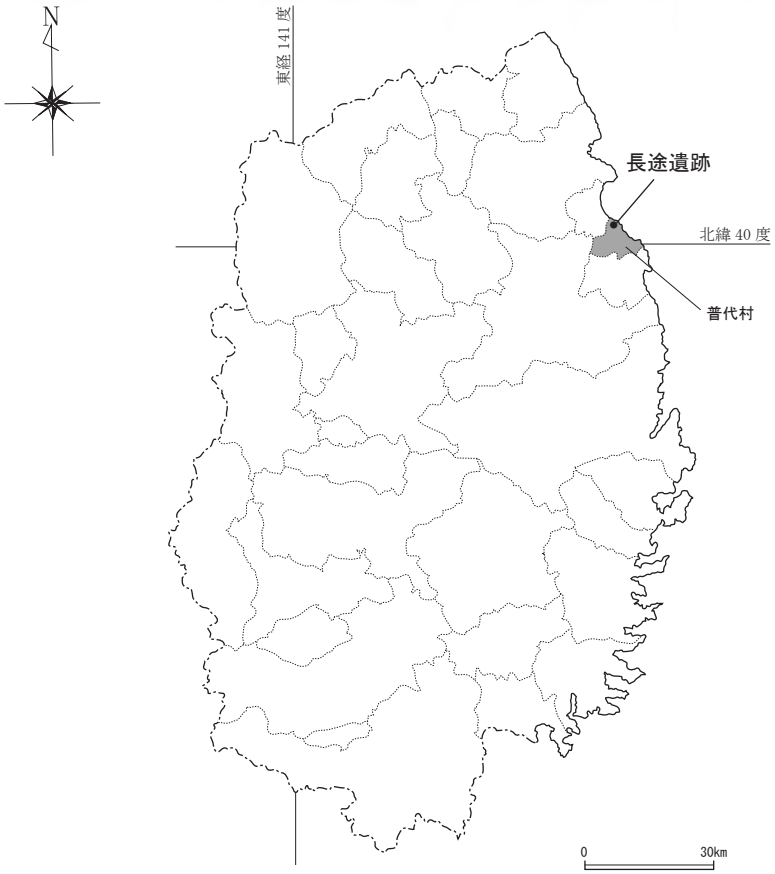
野田村中平遺跡は、古墳時代～平安時代にかけての集落が確認されている。中平遺跡は、昭和 27（1952）年に伊東信雄、田中喜多美両氏による調査が実施され、これに基づいて昭和 29（1954）年中学校西側の村有林野約 700ａが「野田竪穴住居址群」として県指定史跡となった。その後、昭和 40（1965）年に 2 回、昭和 41（1966）年に 1 回の調査が岩手大学草間俊一氏によって行われている。

野田村上泉沢遺跡は縄文時代の陥し穴状土坑群と 7 世紀代の飛鳥時代集落が確認されている。

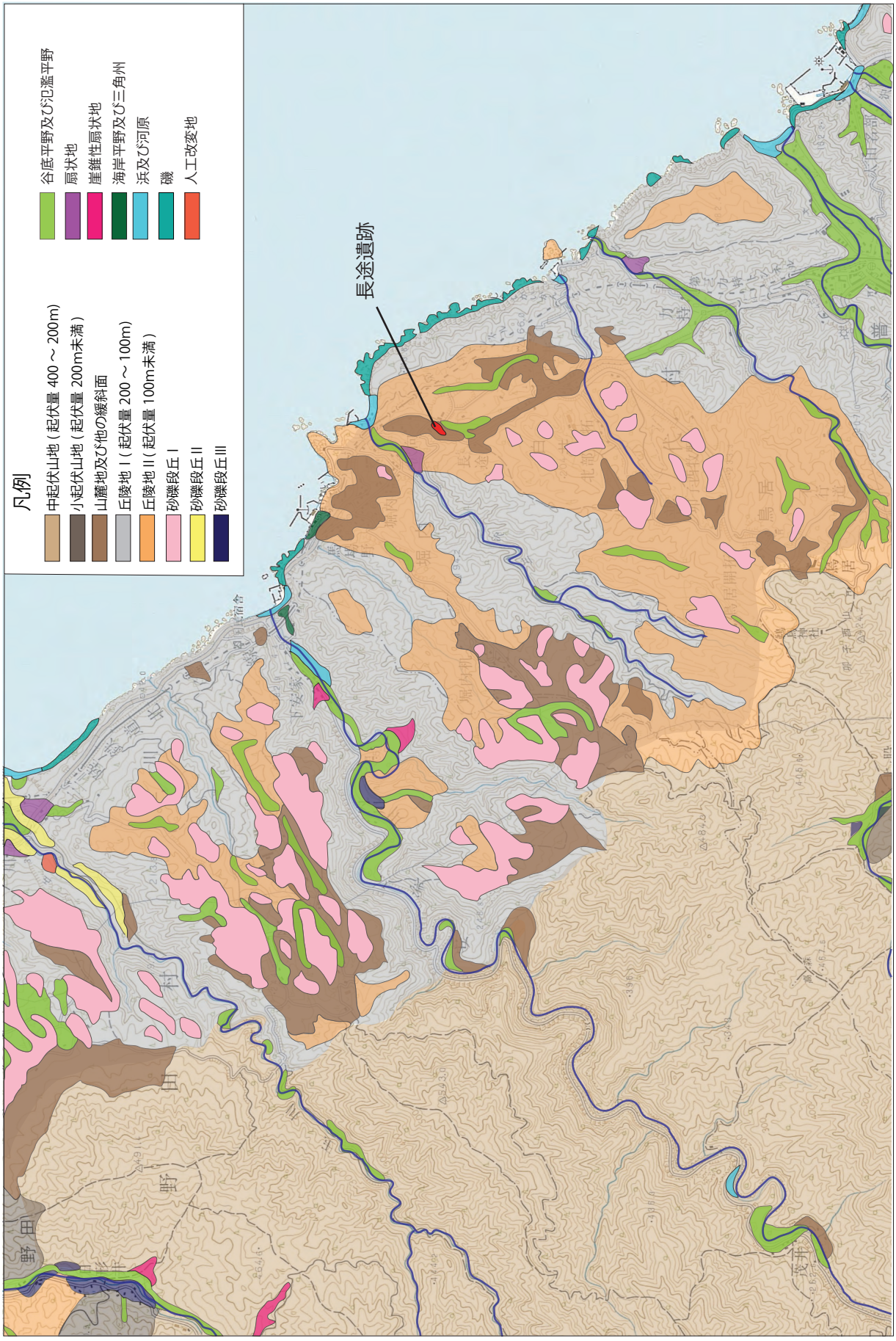
（鈴木・米田）

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地
1	JE82-1007	長途	おさんど	散布地	縄文	土坑2基、縄文土器数十片、石鏃1片	第19地割字白井91番地1・93番地9
2	JG81-0336	馬場野	ばばの	散布地	縄文	縄文土器	字堀内（馬場野）
3	JG82-0005	館	たて	散布地	縄文	縄文土器	字堀内（馬場野）
4	JG82-0053	堀内	ほりない	集落跡	縄文	縄文土器（前・中・後期）	字堀内（馬場野）
5	JG92-0137	力持	ちからもち	集落跡	縄文	縄文土器（前～後期）壺形土器（後期）石斧、環状耳飾、石匙	第16地割字天拝坂
6	JG92-0117	力持Ⅱ	ちからもちⅡ	散布地	縄文	縄文土器	第17地割字野胡桃
7	JG92-1119	宇留部Ⅰ	うるべⅠ	散布地	縄文	縄文土器	第14地割字宇留部
8	JG92-1252	宇留部Ⅱ	うるべⅡ	散布地	縄文	縄文土器	第14地割字宇留部
9	JG92-1269	普代城	ふだいじょう	城館跡	中世	空堀、帯郭	第7地割字明神
10	JG92-1390	大田名部	おおたなべ	散布地	縄文	縄文土器（中期）、石器	字太田名部

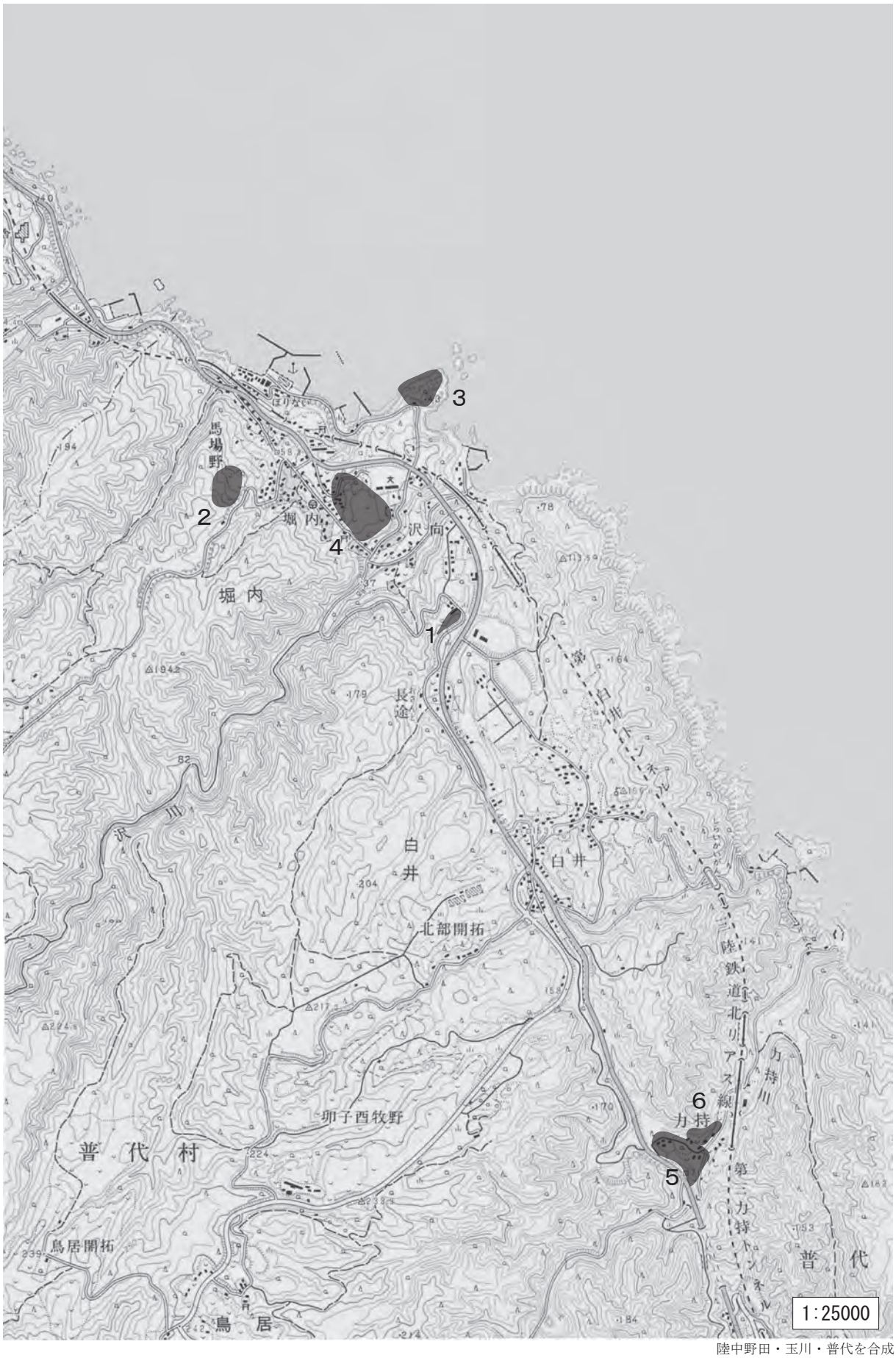

N
旧堀内小学校
堀内郵便局
堀内
沢向
堀内
長途遺跡範囲
普代村Ｂ＆Ｇ
海洋センター
1/10000
長おさ


N
東経 141 度
長途遺跡
北緯 40 度
普代村
0
30km

第１図　遺跡位置図

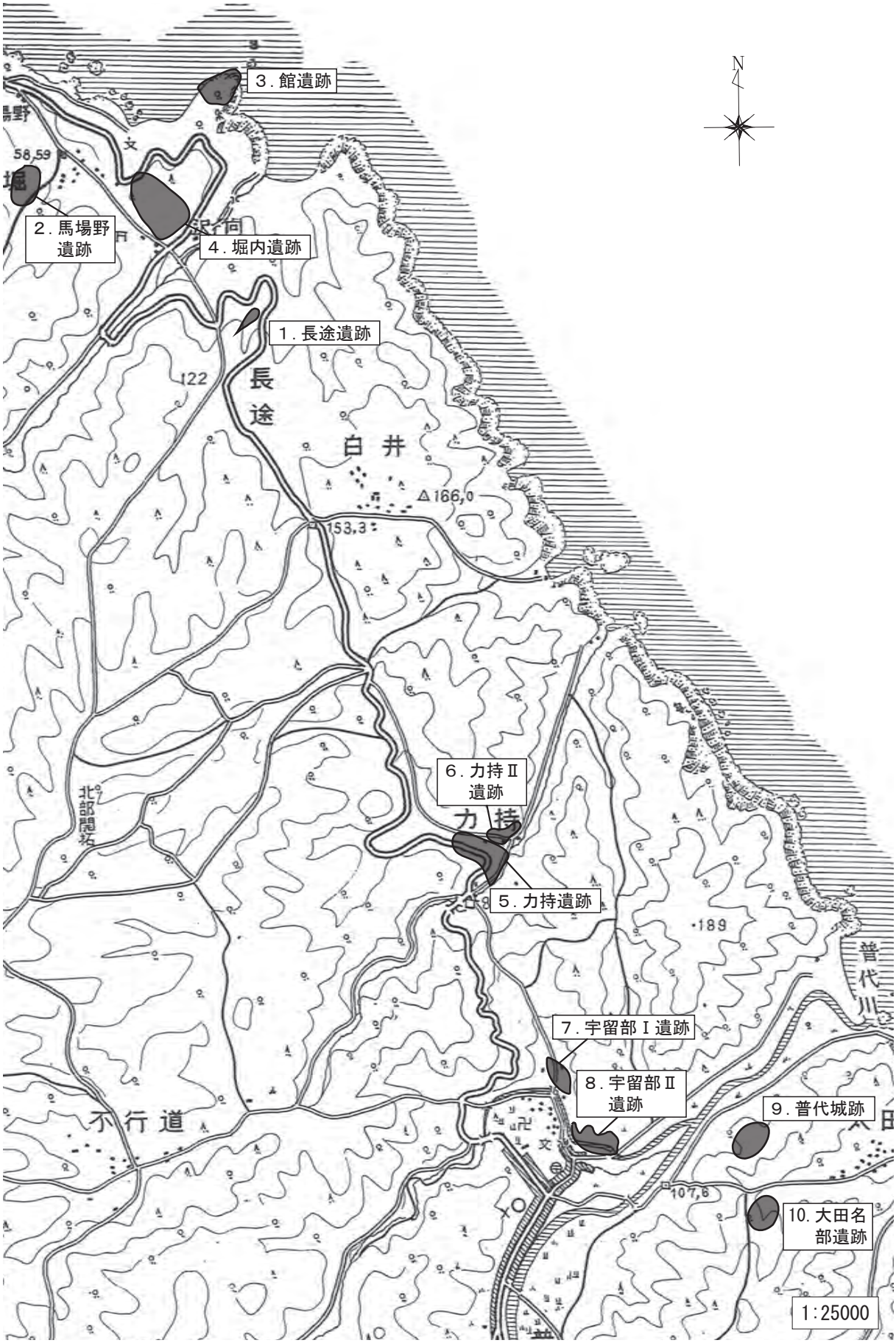

凡例
中起伏山地（起伏量 400 ～ 200m）
小起伏山地（起伏量 200m未満）
山麓地及び他の緩斜面
丘陵地 I（起伏量 200 ～ 100m）
丘陵地 II（起伏量 100m未満）
砂礫段丘 I
砂礫段丘 II
砂礫段丘 III
谷底平野及び氾濫平野
扇状地
崖錐性扇状地
海岸平野及び三角州
浜及び河原
磯
人工改変地
長途遺跡

第２図　地形分類図



陸中野田・玉川・普代を合成

第３図　遺跡分布図



第４図　古地図にみる遺跡範囲図

3　基　本　層　序

本遺跡全体の基本層序は以下の通りである。第６図に基本層序柱状模式図、第５図の遺構配置全体図に基本層序設定地点範囲を示した。

Ⅰ　層	黒色シルト質土	層厚 20 ～ 50㎝	森林土壌（表土層）
Ⅱ　層	黒褐色シルト質土	層厚 20 ～ 60㎝	上部に弥生土器、下部に縄文土器少量
Ⅲ　層	暗褐色シルト質土	層厚 20 ～ 60㎝	Ⅲａ層の堆積が不明瞭な地点の堆積土
Ⅲａ層	明黄褐色火山灰土	層厚 0 ～ 20㎝	十和田中掫テフラ層　谷状地形底面に堆積
Ⅲｂ層	暗褐色シルト質土	層厚 20 ～ 60㎝	谷状地形面で厚く堆積　縄文土器（前期）多量
Ⅳ　層	黄褐色シルト質土	層厚不明	最終遺構検出面

Ⅰ層は畑地の耕作土や森林土壌を一括した、ほぼ締まりのない地層である。

Ⅱ層の黒褐色シルト質土は、上面が第１遺構検出面で弥生面、下部が第２遺構検出面で主に溝状陥し穴状土坑群を検出している。

Ⅲ層は暗褐色シルト質土をベースとし、尾根状地形や斜面地ではブロック状、筋状の十和田中掫テフラ（To-Cu；降下較正年代 6,200yrcal.B.P.）を包含する。調査区中央の谷状地形では To-Cu の層厚が明瞭なので、これをⅢａ層とし、その下部に堆積する暗褐色土をⅢｂ層と認識した。Ⅲ層は To-Cu 降下前後の遺物を包含すると考えらえる。

Ⅲａ層は谷状地形の底面幅 10 ～ 12 ｍに帯状に堆積している。

Ⅲｂ層はⅢａ層に覆われた暗褐色シルト質土で、Ⅲ層のなかで明確にⅢａ層を認識できる谷状地形面の堆積層をⅢｂ層と認識した。

Ⅳ層は黄褐色シルト質土で、上面を最終遺構検出面とした。最終遺構検出面では縄文時代前期の竪穴建物、土坑群、性格不明遺構が確認された。時間的制約から基本土層図化範囲ではⅣ層の層厚を把握していないが、調査区内の尾根状地形に設定されていた県生涯学習文化課試掘トレンチには、Ⅳ層が 50㎝程度堆積し、それより下位は花崗岩風化土層となっていた。

引用・参考文献

青森県史編纂員会　2018 『青森県史通史編１ 原始　古代　中世』青森県
伊東信雄・田中喜多美　1956 『岩手の文化財』 岩手県教育委員会
岩手県　2009 『岩手県遺跡台帳』
岩埋文　2004 『平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 449 集
草間俊一　1967 「野田村中平遺跡」『Artes Liberales』№２　岩手大学

Ⅲ　調査・整理の方法

1　野外調査方法

調査方法については、大型遺構の調査は四分法で、その他の遺構については原則的に二分法で行い、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。

この際土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に写真撮影及び実測を随時行った。実測はＣＵＢＩＣ社製遺構実測ソフト「遺構くん」を用いて光波トランシットによる測量を行った。

遺跡・遺構・現場出土遺物の写真撮影については、キヤノンＥＯＳ　６Ｄ（デジタルカメラ・1,510万画素）と中判マミヤ６×4.5㎝(モノクローム)を使用した。

遺構実測図の縮尺は1/20を基本としたが、竪穴住居跡カマド・微細図は1/10、その他の遺構や土層断面なども種類や規模により1/40、1/100などの縮尺を用いて遺構実測図を作成した。なお調査の進行上、土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみに留めた遺構もある。

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位を記した。遺構外遺物は地区名・基本層位を記入して取り上げた。

2　整　理　方　法

（1）遺 構 の 整 理

遺構は現場で図化してきた遺構図データを元に、註記や遺構の切り合い、配置などを検討しながら担当調査員が遺構ごとに修正データを作成し、レイアウトを行った。

遺構図版は時代ごとに竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、溝跡、柱穴状ピットの順で掲載した。遺構名は現場段階で命名しており、登録抹消となった場合は欠番としている。

（2）遺 物 の 整 理

遺物は種類ごとに大別し、掲載遺物・要観察遺物を選別した上で登録番号を付けた。

本報告書掲載にあたっては、これらに掲載番号を付し、図版番号・写真図版番号も合わせて記載している。観察表の（　）内数値は推定値、〈　〉内数値は残存値である。

土器は水洗乾燥後に仕分けし、収納袋ごとに重量計測を行った。次に註記、遺構・層位・グリッドごとに仕分けを行い、接合作業を行った。その後、復元作業、掲載遺物の選別、登録、写真撮影、実測、拓影、トレースを行った。

掲載土器は、遺構内出土の場合、遺構帰属時期決定のため細片でも登録した。遺構外出土は種類・器種別に仕分けした上で、器形を推定できるものを優先して掲載した。

石器は、水洗・註記を行った後、担当調査員が全点を観察し、代表的な形状を抽出し掲載した。なお、石器は、不掲載遺物についても石材と重量計測を行い、石器組成・重量表、石材組成・重量表にまとめた。

炭化物は、肉眼による炭化物同定用にサンプルを持ち帰り、同定した種類のみを記載した。

（3）遺 物 写 真 撮 影

遺物写真は、当センター写場にて写真技師が撮影を行った。撮影にはデジタルカメラ（EOS 1 ds）を使用した。

Ⅳ　検出遺構と出土遺物

1．全 体 の 概 要

検出遺構は竪穴建物５棟（縄文前期４棟、弥生後期１棟）、土坑 11 基（縄文前期；フラスコ状１基、墓壙１基、土坑９基）、陥し穴状土坑８基（縄文後期以降；平面溝状）、焼土７基（縄文～弥生）、性格不明遺構３基（縄文前期）、遺物包含層１箇所（縄文前期；約 200㎡）である。

出土遺物は、縄文土器（前期）大コンテナ（42 × 32 × 30㎝）27 箱、弥生土器（中～後期）小コンテナ（42 × 32 × 10㎝）0.25 箱、縄文石器（前期）①剥片石器（石鏃・尖頭器・石匙・石錐・削器･掻器･剥片等）小コンテナ３箱、②礫石器（磨製石斧、磨石、特殊磨石、敲石等）中コンテナ（42 × 32 × 20㎝）６箱、土製紡錘車１点（弥生後期）である。

縄文時代前期の遺構は調査区中央の谷底状地形に土坑群が形成され、谷の南西側に相当する北東向き緩斜面部に竪穴建物が点在する。遺物は調査区全体に分布する。縄文時代後期以降の陥し穴状土坑は谷底状地形に列状配置される。弥生時代の遺構・遺物は谷底状地形から南側に分布する。

（1）土 器 の 分 類

今回出土した土器は、縄文時代前期を中心に、次いで弥生時代後期である。その他に縄文時代中期･後期が各１点出土している。出土土器は以下のように分類した。

Ⅰ群土器：縄文時代前期土器

Ⅰ群１類　大木１式か大木２a 式か型式判断を保留したものを本類とする（大木１～２a 式）。口唇部断面形状などは、丸頭が一定量以上認められる。胎土中への繊維量はⅠ群２類と同様に微量～少量の範疇にあるが、含有量がやや多いものが含まれる。

Ⅰ群２類　口縁部に結節回転文（不整撚糸文含む）を持つものと、それと同じ様相の胎土のものを大木２a 式と判断する。胎土中への繊維量は少量～微量にある。口唇部断面形状は角頭主体で、この要素は本型式の特徴の一つと捉えられる。

Ⅰ群３類　Ｓ字状連鎖沈文を持つものと、それと同じ様相の胎土のものを大木２b 式と判断した。繊維は極微量か若しくは含まない。口唇部断面形状は丸頭が多く、外面側に摘み出するものが主体的に認められる。傾向として、胎土に雲母を混入するものは、内面にミガキが認められる。

Ⅰ群４類　早稲田６類と判断される諸特徴を持つものである。総じて胎土中への繊維混入量が多い。

Ⅰ群５類　口縁端部に斜位の刻目状の刺突文をもつものを白座式と判断する。胎土中への繊維量は極微量若しくは含まれない。口唇部の形状は角頭が主体である。

Ⅰ群６類　円筒下層ｄ式の諸特徴を有する土器で、中心は円筒下層ｄ１式である。総じて、口縁部文様帯と胴部文様帯を区切るように、頸部に薄い横位隆帯や刺突列が巡る。口縁部文様帯の幅は狭く、1.5 ～２㎝にある。胴部の地文は木目状や網目状の撚糸文が主体にある。

Ⅱ群土器：縄文時代中期土器

Ⅱ群１類　今回の調査では№147 の１点のみ出土した。口縁形状は折り返し口縁で肥厚する。文様は平行沈線、波状文、刺突文が口縁部上半に集約して施文される。

Ⅲ群土器：縄文時代後期土器

Ⅲ群１類　無文に細目の沈線で幾何学的なモチーフが描かれる特徴から、後期前葉の十腰内Ⅰ式に比定される。十腰内Ⅰ式の中では古い段階と捉えられる。

Ⅳ群土器：弥生時代中期～後期土器

Ⅳ群１類　中期～後期の土器群と推定される。

Ⅳ群２類　後期前半の土器群とそれと同じ様相の胎土の土器は天王山式相当と判断する。№149は地文施文後に沈線で菱形文様が描かれる。

Ⅳ群３類　後期後半の土器群とそれと同じ様相の胎土の土器は赤穴式相当と判断する。地文はRLもしくはRLにRを加えた付加条が顕著である。

（２）石器の分類

石　　鏃　鏃として機能したと考えられる形態の尖頭器。槍先形尖頭器とは便宜的に長さ4.5㎝前後で分離した。

尖頭器　槍先に装着したと考えられるサイズの狩猟具。

石　　匙　摘部を持つスクレイパー。刃部は掻器や削器の機能をもつ。

掻削器　スクレイパーのうち、掻き取る、押し掻く、削る等の機能を意図した刃部を持つもの。

掻　　器　スクレイパーのうち、掻き取る、押し掻く機能を意図した刃部を持つもの。掻く作業による磨滅痕や衝撃剥離痕があるものも含む。大半が素材剥片の長軸端部を刃部とする。削器よりも刃部角度が鈍角。石篦とされるものもこの分類に含めた。

削　　器　スクレイパーのうち、削る機能を意図した刃部を持つもの。刃部角度が鋭角で、削る作業による磨滅痕や衝撃剥離痕があるものも含む。

石　　錐　ドリルの機能を持つと考えらえる形状の石器。機能部に特徴的な磨滅痕や衝撃剥離痕があるものも含む。

楔形石器　両極打撃技術で製作された石器で、両端部がネガ面に覆われる。石核を含む。

石　　核　最終剥離面がネガ面で、素材剥片製作を目的に調整された石器。

打製石斧　斧の刃部をもつ石斧のうち、打撃調整で完形品に仕上げられたと考えられる石器及びその途上と考えられる石器。

磨製石斧　斧の刃部をもつ石斧のうち、研磨で完形品に仕上げられたと考えられる石器。

敲磨石　素材礫を敲打痕と磨面をもつもの。

磨　　石　素材礫に磨面をもつもの。

特殊磨石　磨石のうち、断面三角形素材礫の端部に磨面をもつもの。

敲　　石　ハンマーとしての機能が考えられるもの。素材礫に敲打痕をもつものやトチ剥き石含む。

台　　石　扁平な素材面を持ち、台として機能したと考えらえるもの。

石　　皿　扁平な素材面を持ち、台として機能したと考えられるもので、中央が面的に窪むもの。

棒状石器　素材礫に敲打整形を施し、石棒の形状に仕上げられた石器。

２．検出遺構と出土遺物

（１）竪穴建物

５棟を認識した。１棟がⅡ層面検出、４棟がⅢ～Ⅳ層面検出である。Ⅱ層は縄文後期～弥生後期の遺物を包含する。Ⅲ層は縄文前期前葉の土器を包含する。

１号竪穴建物（ＳＩ01）（第７図、写真図版４）

＜位置・検出状況＞ⅡＣ 1d グリッド、調査区北部尾根上に位置する。検出面はⅢ層で、To-Cu がモザイク状に分布する不整形プランを検出した。**＜形態・規模＞**5.25 × 2.82 ｍの長方形で、検出面からの深さ31㎝である。北壁隅と東壁隅は木根による撹乱で消失している。柱穴を確認できなかったが、規模と形態から建物と判断した。底面は平坦で、壁は直線的に立ち上がる。**＜堆積土＞**３層に細分した。１層は To-Cu を包含する土層で建物全体を覆い、２層は床面～中部に堆積し、３層は埋没初期に形成される三角堆積層である。トレンチで確認したが、明瞭な掘方は認識できなかった。**＜付属施設＞**炉や土坑等の床面付属施設は確認されなかった。**＜遺物＞**遺物は、堆積土上位で To-Cu を包含する１層と、堆積土下位の２層に分層して取り上げた。土器はⅠ群１類～５類まで出土しており、主体はⅠ群２類の大木２ａ式である。掲載土器は№１～20で、№２～10が１層出土、№１・11～20が２層出土土器である。１層出土にはⅠ群２・３・５類が顕著に認められるのに対して、２層出土はⅠ群１・２類としたものが多く、さらには№14などⅠ群４類に類似するものが少数含まれる。このことは、堆積土上位より下位の方が若干時期の古い土器が出土する傾向が認められ、さらには大木２ａ式に対するⅠ群４類、Ⅰ群３・５類の並行関係が窺える出土状況と考えられる。石器は№301～306までを掲載した。石鏃、石匙、掻器、磨石などが出土している。**＜時期＞**堆積土と出土遺物から、縄文時代前期前葉で大木２ａ～２ｂ式期である。To-Cu 降下前に構築され、廃絶後の埋没途上で To-Cu が降下し、完全に埋没したと考えられる。

２号竪穴建物（ＳＩ02）（第７図、写真図版５）

＜位置・検出状況＞ⅢＡ５ｇグリッド、調査区南西部緩斜面に位置し、検出面はⅢ層である。暗褐色の半楕円形プランを検出した。**＜重複遺構＞**１号陥し穴状土坑と重複し、これに切られる。**＜形態・規模＞**約 1.80 × 3.70 ｍの半楕円形を呈する。一部調査区外のため、全体形は不明である。建物壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは最深部で約80㎝である。床面は平坦で、部分的に締まりが認められる。**＜堆積土＞**調査区壁で観察した堆積土を８層に細分した。４・５層が埋没初期の三角堆積と床面堆積層、中央部の８層が明黄褐色 To-Cu 層である。**＜炉＞**検出されなかった。調査区外にある可能性は残される。**＜遺物＞**土器はⅠ群２類大木２ａ式を主体とし、Ⅰ群２～３類とした大木２ａ式と大木２ｂ式の区分が難しいものも認められる。石器は石鏃、磨石が出土している（全て不掲載としている）。**＜時期＞**堆積土と出土遺物から、縄文時代前期前葉で大木２ａ～２ｂ式期である。To-Cu 降下前に構築され、廃絶後の埋没途上で To-Cu（８層）が降下し、１層の堆積によって完全に埋没したと考えられる。

３号竪穴建物（ＳＩ03）（第８図、写真図版６）

＜位置・検出状況＞ⅢＢ１ａグリッド、調査区西側の緩斜面に位置する。Ⅲ層掘削途中で黒褐色の円形プランを検出し掘り下げたところ、山側に建物壁の立ち上がりを確認し、床面も平坦なことから建物と認識した。**＜形態・規模＞**約 3.80 × 4.80 ｍの楕円形を呈する。西側は木根による撹乱のため建物壁の立ち上がりは不鮮明である。床面は部分的に締まりが認められる。**＜堆積土＞**上位に１・２層黒褐色土や暗褐色土、下位に４層暗褐色土が主体的に堆積する。６～８層は床面検出の土坑１に伴う堆積土である。**＜建物構成要素＞**東側において柱穴を２個確認した。Ｐ１は直径約40㎝の円形を呈し、深さ10.7㎝である。Ｐ２は54 × 35㎝の楕円形で、深さ13.2㎝である。床面施設と捉えた土坑１を中心に対となるような位置にある。**＜付属施設＞**床面中央に土坑１がある。西側は木根により撹乱さ

れている。**＜遺物＞**出土土器はⅠ群２類大木２ａ式を主体とし、№30のⅠ群３類大木２ｂ式が少量混じる。石器は石鏃、掻器、削器、磨石が出土している。**＜時期＞**堆積土と出土遺物から、縄文時代前期前葉で大木２ａ～２ｂ式期である。（鈴木）

４号竪穴建物（ＳＩ04）（第９～10図、写真図版７）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ10ｇグリッド、調査区中央の谷底状地形面に位置する。Ⅲ層上面で黒褐色の円形プランを検出した。谷状地形のⅢａ層（To-Cu層）に覆われた範囲は帯状に分布し、本遺構はその範囲でTo-Cuを包含しない黒褐色円形プランとして把握した。**＜形態・規模＞**6.48×5.81ｍの不整楕円形である。壁は外傾気味に立ち上がる。床面中央に土抗１がある。床面は部分的に締まりが認められる。**＜堆積土＞**竪穴部は１層と２層の暗褐色シルトに大別される。自然堆積層である。２層中にTo-Cuの混入が認められる。３層は土坑底面に、４層焼土は床面上に認められる。**＜焼土＞**床面中央に6.0×4.6ｍの焼土範囲を検出した。地床炉の可能性がある。**＜床面施設＞**柱穴３個、土坑１基である。柱穴は平面規模や深度からいずれも主柱穴と判断される。床面土坑は竪穴本体と同様に２層により埋没している。**＜遺物＞**土器は、Ⅳ群弥生後期を主体に、Ⅰ群２類やⅠ群６類が混じる。石器は、石鏃、削器、敲磨器が出土している。敲磨器の出土が多い。**＜時期＞**検出面と出土遺物から弥生時代後期である。**＜所見＞**検出面から弥生時代後期と認識した。弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物については東北南部以南で隅丸方形を基調とする。東北北部では明確な隅丸方形とはならず、楕円形や長楕円形など方形を意識したと考えられる形状であり、本遺構もその特徴を有する。（久保）

５号竪穴建物（ＳＩ05）（第11図、写真図版８）

＜位置・検出状況＞ⅢＢ１ｃグリッド、調査区南側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部での検出作業中に斜面に沿って観察用ベルトを設定して掘り下げたところ、堅く締まる床面と山側の壁を確認できたので建物とした。**＜形態・規模＞**残存規模7.18×2.62ｍ、検出面からの深さ12～47㎝である。平面形は不明であるが、地形的制約から等高線に沿って水平気味に広がる可能性が高く、その観点からは長方形が予想される。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面範囲は全体が堅く締まっている。**＜堆積土＞**確認できたのは褐色土と暗褐色土の２層である。**＜建物構成要素＞**南西壁沿いに３個と、少し離れた場所で３個、計６個の柱穴を確認した。建物壁に沿って構築された柱穴はＰ３・５の２個である。**＜遺物＞**出土土器はほぼⅠ群２類大木２ａ式に限定できる。石器は石鏃、磨石が出土している。**＜時期＞**堆積土と出土遺物から、縄文時代前期前葉大木２ａ式である。（鈴木）

（２）性格不明遺構

１号性格不明遺構（ＳＸ01）（第12図、写真図版９）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ８ｃグリッド、調査区中央の谷底状地形範囲に位置する。２号陥し穴状土坑の調査時に、同陥し穴壁面で本遺構との重複を認識した。その後Ⅲ層掘削途中で褐色土による楕円形気味のプランを検出した。**＜重複遺構＞**２号陥し穴状土坑、本遺構、２号性格不明遺構が重複し、構築は古い方から２号性格不明遺構→本遺構→２号陥し穴状土坑である。**＜形態・規模＞**本遺構の西側は調査区外へ延びる。残存規模4.26×2.52ｍ、検出面からの深さ70～90㎝である。平面形状は不整形で、他の縄文時代前期竪穴建物と異なる形状が想定される。建物の可能性もあるが、底面が平坦ではなく所々凹凸があり、北部底面は傾斜していることから性格不明遺構とした。**＜堆積土＞**本遺構と接する調査区西壁で重複する２号性格不明遺構と合わせて８層に分離した。１～６層が本遺構、７・

８層が２号性格不明遺構である。５・６層が本遺構埋没初期に形成された三角堆積層、２・４層が底面～壁際に堆積する。自然堆積と推定される。**＜遺物＞**出土土器はⅠ群２類である。石器は剥片数点が出土している。**＜時期＞**堆積土と出土遺物から、縄文時代前期前葉大木２a 式期である。

２号性格不明遺構（ＳＸ 02）（第 12 図、写真図版９）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ 8c グリッド、調査区中央の谷底状地形範囲に位置する。１号性格不明遺構床面調査時に、本遺構との重複を認識した。**＜重複遺構＞**２号陥し穴状土坑、１号性格不明遺構、本遺構が重複し、構築は古い方から本遺構→１号性格不明遺構→２号陥し穴状土坑である。**＜形態・規模＞**本遺構の西側は調査区外へ延びると捉えられる。残存規模 2.95 × 0.82 m、１号性格不明遺構床面（検出面）からの深さ 20 ～ 35㎝である。平面形状は不整形で、他の縄文時代前期竪穴建物と異なる形状が想定される。底面が平坦ではなく所々凹凸があり、１号性格不明遺構と同形態が想定されることから性格不明遺構とした。**＜堆積土＞**本遺構と接する調査区西壁で重複する１号性格不明遺構と合わせて８層に分離した。１～６層が本遺構、７・８層が２号性格不明遺構である。８層が本遺構埋没初期に形成された三角堆積層、７層が底面～壁際に堆積する。様相からは自然堆積である。**＜遺物＞**土器小片が少量出土した。詳細な時期は特定できないが、胎土中に繊維が混入することから縄文時代前期前葉と捉えられる。石器は、石匙、磨製石斧、剥片が出土している。欠損品のため不掲載とした。**＜時期＞**堆積土と出土遺物から、縄文時代前期前葉と判断される。（米田）

３号性格不明遺構（ＳＸ 03）（第 13 図、写真図版９）

＜位置･検出状況＞ⅡＢ 10ｃグリッド､５号竪穴建物の北西側に位置し､一部５号竪穴建物と重複する。Ⅲ層掘削中、斜面上方側に建物壁と考えられるラインと不整形プランを確認した。**＜重複遺構＞**５号竪穴建物と重複し、これに切られる。**＜形態・規模＞**残存部規模は 5.73 × 4.60 m、検出面からの深さ 35 ～ 68㎝で、平面形は方形だが、底面は凹凸があり、硬化面もない。建物の可能性は否定できないが､根拠不足である。**＜遺物＞**土器はⅠ群２類大木２a 式とⅠ群４類早稲田６類？が出土している。石器は№ 333 の磨製石斧１点が出土している。№ 333 の磨製石斧は、刃部は刃こぼれ無くきれいに遺存し、基部も残存する。状況から身部で折れた欠損品を再調整したと想定される。**＜時期＞**重複関係と出土遺物から、縄文時代前期前葉である。（鈴木）

（３）陥し穴状土坑

１号陥し穴状土坑（ＳＫＴ 01）（第 14 図、写真図版９）

＜位置・検出状況＞ⅢＡ５ｇグリッド、調査区南側緩斜面に位置し、２号竪穴建物と重複する。**＜形態・規模＞**平面形は溝状である。調査区内規模は、開口部長軸約 2.44 m、短軸約 0.8 m、検出面からの深さ 132㎝である。**＜重複関係＞**２号竪穴建物と重複し、これを切る。**＜堆積土＞**５層に分層した。黒褐色シルト主体で自然堆積である。１層や３層に To-Cu ブロックの混入が認められるが、本遺構はⅢａ層（To-Cu 包含層）を切って構築されていることから、テフラ自体は再堆積で降下時期を反映していない。**＜遺物＞**なし。**＜時期＞**検出面と形態から縄文時代後期以降である。

２号陥し穴状土坑（ＳＫＴ 02）（第 14 図、写真図版 10）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ８ｃグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置し、１・２号性格不明遺構と重複する。**＜形態･規模＞**平面形は溝状である。調査区内規模は、開口部長軸約 2.28 m、短軸約 0.78

m、検出面からの深さ155㎝である。＜重複関係＞１・２号性格不明遺構と重複し、これを切る。＜配置関係＞谷底状地形には陥し穴状土坑が密集し、２・４～８号陥し穴状土坑が列状に並ぶ。長軸方位は２・５号陥し穴状土坑が北西方向である。＜堆積土＞３層に分層した。最上部は黒褐色シルトで覆われる。＜遺物＞なし。＜時期＞検出面と形態から縄文時代後期以降である。

３号陥し穴状土坑（ＳＫＴ07）（第14図、写真図版10）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ７ｄグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層上面で検出した。＜形態・規模＞平面形は溝状である。規模は、開口部長軸約2.55ｍ、短軸約0.52ｍ、検出面からの深さ110㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には陥し穴状土坑が密集し、２・４～８号陥し穴状土坑が列状に並ぶが、本遺構はその列から外れている。長軸方位は３・６・７号陥し穴状土坑が北方向である。＜堆積土＞３層に分層した。底面に黒褐色シルトが堆積する。＜遺物＞なし。＜時期＞検出面と形態から縄文時代後期以降である。

４号陥し穴状土坑（ＳＫＴ03）（第14図、写真図版10）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ９ｄグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層上面で検出した。＜形態・規模＞平面形は溝状である。規模は、開口部長軸約3.25ｍ、短軸約0.72ｍ、検出面からの深さ146㎝である。南端中位にステップ状の段が付く。この段は壁の崩落で形成されたとは認識しがたい直線的な造成ラインで構成される。＜配置関係＞谷底状地形には陥し穴状土坑が密集し、２・４～８号陥し穴状土坑が列状に並ぶ。長軸方位は４・８号陥し穴状土坑が北東方向である。＜堆積土＞５層に分層した。最上部は黒褐色シルトで覆われる。＜遺物＞なし。＜時期＞検出面と形態から縄文時代後期以降である。

５号陥し穴状土坑（ＳＫＴ05）（第15図、写真図版10）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ８ｅグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層上面で検出した。＜形態・規模＞平面形は溝状である。規模は、開口部長軸約2.76ｍ、短軸約0.54ｍ、検出面からの深さ107㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には陥し穴状土坑が密集し、２・４～８号陥し穴状土坑が列状に並ぶ。長軸方位は２・５号陥し穴状土坑が北西方向である。＜堆積土＞４層に分層した。最下部に黒褐色シルトが堆積する。＜遺物＞なし。＜時期＞検出面と形態から縄文時代後期以降である。

６号陥し穴状土坑（ＳＫＴ04）（第15図、写真図版11）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ８ｆグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層上面で検出した。＜形態・規模＞平面形は溝状である。規模は、開口部長軸約3.16ｍ、短軸約0.76ｍ、検出面からの深さ128㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には陥し穴状土坑が密集し、２・４～８号陥し穴状土坑が列状に並ぶ。長軸方位は３・６・７号陥し穴状土坑が北方向である。＜堆積土＞５層に分層した。最下部に黒褐色シルトが堆積する。２層には壁崩落によってⅢａ層から流入したTo-Cuが混入する。＜遺物＞なし。＜時期＞検出面と形態から縄文時代後期以降である。

７号陥し穴状土坑（ＳＫＴ08）（第15図、写真図版11）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ８ｈグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層下部で検出した。＜形態・規模＞平面形は溝状である。規模は、開口部長軸約2.48ｍ、短軸約0.40ｍ、検出面からの

深さ78㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には陥し穴状土坑が密集し、２・４～８号陥し穴状土坑が列状に並ぶ。長軸方位は３・６・７号陥し穴状土坑が北方向である。＜堆積土＞３層に分層した。底面に暗褐色シルトが堆積する。＜遺物＞なし。＜時期＞検出面と形態から縄文時代後期以降である。

８号陥し穴状土坑（ＳＫＴ06）（第15図、写真図版11）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ９ｉグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層下部で検出した。＜形態・規模＞平面形は溝状である。規模は、開口部長軸約2.68ｍ、短軸約0.52ｍ、検出面からの深さ109㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には陥し穴状土坑が密集し、２・４～８号陥し穴状土坑が列状に並ぶ。長軸方位は４・８号陥し穴状土坑が北東方向である。＜堆積土＞３層に分層した。暗褐色～褐色シルトが堆積する。＜遺物＞なし。＜時期＞検出面と形態から縄文時代後期以降である。

（４）土　　坑

１号土坑（ＳＫ02）（第16図、写真図版11）

＜位置･検出状況＞ⅡＣ６ｂグリッド､調査区北側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部で検出した。＜形態･規模＞平面形は楕円形、断面形はフラスコ形である。規模は、開口部長軸約1.83ｍ、短軸約1.80ｍ、検出面からの深さ129㎝である。＜堆積土＞10層に分層した。斜面上位からの土砂流入に埋没した。砂礫等の混入物が縦位・斜位に堆積する６～10層の堆積は速く、水平方向の混入物の割合が高い２～５層はやや時間を置いて堆積したと考えられる。断面形は中端部が狭く上端よりも内側を廻るが、南側は北側に比べて広く上端に近接する。６・７層は南側中端部の壁崩落によって形成されたと考えられる。１層は木根痕と考えられる。＜遺物＞縄文時代前期前葉の土器が出土している。№63～65の３点を掲載した。№63・65はⅠ群３類に、№64はⅡ群２類か３類（大木２ａ式か大木２ｂ式）の何れかと判断される。＜時期＞検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉大木２ｂ式期と推定される。＜所見＞調査区内でフラスコ状土坑は本遺構のみである。通常、大型フラスコ状土坑は前期後半～中期を主体とする。本遺構では前期後半～中期とする根拠がないので、暫定的に大木２ｂ式期とした。

２号土坑（ＳＫ01）（第16図、写真図版12）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ４ｇグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層下部で検出した。＜形態・規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部長軸約1.18ｍ、短軸約0.87ｍ、検出面からの深さ47㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には土坑群が存在し、2・3・6～9・11号土坑が小形、4・５・10号土坑が大形である。＜堆積土＞２層に分層した。２層は埋没初期の三角堆積層、１層は暗褐色シルトである。１層はⅢ層を起源とする土層と判断される。＜遺物＞縄文時代前期前葉土器が少量出土している。掲載した№66はⅠ群４類早稲田６類と推定される。＜時期＞検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉である。

３号土坑（ＳＫ03）（第16図、写真図版12）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ５ｇグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層下部で検出した。＜形態・規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部長軸約1.48ｍ、短軸約1.14ｍ、検出面からの深さ60㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には土坑群が存在し、２・３・６～９・11号土坑が小形、４・５・10号土坑が大形である。＜堆積土＞当初、木根痕と捉え掘削していたが、途中で土坑と判断し、褐色シルトの底面堆積層のみ把握した。炭化物量が多く、人為的堆積の特徴をもつ混合シルト

である。略完形の土器が１個体出土した（№67）。＜遺物＞出土土器は縄文時代前期前葉である。№67 ～ 69 の３点を掲載した。Ⅰ群２類の№67 と 69 は接点が無かったものの、地文（RLR 横回転）や胎土の類似性から同一個体と推定される。＜遺構の性格＞遺物出土状況と人為的堆積層の形成過程から、墓壙の可能性が考えられる。＜時期＞検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２a 式期である。

４号土坑（ＳＫ 05）（第 17 図、写真図版 12 ～ 13）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ５g グリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲ層下部で検出した。＜形態・規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部長軸約 3.19 m、短軸約 2.62 m、検出面からの深さ 50㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には土坑群が存在し、２・３・６～９・11 号土坑が小形、４・５・10 号土坑が大形である。＜堆積土＞堆積土～底面にかけて遺構中央に遺物が密集する。４層に分層した。１～３層は人為的混合土層で炭化物が混入する。＜遺物＞土器が１～３層の土坑中央部に密集し、３個体が入れ子状に重なる。ほとんどがⅠ群２類大木２a 式である。№70 ～ 82 を掲載した。＜遺構の性格＞遺物出土状況と人為的堆積層の形成過程から､廃棄穴の可能性が考えられる。＜時期＞検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２a 式期である。

５号土坑（ＳＫ 09）（第 17 図、写真図版 14）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ６f グリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲｂ層中で検出した。＜形態・規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部長軸約 2.31 m、短軸約 1.80 m、検出面からの深さ 23㎝である。底面に２個の副穴を持つ。＜配置関係＞谷底状地形には土坑群が存在し、2・3・６～９・11 号土坑が小形、４・５・10 号土坑が大形である。＜堆積土＞底面から遺物が出土している。堆積土は暗褐色シルトと黒褐色シルトの混合で人為的堆積層である。＜遺物＞底面中央部に底部を欠いた№83 の土器が、口縁を下にして倒立設置で出土した。土器内部にあった可能性のある花崗閃緑岩礫が土器の上から出土した。この礫は土器底面を塞ぐようなサイズではない。№83 は地文のみで詳細な土器型式は特定できないが、Ⅰ群２類と推定される。＜遺構の性格＞遺物出土状況と人為的堆積層の形成過程から、墓壙の可能性が考えられる。＜時期＞検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２a 式期である。

６号土坑（ＳＫ 08）（第 18 図、写真図版 13 ～ 14）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ７f グリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅲｂ層中で検出した。＜形態・規模＞平面形は楕円形である。規模は、開口部長軸約 1.34 m、短軸約 1.20 m、検出面からの深さ 40㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には土坑群が存在し、２・3・６～９・11 号土坑が小形、４・５・10 号土坑が大形である。＜堆積土＞堆積土は褐色シルトに黄褐色シルトや炭化物粒が混合する人為的堆積層である。壁面に焼成面はなく、炉穴の堆積ではない。底面から堆積土上部まで、大量の土器が出土した。これらは№85 の１個体に復元された。＜遺物＞№85 のⅠ群２類土器は、口径 52.8㎝、底径 15㎝、器高 65㎝の特大型深鉢（40ℓ以上）で、破片が折り重なるように堆積していた。堆積土中部ではその重なり方に規則性がない。本遺構底面では口縁～胴上部の大形破片が、土器内面を下、外面を上にして出土した。単に横倒れしたのであれば外面が下になるはずだが、そのような配置ではなかった。口縁部を本遺構底面、底部を上に倒立状態で設置されていれば、埋没後に口縁部の一部が土圧で破損し、土器内部に向かって倒れた可能性も考えられるが、胴下部～底部片がランダム

な分布のため、土器倒立設置後の破損とは考え難い。口縁～胴上部の大形破片を先行して廃棄した可能性も考えられる。外面の文様が摩耗しており、使用頻度が高いか、高熱に晒されたと考えられる。**＜遺構の性格＞**不明である。遺物出土状況と人為的堆積層の形成過程から、廃棄穴の可能性が考えられるが、意図的に破片を配置することが祭祀的なものであれば、墓壙の可能性も出てくる。**＜時期＞**検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２a 式期である。

７号土坑（ＳＫ 07）（第 16 図、写真図版 14）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ７d グリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅳ層上面で検出した。**＜形態・規模＞**平面形は楕円形である。規模は、開口部長軸約 1.00 m、短軸約 0.84 m、検出面からの深さ 23㎝である。**＜配置関係＞**谷底状地形には土坑群が存在し、２・３・６～９・11 号土坑が小形、４・５・10 号土坑が大形である。**＜堆積土＞**２層に分層した。１層には炭化物が微量含まれる。**＜遺物＞**№86 の土器片が出土している。Ⅰ群２類である。**＜遺構の性格＞**不明である。**＜時期＞**検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２a 式期である。

８号土坑（ＳＫ 06）（第 16 図、写真図版 14）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ８e グリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅳ層上面で検出した。**＜形態・規模＞**平面形は楕円形である。規模は、開口部長軸約 1.07 m、短軸約 0.81 m、検出面からの深さ 52㎝である。**＜配置関係＞**谷底状地形には土坑群が存在し、２・３・６～９・11 号土坑が小形、４・５・10 号土坑が大形である。**＜堆積土＞**３層に分層した。２層は壁崩落土である。**＜遺物＞**縄文時代前期前葉の土器が出土している。№87 は横位に木目状撚糸文が施文される土器で、大木２a 式と判断されることからⅠ群２類とした。**＜遺構の性格＞**不明である。形状から墓壙の可能性がある**＜時期＞**検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２a 式期である。

９号土坑（ＳＫ 04）（第 19 図、写真図版 12）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ８c グリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。１号性格不明遺構調査中に検出した。**＜形態･規模＞**平面形は楕円形で底面に１個の副穴を持つ。規模は､開口部長軸約 0.92 m、短軸約 0.78 m、検出面からの深さ 58㎝である。１号性格不明遺構を撹乱する木根痕と捉えていたが、壁が直線的に立ち上がり、底面が平坦であることから、土坑とした。**＜重複関係＞**１号性格不明遺構と重複する。新旧関係は不明である。**＜配置関係＞**谷底状地形には土坑群が存在し、２・３・６～９･11 号土坑が小形、４･５･10 号土坑が大形である。**＜堆積土＞**暗褐色シルトが堆積していた。**＜遺物＞**出土土器はⅠ群２類である。**＜遺構の性格＞**その出土状態から、本遺構は墓壙の可能性が考えらえる。**＜時期＞**検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２a 式期である。

10 号土坑（ＳＫ 11）（第 19 図、写真図版 14）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ８d グリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅳ層上面で検出した。**＜形態・規模＞**平面形は長方形、規模は、開口部長軸約 3.00 m、短軸約 2.11 m、検出面からの深さ 30㎝である。**＜配置関係＞**谷底状地形には土坑群が存在し、２・３・６～９・11 号土坑が小形、４・５・10 号土坑が大形である。**＜堆積土＞**２層に分層した。２層は黄褐色シルトブロックを包含する。**＜遺物＞**出土土器はⅠ群２類である。**＜遺構の性格＞**不明である。**＜時期＞**検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２a 式期である。

11 号土坑（ＳＫ 10）（第 19 図、写真図版 15）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ９ｅグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅳ層上面で検出した。＜平面形・規模＞平面形は円形、規模は、開口部長軸約 1.04 ｍ、短軸約 0.88 ｍ、検出面からの深さ 38㎝である。＜配置関係＞谷底状地形には土坑群が存在し、２・３・６～９・11 号土坑が小形、４・５・10 号土坑が大形である。＜堆積土＞２層に分層した。１層は褐色シルトで、２層は黄褐色シルトである。＜遺物＞出土土器はⅠ群２類である。＜遺構の性格＞不明である。＜時期＞検出面と出土遺物から、縄文時代前期前葉で、大木２ａ式期である。

（５）焼　　土

１号焼土（ＳＮ 01）（第 20 図、写真図版 15）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ７ｈグリッド、調査区中央の谷底状地形に位置する。Ⅱ層上面で検出した。＜形態・規模＞規模は、0.48 × 0.44 ｍ、被熱層厚は 15㎝である。＜被熱土＞２層に分層した。１層は明赤褐シルト、２層は暗褐色に焼土粒が混入する。＜遺物＞本遺構の検出面上でⅣ群土器が出土している。＜遺構の性格＞炉、若しくは焚火痕と考えられる。＜時期＞検出面と出土遺物から、弥生時代中期～後期である。

２号焼土（ＳＮ 02）（第 20 図、写真図版 15）

＜位置・検出状況＞ⅢＡ５ｊグリッド、調査区南側緩斜面に位置する。Ⅱ層中で検出した。＜形態・規模＞規模は、0.68 × 0.48 ｍ、被熱層厚は６㎝である。＜被熱土＞赤褐色シルトで、木根により撹乱される。＜遺物＞なし。＜遺構の性格＞炉、若しくは焚火痕と考えられる。＜時期＞検出面から、弥生時代の可能性がある。

３号焼土（ＳＮ 03）（第 20 図、写真図版 15）

＜位置・検出状況＞ⅢＢ３ａグリッド、調査区南側緩斜面に位置する。Ⅱ層中で検出した。＜形態・規模＞規模は、0.72 × 0.44 ｍ、被熱層厚は５㎝である。＜被熱土＞にぶい赤褐色シルトである。＜遺物＞本遺構に伴う遺物は認識していないが、検出面付近では弥生時代中期～後期の土器と№ 259 の土製紡錘車が出土している。＜遺構の性格＞炉、若しくは焚火痕と考えられる。＜時期＞検出面と周辺出土遺物から、弥生時代中期～後期である。

４号焼土（ＳＮ 04）（第 20 図、写真図版 16）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ７ｆグリッド、調査区中央部谷底状地形に位置する。Ⅱ層中で検出した。＜形態・規模＞規模は、0.72 × 0.65 ｍ、被熱層厚は８㎝である。＜被熱土＞明赤褐色シルトである。＜遺物＞本遺構の検出面上では弥生時代中期から後期の土器が出土している。＜遺構の性格＞炉、若しくは焚火痕と考えられる。＜時期＞検出面と周辺出土遺物から、弥生時代中期～後期である。

５号焼土（ＳＮ 05）（第 20 図、写真図版 16）

＜位置・検出状況＞ⅡＢ９ｆグリッド、調査区中央部谷底状地形に位置する。Ⅱ層中で検出した。＜重複関係＞６号陥し穴状土坑と重複し、これよりも上位の堆積層上に位置する。＜形態・規模＞規模は、0.45 × 0.29 ｍ、被熱層厚は 10㎝である。＜被熱土＞赤褐色シルトである。＜遺物＞なし。＜遺構の性格＞炉、若しくは焚火痕と考えられる。＜時期＞検出面から、弥生時代と考えられる。

６号焼土（ＳＮ 06）（第 20 図、写真図版 16）

＜位置・検出状況＞Ⅱ Ｃ８ｇグリッド、調査区中央部谷底状地形に位置する。Ⅱ層中で検出した。**＜形態・規模＞**規模は、0.82 × 0.70 ｍ、被熱層厚は 13㎝である。**＜被熱土＞**明赤褐色シルトである。**＜遺物＞**弥生土器が周辺から出土している。**＜遺構の性格＞**炉、若しくは焚火痕と考えられる。**＜時期＞**検出面から、弥生時代と考えられる。

７号焼土（ＳＮ 08）（第 20 図、写真図版 16）

＜位置・検出状況＞Ⅲ Ｂ３ｂグリッド、調査区南側緩斜面に位置する。Ⅱ層中で検出した。**＜形態・規模＞**規模は、0.24 × 0.16 ｍ、被熱層厚は 10㎝である。**＜被熱土＞**赤褐色シルトである。**＜遺物＞**なし。**＜遺構の性格＞**炉、若しくは焚火痕と考えられる。**＜時期＞**検出面から、弥生時代と考えられる。

（６）遺物包含層（捨て場状遺構）

谷底状地形では、北西－南東方向に帯状にⅢａ～Ⅲｂ層が堆積する。この範囲が特に遺物の出土量が多く、完形に近い土器や廃棄穴と考えられる土坑も位置する。谷底状地形を捨て場と認識し、掘り込みのある遺構ではなく、「場」としての遺構と捉え報告する。**＜位置＞**Ⅱ Ｂ 6e・7e・8e・7f・8f・8g・9g・10h、Ⅲ Ｂ１ｈグリッドに位置する。標高 99 ～ 100 ｍの範囲にあり、標高 99.8 ｍよりも低い範囲はⅢａ層が帯状に堆積する。**＜形態・規模＞**、明瞭な廃棄土層は認識できかった。規模は、27 × 7 ｍ、約 200㎡である。**＜堆積土＞**Ⅱ層では弥生土器と縄文前期土器の小破片、Ⅲ層からは縄文前期土器が出土する。谷底部に位置する範囲は帯状にⅢａ層に覆われ、Ⅲｂ層上面が焼土と見紛うほど赤錆のブロックや地層が形成されていた。Ⅲｂ層ではⅠ群２類大木２ａ式土器が大量に出土した。**＜遺物＞**捨て場状遺構出土の掲載遺物は、観察表の出土地点に「谷部」と表記があるものである。掲載遺物の選択に際しては、本報告書全体として建物や土坑出土を優先したので、捨て場状遺構からの出土土器は代表例に留めた。土器は№ 192・193・196・202 ～ 212・217 ～ 219・221 ～ 225・227・228 を、石器は№ 348・382・397・407 である。**＜時期＞**縄文時代前期前葉である。

３．出　土　遺　物

（１）縄　文　土　器

縄文土器は、Ⅰ群２類（大木２ａ式）を中心に、Ⅰ群１～５類（大木１～２ａ・２ａ・２ｂ式、早稲田６類、白座式）までが出土の主体を占める。調査状況から、これらは To-Cu 降下時期より古いと捉えられるので、帰属時期は前期前葉に相当する。補足として、大木２ｂ式と白座式は厳密には前期前葉～中葉の時期幅で捉えるべき土器かもしれないが、上記のとおり本遺跡出土は To-Cu 降下時期より古いと捉えられたことで、ここでは前期前葉として報告する。なお、今回の調査では大木３式や円筒下層ａ式など前期中葉の土器は出土していない。前期前葉以外の時期には、前期末葉Ⅰ群６類（円筒下層ｄ式）、中期初頭Ⅱ群１類（大木７ａ式）、後期前葉Ⅲ群１類（十腰内１式）がある。Ⅰ群６類は№ 128・137・138・184 ？の４点、Ⅱ群１類が№ 147 の１点、Ⅲ群１類１類が№ 150 の１点出土した。以下には主体を占める前期前葉Ⅰ群１類～５類を取り上げ、概要を述べる。

Ⅰ群１類は、非結束羽状縄文により菱形を構成するもの（№ 190 など）や、付加条を施文し口唇形状が丸頭を呈するもの（№ 233 など）など、大木２ａ式とするには躊躇があり、大木１～２ａ式と幅を持って捉えたものである。ただ、環付き末端ループは非常に少なく（№ 29 の１点のみ）、組縄縄文（いわ

ゆるピッチリ縄文）は認められない状況から、本遺跡に大木１式の存在を断定し難く、従って本類としたものは大木２ａ式の古い段階である可能性を持つと考えられる。

大木２ａ式相当のⅠ群２類は、口縁部に不整撚糸文（結節回転文）を施文し、口唇部形状は角頭主体である。不整撚糸文を施文するものは、口縁部と胴部（文様帯）を区分する意識が働いていると捉えられ、この要素は大木１式には認めがたい。口縁形状は基本的には平縁であるが、№56・85・93・166 など山形状に尖る口縁形状や突起を持つものが一定量認められる。胴部地文は単節や複節の横回転、羽状縄文（非結束が多い）、絡条体（単軸絡条体第１類が多い）などが認められる。撚糸文は単軸絡条体第１・1A・２？・５類が認められる。なお、大木２ａ式と大木２ｂ式の区分ができず、両型式への比定に際して態度を保留したものとして、№90・108・125・209・247 などを挙げておく。

Ⅰ群３類は、大木２ｂ式と判断されるものである。Ｓ字状連鎖沈文の施文、もしくはそれを施文するものと同じ様相の胎土を持つもので、口唇部形状は丸頭状が主体である。傾向として、胎土に雲母を混入するものは、内面にミガキが認められる。Ｓ字状連鎖沈文は、基本的には口縁～胴部下半まで広く施文されるものがほとんどであるが、一部口縁部のみＳ字状連鎖沈文で胴部に別の地文を採用するものがある。具体的には、№204 は LRL、№212 は組紐回転が胴部に施文される。このことは、大木２ａ式と同様に、口縁部と胴部を区分する意識が介在していることが窺われるが、あるいはこれらはより大木２ａ式に近い古段階の可能性も考えられる。

Ⅰ群４類は早稲田６類と判断されるものを集めた。土器内面の色調が黒色を呈するものが多く（※内黒と表記）、胎土中の繊維量も大木２ａ式と比較してやや多い傾向が窺われる。早稲田貝塚の報告で早稲田６類はａ～ｃに細分されている（佐藤 1983）。№146・251・256 など円形刺突列や押し引き沈線などの特徴を持つものは早稲田６類ａと判断される。なお、早稲田６類ｂや早稲田６類ｃと特定できる資料は未確認にある。留意点として№162・229 など底部が尖底若しくは丸底の土器については本類に含め、非結束羽状縄文を施文する一群についてはⅠ群１類（大木１～２ａ式）若しくはⅠ群２類（大木２ａ式）に分類した。ただ、区分に際して層位的根拠はなく、むしろそれらは共伴関係にある可能性もあり、大木２ａ式の底部尖底の有無などは今後の検討課題と考えられる。

白座式相当のⅠ群５類は、口縁端部に斜位の刻目状の刺突文を持つものである。胴部地文には、単節、複節、付加条、組紐が認められる。組紐を採用するものは№31・121・177・218 など、一定量ある。胎土中への繊維量は、極微量若しくは含まれないものが多く、大木２ｂ式の様相に類似する。ただ、口唇部の形状が角頭主体なことは大木２ａ式と共通の属性と捉えられる。また、№213 のように、大木２ｂ式と白座式の両属性を持つものも認められる。近年の事例を見る限り白座式は大木２ｂ式と大木３式の両型式に跨いでの並行関係が想定されるが、大木３式が出土していないことを鑑みると、本遺跡で出土している白座式は大木２ｂ式期の可能性が窺える一方で大木２ａ式とも並行関係にあることを匂わせる。層位的な根拠がなく、強く言及できる内容ではないが、本遺跡資料は白座式の中では古段階か。

（２）弥　生　土　器

弥生土器は中期～後期のもので、全て遺構外出土である。そのほとんどは、Ⅳ群３類赤穴式である。今回の調査で唯一天王山式と捉えたのが№149 で、付加条縄文施文後に、沈線による菱形文様が施文される。なお、弥生前期は出土していない。

（３）石　　器

総数 718 点が出土した。内訳は石鏃 79 点（内掲載 21 点）・尖頭器６点（２点）・石匙 81 点（22 点）・

石錐８点（３点）・掻器 47 点（７点）・掻削器１点（１点）・削器５点（５点）、楔形石器 37 点（５点※楔形石核を含めて総数 37 点）、石核 27 点（６点）、打製石斧６点（３点）、磨製石斧 31 点（11 点）、敲磨器 25 点（16 点）、磨石８点（６点）、特殊磨器 28 点（１点）、敲石 25 点（９点）、台石３点（２点）、石皿３点（３点）、棒状石器１点（１点）、フレーク類 313 点である。

石鏃は基部が平基若しくは僅かに抉りを持つ凹基の２種が主体にある。例外としてNo.349 は同じ凹基でも抉りが突出して深い。また、円基としたNo.353・354 は、製作途中の未成品と捉えられる。尖頭器は２点出土し掲載した。基部に摘みを持つNo.356 は押出型尖頭器と呼ばれる類である。石匙は縦型、横型、斜行型の３種に大別される。主体は縦型で（およそ 70％が縦型）、加えて片面へのみ二次調整剥離を施すものが多い。削掻器・掻器・削器は、掻器と捉えられるものが圧倒的に多い。No.377 は黒曜石製の掻器である（産地不明）。石錐は摘み部が作出されず、錐部の短いもの若しくは不明瞭なものが出土している。磨製石斧は、傾向として欠損品が圧倒的に多く、また石材は蛇紋岩製が一定数散見できる。蛇紋岩製については擦り切り技法によるものと推定される。礫石器は、敲磨石、特殊磨石、敲石などが一定量出土している。石材は、特殊磨石が砂岩、敲石が花崗閃緑岩を主体とする。フレーク類は３種に大別すると、二次加工のある剥片（280 点）、使用痕と考えられる配列を持つ微細剥離痕のある剥片（14 点）、両極打撃技術により製作された両極剥片（18 点）がある。石材は頁岩 81％、チャート７％、鉄石英６％、その他にメノウ、玉髄、砂岩、花崗閃緑岩などがある。

（４）土　製　品

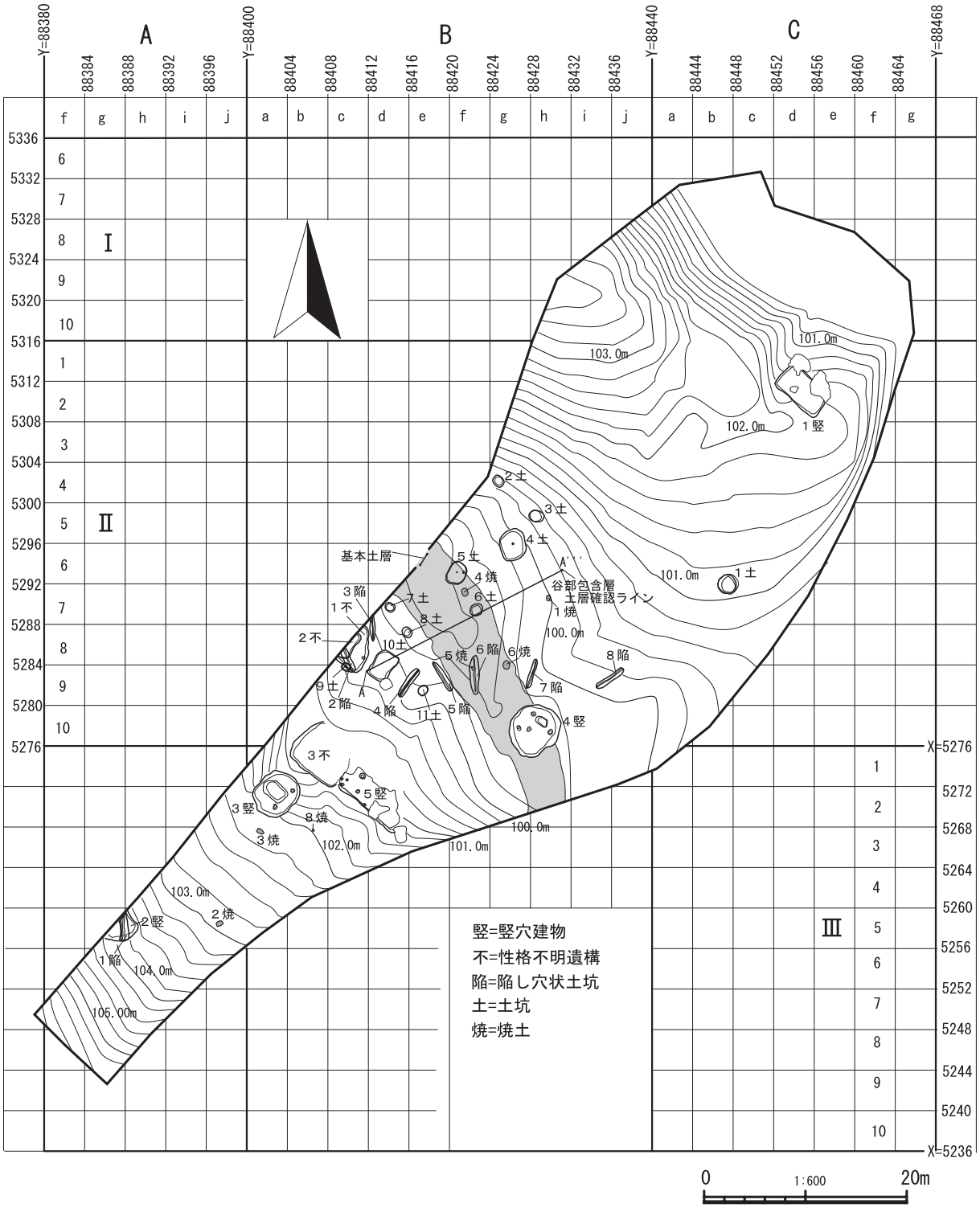
No.259 は弥生時代後期の土製紡錘車である。円盤状に整え、沈線と刺突で花弁状文様を描いてから、中心部に穿孔している。穿孔が文様描出よりも後なのは、文様の一部が穿孔によって生じた余分な粘土に覆われていることで判断出来る。文様は沈線文様に対向刺突を施す赤穴式の特徴をもつことから、製作時期は後期前葉を想定する。

（星）

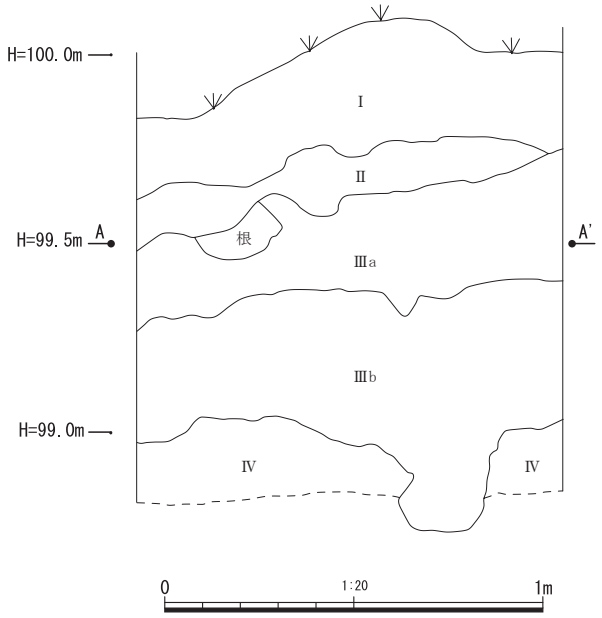
第1表 石器組成表

合計 / 個数	出土地点															
器種	1号竪穴建物	3号竪穴建物	4号竪穴建物	5号竪穴建物	1号性格不明	3号性格不明	2号陥し穴	3号陥し穴	5号陥し穴	10号土坑	2号土坑	4号土坑	5号土坑	8号土坑	2号焼土	3号焼土
石鏃	3	3	2						1							1
尖頭器																
石匙	1			3			1					2	1			
掻削器類	2	2	2													
石錐																
F 類（フレーク類）	32	5	3	3	3		1	1			1	6	2	2		
石核	1			1												
楔形石器			1	1												
楔形石核									1							
側縁調整石器																
打製石斧																
磨製石斧						1	1			1					1	
敲磨器類	1	1	7	4												
石皿、台石類																
特殊磨石												1				
その他													1			
小計	40	11	15	12	3	1	3	1	2	1	1	9	4	2	1	1

合計 / 個数	出土地点															
	遺構外														総計	備考
器種	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅱ層下位	Ⅱ層下部	Ⅲ層	Ⅲａ層	Ⅲｂ層	カクラン層	一括	検出	試掘トレンチ一括	表土	北トレンチ	(空白)		
石鏃	2	44			16	1	6								79	
尖頭器		5					1								6	
石匙	4	29		2	21	3	11	1		1				1	81	
掻削器類	1	29			7	3	12		1	1					60	削器、石ヘラ？、掻器刃部再生剥片、掻削器、不定形石器、掻器
石錐		6					1						1		8	
F 類（フレーク類）	10	327	1		127	69	83	2	7	1			1	3	690	F、R.F、U.F、両極 F
石核		14			4	3	3			1					27	
楔形石器		1			1		1								5	
楔形石核	1	12			12	2	4								32	
側縁調整石器		1													1	
打製石斧	1	2			2					1					6	
磨製石斧		13			8	2	3						1		31	
敲磨器類	1	22			10	5	5		1			1			58	磨石、敲石、敲磨石
石皿、台石類		1			2	2					1				6	石皿、台石類
特殊磨石	1	14			4	1	5					1		1	28	
その他		2													3	亀の子状石斧？、被熱した蓋石、棒状石器
総計	21	522	1	2	214	91	135	3	9	5	1	2	3	5	1121	


Y=88380
Y=88400
Y=88440
Y=88468
A
B
C
88384
88388
88392
88396
88404
88408
88412
88416
88420
88424
88428
88432
88436
88444
88448
88452
88456
88460
88464
f g h i j a b c d e f g h i j a b c d e f g
5336
5332
5328
5324
5320
5316
5312
5308
5304
5300
5296
5292
5288
5284
5280
5276
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
X=5276
X=5236
5272
5268
5264
5260
5256
5252
5248
5244
5240
基本土層
A
A'
谷部包含層
土層確認ライン
1竪
2竪
3竪
4竪
5竪
1土
2土
3土
4土
5土
6土
7土
8土
9土
10土
11土
1焼
2焼
3焼
4焼
5焼
6焼
1陥
2陥
3陥
4陥
5陥
6陥
7陥
8陥
1不
2不
3不
101.0m
102.0m
103.0m
104.0m
105.00m
100.0m
竪=竪穴建物
不=性格不明遺構
陥=陥し穴状土坑
土=土坑
焼=焼土
0
1:600
20m

第５図　遺構配置図

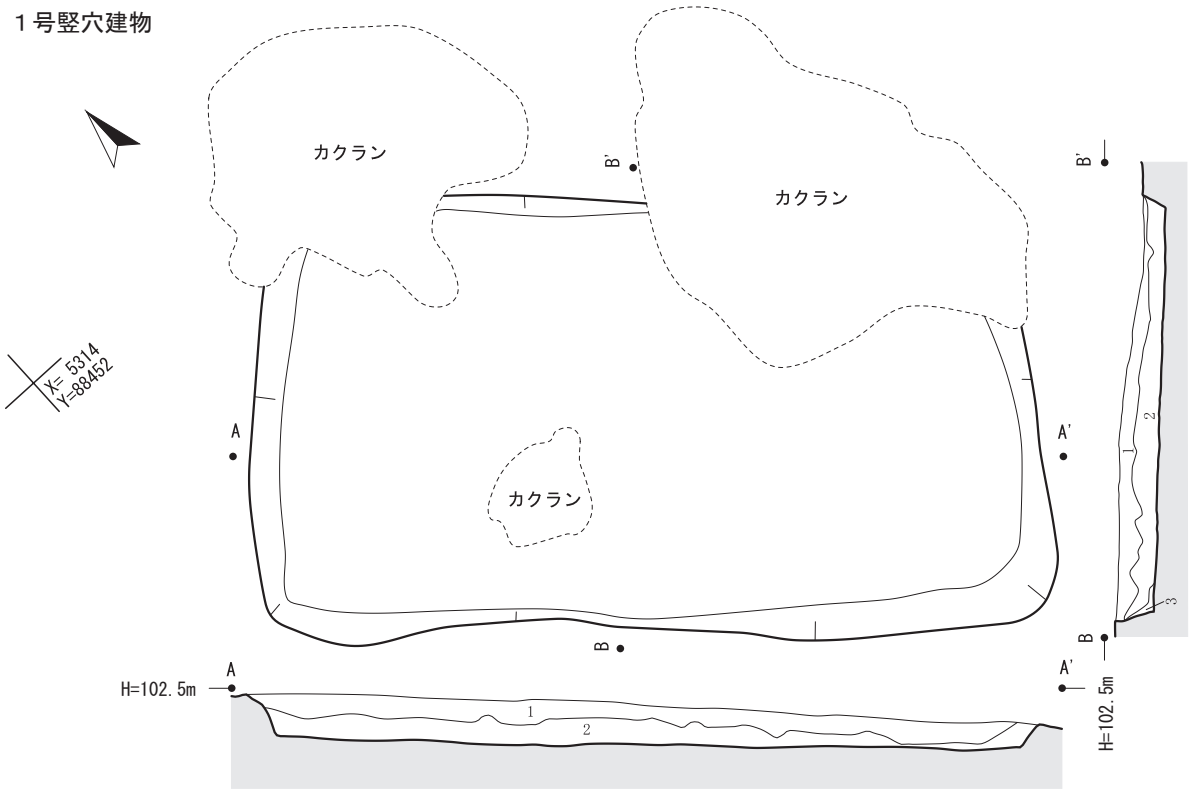


基本土層

Ⅰ　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性微 しまり粗 根多量（表土層）
Ⅱ　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 弥生土器少量（谷部の堆積厚い 縄～弥の包含層）
Ⅲa　10YR7/6 黄褐色火山灰土 粘性なし しまり密 縄文前期の土器微量（ほぼ水平堆積のTo-Cu層で上部灰褐色・下部明黄褐色の２層に細分される）
Ⅲb　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 水酸化鉄土５％ 土器多量（5YR5/8 赤褐色土はⅢa～Ⅲb～Ⅳまで同じ色調で形成される。焼土ではない）
谷部以外の暗褐色シルト層は「Ⅲ層」として認識した
Ⅳ　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密 最終遺構検出面

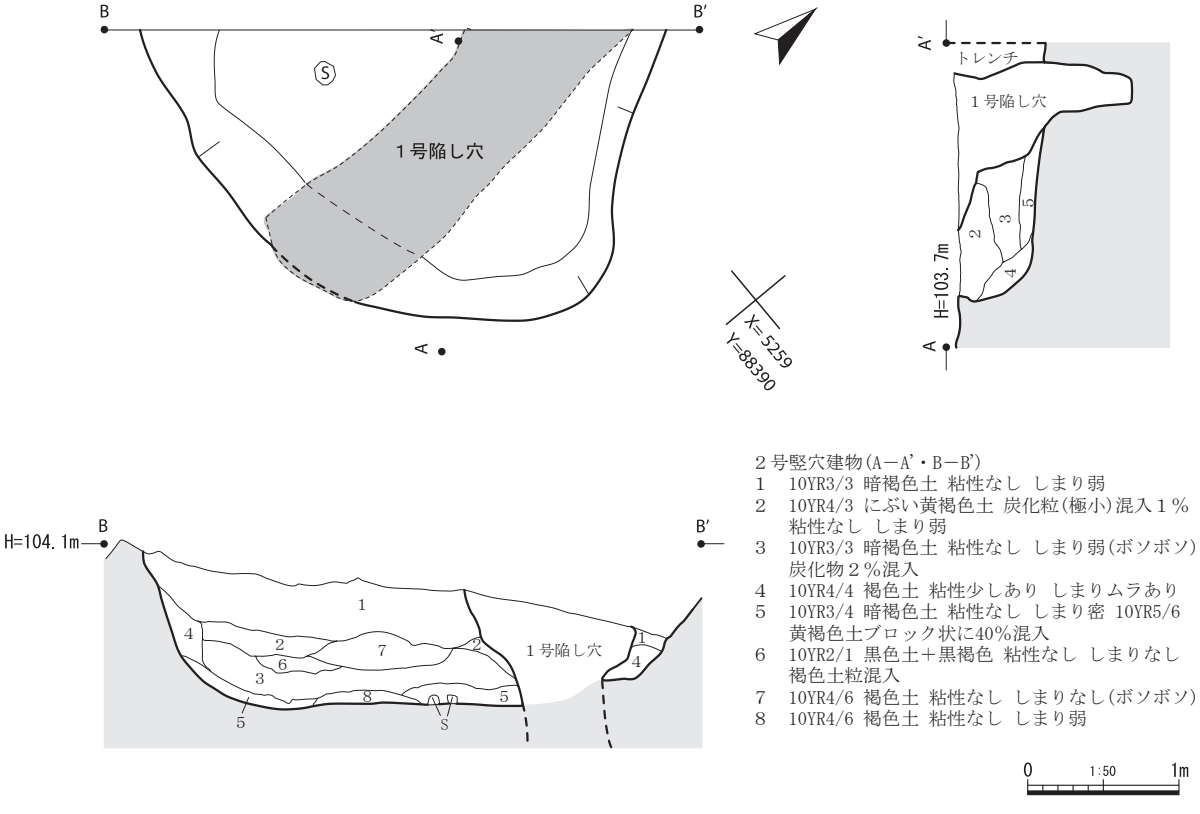
第６図　基本土層

１号竪穴建物



１号竪穴建物(A－A'・B－B')
1　10YR7/8 黄橙色火山灰 粘性なし しまり密(To-Cu層)遺物少量
2　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまりやや粗 炭化物粒φ１～３％遺物少量
3　10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり粗(２層よりやや暗い 三角堆積)

２号竪穴建物

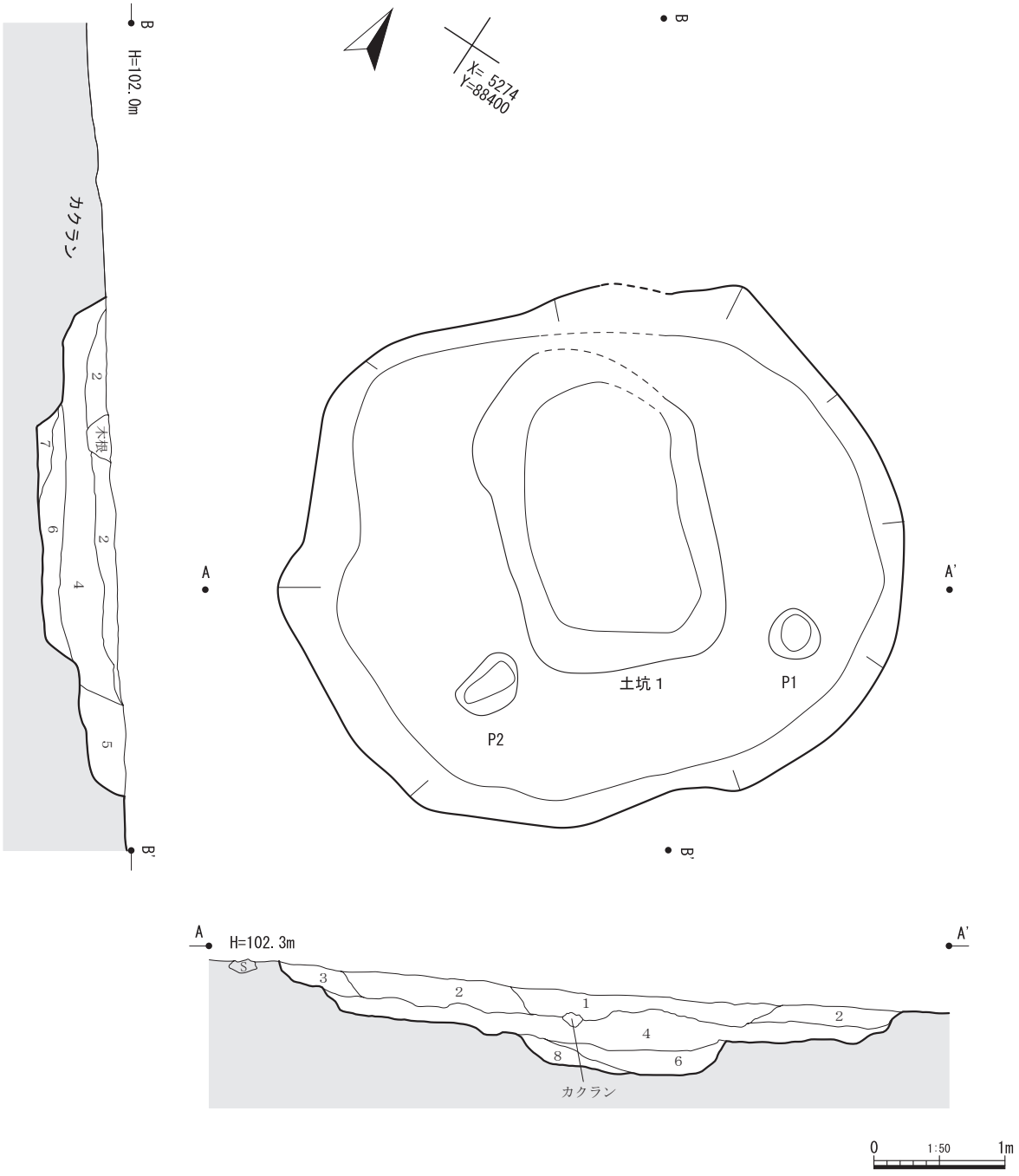


２号竪穴建物(A－A'・B－B')
1　10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまり弱
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化粒(極小)混入１％
　粘性なし しまり弱
3　10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまり弱(ボソボソ)
　炭化物２％混入
4　10YR4/4 褐色土 粘性少しあり しまりムラあり
5　10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまり密 10YR5/6
　黄褐色土ブロック状に40%混入
6　10YR2/1 黒色土＋黒褐色 粘性なし しまりなし
　褐色土粒混入
7　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまりなし(ボソボソ)
8　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまり弱

0　1:50　1m

第７図　１・２号竪穴建物

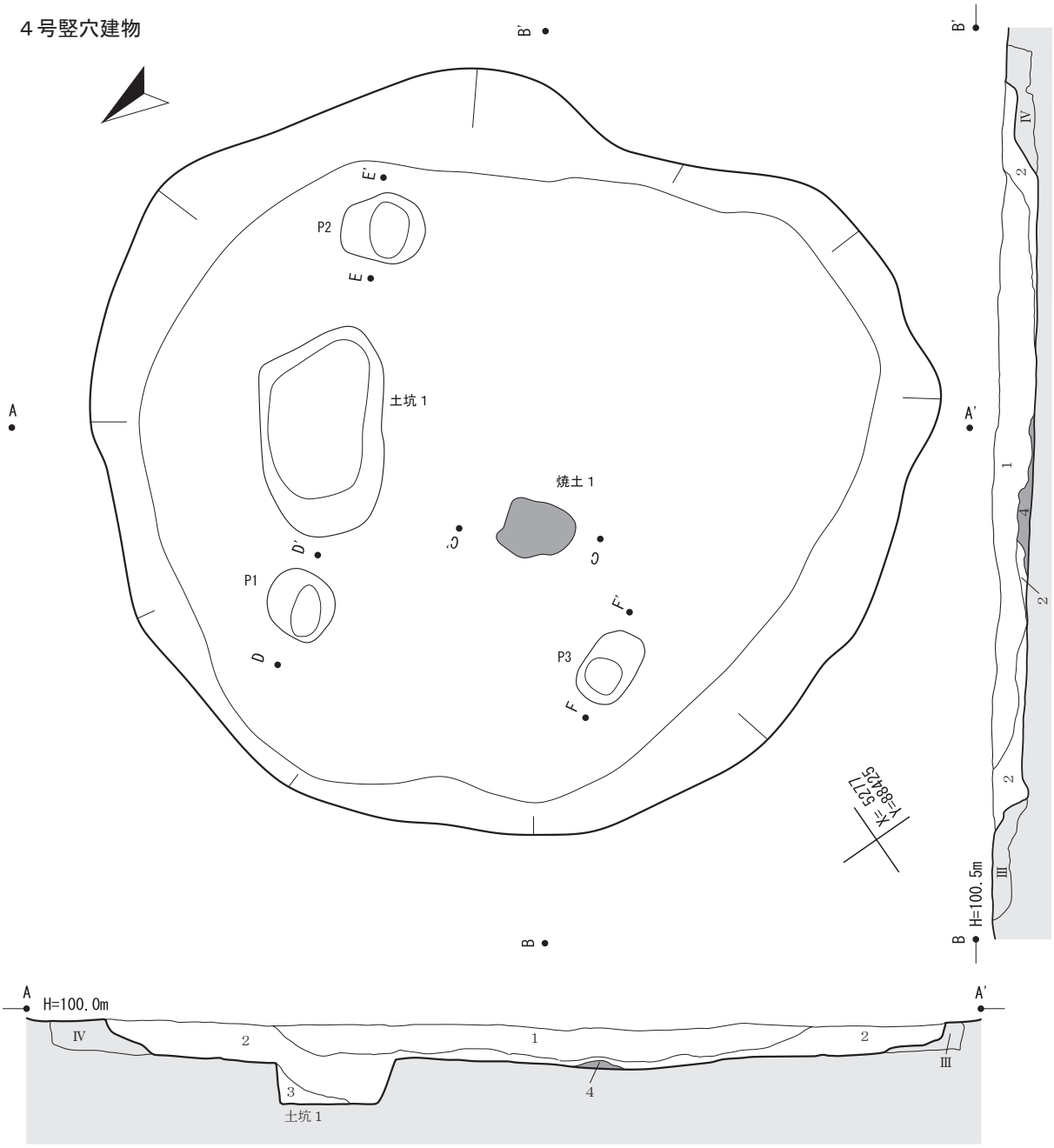
３号竪穴建物



３号竪穴建物（A－A', B－B'）
1　10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりムラあり 木根のカクラン多い 炭化粒混入
2　10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりムラあり
3　10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりムラあり 地山の流れこみ 上面に１層（住居床面上に堆積）
4　10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまり密 炭化粒、褐色土粒混入（住居床面上に堆積）
5　10YR4/4 褐色土 粘性なし しまり密 礫(小)１％混入 地山Ⅲ層に似ている
6　10YR3/3 黒褐色土 粘性なし かたくしまる（土坑１堆積土）
7　10YR2/2 黒褐色土 粘性なし しまり密 下位に褐色混入（土坑１内底面に堆積）
8　10YR3/3 黒褐色土 粘性なし しまり密 （土坑１堆積土）

No.	長×短(cm)	深さ(cm)
P1	40×40	10.7
P2	54×35	13.2

第８図　３号竪穴建物

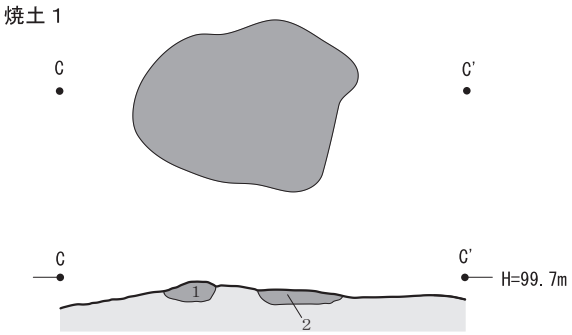


４号竪穴建物(A－A', B－B')
1　10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや密 粘性弱 炭化物少量、10YR1.7/1 黒色シルトブロック(φ３～５cm)少量
2　10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや粗 粘性弱 火山灰粒(φ～５cm)10%、褐色シルトブロック(φ～３cm)10%
　壁際は木根によるカクランあり
3　10YR4/6 褐色シルト しまりやや密 粘性弱 10YR5/6 黄褐色シルトが床面中心に３%
4　５YR4/8 赤褐色焼土　しまりやや密 粘性弱 焼土

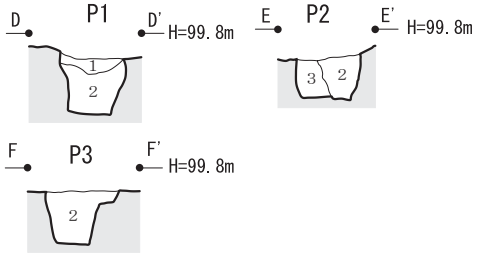
No.	長×短(cm)	深さ(cm)
P1	52×49	42.0
P2	64×52	30.0
P3	60×38	34.0

0　1:50　1m

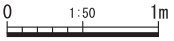
第９図　４号竪穴建物１



４号竪穴建物(焼土１)
1　5YR4/8 赤褐色焼土 しまり密 粘性なし
2　5YR4/6 赤褐色焼土 しまりやや密 粘性なし

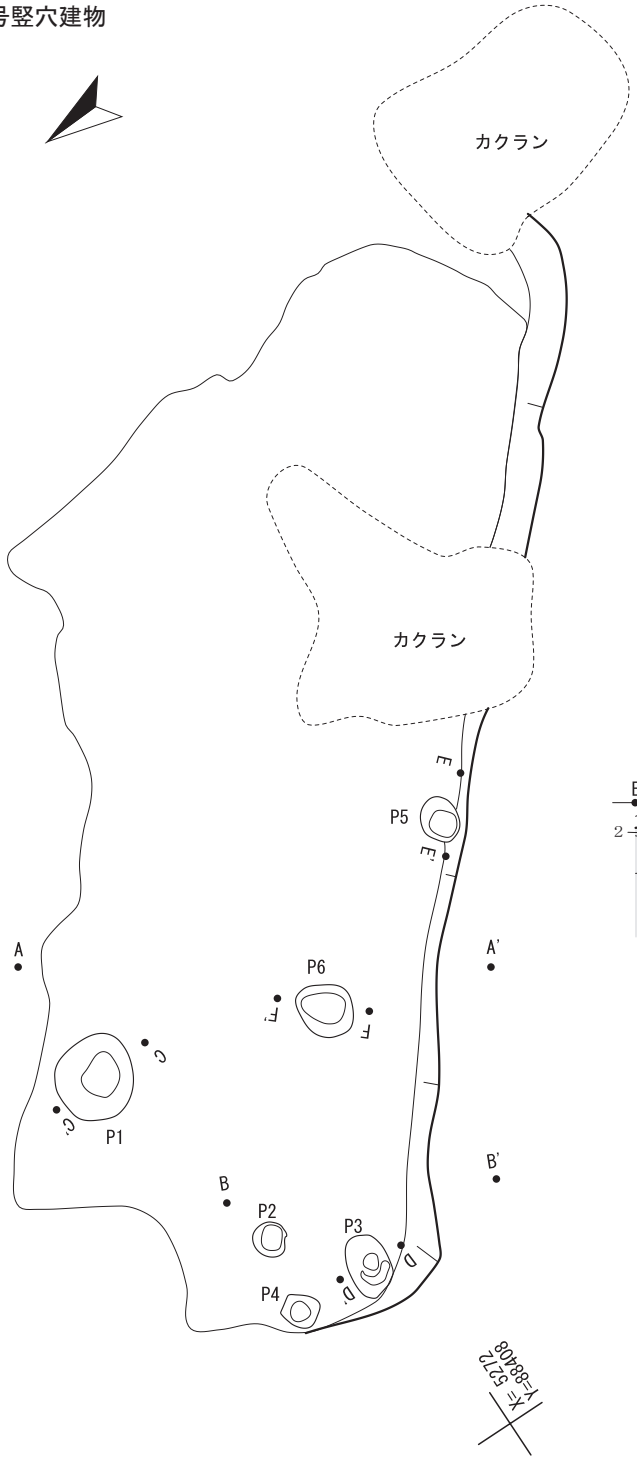


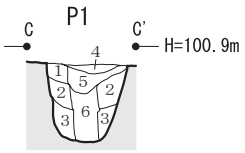
４号竪穴建物(P1・2・3)
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや粗
2　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり粗(かなりやわらかい)
3　10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまりやや密



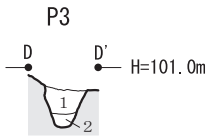
第10図　４号竪穴建物２

５号竪穴建物

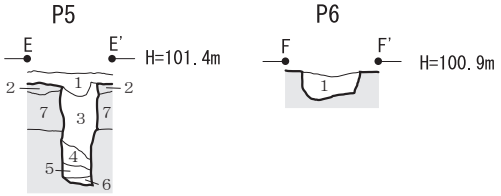




５号竪穴建物(P1)
1　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまり密 Ⅲ層と同じ
2　10YR4/4 褐色土 粘性なし しまり密 黄褐色土部分的に混入(壁面より)
3　10YR4/3 暗褐色土 粘性なし しまり密 ２層より黄褐色土の混入が多い
4　10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりムラあり木根混入 炭化物少量混入
5　10YR4/4 褐色土 粘性なし 混入土なし
6　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまりなし(ムラ)黄褐色粒混入



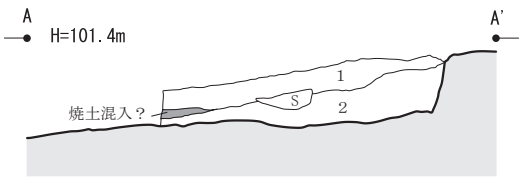
５号竪穴建物(P3)
1　10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまりなくボソボソ 炭化物極小１％ 明赤褐色土７％

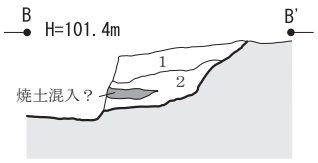


５号竪穴建物(P5)
1　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまり密 細かな木根あり
2　10YR6/6 明黄褐色土 粘性なし しまり密 かたい板状
3　10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりムラあり
4　10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりなし(ボソボソ)
5　10YR7/6 明黄褐色砂質土 粘性なし しまりなし
6　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまりなし
7　10YR4/6 褐色土 地山 ５号竪穴建物壁面

５号竪穴建物(P6)
3　10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりムラあり

No.	長×短(cm)	深さ(cm)
P1	59×53	50.5
P2	23×22	47.7
P3	43×28	29.0
P4	27×21	32.2
P5	31×25	69.0
P6	41×35	21.3

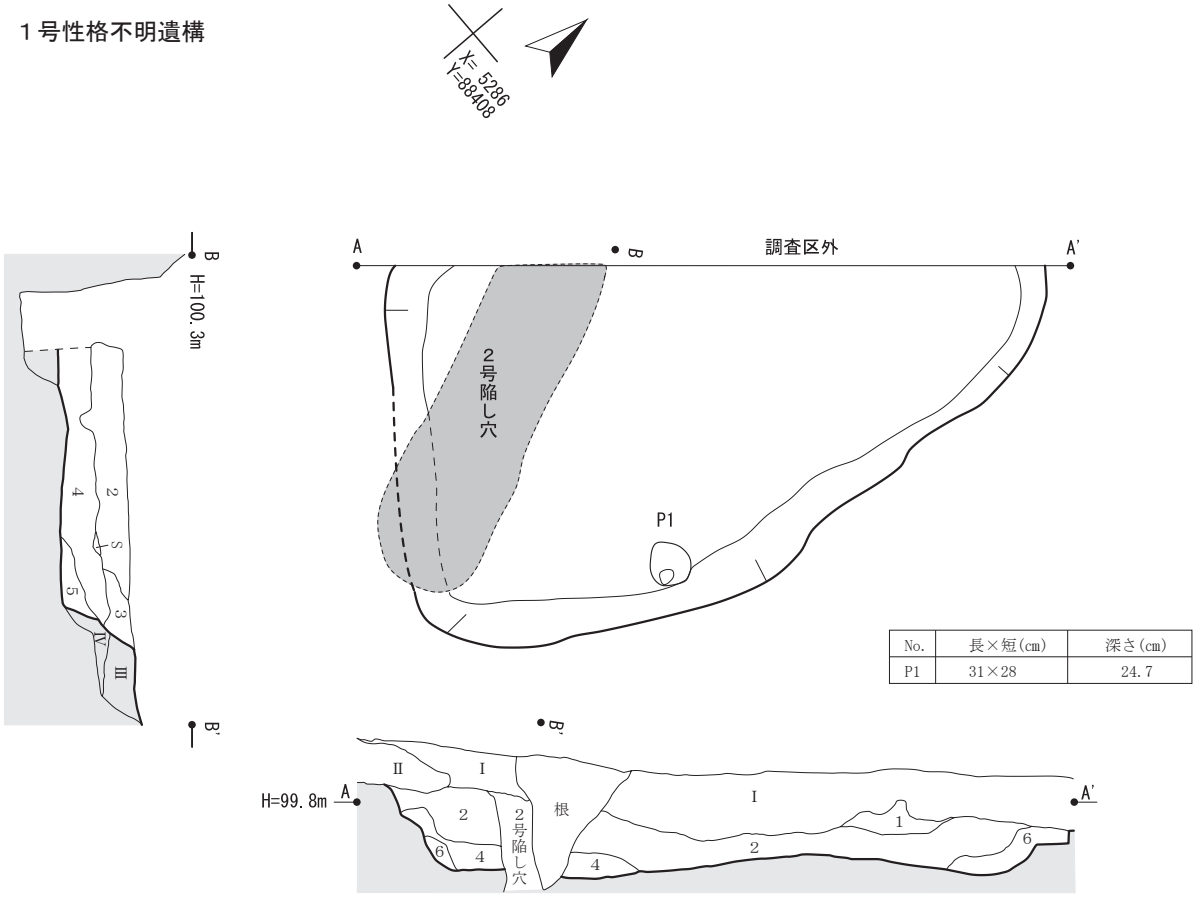




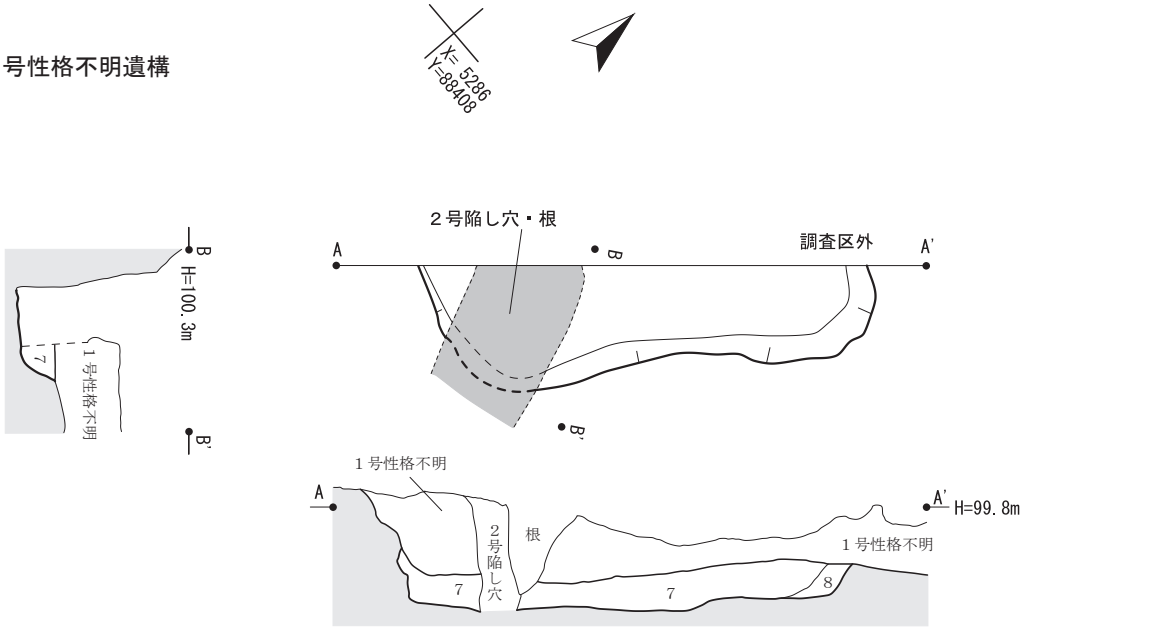
５号竪穴建物(A－A'・B－B')
1　10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりムラあり 木根あり 炭化物極小粒混入
2　10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまり密

第11図　５号竪穴建物

１号性格不明遺構



２号性格不明遺構

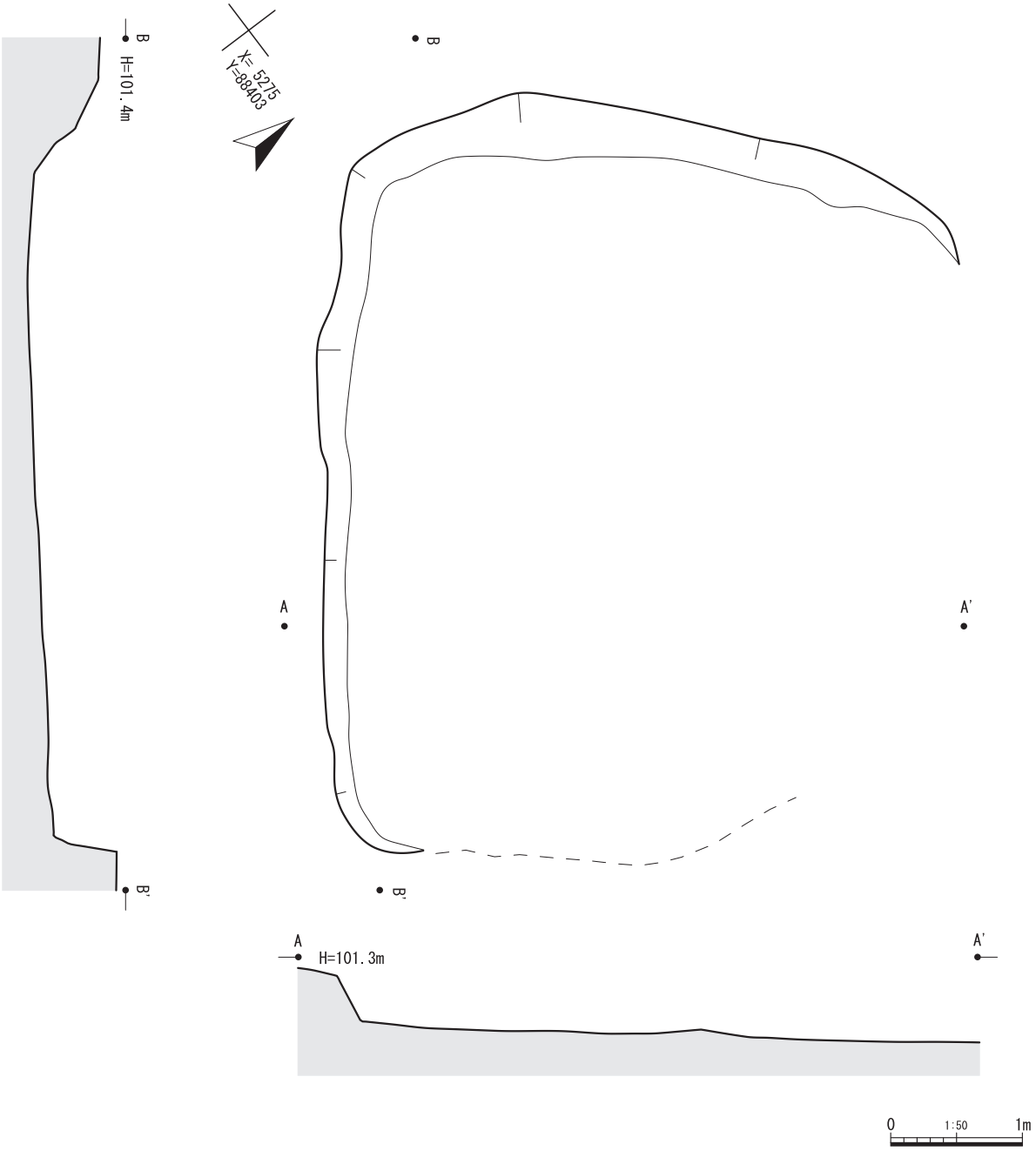


１・２号性格不明遺構
1　10YR4/4 褐色シルト 粘性なし しまり粗 砂粒３％
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性微 しまり粗 炭化物粒３％(φ１～５㎜)
3　10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり粗
4　10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり粗 炭化物粒１％ 土器包含
5　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや粗（１号性格不明遺構の三角堆積）
6　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまりやや粗（１号性格不明遺構の三角堆積）
7　10YR5/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 水酸化鉄（２号性格不明遺構の堆積）
8　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや粗（２号性格不明遺構の三角堆積）

0　1:50　1m

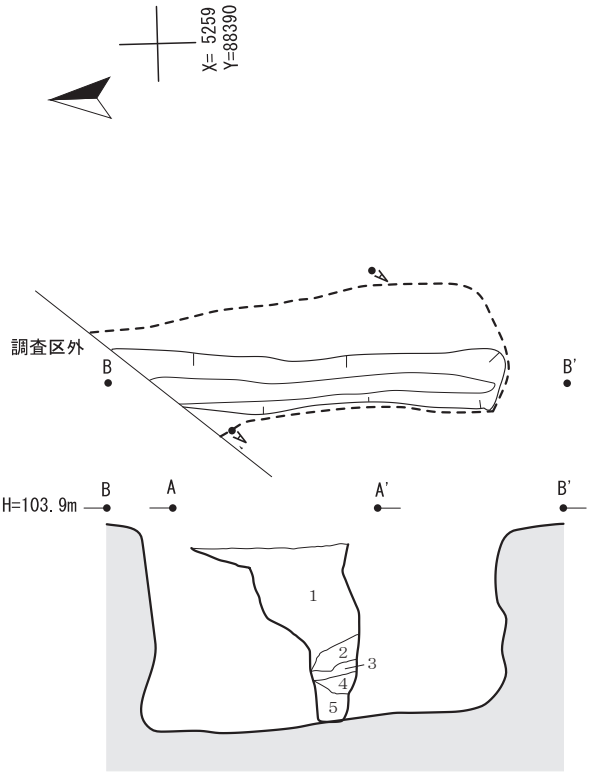
第12図　１・２号性格不明遺構

３号性格不明遺構



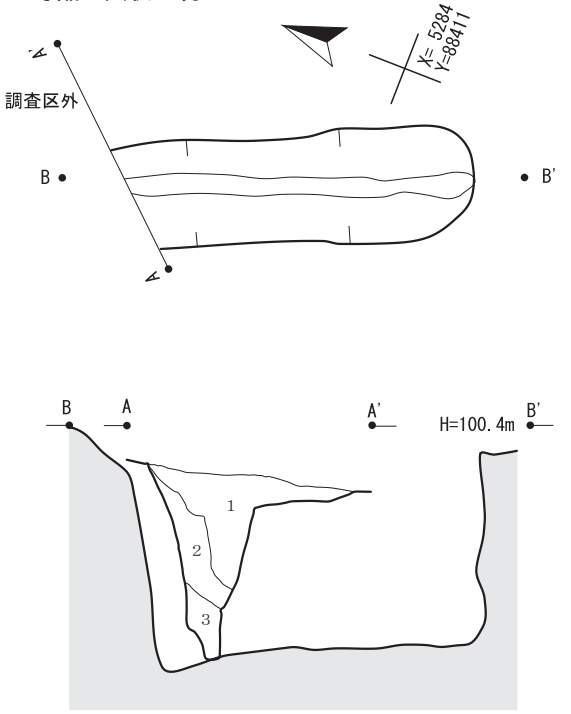
第13図　３号性格不明遺構

１号陥し穴状土坑



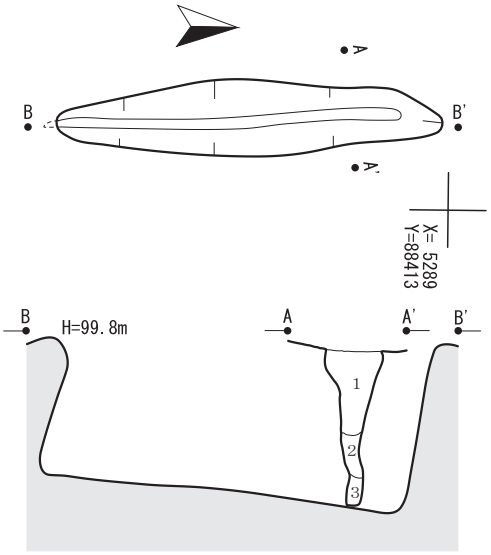
１号陥し穴状土坑
1　10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまり密 To-Cu ブロック20%混入
2　10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりなし 褐色土粒混入
3　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまりなし(ボソボソ)
4　10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりなし(ボソボソ) 細かな木根
5　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまり弱

２号陥し穴状土坑



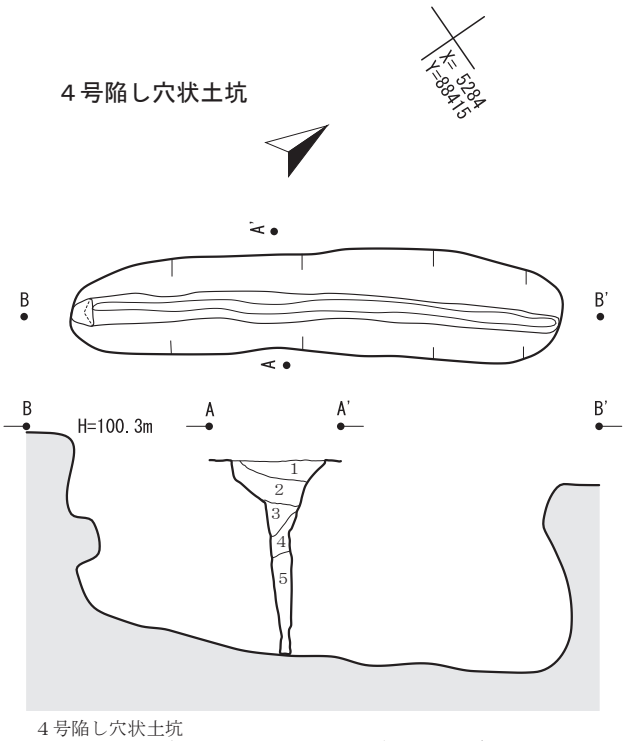
２号陥し穴状土坑
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり粗
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 黄褐色シルトブロック φ10～20㎜ ５％

３号陥し穴状土坑



３号陥し穴状土坑
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや粗
2　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり粗 10YR5/8 黄褐色ブロック20%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり粗

４号陥し穴状土坑

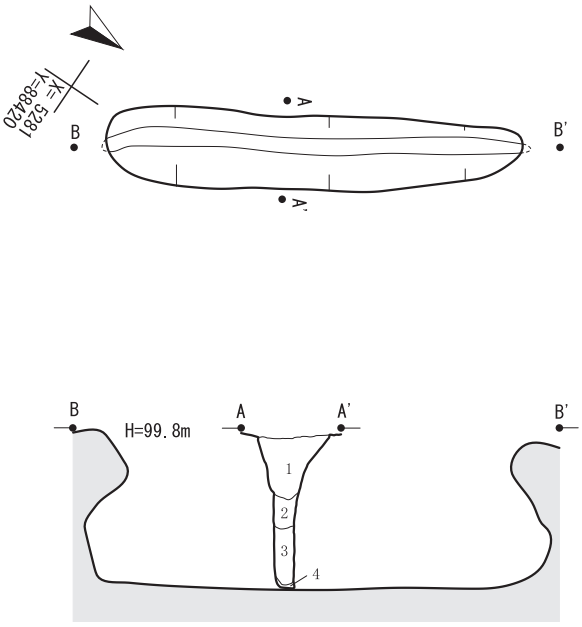


４号陥し穴状土坑
1　10YR2/1 黒色土 粘性あり しまり弱 細かな木根多い
2　10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりムラあり 褐色土粒混入
3　10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりムラあり ２層より褐色土混入が少ない
4　10YR4/4 褐色土 粘性なし しまり弱(壁面より崩落した土) 50%以上
5　10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまり弱(ボソボソ)

0　1:50　1m

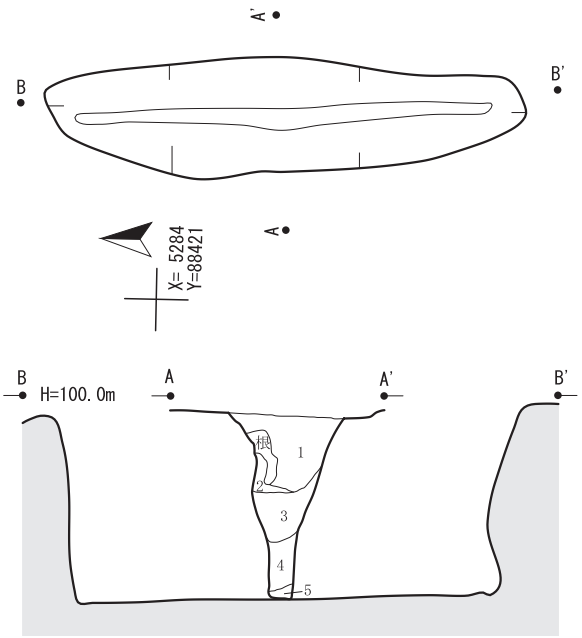
第14図　１～４号陥し穴状土坑

５号陥し穴状土坑



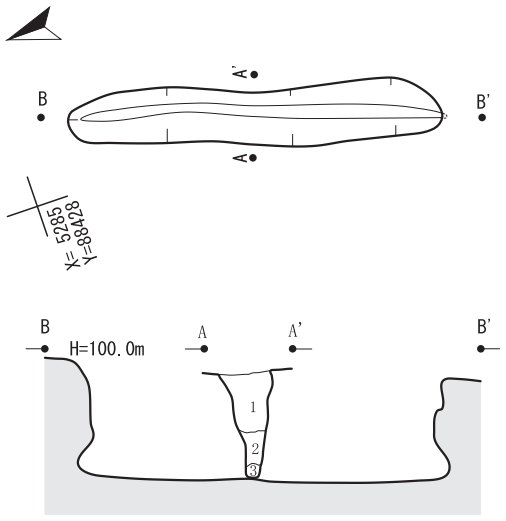
５号陥し穴状土坑
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり粗
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗
3　10YR4/6 暗褐色シルト 粘性やや強 しまり粗
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり粗

６号陥し穴状土坑



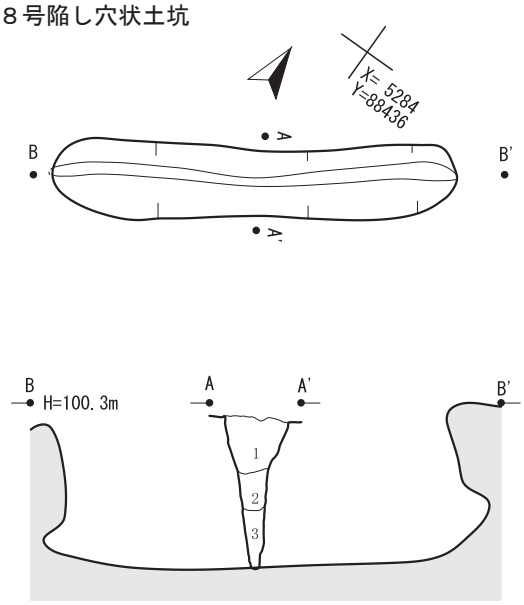
６号陥し穴状土坑
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり粗 根大量
2　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性強 しまり密 Ⅲ層内から流入したTo-Cu層ブロックφ３㎝ １％
3　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性やや弱 しまり粗
4　10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり粗 黄褐色シルトと暗褐色シルトの混合層
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり粗

７号陥し穴状土坑



７号陥し穴状土坑
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり疎 炭化物少量含む
2　10YR4/6 褐色シルト70% 10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合 粘性弱 しまり粗 炭化物微量含む
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗

８号陥し穴状土坑

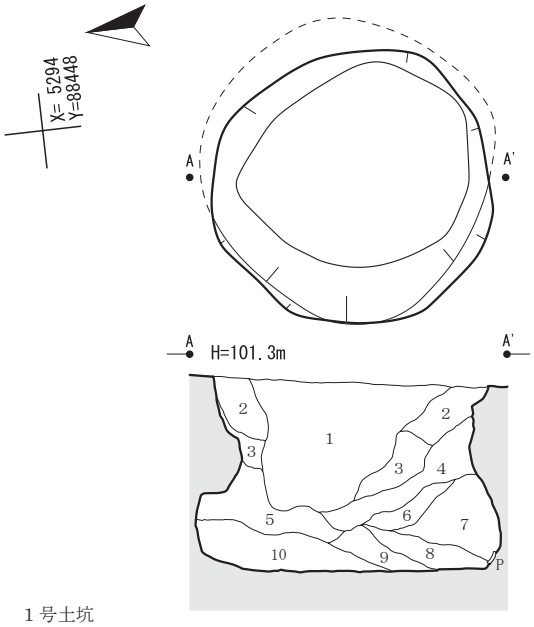


８号陥し穴状土坑
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 根多量
2　10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強 しまり粗 褐色シルト30%
3　10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまり粗

0　1:50　1m

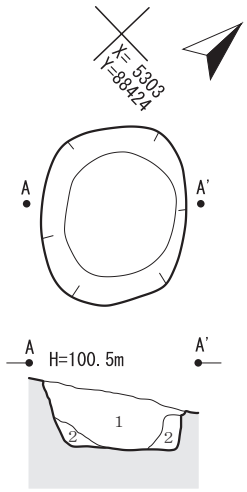
第15図　５～８号陥し穴状土坑

１号土坑



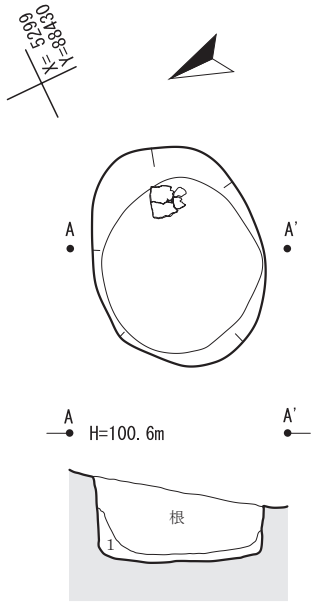
１号土坑
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや粗(木根痕？)
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 黄褐色土粒10%
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや粗
4　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 黄褐色シルト(30%)と黒褐色シルト(70%)が混合土
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 黄褐色シルト(10%)と黒褐色シルト(90%)が混合土
6　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり粗
7　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 しまりやや粗
8　10YR5/8 黄褐色粘土 粘性強 しまりやや粗
9　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 土器包含
10　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 しまり粗 砂質シルト10%

２号土坑



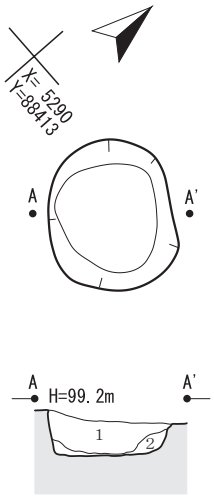
２号土坑
1　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 炭化物粒１%、赤色粒１%(Ⅲ層起源の土)
2　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり粗 黄褐色土粒５%(三角堆積)

３号土坑



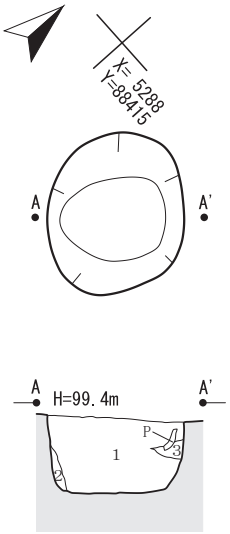
３号土坑
1　10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまりやや粗 炭化物粒１% 人為堆積的な混土層(褐色土＋黄褐色土)

７号土坑



７号土坑
1　10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまり密 炭化物極小１%混入
2　10YR4/6 褐色土 粘性ややあり しまり密 地山と１層の混合

８号土坑

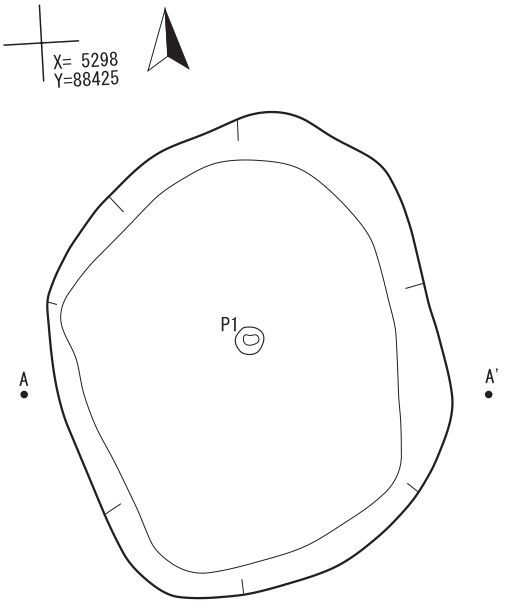


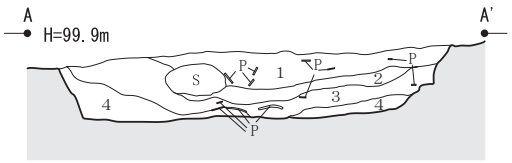
８号土坑
1　10YR4/3 暗褐色土 粘性ややあり 炭化物極小 褐色粒１%混入
2　10YR5/6 黄褐色土 粘性なし しまり密 地山と同じ
3　10YR4/6 褐色土 粘性なし しまり密 上部に土器

0　1:50　1m

第16図　１～３・７・８号土坑

４号土坑

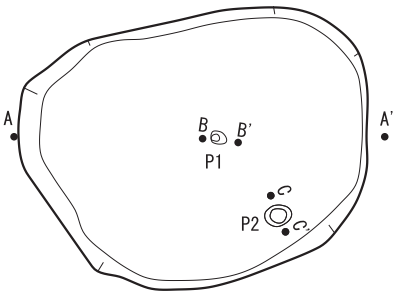


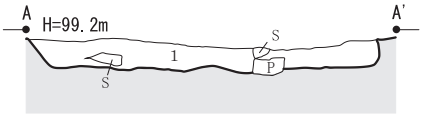


４号土坑
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 遺物少量（人為的混合土）
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 炭化物粒１％ 黄褐色土ブロック（φ５～10cm）10％（人為的混合土）
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり粗 炭化物粒３％ 黄褐色土ブロック（φ１～５cm）３％ 遺物少量（人為的混合土）
4　10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密

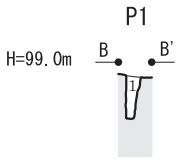
No.	長×短(cm)	深さ(cm)
P1	19×18	51.6

５号土坑

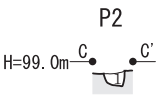




５号土坑
1　10YR3/4 暗褐色シルト しまり密 粘性やや弱 炭化物少量 10YR2/3 黒褐色シルトを20％含む

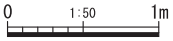


５号土坑(P1)
1　7.5YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまり弱

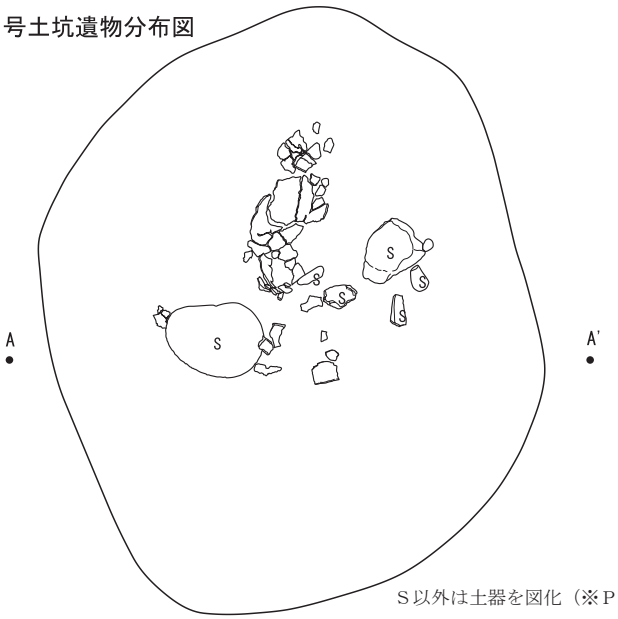


５号土坑(P2)
1　7.5YR4/3 褐色土 粘性なし しまり密 炭化物粒少粒２％混入

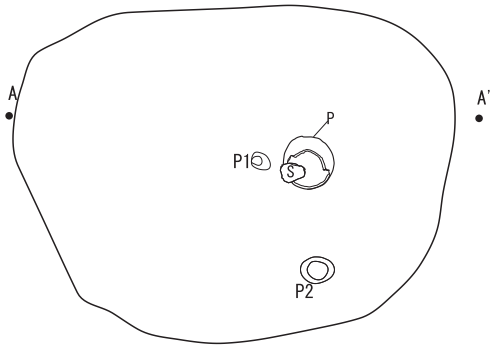
No.	長×短(cm)	深さ(cm)
P1	12×9	39.0
P2	18×14	8.8



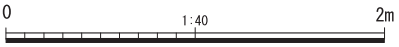
４号土坑遺物分布図



５号土坑底面遺物分布図

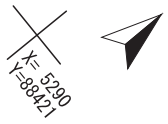


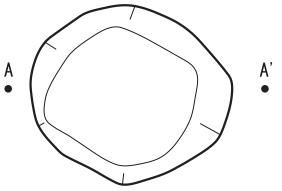
Ｓ以外は土器を図化（※Ｐ省略）

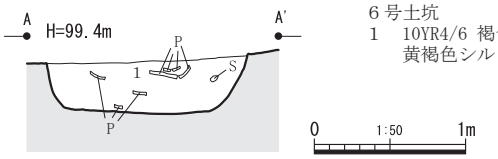


第17図　４・５号土坑

６号土坑

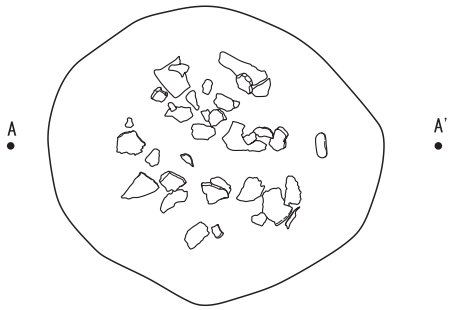






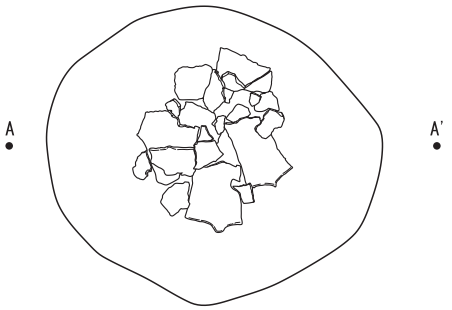
６号土坑
1　10YR4/6 褐色シルト しまりやや密 粘性弱 10YR5/8
　　黄褐色シルトを10% 炭化物を少量含む

６号土坑堆積土中部遺物分布



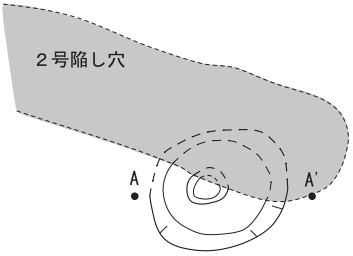
土器No. 85破片を図化

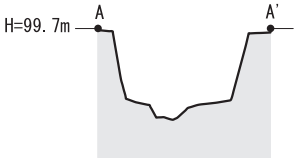
６号土坑底面遺物分布



第18図　６号土坑

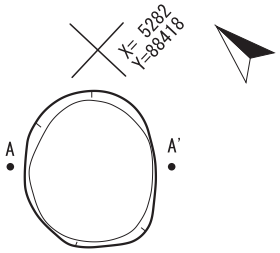
９号土坑

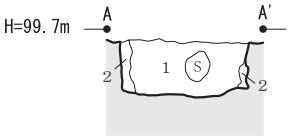




No.	長×短(cm)	深さ(cm)
副穴	28×22	10.5

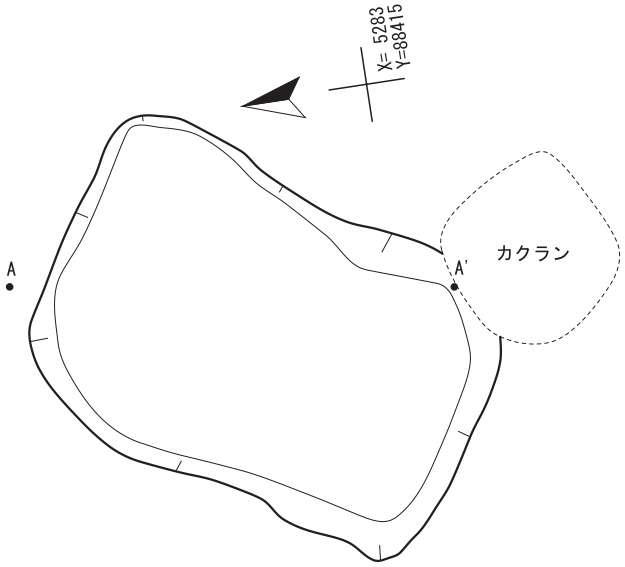
11号土坑

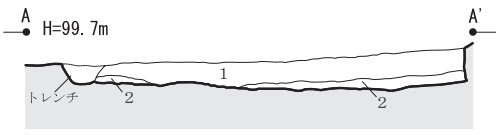




11号土坑
1　10YR4/6 褐色シルト しまりやや粗 粘性やや弱 炭化物少量 10YR5/8 黄褐色シルトブロック10%(φ～１cm)
2　10YR5/8 黄褐色シルト しまり粗 粘性やや弱

10号土坑

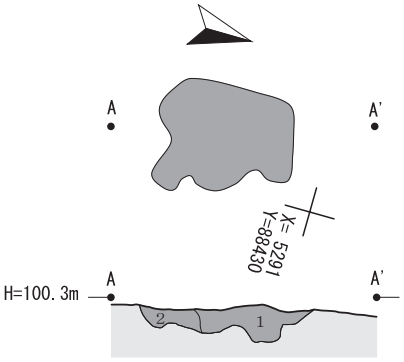




10号土坑
1　10YR3/4 暗褐色シルト しまり密 粘性弱 炭化物少量２%混入 褐色粒(小～中)７%混入
2　7.5YR5/8 明褐色シルト しまり密 粘性弱

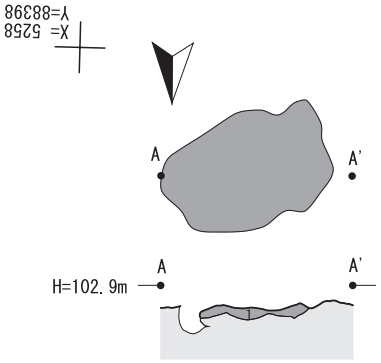
第19図　９～11号土坑

１号焼土



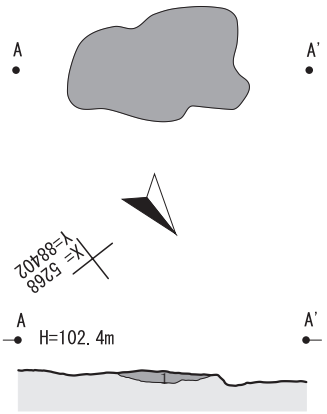
１号焼土
1　５YR5/8 明赤褐色焼土 しまり密 粘性弱
2　10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや密 粘性弱 焼土粒
（φ１～５㎜)を30%程度含む

２号焼土



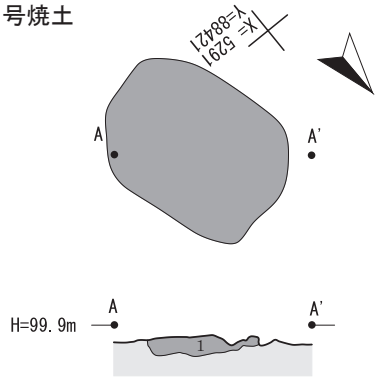
２号焼土
1　2.5YR4/6 赤褐色焼土 木根撹乱あり しまり密(現地性)

３号焼土



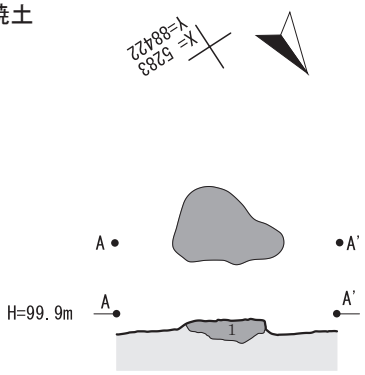
３号焼土
1　５YR2/4 極暗赤褐色焼土 ５YR4/6 赤褐色焼土(部分的に)

４号焼土



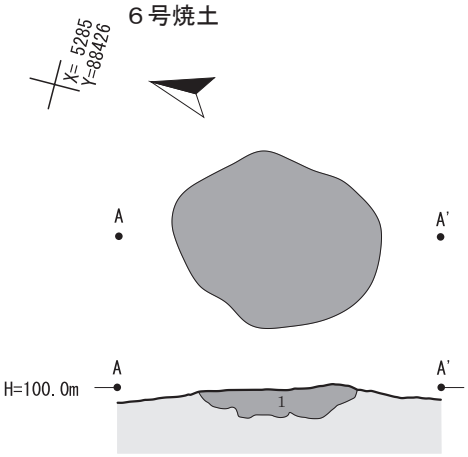
４号焼土
1　５YR5/6 明赤褐色焼土 しまり密 粘性弱

５号焼土



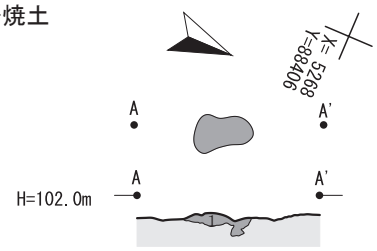
５号焼土
1　５YR4/8 赤褐色焼土 しまり密 粘性弱

６号焼土



６号焼土
1　2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり密

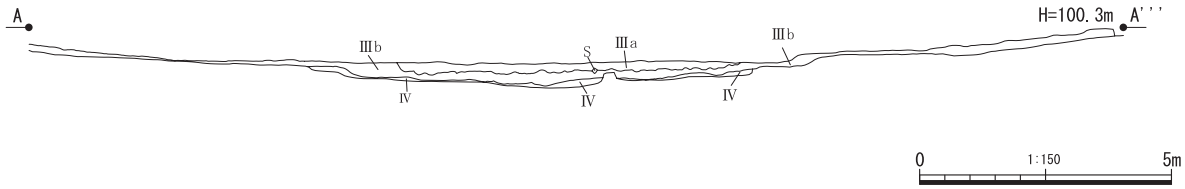
７号焼土



７号焼土
1　５YR4/8 赤褐色焼土ブロック

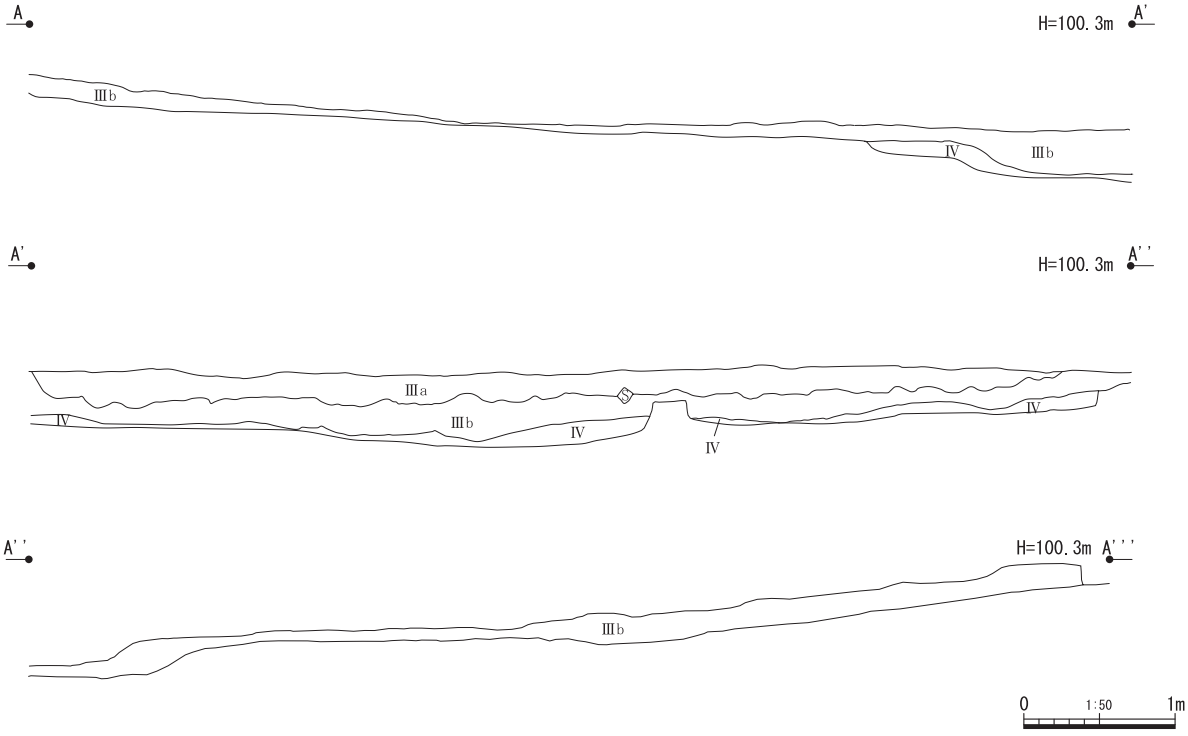
第20図　１～７号焼土

谷部遺物包含層A-A'''



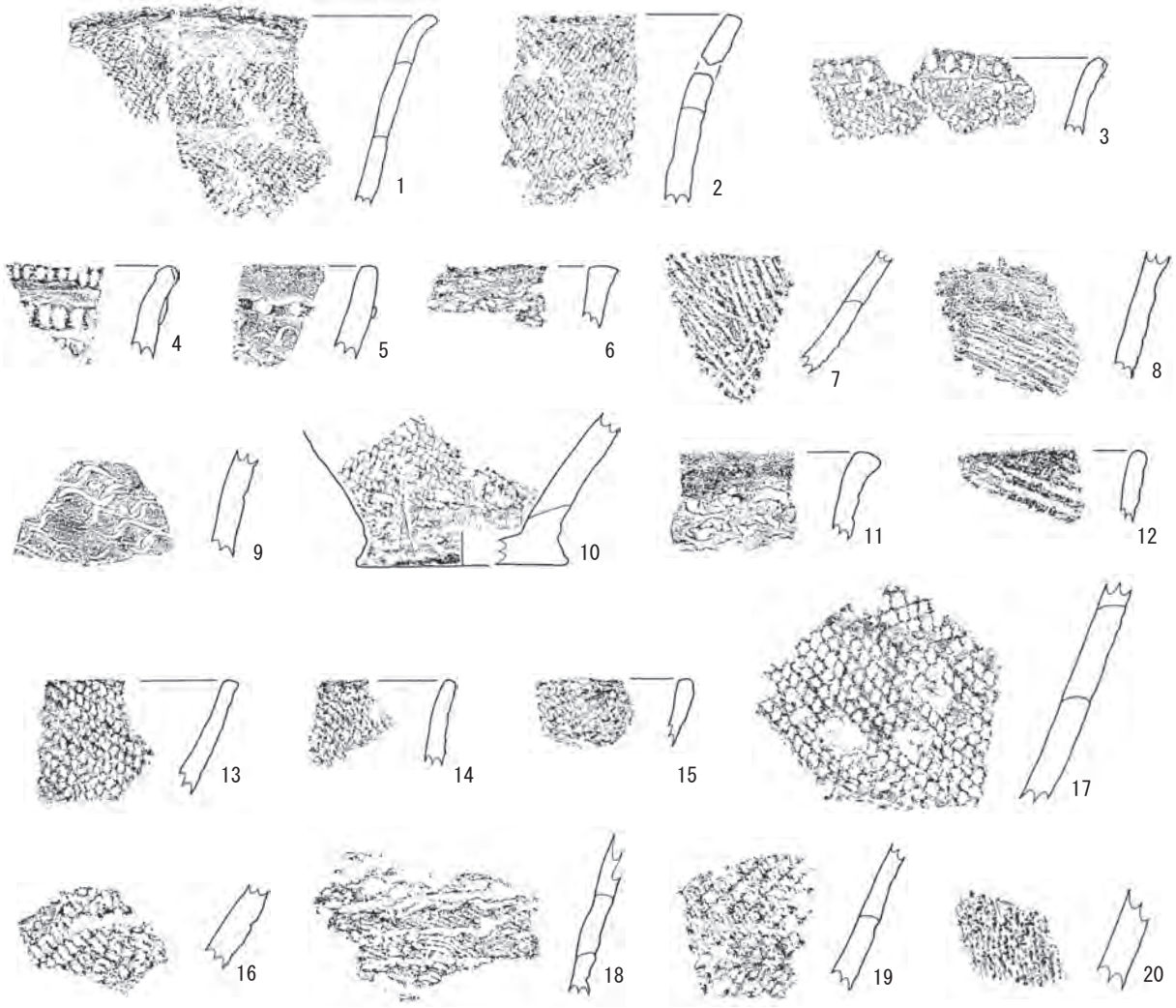
谷部
Ⅲa 10YR7/6 明黄褐色火山灰土 粘性なし しまり密 土器微量（ほぼ水平堆積のTo-Cu層）
Ⅲb 10YR3/4 暗褐色シルト土 粘性弱 しまりやや密 水酸化鉄土ブロック状５％、土器少量(水酸化鉄５YR5/8はⅢa～Ⅲｂ-Ⅳまで同じ色調で形成。焼土ではない。)
Ⅳ 10YR5/8 黄褐色シルト土 粘性やや強 しまり密

谷部遺物包含層A-A'''拡大



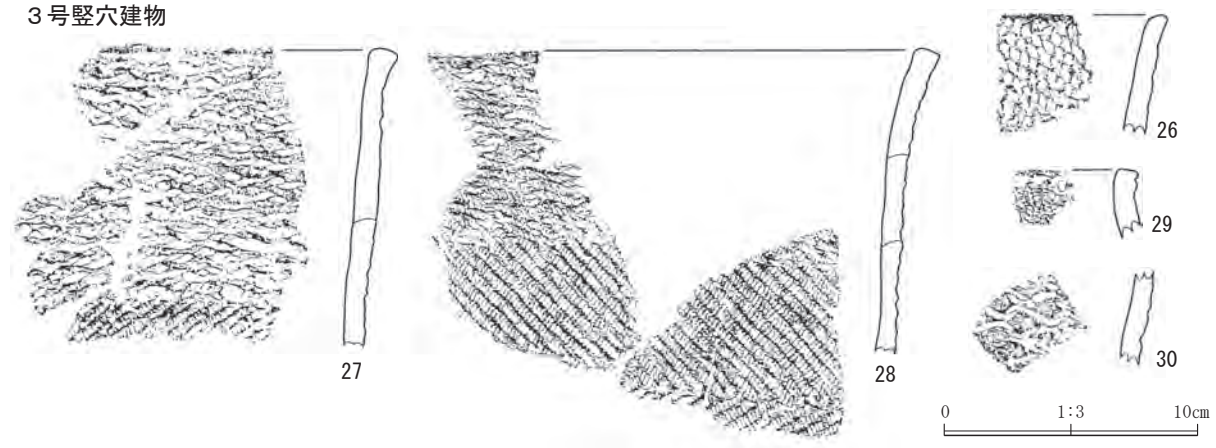
第21図　谷部遺物包含層断面

１号竪穴建物



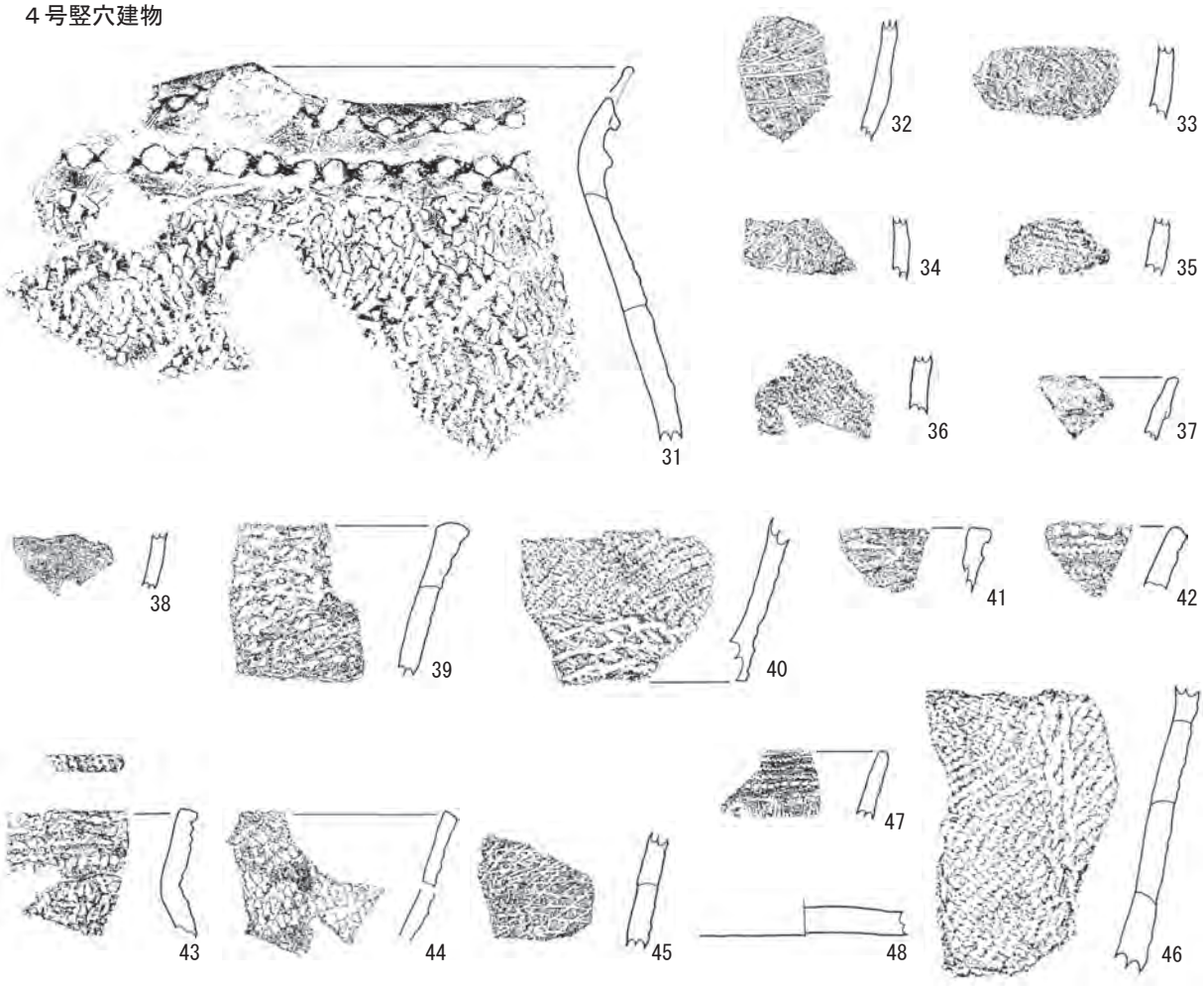
２号竪穴建物

３号竪穴建物

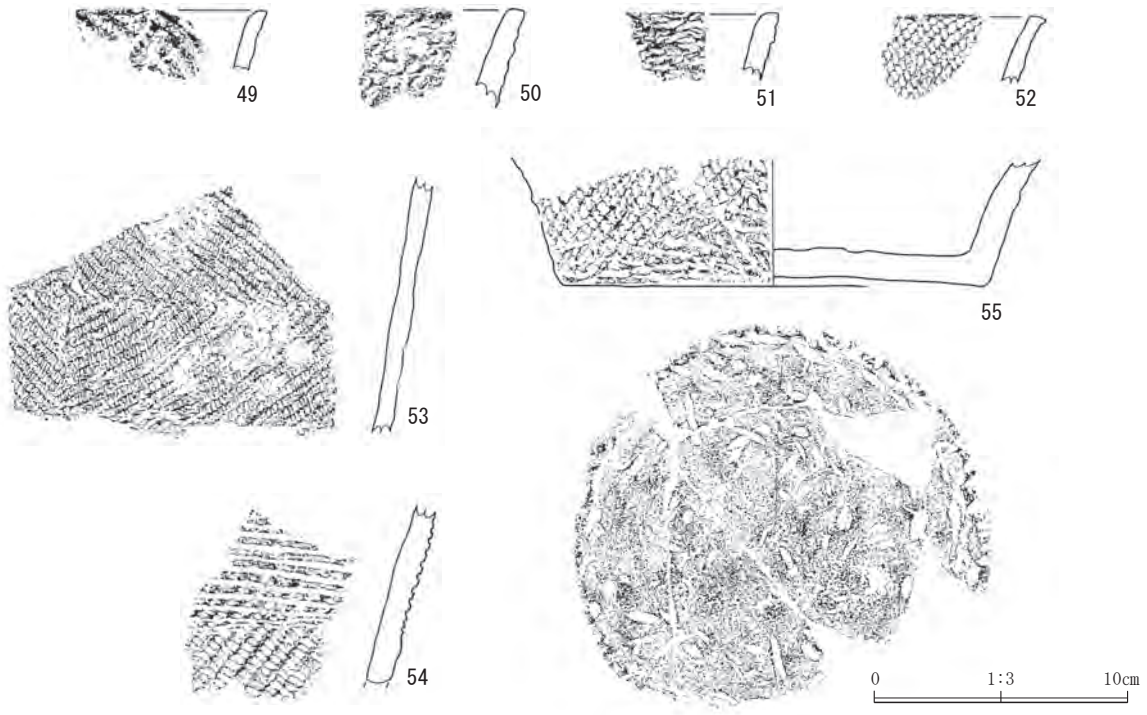


第22図　１～３号竪穴建物出土土器

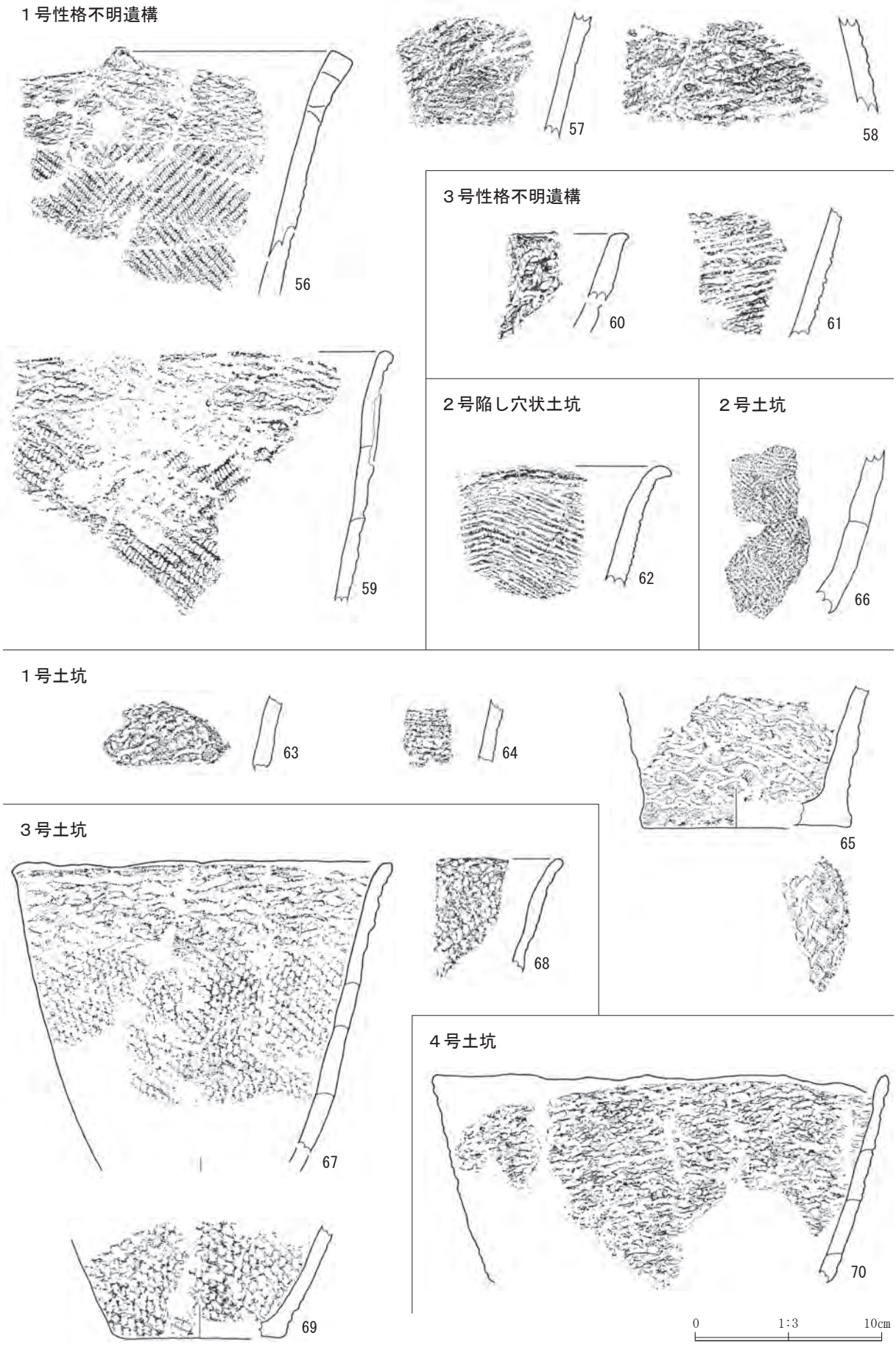
４号竪穴建物



５号竪穴建物

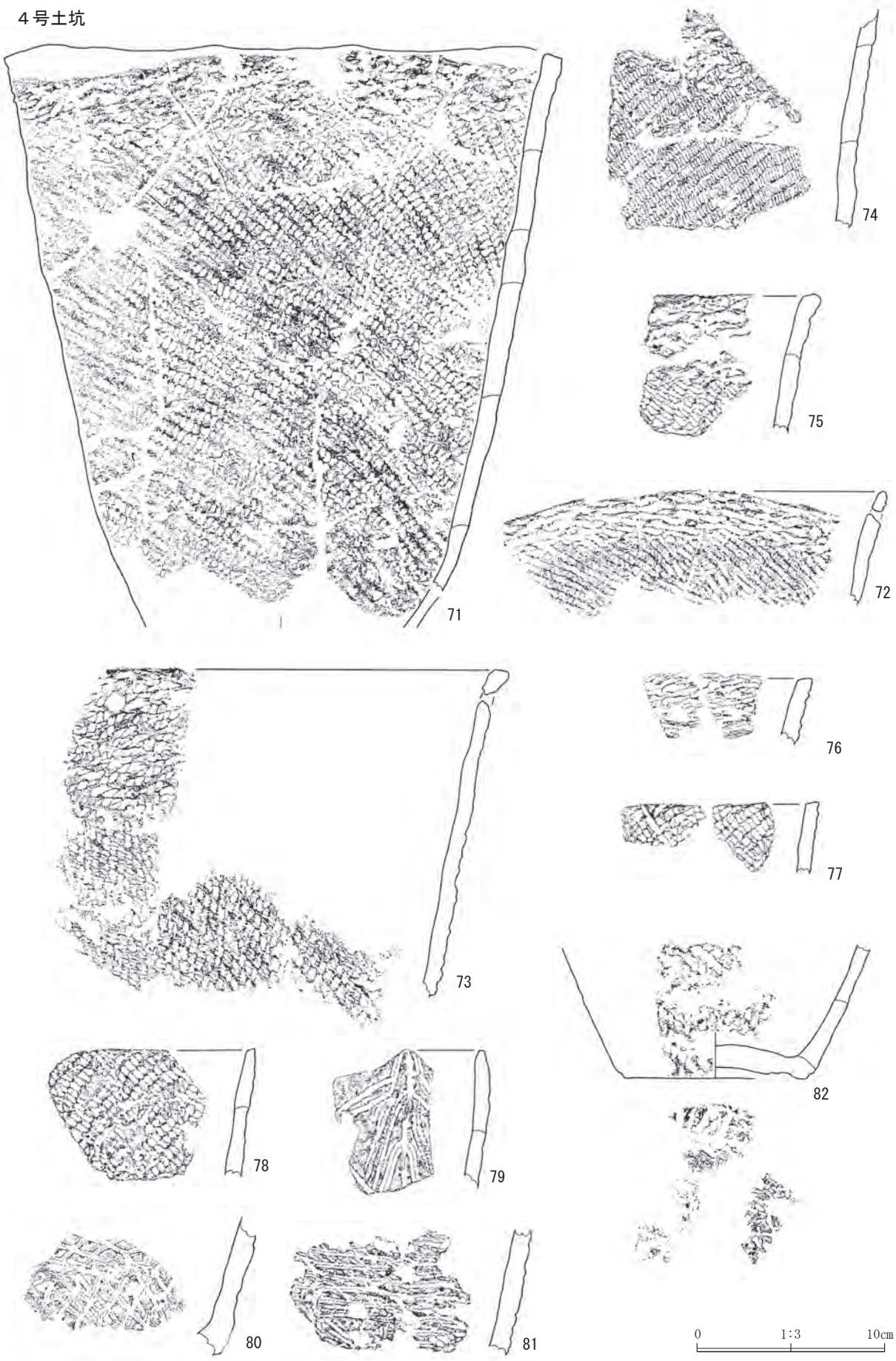


第23図　４・５号竪穴建物出土土器



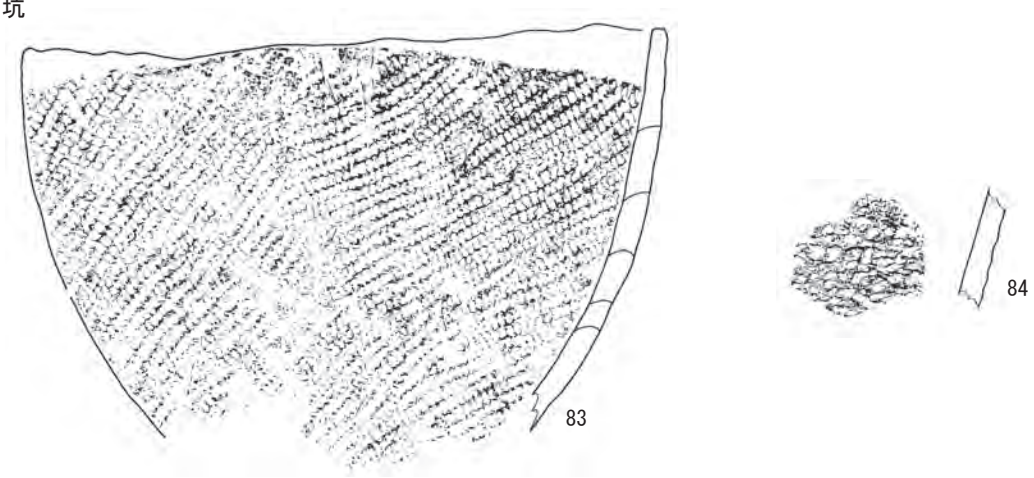
第24図　１・３号性格不明遺構、２号陥し穴状土坑、１～４号土坑出土土器

４号土坑



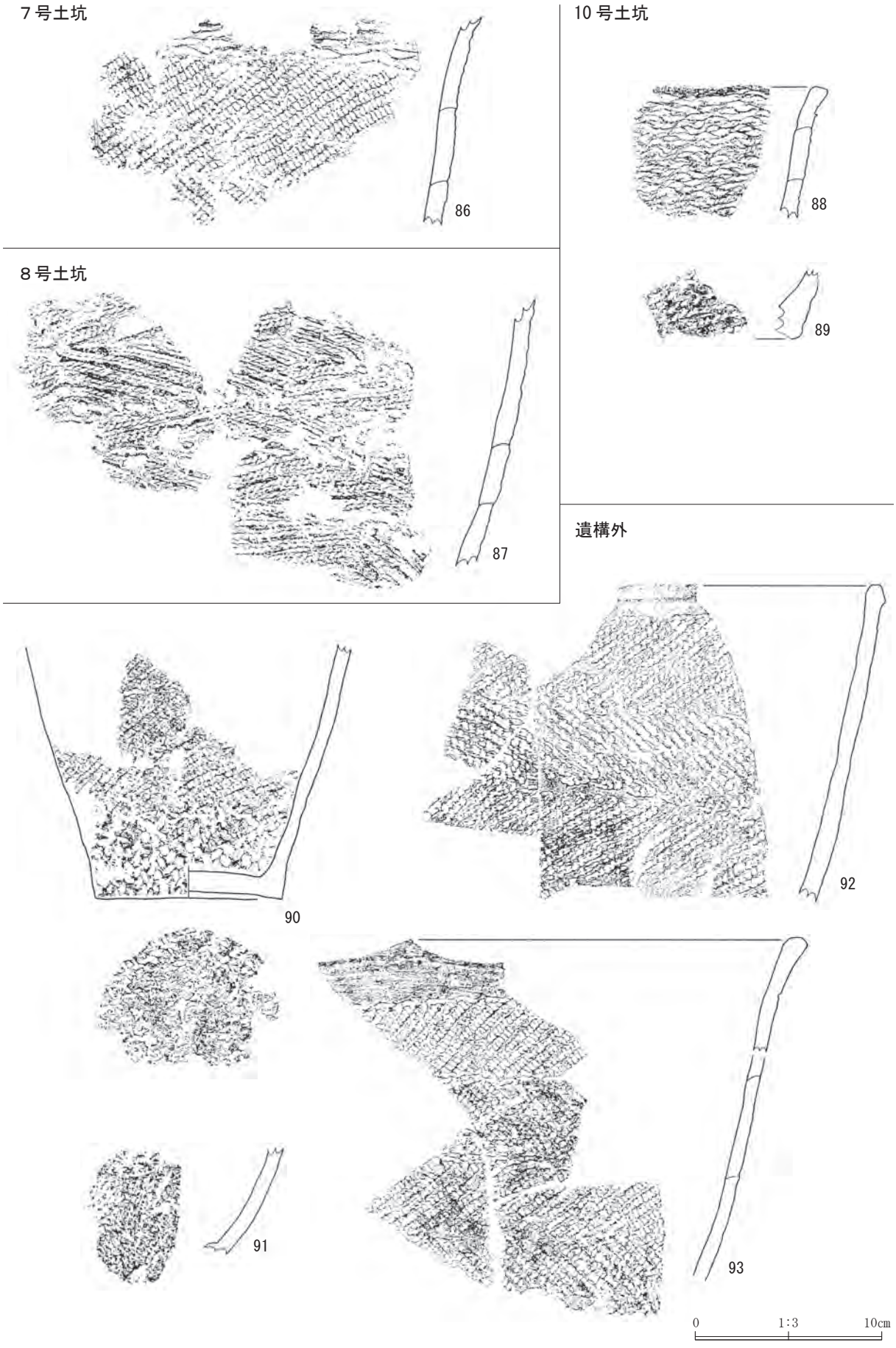
第25図　４号土坑出土土器

５号土坑



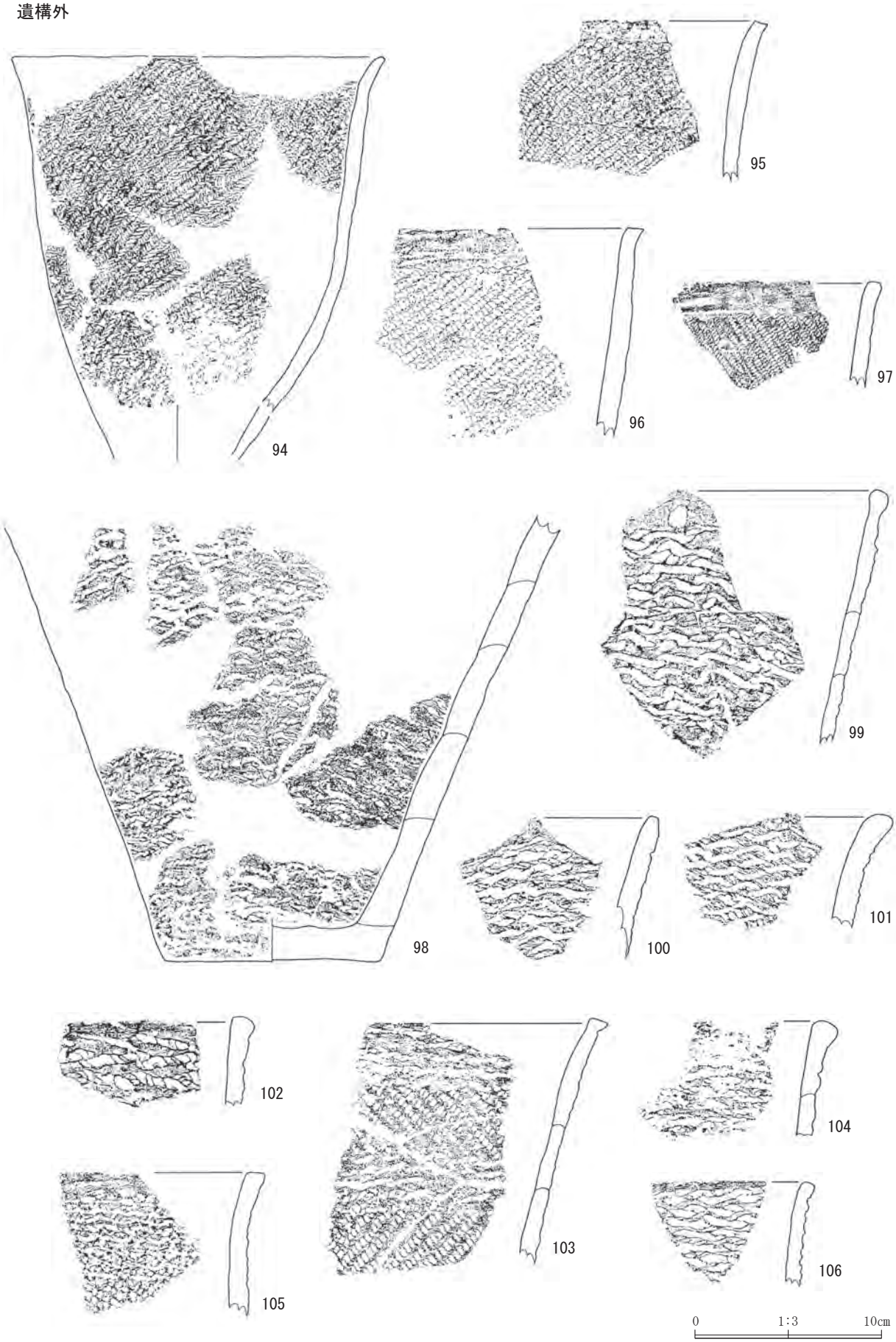
６号土坑

第26図　５・６号土坑出土土器



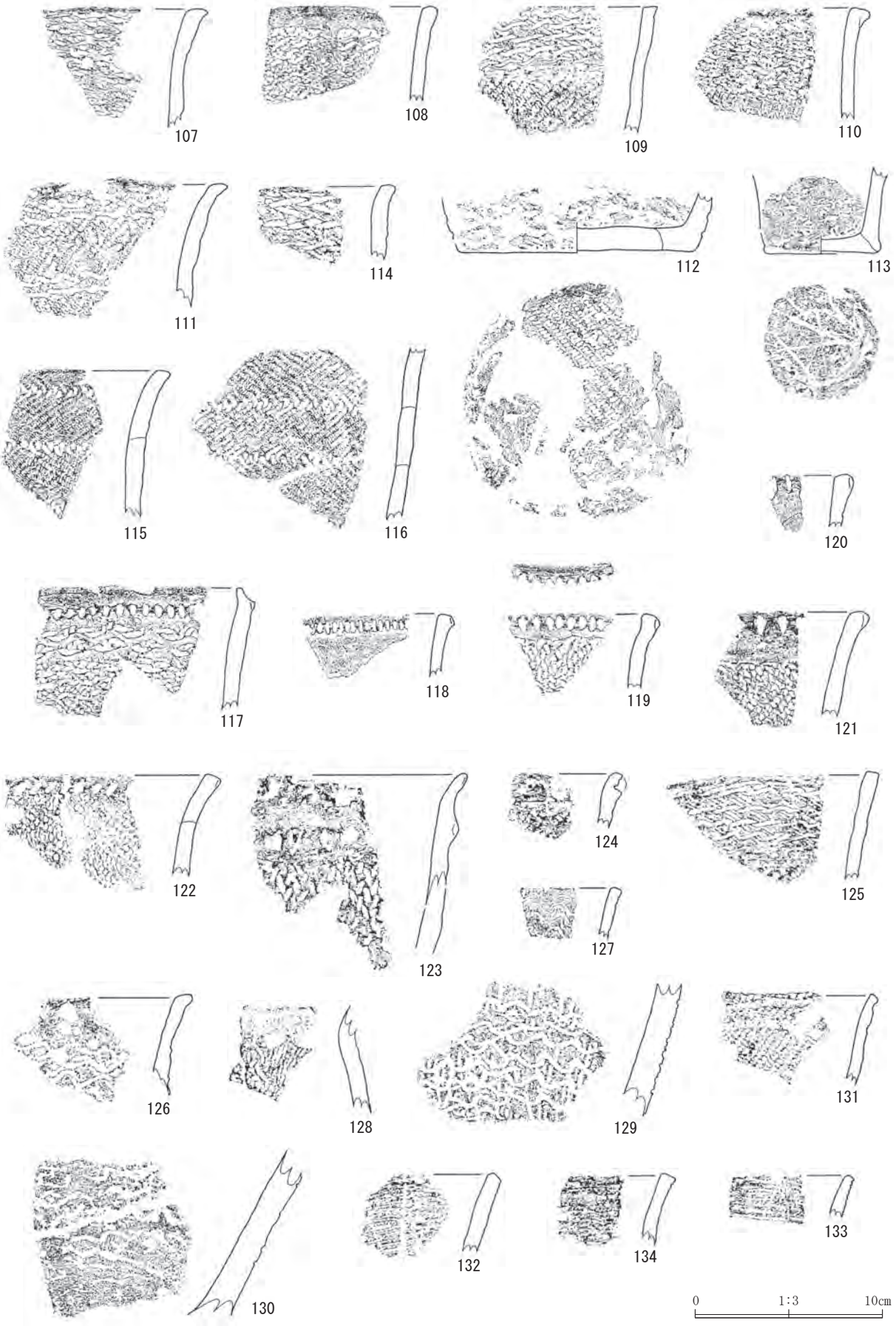
第27図　７・８・10号土坑、遺構外出土土器（１）

遺構外



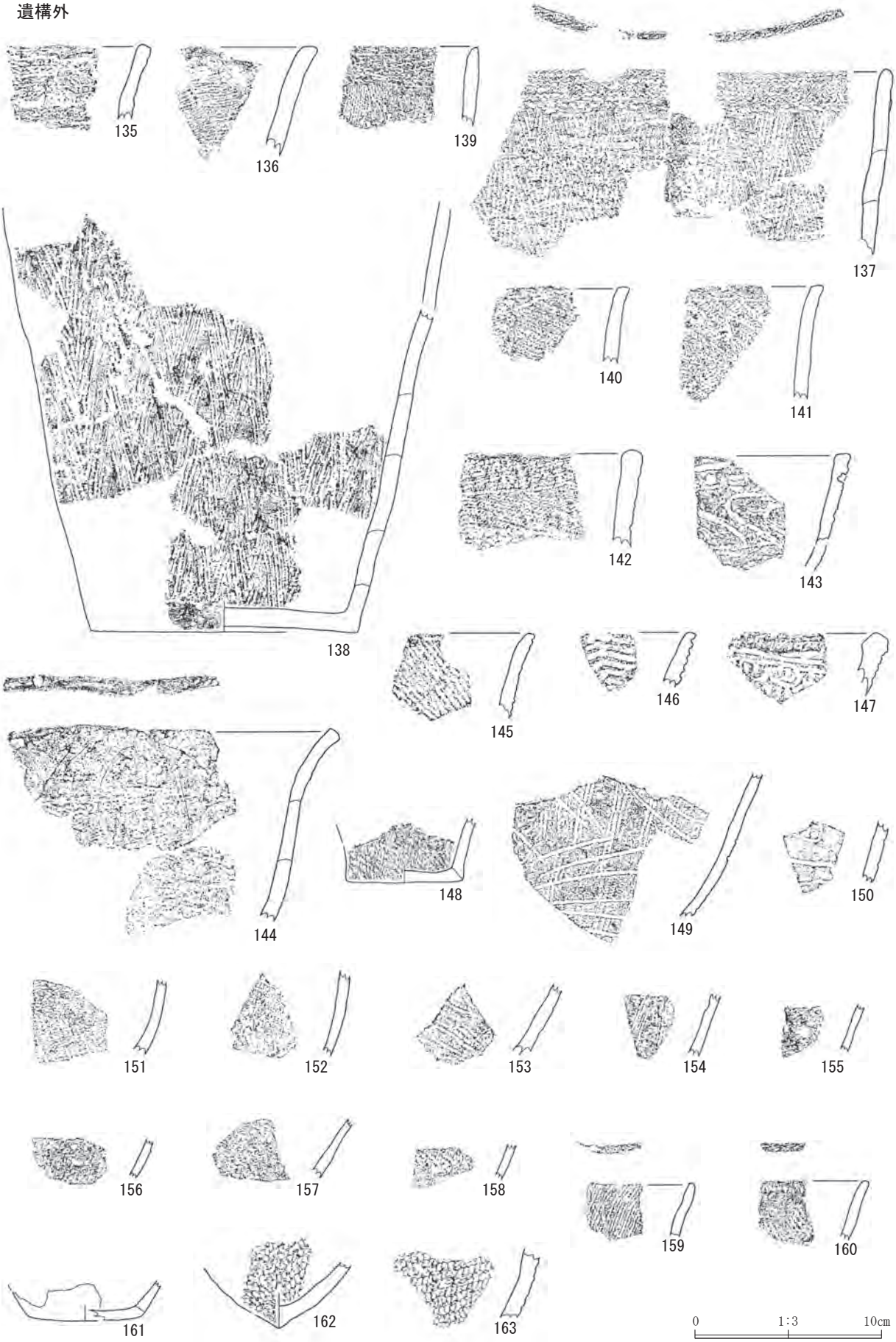
第28図　遺構外出土土器（２）

遺構外



第29図　遺構外出土土器（３）

遺構外

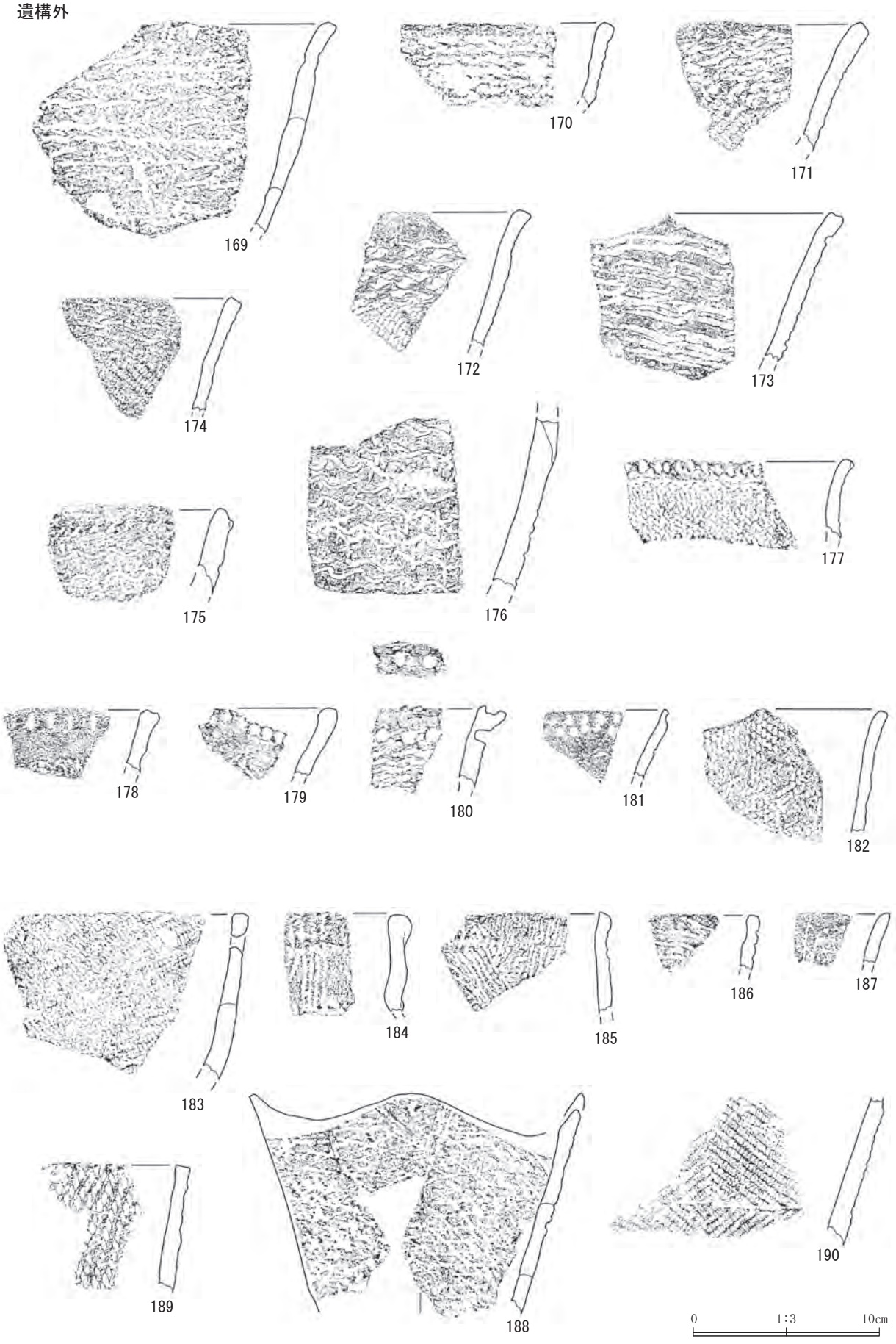


第30図　遺構外出土土器（４）

遺構外

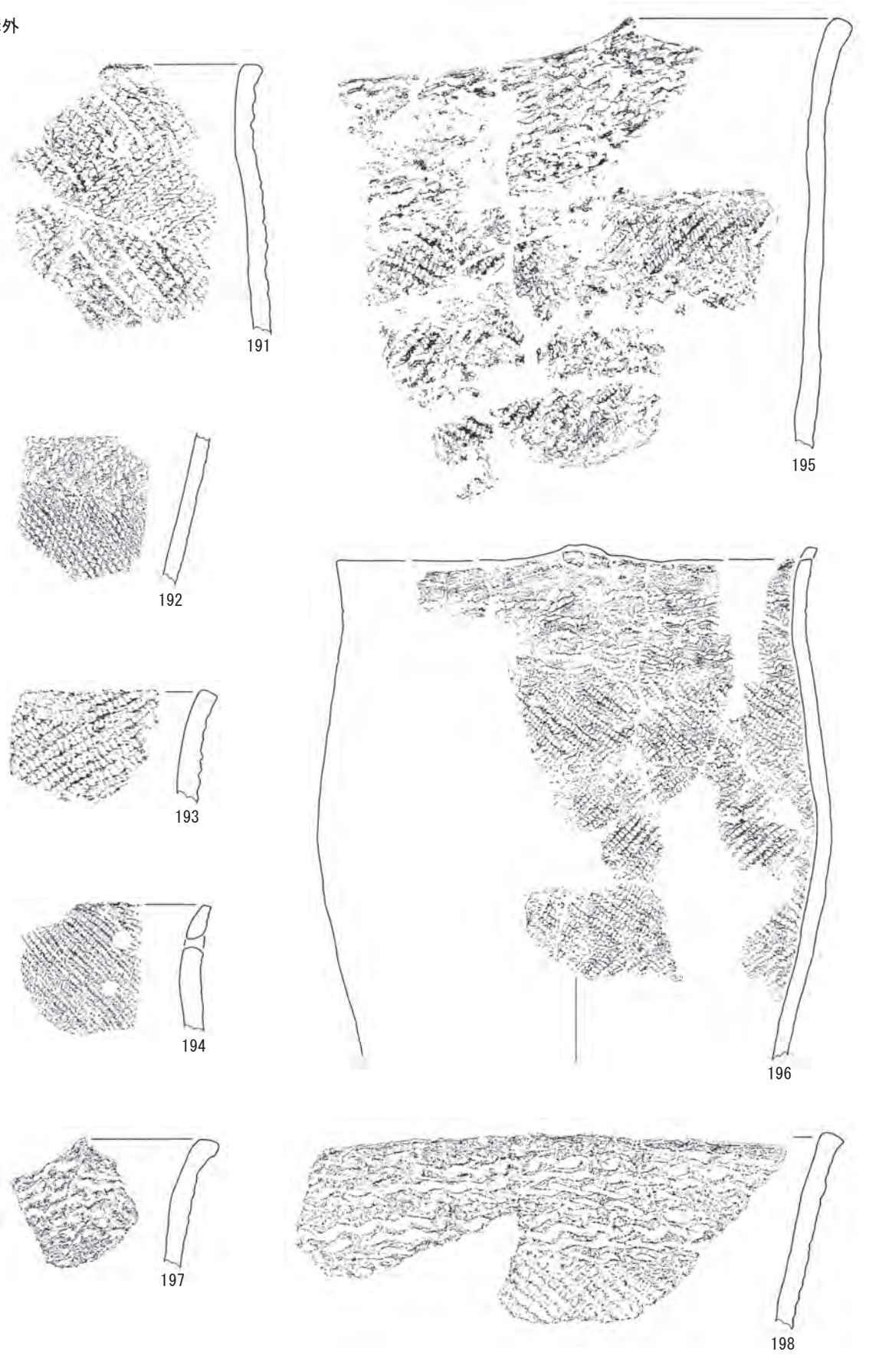
第31図　遺構外出土土器（５）

遺構外

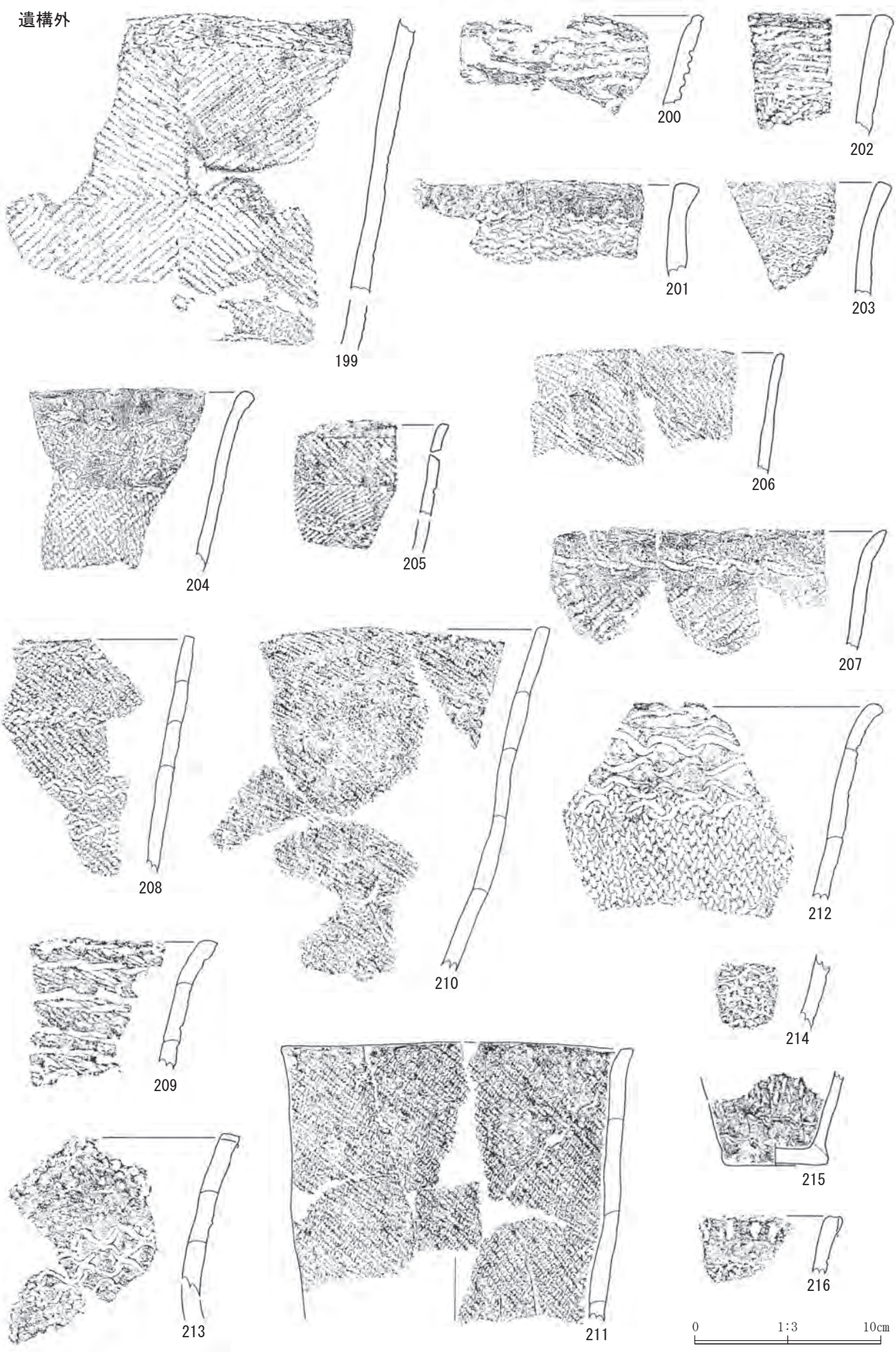


第32図　遺構外出土土器（６）

遺構外

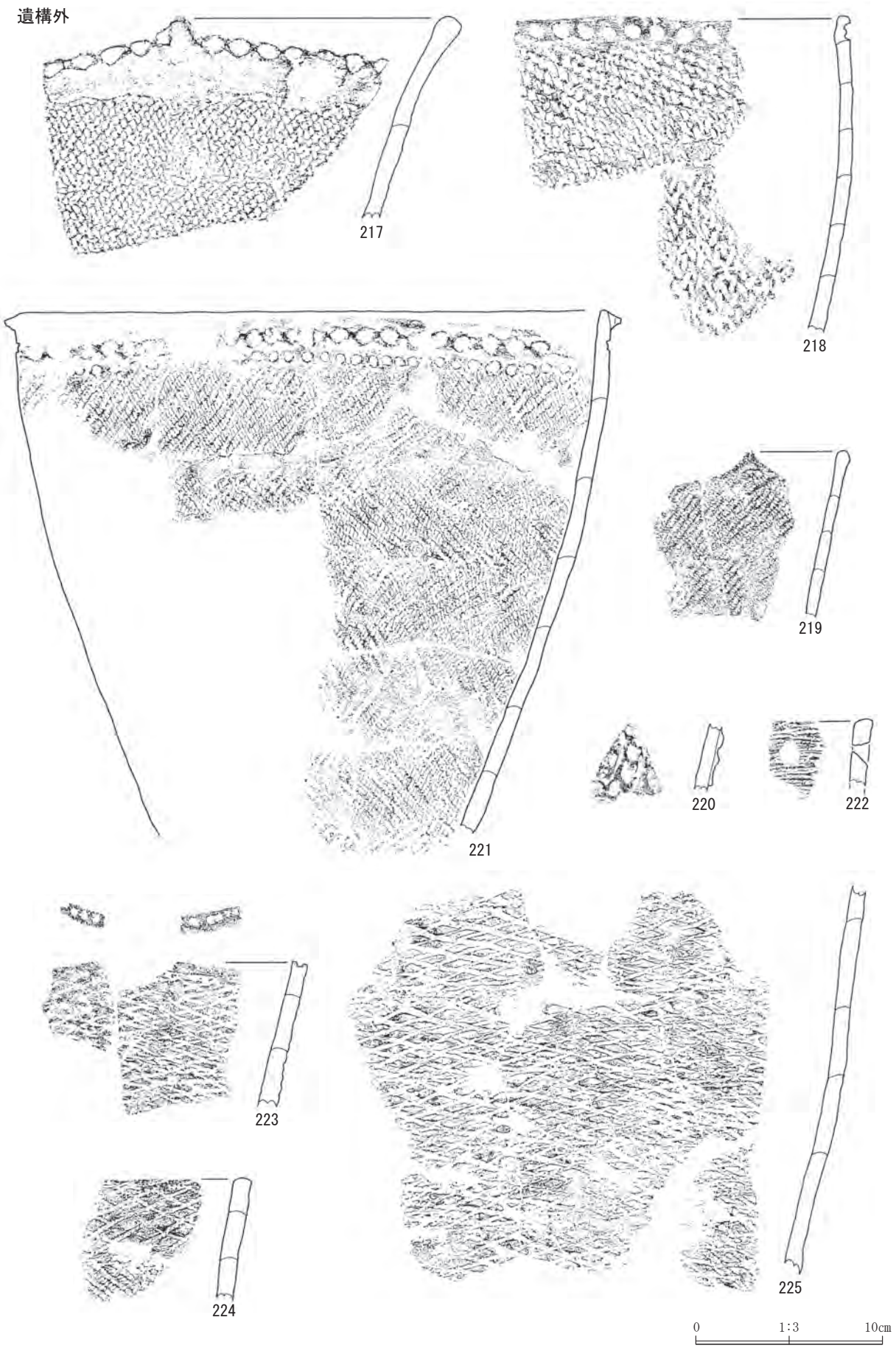


第33図　遺構外出土土器（７）



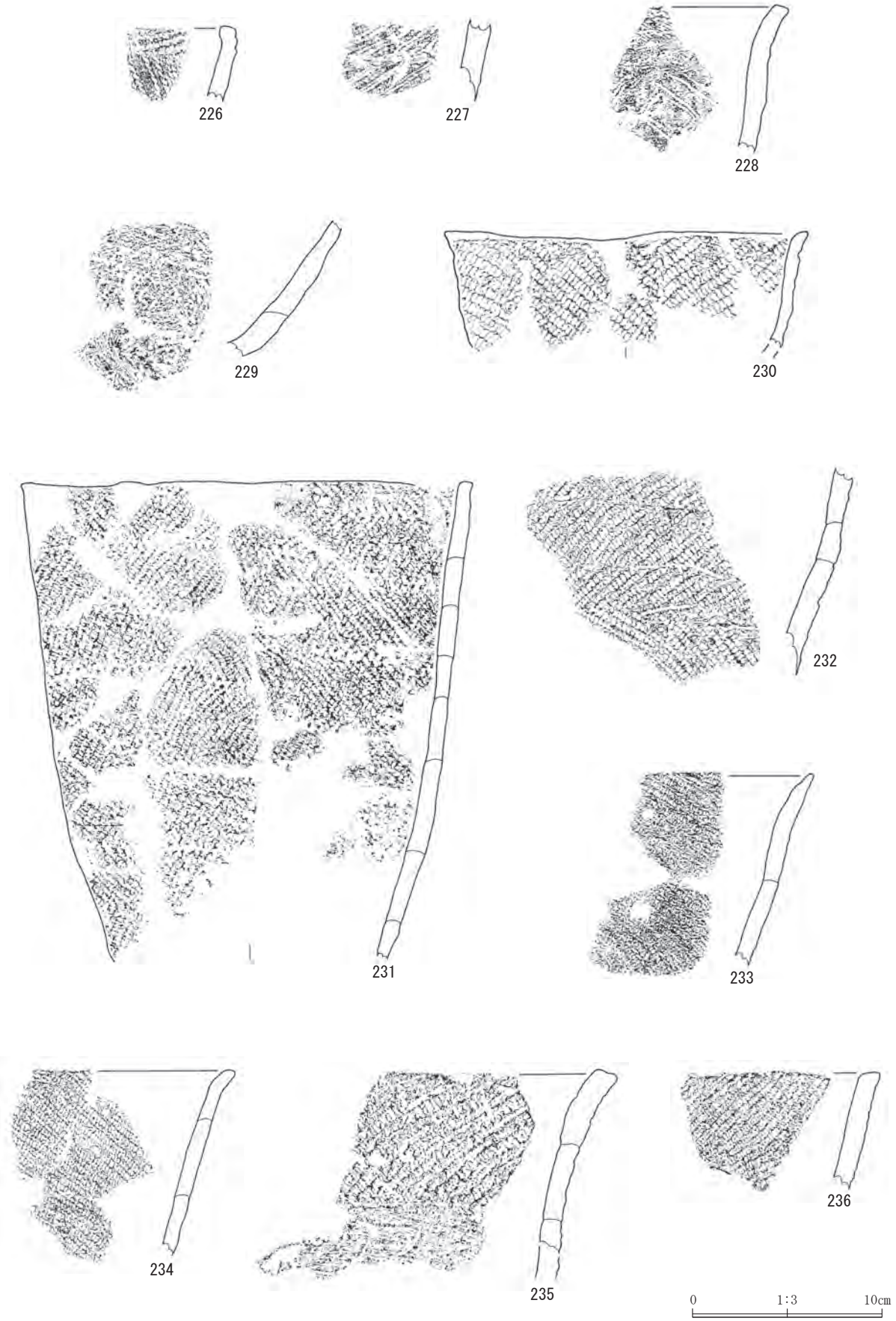
第34図　遺構外出土土器（８）

遺構外



第35図　遺構外出土土器（９）

遺構外

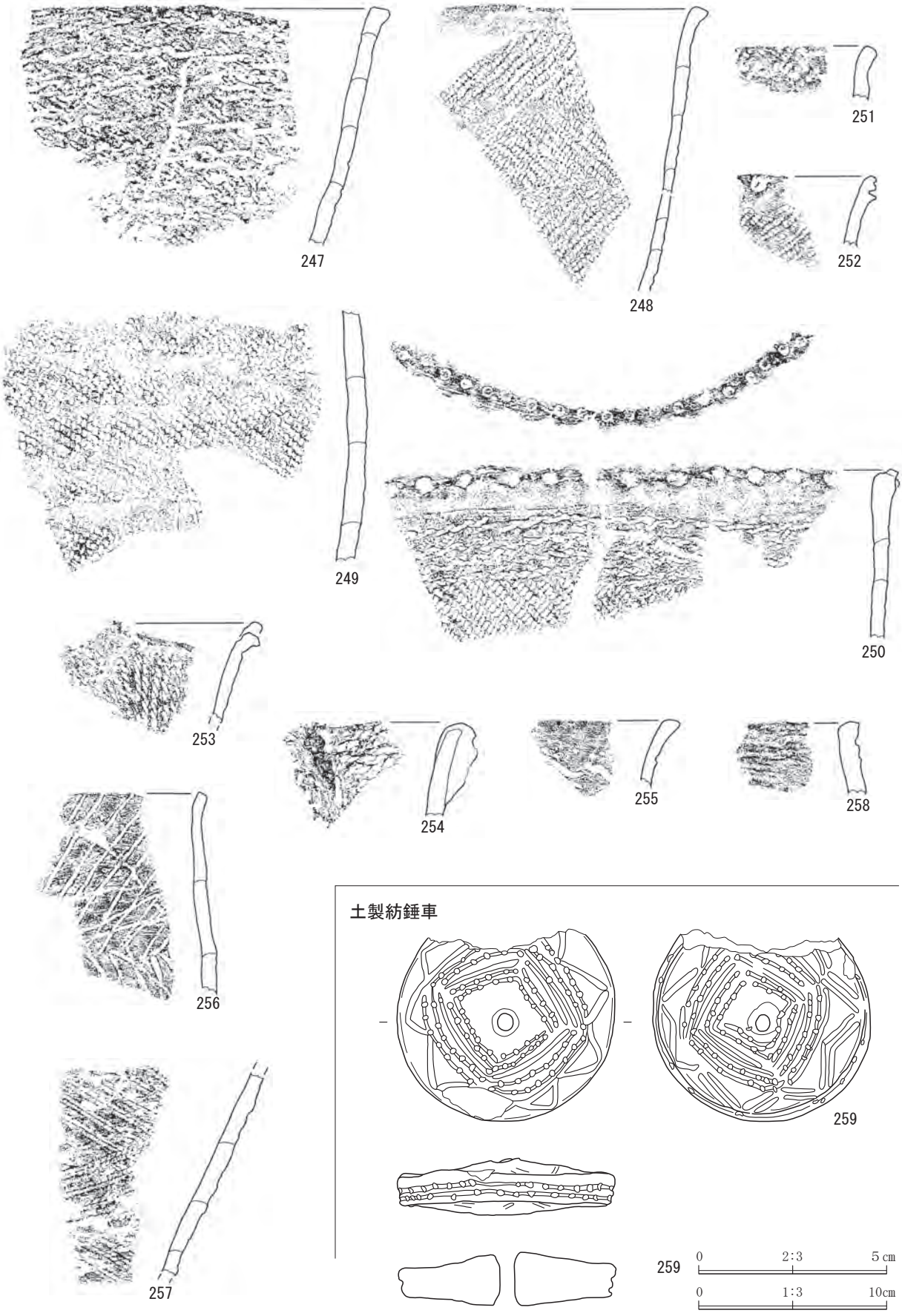


第36図　遺構外出土土器(10)

遺構外

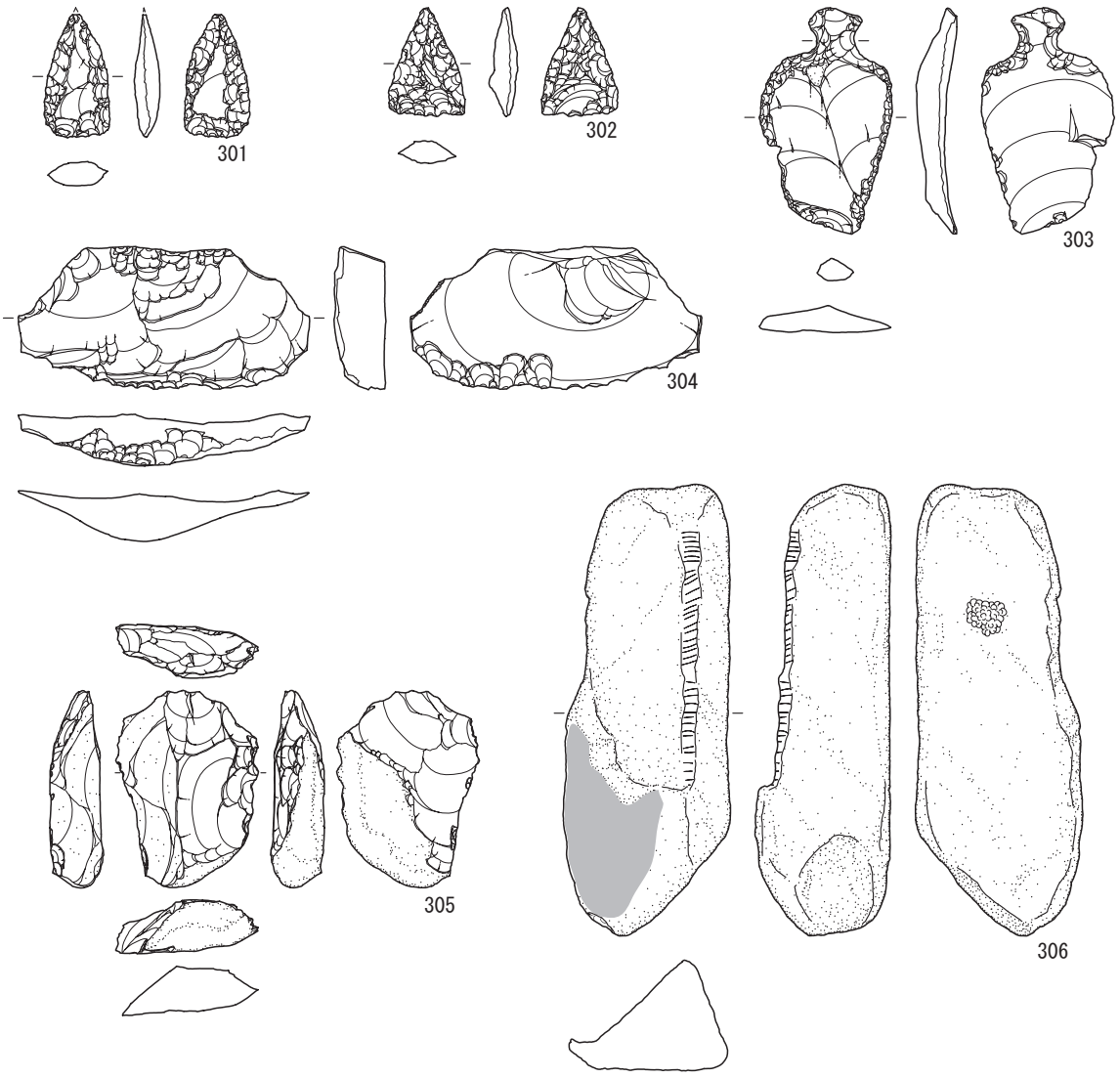
第37図　遺構外出土土器(11)

遺構外

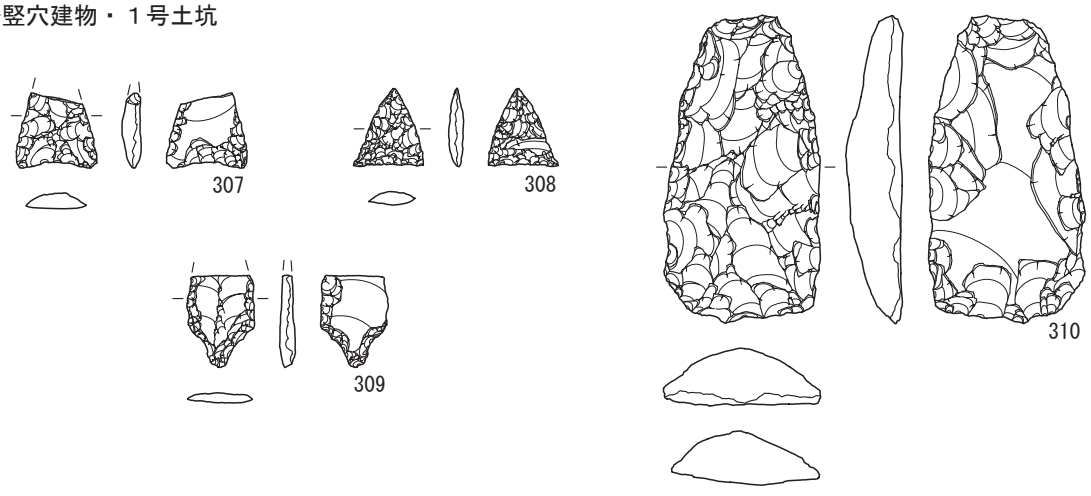


第38図　遺構外出土土器(12)、土製紡錘車

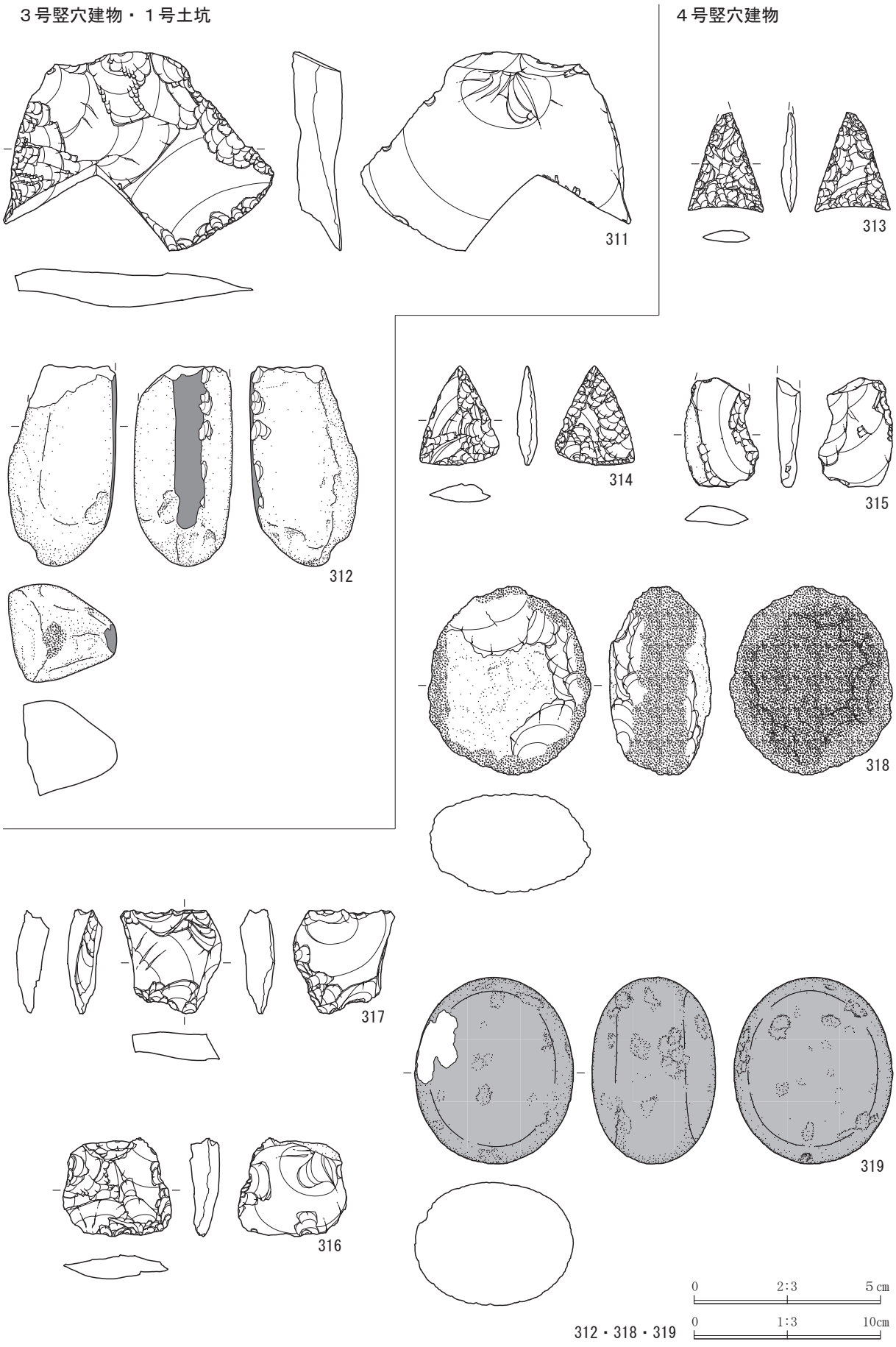
１号竪穴建物



３号竪穴建物・１号土坑

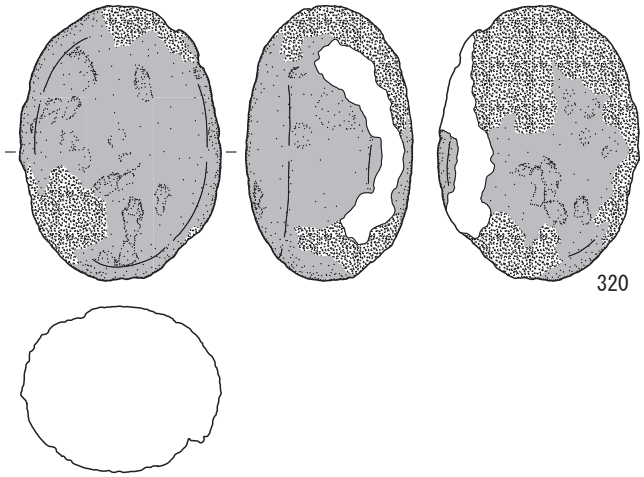


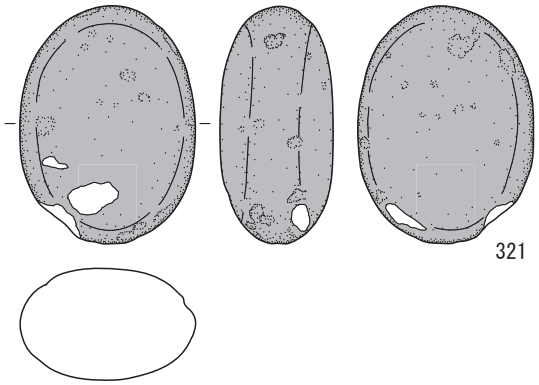
第39図　１号竪穴建物、３号竪穴建物・１号土坑出土石器

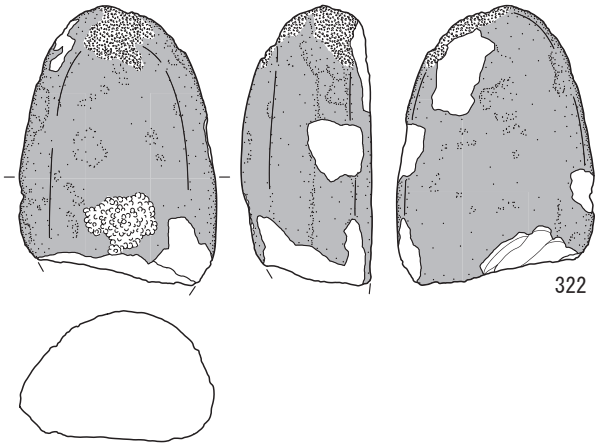


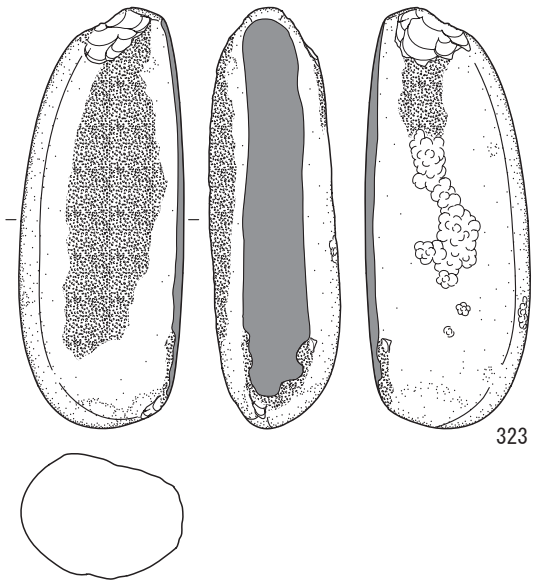
第40図　３号竪穴建物・１号土坑、４号竪穴建物出土石器

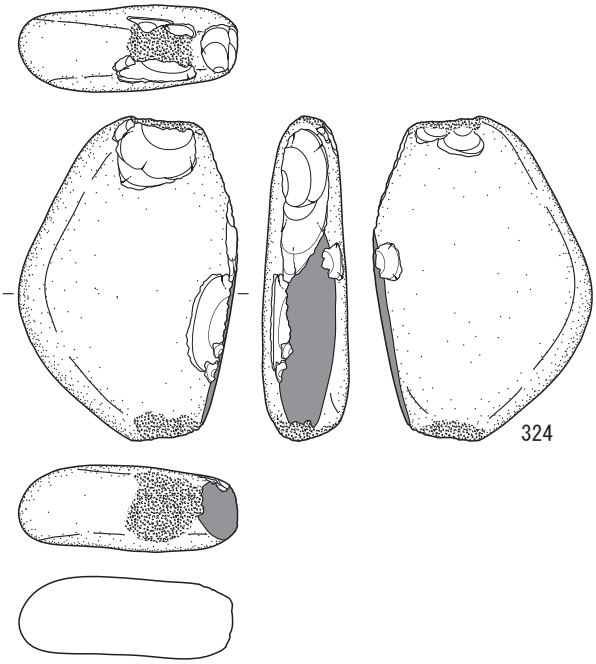
４号竪穴建物



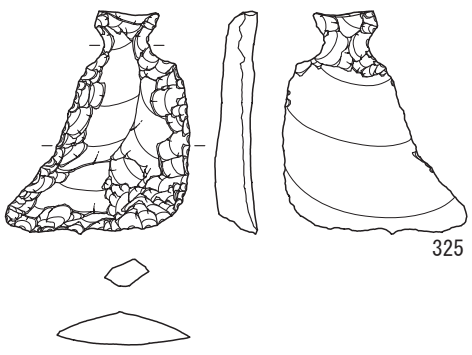


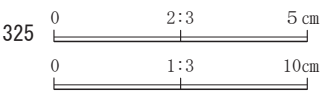






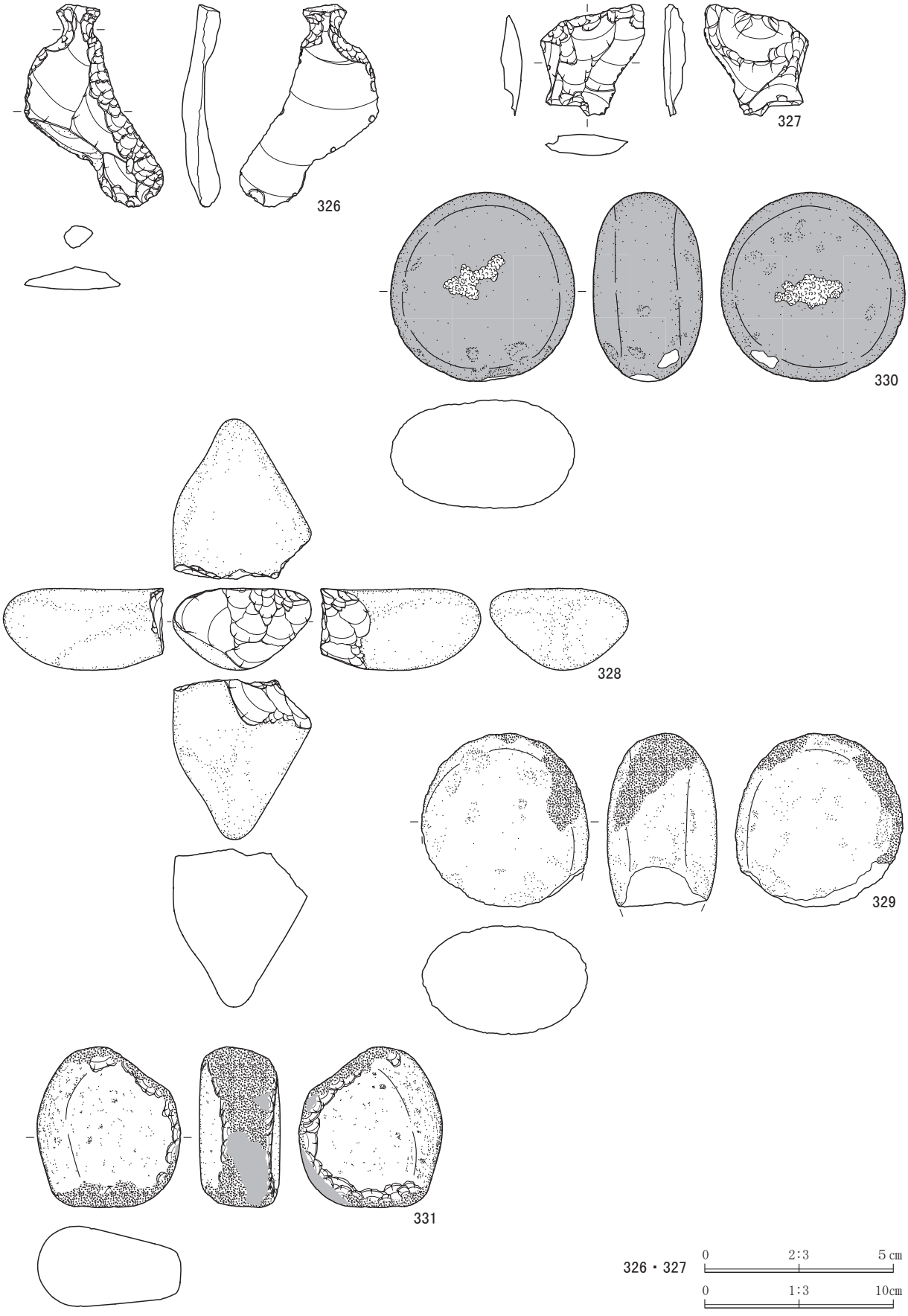
５号竪穴建物





第41図　４・５号竪穴建物出土石器

５号竪穴建物



第42図　５号竪穴建物出土石器

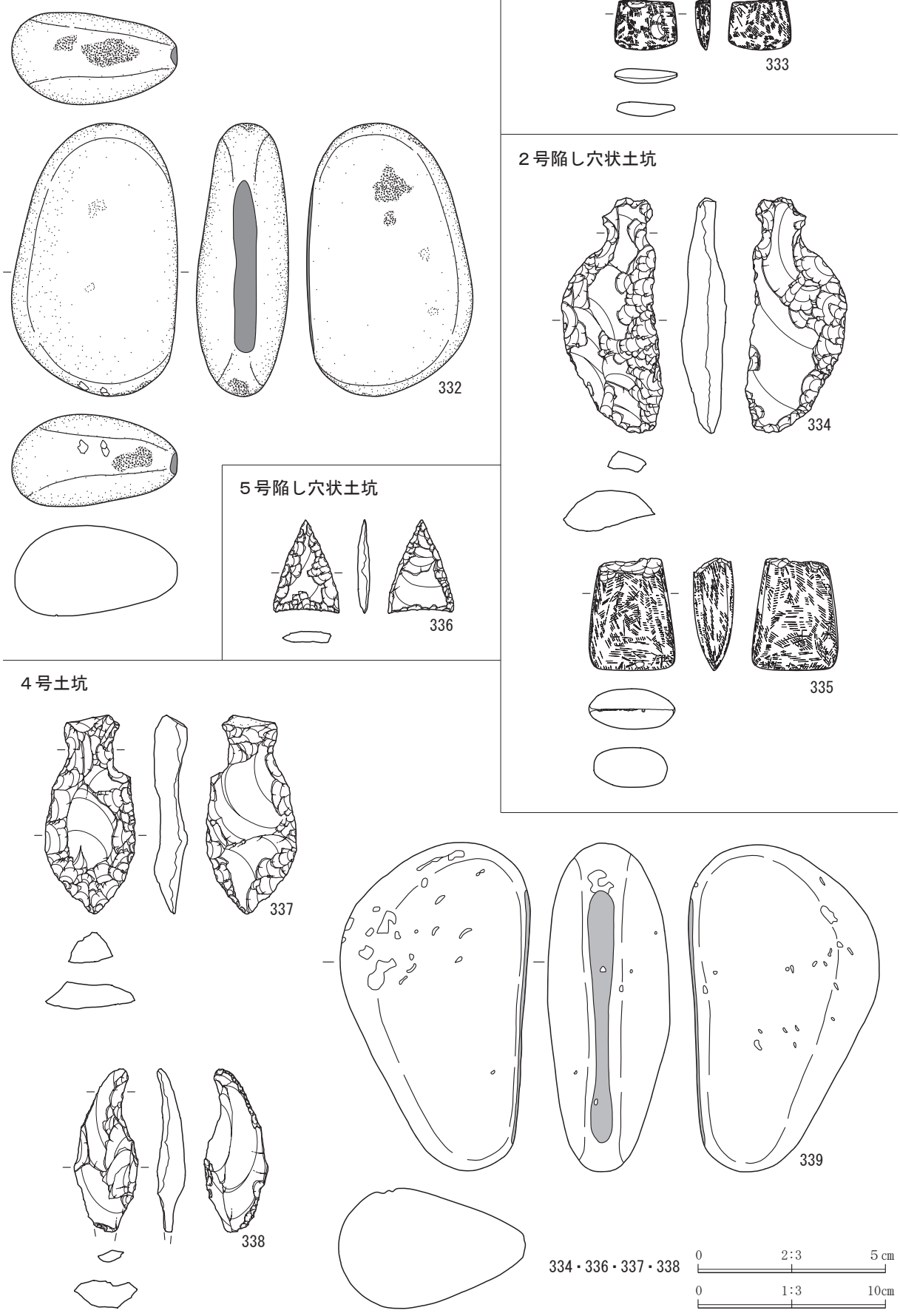
５号竪穴建物

３号性格不明遺構

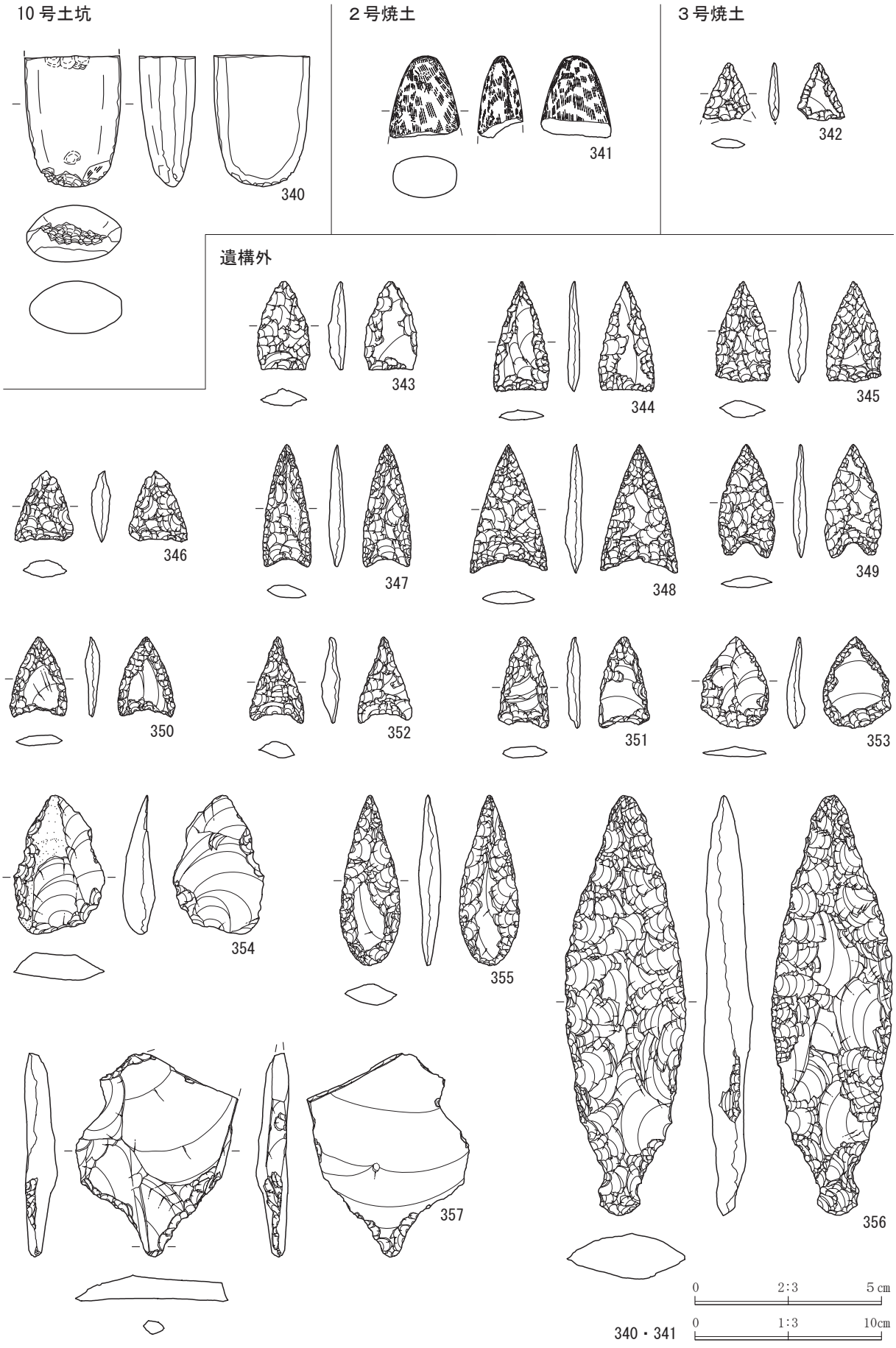
２号陥し穴状土坑

５号陥し穴状土坑

４号土坑

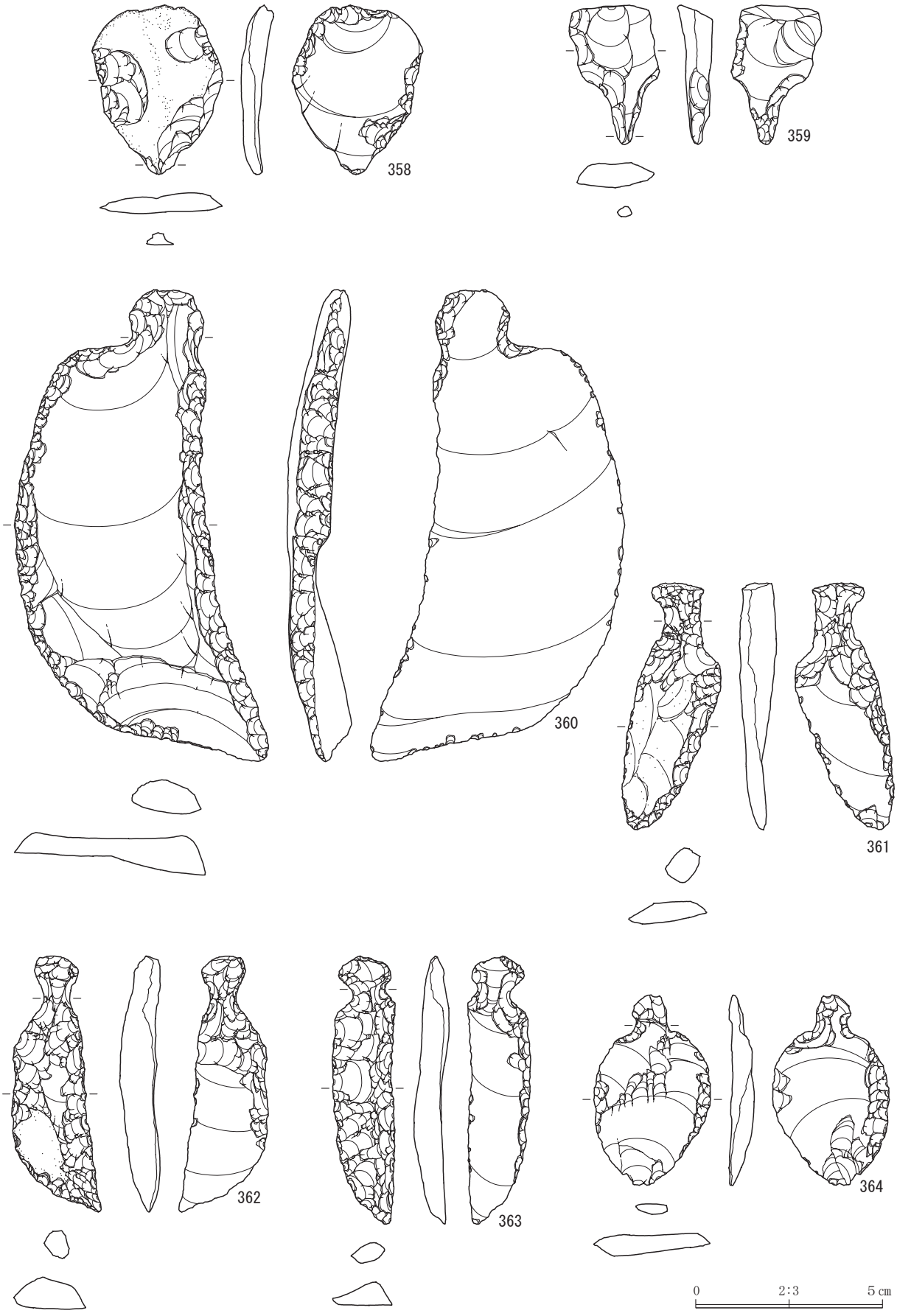


第43図　５号竪穴建物、３号性格不明遺構、２～４号陥し穴状土坑、４号土坑出土石器



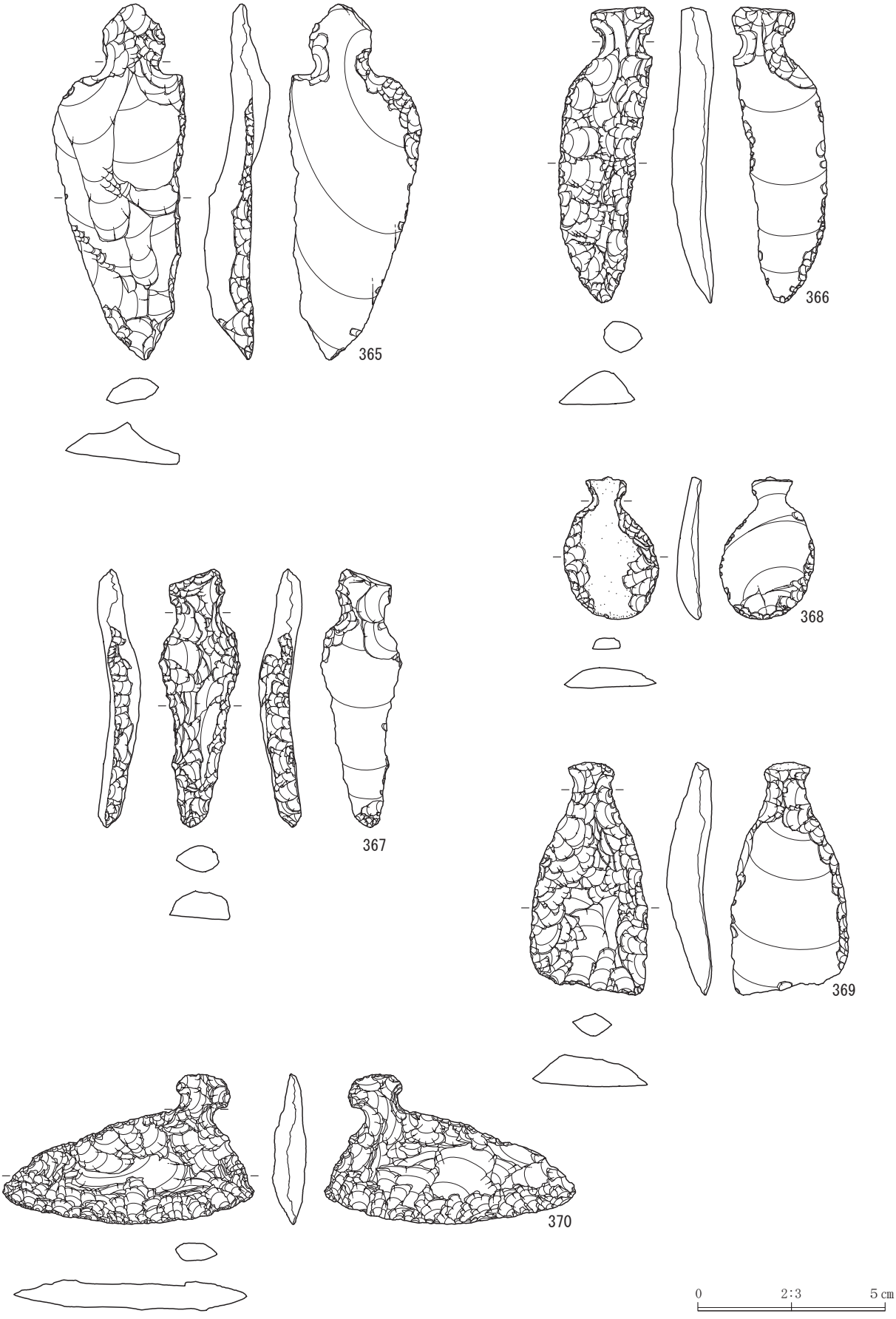
第44図　10号土坑、２・３号焼土、遺構外出土石器（１）

遺構外



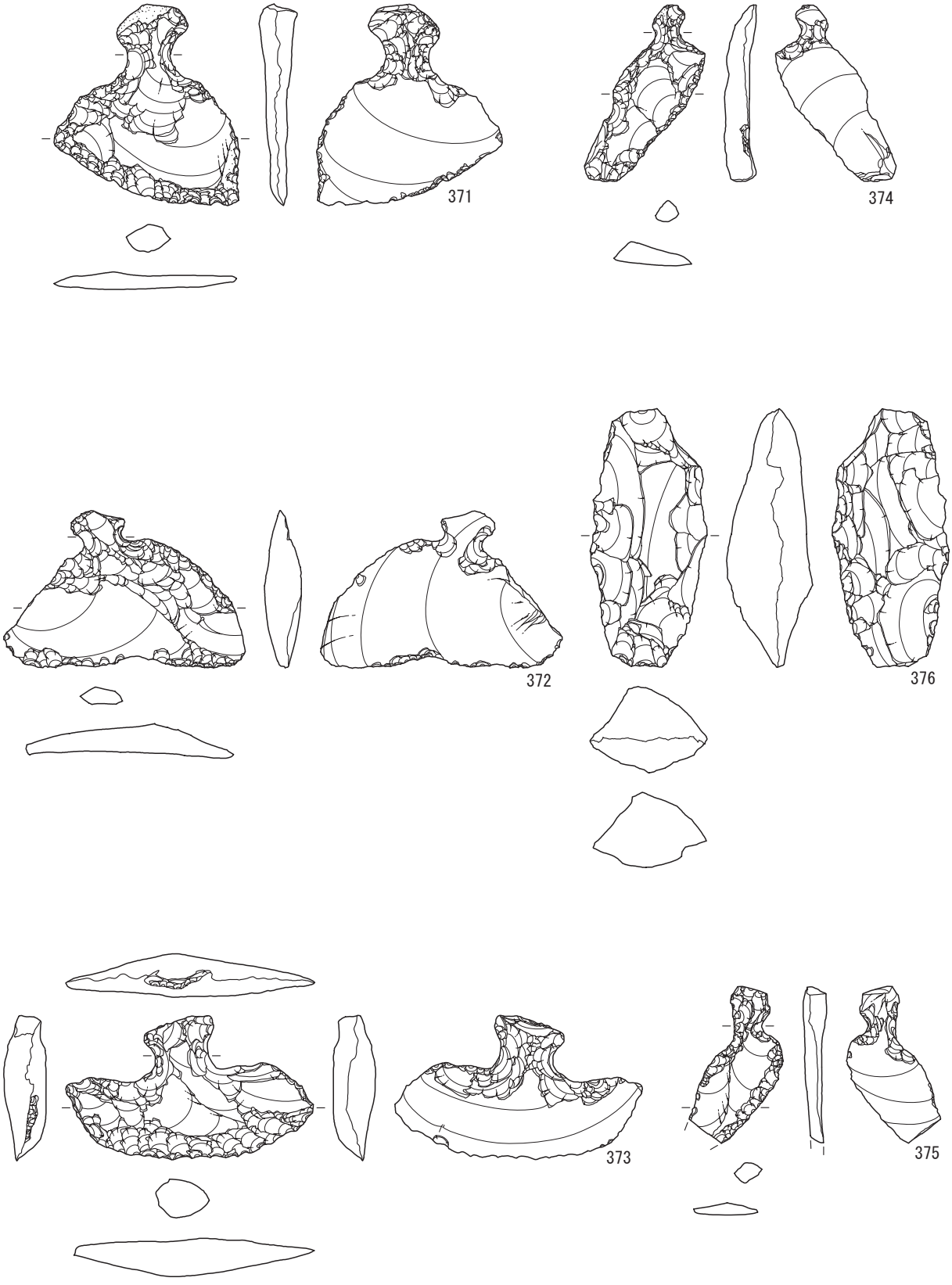
第45図　遺構外出土石器（２）

遺構外



第46図　遺構外出土石器（３）

遺構外



第47図　遺構外出土石器（４）

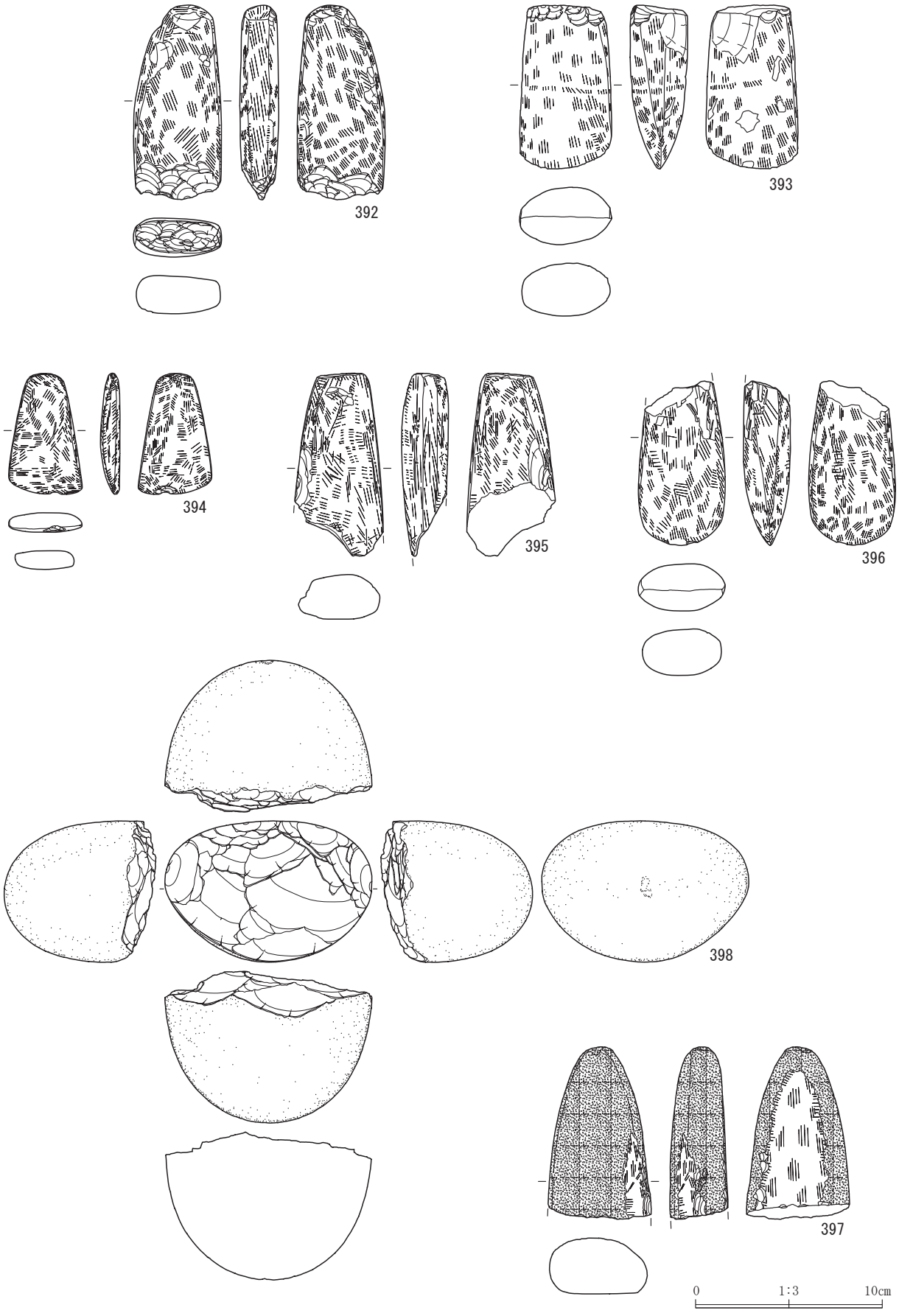
遺構外

第48図　遺構外出土石器（５）

遺構外

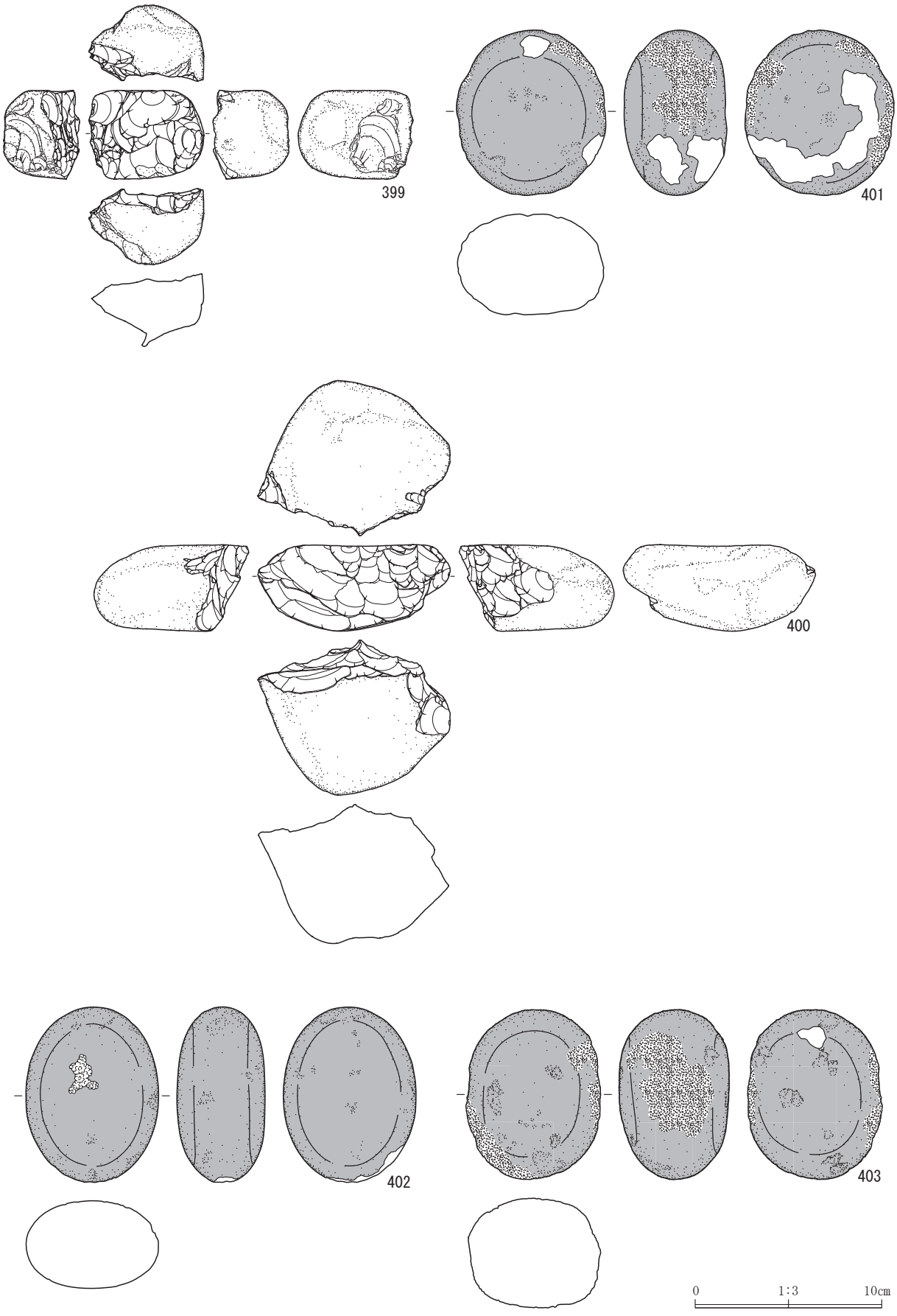
第49図　遺構外出土石器（６）

遺構外



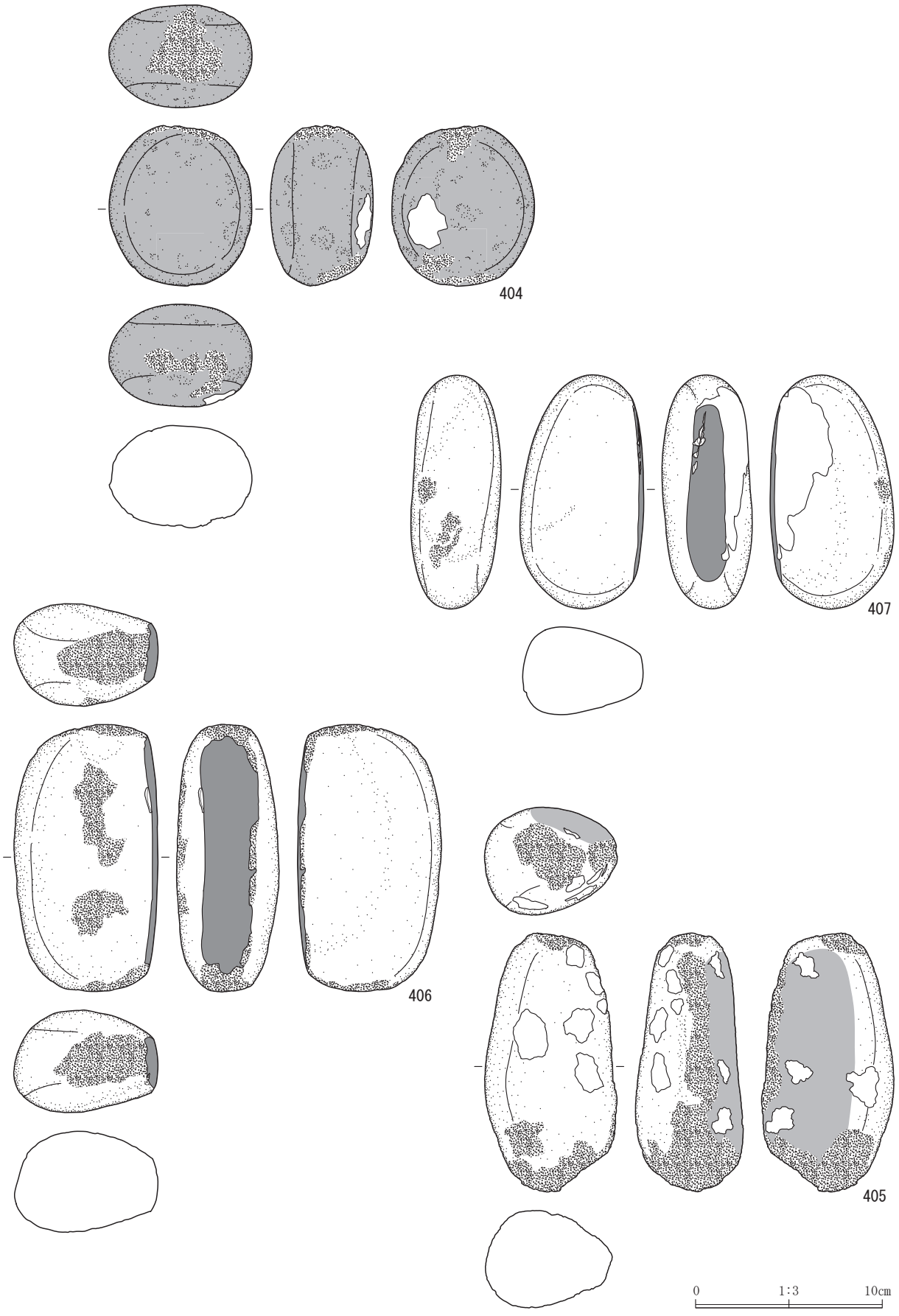
第50図　遺構外出土石器（７）

遺構外



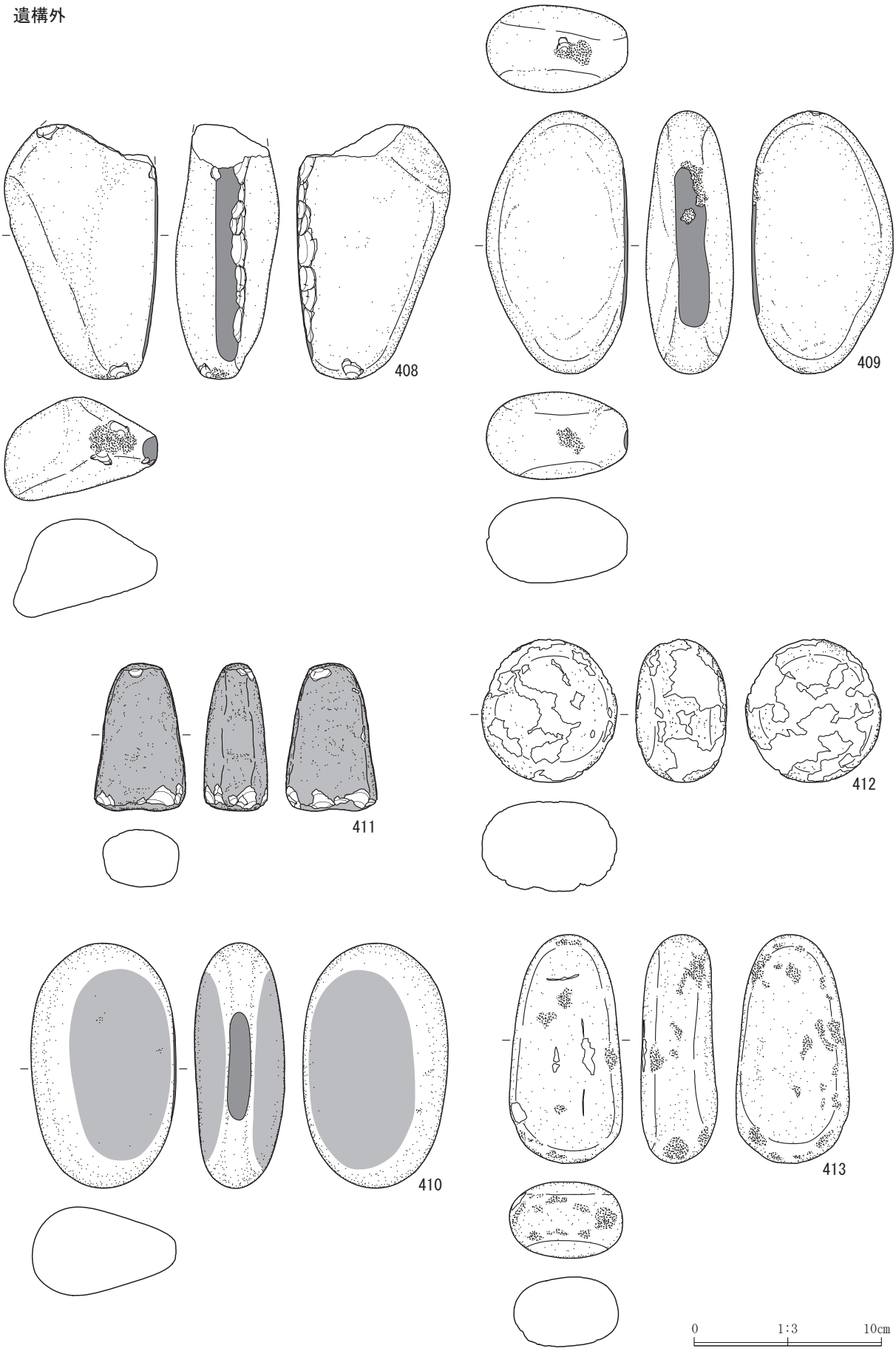
第51図　遺構外出土石器（８）

遺構外



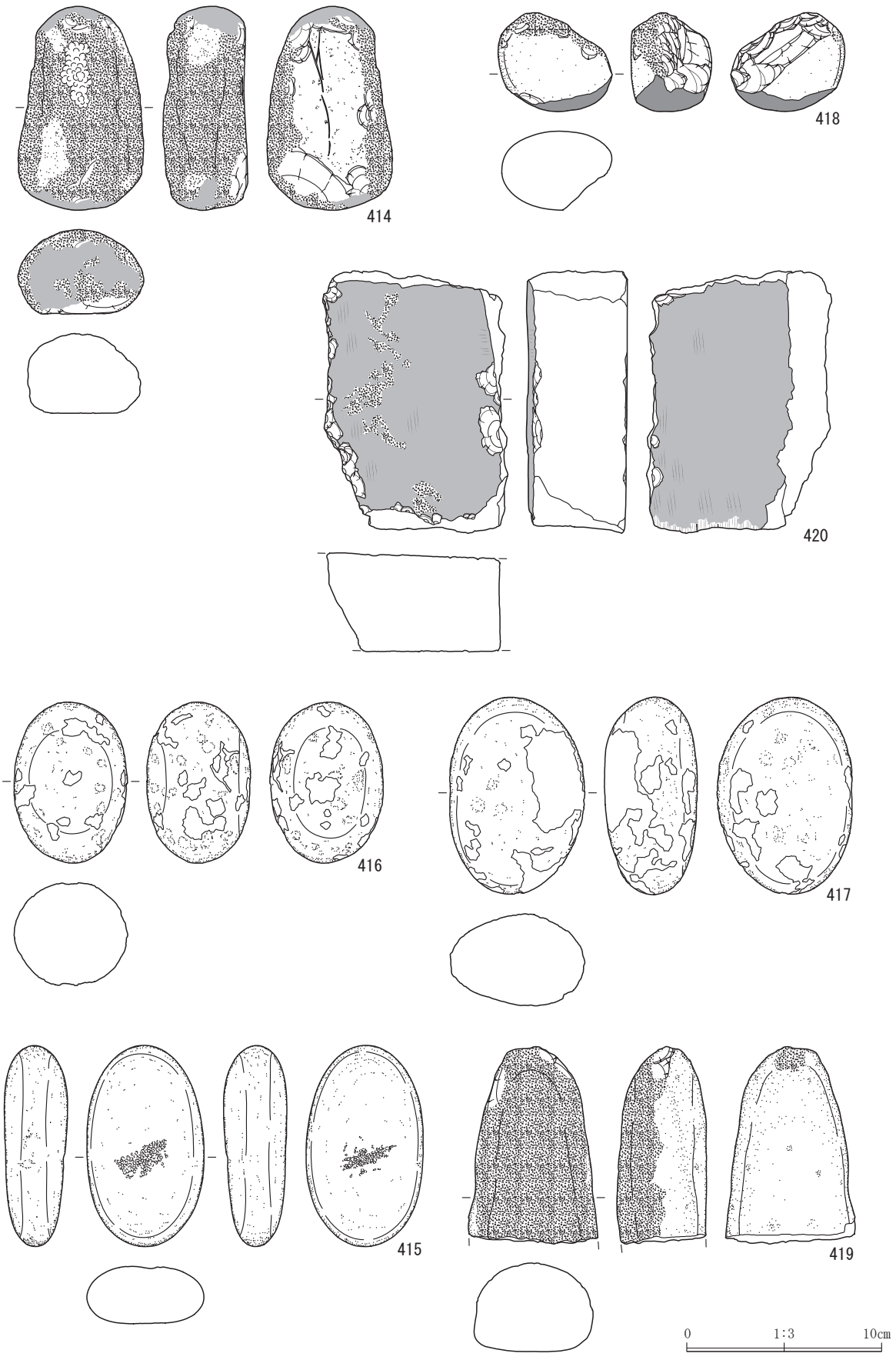
第52図　遺構外出土石器（９）

遺構外



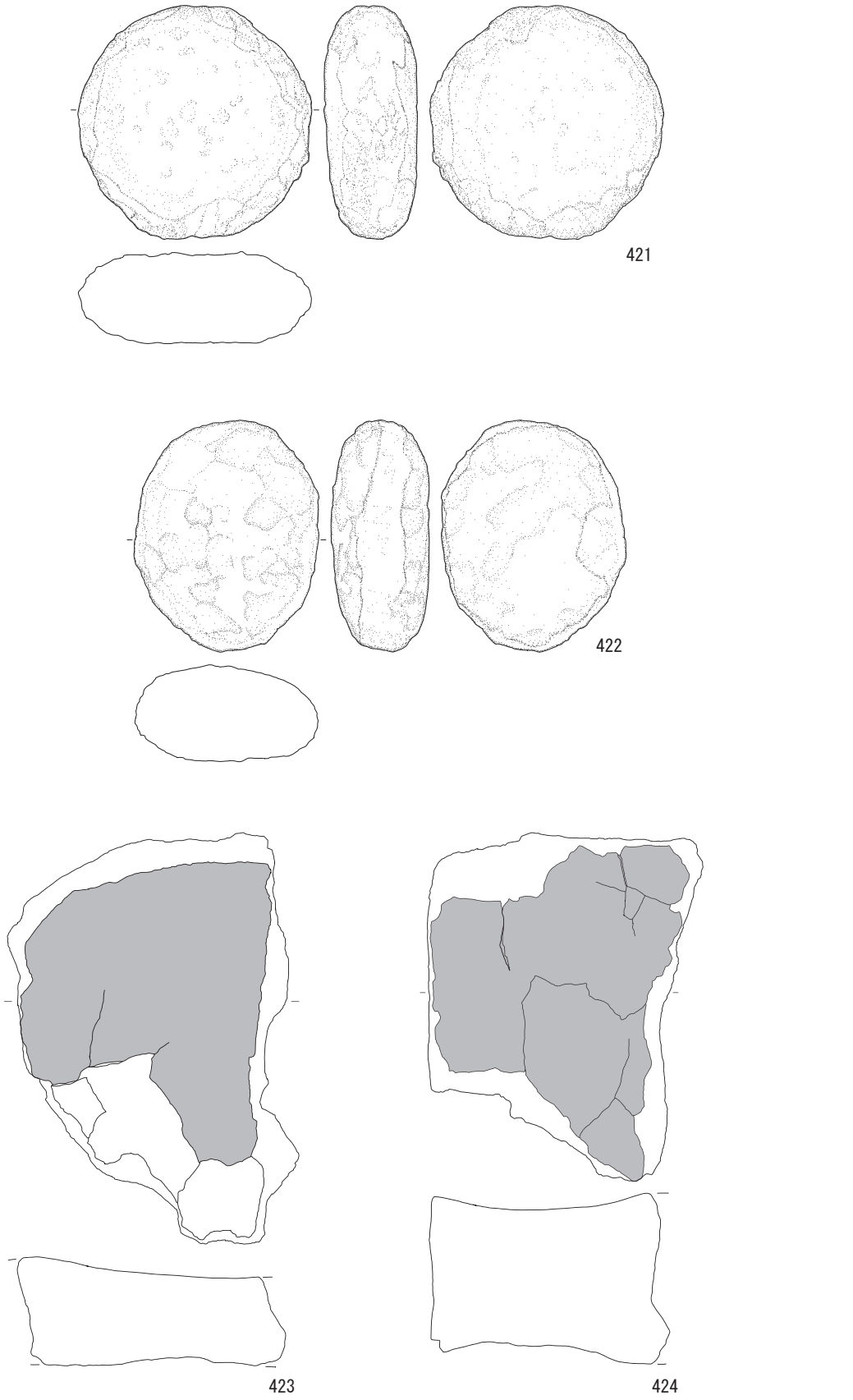
第53図　遺構外出土石器(10)

遺構外



第54図　遺構外出土石器(11)

遺構外



第55図　遺構外出土石器(12)

第２表　土器・土製品観察表１

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
1	1号竪穴 ⅡC2d	2層 Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁～胴部：LR(0段多条)ヨコ		粗砂多 繊維少	かたい	I群2類	大木2a新段階か
2	1号竪穴	1層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁～胴部：RL(0段多条)ヨコ、補修孔		細砂少 繊維微	かため	I群2類	
3	1号竪穴	1層	深鉢	口縁	口唇：丸頭、外端部突出+刺突 口縁：RLRヨコ		粗砂多	かたい	I群5類	
4	1号竪穴	1層	深鉢	口縁	口唇：丸頭状、外端部刺突 口縁：貼付文(隆帯+刺突)		細砂少	かたい	I群5類	
5	1号竪穴	1層	深鉢	口縁	口唇：角頭状 口縁：貼付隆帯+刺突、S字状連鎖沈文		粗砂多	かたい	I群3類	
6	1号竪穴	1層	深鉢	口縁	口唇：角頭状、外端突出 口縁：結節回転?		粗砂多	かたい	I群3類?	
7	1号竪穴	1層	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類	粗砂多	かたい	I群2～3類	
8	1号竪穴	1層	深鉢	口～胴部	口唇：欠損 口縁：無文	胴部：単軸絡条体1類	粗砂多	かたい	I群2類?	
9	1号竪穴	1層	深鉢	胴部		胴部：S字状連鎖沈文	粗砂多	かたい	I群3類	
10	1号竪穴	1層	深鉢	胴部～底部		胴部：RLヨコ 底部：平底	細砂少 繊維多	やわらかめ	I群2類	底径(8.4)･器高<5.5>cm
11	1号竪穴	2層	深鉢	口縁	口唇：角頭状、外端突出 口縁：結節回転文		粗砂多	かたい	I群2類	
12	1号竪穴	2層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：縄文(沈線状)		粗砂少 繊維少	やわらかい	I群2類?	
13	1号竪穴	2層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁～胴部：RLヨコ		粗砂少 繊維少	かため	I群1類	
14	1号竪穴	2層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：RLヨコ		粗砂多 繊維微	かため	I群4類?	
15	1号竪穴	2層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：RL?ヨコ(摩耗)		粗砂少 繊維少	やわらかめ	I群1類	
16	1号竪穴	2層	深鉢	胴部		胴部：LR(0段多条)ヨコ	細砂少 繊維少	やわらかい	I群1類?	
17	1号竪穴	2層	深鉢	胴部		胴部：非結束羽状縄文、RLR･LRLヨコ	粗砂少 繊維多	やわらかめ	I群2類?	
18	1号竪穴	2層	深鉢	胴部		胴部：結節回転文	粗砂多 繊維微	かため	I群2類	
19	1号竪穴	1層	深鉢	胴部		胴部：非結束羽状縄文、LR･RL(0段多条)ヨコ	粗砂多 繊維微	かため	I群1類	
20	1号竪穴	2層	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類	細砂少 繊維多	かため	I群2類?	
21	2号竪穴	堆積土	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：結節回転文		砂少 繊維少	やわらかめ	I群2類	
22	2号竪穴	堆積土 下位	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：無文	胴部：結節回転文?	粗砂 繊維微	かため	I群2類?	
23	2号竪穴	堆積土 下位	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類、ヨコ、タテ	粗砂多 繊維少	かため	I群2類	
24	2号竪穴	堆積土 下位	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体5類	細砂多 繊維微	かため	I群2～3類	
25	2号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体5類	細砂多 繊維微	かたい	I群2～3類	
26	3号竪穴	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁～胴部：RLRヨコ		粗砂多 繊維少	やわらかめ	I群1類	大木2a古段階か
27	3号竪穴	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁：結節回転文	胴部：LR(0段多条)ヨコ	細砂多 繊維微	かため	I群2類	
28	3号竪穴	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁：結節回転(撚糸)	胴部：非結束羽状縄文、RL･LR(0段多条)	細砂多 繊維多	かため	I群2類	
29	3号竪穴	堆積土	深鉢	口縁	口唇：角頭		砂少 繊維微	やわらかめ	I群2類	

第３表　土器・土製品観察表２

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
30	3号竪穴	堆積土	深鉢	胴部	口縁：RLRヨコ	胴部：S字状連鎖沈文	砂多	かため	I群3類	
31	4号竪穴	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：三角形 口縁：4単位波状口縁、 口端部刺突	頸部：隆帯+刺突 胴部：組紐	粗砂多 繊維?	かたい	I群5類	
32	4号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		内面：ミガキ 外面：沈線	細砂	かたい	Ⅳ群	弥生後期初頭
33	4号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		内面：ミガキ 外面：沈線	細砂	かたい	Ⅳ群	弥生後期初頭
34	4号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		内面：ミガキ 胴部：外面：沈線	細砂	かたい	Ⅳ群	弥生後期初頭
35	4号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		胴部：RLヨコ	細砂少	かため	Ⅳ群?	弥生後期前半?
36	4号竪穴	1層	深鉢	胴部		胴部：RLヨコ	細砂少	かため	Ⅳ群?	弥生後期前半?
37	4号竪穴	堆積土	壺か	口縁	口唇：丸頭 口縁：折り返し口縁、無文		粗砂多	かため	Ⅳ群?	
38	4号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		内外面：ミガキ	粗砂少	かたい	Ⅳ群?	
39	4号竪穴	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁～胴部：結節回転文		粗砂多 繊維少	やわらかめ	I群2類	
40	4号竪穴	1層	深鉢	胴部～底部		胴部：LR(0段多条)ヨコ、 結節回転文 底部：平底	細砂少 繊維少	やわらかめ	I群2類	
41	4号竪穴	1層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：肥厚、単軸絡条体 (木目状)		細砂少		I群2類	
42	4号竪穴	堆積土	深鉢	口縁	口唇：丸頭、外端部に 斜位刺突、ミガキ 口縁：刺突列2条	内面：ナデ	細砂多	かため	I群6類	
43	4号竪穴	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：縄圧痕、角頭、 外端突出 口縁：横位回転文、 肥厚部下端に刺突列	胴部：LRヨコ	細砂多	かため	I群6類	
44	4号竪穴	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁～胴部：LR･RL(0段多段)ヨコ		粗砂少 繊維少	かため	I群2類	
45	4号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体5類(網目状)	細砂少	かため	I群2類?	
46	4号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		胴部：結節回転文、RL(0段多条)タテ	粗砂多 繊維なし	かため	I群4類?	
47	4号竪穴	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：単軸絡条体1類	胴部：単軸絡条体1A類(木目状)	粗砂多	かたい	I群6類	
48	4号竪穴	堆積土	深鉢	底部		底部：平底	砂多 繊維?	かたい	I群2～3類	
49	5号竪穴	堆積土	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：RLヨコ		粗砂多 繊維少	かたい	I群2類?	
50	5号竪穴	堆積土	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：結節回転文		粗砂多 繊維微	かたい	I群2類	
51	5号竪穴	堆積土	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文		細砂多 繊維微	かため	I群2類	
52	5号竪穴	堆積土	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：LRヨコ		細砂多	かため	I群2類	
53	5号竪穴	堆積土	深鉢	胴部		胴部：非結束羽状縄文、 LR･RLヨコ	粗砂多 繊維微	かたい	I群2類	
54	5号竪穴	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口縁：単軸絡条体1類	胴部：LR(0段多条)ヨコ	細砂多 繊維少	やわらかめ	I群2類	
55	5号竪穴 南東側	Ⅲ層	深鉢	胴部～底部		胴部：LR･RLヨコ 底部：平底(網代痕→ ミガキ)	粗砂多 繊維少	やわらかめ	I群2類	底径16.4･器高<5.0>cm
56	1号性不 ベルト	上部	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状、ミガキ、外端 部突出 口縁：4単位波状口縁、結 節回転文、補修孔	胴部：非結束羽状縄文、 LR･RL(0段多条)ヨコ 内面：ミガキ	砂極細少 繊維多	かため	I群2類	

第４表　土器・土製品観察表３

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
57	1号性不ベルト	上層	深鉢	口縁～胴部	口縁：結節回転文	胴部：摩耗、RL?	細砂多繊維多	やわらかめ	I群2類	
58	1号性不ベルト	上部	深鉢	胴部		胴部：結節回転文	粗砂多繊維微	やわらかめ	I群2類	
59	1号性不ベルト	上層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、端部突出 口縁：結節回転文	胴部：羽状縄文、 LR･RL（0段多条）	粗砂多繊維少	かため	I群2類	
60	3号性不	床面	深鉢	口縁	口唇：角頭、端部突出 口縁：結節回転文		粗砂多繊維少	やわらかめ	I群2類	
61	3号性不	床面	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類	粗砂多繊維中	かため	I群4類?	
62	2号陥	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出（つまみ出し） 口縁～胴部：単軸絡条体1類		細砂多繊維少	かため	I群2･4類?	
63	1号土坑	不明	深鉢	胴部		胴部：S字状連鎖沈文	砂多繊維なし	かたい	I群3類	
64	1号土坑	不明	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類	砂多繊維なし	かたい	I群2～3類	
65	1号土坑	不明	深鉢	胴部～底部		胴部：S字状連鎖沈文 底部：網代痕	砂多繊維なし	かたい	I群3類	器高<7.5>cm
66	2号土坑	堆積土	深鉢	胴部		胴部：RL	細砂少繊維微	かため	I群4類?	丸底か
67	3号土坑	不明	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁：結節回転文	胴部：RLRヨコ	砂多白色粒多繊維少	やわらかめ	I群2類	口径10.2･器高<16.5>cm
68	3号土坑	不明	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭状 口縁～胴部：LRヨコ?		砂多繊維微	かため	I群4類?	内黒
69	3号土坑	不明	深鉢	胴部～底部		胴部：RLRヨコ 底部：平底、ミガキ	砂多白色粒多繊維少	やわらかめ	I群2類	底径（8.6）･器高<5.9>cm
70	4号土坑	不明	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭、角頭 口縁～胴部：結節回転文		粗砂多繊維少	やわらかめ	I群2類	口径（24.4）･ 器高<11.0>cm
71	4号土坑	不明	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁：結節回転文	胴部：RLヨコ	細砂多繊維微	かため	I群2類	口径29.8･器高<31.0>cm
72	4号土坑	不明	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭、ミガキ 口縁：波状、結節回転文	胴部：Rヨコ	粗砂多繊維少	かため	I群2類	
73	4号土坑	不明	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文、補修孔	胴部：RL（0段多条）ヨコ〈太い〉	粗砂多繊維微	かため	I群2類	
74	4号土坑	堆積土	深鉢	胴部		胴部：LR（0段多条）ヨコ	粗砂多繊維多	かため	I群2類	
75	4号土坑	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文	胴部：LR（0段多条）ヨコ	粗砂多繊維微	かため	I群2類	
76	4号土坑	堆積土	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：結節回転文		粗砂多繊維微	かため	I群2類	
77	4号土坑	堆積土	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：LR（0段多条）ヨコ		粗砂多	かため	I群2類	
78	4号土坑	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁～胴部：LRヨコ		粗砂多繊維微	かため	I群2類	
79	4号土坑	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭、突起 口縁～胴部：単軸絡条体1A類（木目状）+沈線、補修孔1個		粗砂多繊維多	かため	I群2類	
80	4号土坑	堆積土	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体5類（網目状）	粗砂多繊維少		I群2類	
81	4号土坑	堆積土	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1A類（木目状）	粗砂多繊維多	かため	I群2類	
82	4号土坑	堆積土	深鉢	胴部～底部		胴部：RLヨコ 底部：平底、網代痕?	粗砂非常に多繊維微	かため	I群2類	底径（9.8）･器高<6.9>cm

第５表　土器・土製品観察表４

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
83	5号土坑	不明	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状､指頭圧痕で波状(あるいは花弁状) 口縁～胴部：LRヨコ	外面：ススﾝコゲ 内面：コゲ	繊維少		I群2類?	口径25.0･器高<15.7>cm
84	5号土坑	堆積土	深鉢	胴部		胴部：結節回転文、焼成痕	砂多 繊維なし		I群2類	
85	6号土坑	堆積土	深鉢	口縁～底部	口唇：角頭､外端部突出 口縁：7単位突起､LRタテ､補修孔2個	胴上部：LRヨコ基調(不規則気味※羽状意匠) 胴下部：結束羽状縄文(LR･RLヨコ) 底部：平底(やや上げ底)	粗砂多 繊維微	かため	I群2類	口径52.8･底径15.0･器高65.0cm
	ⅡB7f	Ⅲb層								
86	7号土坑	堆積土	深鉢	胴部		胴部：結節回転文､LR(0段多条)ヨコ	砂多 繊維微	かため	I群2類	
87	8号土坑	堆積土	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1A類	繊維微		I群2類	
88	10号土坑	堆積土	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭､外端部突出(つまみ出し) 口縁～胴部：結節回転文		細砂多 繊維少		I群2類	
89	10号土坑	堆積土	深鉢	胴部～底部		胴部：単軸絡条体1類 底部：平底	小礫 繊維微		I群2類	
90	ⅡB8e	Ⅲ層	深鉢	胴部～底部		胴部：LRヨコ､組紐 底部：LR(単軸絡条体1類)	粗砂多 繊維微	かため	I群2～3類	底径(10.0)･器高<13.5>cm
91	ⅡB1f	Ⅱ層	深鉢	胴部～底部		胴部：LRヨコ･タテ(重層施文) 底部：尖底	砂多 繊維少	やわらかい	I群4類?	内黒
92	ⅡB7f	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状､つまみ出し 口縁：無文	胴部：非結束羽状縄文 LRL･RLR	砂多 繊維なし	かたい	I群2類	
93	不明	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁：山形状突起､無文	胴部：非結束羽状縄文LR･RLヨコ	粗砂多 繊維微	かたい	I群2類	
94	ⅡB7f	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁：縄束の巻止め部の紐か沈線状	胴部：縄の束? 底部：平底	砂多 繊維微		I群2類	口径(20.0)･器高<21.1>cm
95	ⅡB8g	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁～胴部：LR(0段多条)ヨコ		粗砂多 繊維少	かため	I群2類	
96	ⅡC5c	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁：無文	胴部：LRヨコ	小礫多	やわらかめ	I群2類	
97	ⅡC1b	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁：無文 口縁：ナデ	胴部：RL(0段多条)ヨコ	粗砂多 繊維少	かたい	I群2～3類	
98	ⅡB10e	Ⅱ層	深鉢	胴部～底部		胴部：結節回転文R 底部：平底	粗砂多 繊維多	かため	I群2類	器高<23.9>cm
99	ⅢB1f	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁～胴部：波状口縁､S字状連鎖沈文		小礫多 繊維微	かたい	I群3類	
100	IC9d	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭､外端部突出 口縁～胴部：波状口縁､結節回転文		粗砂多 繊維微	かたい	I群2類	
101	ⅡB4g	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭､外端部突出 口縁～胴部：波状口縁､結節回転文(Z字状連鎖撚糸文)		粗砂多 繊維少	かため	I群2類	
102	ⅡC3c	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭､外端部突出 口縁：波状口縁､結節回転文		細砂多 繊維少	かため	I群2類	
103	ⅡB10e	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭､外端部突出 口縁：結節回転文	胴部：結節回転文RL･LR(ヨコ)	粗砂多 繊維少	やわらかめ	I群2類	
104	ⅡB10d	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭､外端部突出 口縁：結節回転文		細砂多 繊維微	かたい	I群2類	
105	ⅡB10e	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭､外端部突出 口縁～胴部：RLRヨコ→結節回転文L		粗砂多 繊維微	かたい	I群2類	

第６表　土器・土製品観察表５

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
106	ⅡB7d	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：結節回転文		細砂少 繊維少	かたい	Ⅰ群2類	
107	ⅢB1c	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出(つまみ出し) 口縁：結節回転文、補修孔(未貫通)		細砂少 繊維微	かたい	Ⅰ群2類	
108	ⅢB1a	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭状、 外端部突出 口縁：S字状連鎖撚糸文		細砂多 繊維微	かたい	Ⅰ群2～3類	
109	ⅡB10d	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文	胴部：LR(0段多条)ヨコ	粗砂多 繊維?	かたい	Ⅰ群2類	
110	ⅡB7h	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文RL	胴部：単軸絡条体1類?	細砂多 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
111	ⅢB1f	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁～胴部：LR(0段多条)ヨコ→結節回転文		粗砂多 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
112	ⅡB9e	Ⅱ層	深鉢	胴部～底部		胴部：結節回転文 底部：LR(0段多条)ヨコ	粗砂少 繊維少	やわらかい	Ⅰ群2類	底径12.4･器高(2.9)㎝ 大木2a古段階か
113	ⅡC2b	Ⅱ層	深鉢	胴部～底部		胴部：縄圧痕 底部：木葉痕	粗砂多	かたい	Ⅰ群2～3類	底径6.8･器高<4.2>㎝
114	ⅡB8c	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出(つまみ出し) 口縁：結節回転文R		粗砂少 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
115	ⅡB10d	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出(つまみ出し) 口縁～胴部：結束羽状縄文RL･LR		細砂少 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
116	ⅡB10d	Ⅱ層	深鉢	胴部		胴部：結節回転文RL･LR	細砂少 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
117	ⅡB6g	不明	深鉢	口縁～胴部	口唇：三角形､外端部突出 +刻目状刺突 口縁：結節回転文RL	胴部：RLヨコ	粗砂多 繊維少	かたい	Ⅰ群5類	
118	ⅡB10h	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出+ 刻目状刺突 口縁：ナデ		粗砂多	かたい	Ⅰ群5類	
119	ⅡB9h	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出､刻目状刺突 口縁：結節回転文、組紐		粗砂多 繊維なし	かたい	Ⅰ群5類	
120	ⅡC6a	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：沈線(S字状連鎖沈文の一部?)		粗砂	かたい	Ⅰ群5類	
121	ⅡB8e	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出+ 刺突(刻目) 口縁：無文	胴部：組紐	粗砂多 繊維?	かたい	Ⅰ群5類	
122	ⅢB1d	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出+ 刺突(刻目) 口縁～胴部：RLヨコ､RLRヨコ		粗砂多 繊維微	かたい	Ⅰ群5類	
123	ⅢB1e	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出+ 刺突(刻目) 口縁：横位隆帯+刺突(刻目)	胴部：組紐	粗砂多	かたい	Ⅰ群5類	
124	ⅡB6e	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：丸頭口縁：円形刺突列､LRヨコ 口縁：肥圧+円形刺突､Lヨコ		粗砂多 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
125	ⅢB2d	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：Lヨコ→S字状連鎖撚糸文		粗砂多 繊維中	やわらかめ	Ⅰ群2～3類	
126	ⅡC2c	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文(S字状連鎖沈文)		粗砂多 繊維少	かため	Ⅰ群3類	

第７表　土器・土製品観察表６

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
127	ⅡB9g	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：S字状連鎖沈文		粗砂少 繊維少	かため	Ⅰ群3類	
128	ⅢB1f	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口縁：肥厚?	胴部：縦位結節回転文R	細砂		Ⅰ群6類?	
129	ⅡB5g	Ⅱ層	深鉢	胴部		胴部：S字状連鎖沈文	細砂多	かため	Ⅰ群3類	
130	ⅡB2h	Ⅱ層	深鉢	胴部		胴部：S字状連鎖沈文	細砂多 繊維微	かため	Ⅰ群3類	
131	ⅡB10e	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁～胴部：LRヨコ→横位平行沈線		粗•細砂多 繊維少	かため	Ⅰ群2･4類?	早稲田6類aか
132	IC9c	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁～胴部：単軸絡条体1類		粗砂多 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
133	ⅡB7d	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：単軸絡条体1類		粗砂少 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
134	ⅡB9c	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁～胴部：単軸絡条体2類		細砂少	かため	Ⅰ群2類	
135	ⅡB10b	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：単軸絡条体2類		粗砂多 繊維微	かたい	Ⅰ群2～3類	
136	ⅡB6f	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁～胴部：単軸絡条体1類		細砂多 繊維微	かため	Ⅰ群2～3類	
137	ⅢA5j(2号焼土周辺部) ⅢA6i	不明 Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭、縄回転(LR) 口縁：文様帯、結節回転文、薄い隆帯状区画	胴部：単軸絡条体1A類(縦位木目状)	細砂多	かため	Ⅰ群6類	円筒下層d1
138	ⅢA5j(2号焼土周辺部)	不明	深鉢	胴部～底部		胴部：単軸絡条体1A類(縦位木目状) 内面：タテミガキ 底部：平底、ミガキ	細砂多 繊維微	かため	Ⅰ群6類	円筒下層d1
139	調査区南部	Ⅰ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：縄圧痕RL	胴部：単軸絡条体1A類(縦位木目状)	細砂多	かため	Ⅰ群6類	円筒下層d1
140	ⅡB10f	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：単軸絡条体1類		粗砂多	かため	Ⅰ群2類	
141	ⅡB6f	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁～胴部：単軸絡条体1類		粗砂多	かため	Ⅰ群2類	
142	ⅢB1d	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：単軸絡条体1A類		粗砂多 繊維少	かため	Ⅰ群2類	
143	ⅡB10d	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：単軸絡条体1A類(木目状)		粗砂多	かたい	Ⅰ群2類	
144	ⅡB8d	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出、指圧痕状刺突2個 口縁：ナデ	胴部：単軸絡条体5類(網目状)	細砂多 繊維少量	かたい	Ⅰ群2類	
145	ⅢB2d	不明	深鉢	口縁	口唇：丸頭、外端部突出 口縁：単軸絡条体1類		細砂少 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
146	ⅡC2c	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出口縁：押引沈線		砂細多		Ⅰ群4類?	早稲田6類aか
147	ⅡB8g	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：横位平行沈線、横位波状沈線、刺突		粗砂多	かたい	Ⅱ群1類	
148	不明	Ⅲ層	壺?	胴部～底部		胴部：RLヨコ 内面：ケズリ、ナデ 底部：平底、ミガキ	粗砂少	かたい	Ⅳ群1類	底径6.2･器高<3.4>cm 弥生中期中頃
149	ⅡB7h	Ⅲ層	甕?	胴部		胴部：付加条(RL)、菱形文(沈線)			Ⅳ群2類	
150	ⅡB8h	Ⅲ層	深鉢	胴部		外面：沈線、ミガキ 内面：ミガキ?			Ⅲ群1類?	
151	ⅢB2a	Ⅱ層下位	鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類RL(若しくは付加条) 内面：ナデ	細砂少	かたい	Ⅳ群3類	

第８表　土器・土製品観察表７

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
152	ⅢA2j	Ⅱ層	鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類RL（若しくは付加条） 内面：ナデ	砂細少	かたい	Ⅳ群3類	
153	ⅢA2j	Ⅱ層	鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類RL（若しくは付加条） 内面：ナデ	細砂少	かたい	Ⅳ群3類	
154	ⅢB1f	不明	鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類（若しくは付加条）	細砂少	かたい	Ⅳ群3類	
155	ⅢA2j	不明	鉢	胴部		胴部：RLヨコ 内面：ナデ	細砂少	かたい	Ⅳ群3類	
156	ⅡC2b	不明	鉢	胴部		胴部：LRナナメ 内面：ナデ	粗砂少	かたい	Ⅳ群3類	
157	ⅢA2j	Ⅱ層	鉢	胴部		胴部：RLタテ 内面：ナデ	粗砂少	かたい	Ⅳ群3類	
158	ⅢA2j	Ⅱ層	鉢	口縁	口縁：RLヨコ	内面：ナデ	細砂少		Ⅳ群3類	
159	ⅡB8g	Ⅱ層	鉢	口縁	口縁：RL（付加条?）ヨコ	内面：ナデ	細砂少		Ⅳ群3類	
160	ⅡB8h	Ⅲ層	鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁：刺突、R?→磨消?	胴部：付加条?	細砂少		Ⅳ群3類	
161	ⅡB10h	Ⅱ層	壺	胴部～底部		外面：ミガキ、ナデ 内面：ナデ、ハケ 底部：平底、ナデ	細砂		Ⅳ群	弥生後期前半?
162	ⅢB1d	Ⅲ層?	深鉢	胴部～底部		胴部：LRヨコ 底部：尖底	細砂少 繊維少	かため	Ⅰ群4類	
163	不明	不明	深鉢	胴部		胴部：LRLヨコ	細砂少 繊維少	かため	Ⅰ群4類?	
164	ⅡB9d	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁～胴部：LR（0段多条）ヨコ		粗砂多 繊維少	やわらかめ	Ⅰ群2類	
165	ⅡB8e	Ⅲ層	深鉢	胴部～底部		胴部：結節回転文、RL 底部：平底	粗砂多 小礫中 繊維中	やわらかめ	Ⅰ群2類	
166	ⅢB9d	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁：突起、結節回転文	胴部：RLRヨコ	粗砂多 繊維微	かたい	Ⅰ群2類	
167	ⅡB5f	Ⅲ層	深鉢	口縁部	口唇：角頭 口縁：結節回転文		粗砂多 繊維?	かため	Ⅰ群2類	
168	ⅡB10e	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁：不整撚糸文	胴部:異条異節（LRL?+L） 内面：タテミガキ	粗砂多 繊維微	かため	Ⅰ群2･4類?	
169	不明	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文、R		粗砂多 繊維中	やわらかめ	Ⅰ群2類	
170	不明	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：結節回転文		粗砂多 繊維微	かため	Ⅰ群2類	
171	ⅡB9c	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文、LR（0段多条）	胴部：LR（0段多条）ヨコ	細砂多 繊維微	かたい	Ⅰ群2類	
172	ⅡB6g	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭、外端部突出 口縁：結節回転文、RL	胴部：RLヨコ	細砂多 繊維微	かたい	Ⅰ群2類	
173	ⅡB9c	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出 口縁：山形状突起、結節回転文R		細砂多 繊維微	かたい	Ⅰ群2類	
174	ⅡB7d	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁：結節回転文	胴部：RLヨコ	粗砂多 繊維少	かたい	Ⅰ群2類	
175	不明	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭（三角形）、外端部突出+斜位刻目状刺突 口縁：S字状連鎖沈文（結節回転）		細砂少 繊維微	かたい	Ⅰ群5類	
176	ⅡB9h	Ⅲ層	深鉢	胴部		胴部：S字状連鎖沈文（結節回転）	細砂少 繊維微	かたい	Ⅰ群3類	
177	ⅡB8g ⅡB8e	Ⅲb層 Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭、外端部突出+刻目状刺突 口縁：LRヨコ、組紐		細砂少 繊維なし	かたい	Ⅰ群5類	

第９表　土器・土製品観察表８

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
178	ⅢB1e	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭､外端部突出+刻目状刺突 口縁：Rヨコ		細砂 繊維微	かたい	I群5類	
179	ⅡB7h	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭､外端部突出､刺突　口縁：無文		細砂多 繊維なし	かたい	I群5類	
180	ⅡB6g	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭､外端部突出､円形刺突列 口縁：結節回転文､円形刺突列		細砂少 繊維?	かたい	I群2類	
181	ⅢB1f	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：円形竹管刺突列	胴部：結節回転文	細砂少 細砂多 繊維なし	かたい	I群3類	
182	ⅢB1e	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁～胴部：山形状口縁、非結束羽状縄文 RL･LR		粗砂少 繊維少	かため	I群2類	
183	北端部 斜面	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：LR(0段多条)ヨコ、補修孔		粗砂多 繊維微	かため	I群2類	
184	ⅡC5a	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：肥厚･折り返し口縁+縦位単軸絡条体1類R､横位隆帯+刺突		粗砂多 繊維なし	かたい	I群6類?	円筒下層d2 もしくは 円筒上層a
185	ⅢB1d	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：単軸絡条体1A類		粗砂少 繊維少	かため	I群2類?	
186	ⅡB9e	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：縄圧痕		粗砂少 繊維微	かたい	I群2類?	
187	ⅡB9e	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇：丸頭、 口縁：単軸絡条体5類		粗砂少 繊維微	かたい	I群2類?	
188	ⅡB10f	Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：4単位波状口縁､横位沈線	胴部：単軸絡条体第5類	粗砂多 繊維微	かたい	I群2類	
189	ⅡB10c	不明	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：単軸絡条体1類		細砂 繊維少	かため	I群2類?	
190	ⅢB1b	Ⅲa層	深鉢	胴部		胴部：非結束羽状縄文LR･RLヨコ(菱形を構成)	細砂 繊維微	かため	I群1類	
191	ⅡB10e	Ⅲa層	深鉢	口～胴部	口唇：角頭　外端部突出 口縁～胴部：LRヨコ→縄圧痕LR､結節回転文		細砂少 繊維微		I群2類	
192	谷部中央	Ⅲa層	深鉢	胴部		胴部：非結束羽状縄文 LRL･RLR	細砂少 繊維微	かたい	I群2類	
193	谷部西	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：LRヨコ		細砂多 繊維少	かため	I群2類?	
194	ⅡB9c	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭状 口縁：付加条(RL+L)､補修孔2個		粗砂多 繊維微	かため	I群2類	
195	ⅡB10a	Ⅱ層下位	深鉢	口縁～胴	口唇：角頭 口縁：4単位波状口縁､結節回転文	胴部：非結束羽状縄文RL･LRヨコ	粗砂多 繊維少	やわらかめ	I群2類	
196	谷部東	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴	口唇：角頭 口縁：4単位波状口縁､結節回転文	胴部：非結束羽状縄文RL･LRヨコ	細砂 繊維多		I群2類	
197	ⅡB10c	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：山形状口縁､不整撚糸文		細砂多 繊維微	かため	I群2類	
198	ⅡB10e	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：不整撚糸文		細砂多 繊維微	かため	I群2類	
199	ⅢB1c	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴	口唇部： 口縁：不整撚糸文	胴部：非結束羽状縄文0段多条LR･RLヨコ	繊維少	かため	I群2類	
200	ⅢB1c	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：不整撚糸文		細砂多 繊維少		I群2類	

第 10 表　土器・土製品観察表９

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整･特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
201	ⅢB1c	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：不整撚糸文		細砂 繊維微	かため	I群2類	
202	谷部東	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：不整撚糸文	胴部：LRヨコ	粗砂多 繊維少	かため	I群2類	
203	谷部中央	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：結節回転文			かたい	I群5類	
204	谷部中央	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：結節回転文	胴部：LRLヨコ	細砂多 繊維微	かため	I群3類	
205	谷部中央	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：無文	胴部：結束羽状縄文LR･RLヨコ、補修孔 外面：スス付着	細砂多 繊維微	かため	I群2類	胎土は白座に類似
206	谷部東	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：付加条(LR+L)ヨコ		細砂多 繊維少	やわらかめ	I群1類	
207	谷部西	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁：無文、結節回転文	胴部：LRヨコ	粗砂多 繊維微	やわらかめ	I群2類	
208	谷部東	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭状 口縁～胴部：結節回転文、RLヨコ		粗砂多 繊維なし	かため	I群3類	
209	ⅡB10e	Ⅱ層、 Ⅱa層	深鉢	口縁	口唇：角頭状、外端部突出 口縁：結節回転文、Rヨコ		細砂 繊維少	やわらかめ	I群2類	
210	谷部東	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁～胴部：RLヨコ		細砂多 繊維微	やわらかめ	I群2類	
211	①ⅡB7f、 ②谷部西	①Ⅱ層、Ⅱb層 ②Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状、外端部突出 口縁～胴部：付加条(RL+R)ヨコ外面スス付着		細砂多 繊維少	やわらかめ	I群2類	
212	谷部東	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭状、外端部突出 口縁：S字状連鎖沈文	胴部：組紐	粗砂多 繊維微	かたい	I群3類	
213	ⅡB10g	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇：角頭状、外端部突出に刺突 口縁：波状口縁、S字状連鎖沈文		粗砂多 繊維なし	かたい	I群3･5類	大木2bと白座の両者の折衷
214	ⅢB1f	Ⅲa層	深鉢	胴部		胴部：S字状連鎖沈文	細砂 繊維なし	かたい	I群3類	
215	ⅡB10d	Ⅲa層	深鉢	胴部～底部		胴部：S字状連鎖沈文、組紐 底部：平底	粗砂少 繊維なし	かたい	I群3類	
216	ⅢB1f	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：角頭状、外端部突出+斜位刺突 口縁：結節回転文		細砂多 繊維なし	かたい	I群5類	
217	①ⅡB10f②ⅡB10g③谷部	①Ⅲ層 ②Ⅱ層 ③Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：角頭状、外端部突出に刺突 口縁：突起、ヨコナデ、LRヨコ		粗砂多 繊維なし	かたい	I群5類	
218	谷部東	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：丸頭 口縁～胴部：円形刺突、RLヨコ、組紐		粗砂多 繊維微	かため	I群5類	
219	谷部中央	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：円形刺突、角頭状 口縁：波状LR(0段多条)ヨコ		細砂多 繊維少	かため	I群2～3類	
220	ⅢB1f	Ⅲa層	深鉢	胴部		胴部：円形貼付隆帯+刺突	細砂多 繊維なし	かたい	I群3類?	
221	①ⅡB10f②谷部東③谷部東ⅡB10f内	①Ⅲ層 ②Ⅲa層 ③Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：隆帯+刺突 口縁：円形刺突	胴部：非結束羽状縄文LR(0段多条)･RL(0段多条)ヨコ	粗砂多 繊維なし	かたい	I群5類	
222	谷部中央	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：丸頭状 口縁：単軸絡条体1類、補修孔		粗砂多 繊維微	かため	I群4類?	
223	谷部西	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：円形刺突、角頭状 口縁：単軸絡条体5類		粗砂多 繊維少	かため	I群2～3類	

第 11 表　土器・土製品観察表 10

掲載No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整・特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
224	谷部東	Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状、外端張り出し 口縁：単軸絡条体5類	胴部：RLヨコ	粗砂多 雲母多 繊維微	かため	I群2～3類	
225	①ⅡB10f②ⅡB10g③谷部東	①②Ⅱ層 ③Ⅲa層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁～胴部：単軸絡条体5類		粗砂多 繊維微	かたい	I群2～3類	
226	ⅢB1f	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：角頭状 口縁：単軸絡条体1A類		細砂多 繊維少	かたい	I群2類	
227	谷部西	Ⅲa層	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1類	細砂多 繊維微	やわらかめ	I群2類	
228	谷部西	Ⅲa層	深鉢	口縁	口唇：角頭状 口縁：結節回転文Rヨコ、沈文的な条菱形文		粗砂多 繊維微	かたい	I群2～3類	
229	ⅡB10c	Ⅲb層	深鉢	胴～底部		胴部：摩耗により不明 R?底部：尖底土器	細砂少 繊維多		I群4類	
230	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：角頭状、外端部突出 口縁：LR（0段多条）ヨコ、タテ		細砂少 繊維少	かため	I群2類	
231	ⅡB10e	Ⅲb層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁～胴部：結束羽状縄文RL・LR		細砂少 繊維少	やわらかめ	I群2類	
232	不明	Ⅲb層	深鉢	胴部		胴部：非結束羽状縄文LR（0段多条）・RL	粗砂多 繊維微	かため	I群2類	
233	ⅡB8g	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：丸頭状、外端部突出 口縁：付加条（RL+L）		細砂多 繊維少	やわらかめ	I群1類	
234	不明	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：丸頭状、外端部突出 口縁：RLヨコ、補修孔（未貫通）		細砂多 繊維微	かため	I群2・4類?	
235	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁：付加条（0段多条LR+L）ヨコ	胴部：単軸絡条体1類?	細砂中 繊維多	やわらかい	I群4類?	
236	ⅢB1d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：角頭状 口縁：LR（0段多条）ヨコ		細砂多 繊維微	かたい	I群2類	
237	不明	Ⅲb層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁～胴部：波状、結節回転文		小礫多 繊維少	やわらかい	I群2類	
238	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：不整撚糸文		細砂中 繊維微?	かため	I群2類	
239	ⅡB10e	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：角頭、つまみ出し 口縁：不整撚糸文		細砂多 繊維微	かため	I群2類	
240	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：結節回転文		小礫多 繊維少	かため	I群2類	
241	ⅡB10e	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：角頭状 口縁：結節回転文		粗砂少 繊維微	かため	I群2類	
242	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：丸頭状 口縁：結節回転文		小礫微 繊維少	やわらかめ	I群2類	
243	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状つまみ出し 口縁：結節回転文	胴：非結束羽状縄文LR・RLタテ	細砂 繊維少	かため	I群2類	
244	①ⅡB8d ②ⅡB8e	①Ⅱ層 ②Ⅲ層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状つまみ出し 口縁：結節回転文、波状口縁	胴：付加条 内面：指調整顕著	粗砂多 繊維少	やわらかめ	I群2類	
245	ⅡB10e	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：結節回転文		小礫多 繊維微	かため	I群2類	
246	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：S字状連鎖撚糸文		粗砂多 繊維少	かため	I群3類	
247	ⅡB8f	Ⅲb層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭つまみ出し 口縁：S字状連鎖沈文	胴部：RL?ヨコ	小礫多 繊維少	やわらかめ	I群2～3類	
248	ⅡB8g	Ⅲb層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁～胴部：非結束羽状縄文LR・RLヨコ		細砂中 繊維微	かため	I群2類?	

第 12 表　土器・土製品観察表 11

掲載 No.	出土地点	層位	器種	残存部位	主な調整・特徴		胎土	焼具合	分類	備考
					外面　口唇	外面　その他				
249	ⅡB9f	Ⅲb層	深鉢	胴部		胴部：RLヨコ、組紐	細砂中 繊維微	かたい	I群5類?	
250	ⅡB7e	Ⅲb層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭 口縁：刺突（指頭）、結節回転文	胴部：付加条（RL+R）	粗砂多 繊維なし	かため	I群5類	
251	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：角頭状 口縁：LRヨコ、円形刺突列		小礫少 繊維少	やわらかめ	I群4類	内黒 早稲田6類a
252	ⅡB8e	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：円形刺突、LRヨコ		粗砂多 繊維なし	やわらかめ	I群2～3類	
253	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：角頭つまみ出し 口縁：単軸絡条体1類（L）		細砂中 繊維中	やわらかめ	I群2類	
254	ⅡB9d	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：縦位貼付隆線、不整撚糸文		細砂多 繊維微	かため	I群2類	
255	ⅡB10g	Ⅲb層	深鉢	口縁	口唇：丸頭 口縁：S字状連鎖沈文		粗砂多 繊維微	かため	I群3類	
256	ⅡB8f	Ⅲb層	深鉢	口縁～胴部	口唇：角頭状 口縁～胴部：沈線文（斜行・交差）	内面：指ナデ	粗砂多 繊維微	やわらかめ	I群4類?	内黒
257	ⅡB10f	Ⅲb層	深鉢	胴部		胴部：単軸絡条体1A類 内面：指ナデ	粗砂多 繊維微	やわらかめ	I群2類?	内黒
258	不明	不明	深鉢	口縁	口唇：角頭 口縁：結節回転文		粗砂多 繊維微	やわらかめ	I群2～3類	
259	ⅢA4j	Ⅱ層	土製紡錘車		正裏面：花弁文（沈線→刺突） 側面：平行沈線→刺突、中央穿孔　　器面摩耗				Ⅳ群	弥生後期初頭

第 13 表　石器観察表 1

掲載No.	通しNo.	出土地点	層位	器種	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	先端角・刃部角	産地	備考
301	1	1号竪穴	1層(To-Cu層)	石鏃	頁岩	24.8	13.2	5.1	1.6		北上山地　中生代	平基
302	2	1号竪穴	1層(To-Cu層)	石鏃	頁岩	21.9	15.3	5.6	1.3	50°	北上山地　中生代	平基
303	27	1号竪穴	2層	石匙	頁岩	45.7	26.8	8.1	5.8		北上山地　中生代	縦型
304	49	1号竪穴	2層	掻器	頁岩	28.9	59.0	10.5	15.6		北上山地　中生代	
305	81	1号竪穴	1層(To-Cu層)	石核	頁岩	80.0	57.8	21.9	96.2		北上山地　中生代	
306	102	1号竪穴	2層	磨石	ホルンフェルス	182.9	67.7	55.0	767.3		北上山地　中生代	磨面位置側面
307	3	3号竪穴	東ベルト	石鏃	頁岩	14.8	15.9	3.7	0.9		北上山地　中生代	凹基
308	4	3号竪穴	南側トレンチ	石鏃	頁岩	15.3	13.7	2.9	0.5	49°	北上山地　中生代	平基
309	5	3号竪穴	堆積土	石鏃	頁岩	18.1	13.4	3.1	0.8		北上山地　中生代	凸基
310	50	3号竪穴	堆積土	掻器	頁岩	61.0	31.1	11.4	21.9		北上山地　中生代	
311	56	3号竪穴	堆積土	削器	頁岩	53.5	72.8	13.4	34.7		北上山地　中生代	
312	103	3号竪穴 土坑1	堆積土	磨石	砂岩	108.0	57.8	52.2	427.3		北上山地　中生代	磨面位置側面
313	6	4号竪穴	堆積土	石鏃	頁岩	26.6	19.9	4.1	1.5	38°	北上山地　中生代	凹基
314	7	4号竪穴	堆積土	石鏃	頁岩	26.6	21.3	5.2	2.2	61°	北上山地　中生代	平基
315	57	4号竪穴	堆積土	削器	赤色頁岩	29.4	19.8	6.2	3.8		北上山地　中生代	
316	58	4号竪穴	堆積土	削器	頁岩	26.4	29.2	7.9	5.7		北上山地　中生代	
317	62	4号竪穴	堆積土	楔形石器	頁岩	28.0	27.2	9.2	6.4		北上山地　中生代	
318	86	4号竪穴	堆積土	敲磨器	花崗閃緑岩	101.5	87.6	54.8	621.3		北上山地　中生代白亜紀	
319	87	4号竪穴	堆積土	敲磨器	花崗閃緑岩	100.3	85.4	66.5	805.1		北上山地　中生代白亜紀	
320	88	4号竪穴	堆積土	敲磨器	花崗閃緑岩	109.1	79.7	65.9	786.2		北上山地　中生代白亜紀	
321	89	4号竪穴	堆積土	敲磨器	花崗閃緑岩	93.9	69.3	44.6	428.6		北上山地　中生代白亜紀	
322	90	4号竪穴	堆積土	敲磨器	花崗閃緑岩	110.8	78.0	51.6	637.6		北上山地　中生代白亜紀	
323	98	4号竪穴	堆積土	敲磨器	砂岩	166.8	65.1	52.0	773.2		北上山地　中生代	磨面位置側面
324	104	4号竪穴	堆積土	磨石	細粒閃緑岩	128.2	86.4	34.0	617.1		北上山地　中生代白亜紀	磨面位置側面
325	28	5号竪穴	堆積土	石匙	頁岩	44.1	36.5	8.4	8.8		北上山地　中生代	縦型
326	29	5号竪穴	堆積土	石匙	頁岩	53.9	37.0	10.2	8.7		北上山地　中生代	斜行型
327	63	5号竪穴	堆積土	楔形石器	頁岩	29.6	27.6	5.8	4.1		北上山地　中生代	
328	82	5号竪穴	南東区堆積土	石核	ヒン岩	43.3	73.5	85.3	356.7		北上山地　中生代白亜紀	
329	91	5号竪穴	南東側堆積土	敲磨器	花崗閃緑岩	92.2	89.0	58.2	699.1		北上山地　中生代白亜紀	
330	92	5号竪穴	南東側堆積土	敲磨器	花崗閃緑岩	100.4	97.8	58.0	823.8		北上山地　中生代白亜紀	
331	108	5号竪穴	床面?	敲石	細粒閃緑岩	85.5	76.5	42.8	482.4		北上山地　中生代白亜紀	トチ剥き石?
332	99	5号竪穴	堆積土	敲磨器	砂岩	146.3	88.7	49.4	904.6		北上山地　中生代	磨面位置側面
333	73	3号性不	床面	磨製石斧	蛇紋岩	26.7	33.2	7.7	11.2	35°	早池峰山周辺　古生代オルドビス紀	
334	30	2号陥	堆積土	石匙	頁岩	63.1	27.2	12.1	16.7		北上山地　中生代	縦型
335	71	2号陥	堆積土	磨製石斧	蛇紋岩	60.0	45.9	21.4	96.1	58°	早池峰山周辺　古生代オルドビス紀	
336	8	5号陥	堆積土	石鏃	頁岩	24.9	17.5	3.1	1.3	42°	北上山地　中生代	平基

第 14 表　石器観察表２

掲載No.	通しNo.	出土地点	層位	器種	石材	最大長(㎜)	最大幅(㎜)	最大厚(㎜)	重量(g)	先端角･刃部角	産地	備考
337	31	4号土坑	堆積土	石匙	頁岩	53.1	24.2	8.9	9.8		北上山地　中生代	縦型
338	32	4号土坑	堆積土	石匙	頁岩	43.7	17.1	7.6	4.4		北上山地　中生代	縦型
339	124	4号土坑	堆積土	特殊磨石	砂岩	173.0	101.0	65.0	1408.6		北上山地　中生代	
340	123	10号土坑	堆積土	磨製石斧	ヒン岩	70.0	51.0	30.0	1740.8		北上山地　中生代	
341	72	2号焼土	北側トレンチ	磨製石斧	蛇紋岩	43.7	37.5	23.9	43･7		早池峰山周辺　古生代オルドビス紀	
342	9	3号焼土	焼土	石鏃	頁岩	15.3	12.5	2.8	0.4	48°	北上山地　中生代	平基
343	10	ⅡB9f	Ⅱ層	石鏃	赤色頁岩	23.6	14.1	4.7	1.4	51°	北上山地　中生代	平基
344	11	ⅡB10g	Ⅱ層	石鏃	頁岩	29.4	14.9	3.2	1.3	43°	北上山地　中生代	平基
345	12	ⅢA5i	Ⅱ層	石鏃	頁岩	26.9	14.6	5.1	1.7	46°	北上山地　中生代	平基
346	13	ⅡB10b	Ⅲ層	石鏃	頁岩	18.9	15.6	4.9	1.1	58°	北上山地　中生代	平基
347	14	ⅡB10c	Ⅱ層	石鏃	頁岩	32.5	12.8	4.0	1.6	37°	北上山地　中生代	凹基
348	15	谷部西	Ⅲ層	石鏃	頁岩	34.3	20.5	4.5	2.2	41°	北上山地　中生代	凹基
349	16	ⅡB7d	Ⅲ層	石鏃	頁岩	30.2	15.0	3.5	1.3	48°	北上山地　中生代	凹基
350	17	ⅡB9e	Ⅲ層	石鏃	頁岩	21.2	15.2	3.8	0.9	57°	北上山地　中生代	凹基
351	19	ⅢB1c	Ⅲb層	石鏃	頁岩	24.4	13.5	3.4	1.1	52°	北上山地　中生代	凹基
352	18	ⅡB10b	Ⅲ層	石鏃	頁岩	22.9	14.3	4.8	0.9	40°	北上山地　中生代	凹基
353	20	ⅡB7i	Ⅱ層	石鏃	頁岩	24.4	18.1	4.7	1.5	78°	北上山地　中生代	円基
354	21	ⅢB1d	Ⅱ層	石鏃	頁岩	37.3	24.3	8.5	6.6	74°	北上山地　中生代	円基
355	22	ⅡB9e	Ⅱ層	尖頭器	頁岩	45.8	16.1	5.8	3.5	36°	北上山地　中生代	円基
356	23	ⅡB9d	Ⅲb層	尖頭器	頁岩	113.0	32.5	13.0	39.7	40°	北上山地　中生代	摘付(押出型)
357	24	ⅡB5i	Ⅱ層	石錐	頁岩	54.7	43.6	8.8	14.4		北上山地　中生代	摘部有
358	25	ⅡB8g	Ⅱ層	石錐	頁岩	45.5	35.1	8.6	8.8		北上山地　中生代	摘部有
359	26	ⅢA3j	北トレンチ	石錐	ホルンフェルス	37.4	24.2	9.3	6.8		北上山地　中生代	長錐部有
360	33	ⅡB7h	Ⅱ層	石匙	頁岩	126.9	68.3	17.3	74		北上山地　中生代	縦型
361	34	ⅡB10b	Ⅱ層下部	石匙	頁岩	66.3	26.6	9.9	11.4		北上山地　中生代	縦型
362	35	ⅡB10b	Ⅱ層下部	石匙	頁岩	68.8	24.0	10.9	13.1		北上山地　中生代	縦型
363	36	ⅡB10e	Ⅱ層	石匙	頁岩	72.0	16.9	9.5	9.9		北上山地　中生代	縦型
364	37	ⅡB10e	Ⅱ層	石匙	凝灰岩	51.1	31.2	6.6	8.4		北上山地　中生代	縦型
365	38	ⅡB6e	Ⅲ層	石匙	頁岩	95.3	35.6	17.5	28		北上山地　中生代	縦型
366	39	ⅡB8e	Ⅲ層	石匙	頁岩	79.2	25.4	11.1	16.3		北上山地　中生代	縦型
367	40	ⅡB9e	Ⅲ層	石匙	頁岩	69.1	21.7	11.5	11.7		北上山地　中生代	縦型
368	41	ⅡC6c	Ⅲ層	石匙	凝灰岩	38.1	25.4	6.5	4.9		北上山地　中生代	縦型
369	42	ⅢB2d	Ⅲ層	石匙	頁岩	62.3	31.6	12.1	18.2		北上山地　中生代	縦型
370	43	ⅡB10e	Ⅰ層	石匙	頁岩	40.2	67.2	9.0	17.1		北上山地　中生代	横型
371	44	ⅡB10e	Ⅱ層	石匙	頁岩	50.9	47.1	9.5	11.4		北上山地　中生代	横型
372	45	ⅡB9c	Ⅲ層	石匙	頁岩	39.9	61.1	9.2	14.5		北上山地　中生代	横型

第 15 表　石器観察表３

掲載No.	通しNo.	出土地点	層位	器種	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	先端角・刃部角	産地	備考
373	46	ⅡB9d	Ⅲb層	石匙	頁岩	36.3	62.5	10.6	17.5		北上山地　中生代	横型
374	47	ⅡB10e	Ⅱ層	石匙	頁岩	44.6	30.3	7.9	5.4		北上山地　中生代	斜行型
375	48	ⅡB6e	Ⅲb層	石匙	頁岩	39.6	23.8	6.0	3.1		北上山地　中生代	斜行型
376	51	ⅡB8j	Ⅱ層	掻器	頁岩	65.5	29.6	21.8	35.1		北上山地　中生代	押引き型
377	52	ⅡC5b	Ⅲ層	掻器	黒曜石	55.8	38.1	16.5	26.2		不明	
378	53	ⅢB1c	Ⅲa層	掻器	頁岩	93.9	42.5	17.1	56.8		北上山地　中生代	
379	54	ⅡB6e	Ⅲb層	掻器	頁岩	47.5	37.1	12.5	28.3		北上山地　中生代	
380	59	ⅡC2e	Ⅱ層	掻削器	頁岩	32.4	34.0	9.4	7.4		北上山地　中生代	石匙再加工品
381	55	ⅡB8f	Ⅲb層	掻器	頁岩	68.5	39.5	18.0	39.4		北上山地　中生代	
382	60	谷部東	Ⅲa層	削器	頁岩	47.1	38.8	11.6	15.5		北上山地　中生代	
383	61	ⅡB10c	Ⅲb層	削器	頁岩	35.0	50.6	8.1	11.1		北上山地　中生代	
384	64	ⅡB10b	Ⅱ層	楔形石器	頁岩	41.1	28.9	25.4	29.3		北上山地　中生代	
385	65	ⅡB8e	Ⅲ層	楔形石器	頁岩	34.7	27.3	7.4	8.6		北上山地　中生代	
386	66	ⅡB9g	Ⅲb層	楔形石器	頁岩	34.7	27.2	7.1	6.8		北上山地　中生代	
387	67	ⅢA4j	検出面	打製石斧	頁岩	71.4	44.3	13.3	59.4	37°	北上山地　中生代	
388	68	ⅢB1a	Ⅱ層	打製石斧	砂岩	117.0	102.2	35.0	442.9	66°	北上山地　中生代	
389	69	ⅡB9h	Ⅲ層	打製石斧	頁岩	83.8	65.9	29.4	161.4	30°	北上山地　中生代	
390	70	ⅡB10c	Ⅲa層	石核	頁岩	75.0	104.4	43.1	366.3		北上山地　中生代	
391	74	ⅢA3j	北トレンチ	磨製石斧	頁岩	48.6	27.6	8.6	19.2	28°	北上山地　中生代	
392	75	ⅡB10g	Ⅱ層	磨製石斧	細粒花崗閃緑岩	104.4	47.1	20.7	189.5	59°	北上山地　中生代白亜紀	
393	76	ⅡC4c	Ⅱ層	磨製石斧	細粒閃緑岩	87.8	49.4	30.7	217.8	57°	北上山地　中生代白亜紀	
394	77	ⅡB6f	Ⅲ層	磨製石斧	蛇紋岩	64.9	39.3	10.3	40.6	27°	早池峰山周辺　古生代オルドビス紀	
395	78	ⅡB7h	Ⅲ層	磨製石斧	蛇紋岩	98.2	47.4	24.9	159.5		早池峰山周辺　古生代オルドビス紀	
396	79	ⅢB1e	Ⅲ層	磨製石斧	細粒花崗閃緑岩	88.2	46.6	25.0	168.8	51°	北上山地　中生代白亜紀	
397	80	谷部中央	Ⅲa層	磨製石斧	ヒン岩	92.6	55.3	31.2	243.6		北上山地　中生代白亜紀	
398	84	ⅡB10c	Ⅲa層	石核	砂岩	75.7	111.2	81.5	907.6		北上山地　中生代	
399	83	ⅡB3h	Ⅱ層	石核	頁岩	47.8	61.9	40.9	134.9		北上山地　中生代	
400	85	ⅢB1b	Ⅲa層	石核	砂岩	46.3	103.4	83.2	456.8		北上山地　中生代	
401	93	ⅡB5i	Ⅱ層	敲磨器	花崗閃緑岩	88.5	80.0	55.0	546.4		北上山地　中生代白亜紀	
402	94	ⅡB7g	Ⅱ層	敲磨器	花崗岩	94.2	71.2	47.3	467.8		北上山地　中生代白亜紀	
403	95	ⅢA6h	Ⅱ層	敲磨器	花崗閃緑岩	91.2	72.3	59.2	570.6		北上山地　中生代白亜紀	
404	97	ⅡB10c	Ⅲa層	敲磨器	花崗閃緑岩	85.9	76.7	55.1	528.3		北上山地　中生代白亜紀	
405	96	ⅢB3c	Ⅱ層	敲磨器	花崗閃緑岩	139.0	71.1	57.6	747.2		北上山地　中生代白亜紀	
406	100	ⅢB1f	Ⅱ層	敲磨器	砂岩	143.7	77.3	55.0	954.8		北上山地　中生代	磨面位置側面
407	101	谷部西	Ⅲa層	敲磨器	砂岩	125.6	66.5	48.4	601.8		北上山地　中生代	磨面位置側面

第 16 表　石器観察表 4

掲載No.	通しNo.	出土地点	層位	器種	石材	最大長(㎜)	最大幅(㎜)	最大厚(㎜)	重量(g)	先端角・刃部角	産地	備考
408	105	ⅡC3a	Ⅱ層	磨石	砂岩	136.2	81.4	55.0	677.6		北上山地　中生代	磨面位置側面
409	106	ⅡB7g	Ⅲb層	磨石	砂岩	140.7	75.6	46.5	694.9		北上山地　中生代	磨面位置側面
410	107	ⅡB8e	Ⅲb層	磨石	砂岩	131.3	77.6	48.1	705.4		北上山地　中生代	磨面位置側面
411	109	ⅡB9f	Ⅱ層	敲石	ヒン岩	79.1	48.6	33.9	211.6		北上山地　中生代白亜紀	トチ剥き石?
412	111	ⅡC6c	Ⅱ層	敲石	花崗閃緑岩	76.7	72.6	48.6	331.4		北上山地　中生代白亜紀	
413	112	ⅢA4j	Ⅱ層	敲石	デイサイト	122.6	60.6	40.8	382.4		原地山層　中生代白亜紀	
414	110	ⅡB10e	Ⅱ層	敲石	デイサイト	105.0	64.7	43.5	492.3		原地山層　中生代白亜紀	トチ剥き石?
415	113	ⅢB1f	Ⅱ層	敲石	砂岩	103.5	60.3	32.5	302.3		北上山地　中生代	
416	114	ⅡB9h	Ⅲ層	敲石	花崗閃緑岩	82.9	58.3	53.4	360.3		北上山地　中生代白亜紀	
417	115	ⅢB1e	Ⅲa層	敲石	花崗岩	101.6	69.7	47.8	415.9		北上山地　中生代白亜紀	
418	116	ⅡB6f	Ⅲb層	敲石	砂岩	50.8	58.5	41.5	156		北上山地　中生代	
419	117	ⅡB10c	Ⅱ層	棒状石器	細粒花崗閃緑岩	101.4	66.6	46.1	476.2		北上山地　中生代白亜紀	石棒か石斧の未成品
420	118	ⅡB7d	Ⅲ層	石皿	流紋岩	135.2	95.1	51.9	1086		北上山地　中生代白亜紀	
421	119	ⅡB5h	試掘トレンチ一括	台石	花崗閃緑岩	187.8	188.0	75.0	3834.5		北上山地　中生代白亜紀	
422	120	ⅡB7h	Ⅱ層	台石	花崗閃緑岩	186.2	148.6	78.6	3113.1		北上山地　中生代白亜紀	
423	121	ⅢB1b	Ⅲa層	石皿	花崗閃緑岩	332.0	235.0	97.0	1002.0		北上山地　中生代白亜紀	
424	122	ⅡB10e	Ⅲ層	石皿	花崗閃緑岩	280.0	221.0	167.0	1200.0		北上山地　中生代白亜紀	

Ⅴ　自然科学分析

1．放射性炭素年代測定（ＡＭＳ）

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

長途遺跡（岩手県下閉伊郡普代村第19地割字白井地内に所在）は、縄文～弥生時代の竪穴建物跡、焼土、墓壙、土坑、陥し穴状遺構などが検出されている。今回、遺構の構築年代に関する情報を得るために放射性炭素年代測定を実施した。

1. 試　　料

今回年代測定を行う試料は、２号焼土サンプルから採取された炭化材（資料1)、４号焼土サンプルから採取された炭化材（資料2)、５号焼土サンプルから採取された炭化材（資料3)、６号焼土サンプルから採取された炭質物（資料4)、３号土坑土器１外側口縁付近から採取された炭質物（資料5)、３号土坑土器1内側底部付近から採取された炭質物(資料6)、５号土坑から採取された炭質物(資料7)、４号土坑埋土から採取された炭質物（資料8)、ⅡＢ 8E から採取されたⅢｂ層の赤さび（資料9）の合計９点である。

本来は資料１～８を分析する予定であったが、いずれの試料も少量かつ脆弱で、測定不能となる可能性があったため、予備試料である試料９を含めた９点を分析する。なお、試料の詳細は結果とともに表示する。なお、想定される年代は、資料1･5～８が縄文時代前期、資料２～４が縄文～弥生時代、資料９が旧石器～縄文時代前期とされている。

2. 分析方法

炭化物に付着する土壌を、できるだけ取り除く。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。本来の濃度は HCl、NaOH 共に最大１mol/L であるが、今回の試料はいずれも少量、脆弱であるため、試料の損耗を防ぐためアルカリ濃度を薄くする（AaA)。特に試料２は試料が微量であったため、アルカリ処理を実施しない。試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径１㎜の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C)、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ)、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料（IAEA-C1 等）の測定も行う。

δ^{13}C は試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定

年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach,1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウエアは、Calib7.1 を用いる。較正曲線は Intcal13（Reimer et al.,2013）を用いる。

表 1. 放射性炭素年代測定結果

番号	遺構	試料名	状態（種類）	形状	樹皮	年輪数	処理法	δ 13C（‰）	年代値（BP）	暦年較正用	Code No.		備考
資料 1	2号焼土	焼土サンプル	炭化材（クリ）	微細片（多数）	無	不明	0.001M（AAA）	−25.9 ± 0.387	1890 ± 20	1888 ± 20	pal-10479	YU-5626	樹種は、最大の破片
資料 2	4号焼土	焼土サンプル	炭化材（クリ）	微細片（1 片）	無	不明	HCl（Poor）	−23.0 ± 0.498	935 ± 20	934 ± 21	pal-10480	YU-5627	
資料 3	5号焼土	焼土サンプル	炭化材（クリ）	破片（16 片）	無	1-2 年	0.1M（AaA）	−26.8 ± 0.413	2330 ± 20	2328 ± 21	pal-10481	YU-5628	破片の接合関係は不明
資料 4	6号焼土	焼土サンプル	炭質物	−	−	−	0.001M（AAA）	−26.7 ± 0.3	3005 ± 20	3005 ± 22	pal-10482	YU-5629	
資料 5	3号土坑 土器 1	外側口縁付近	炭質物	−	−	−	0.05M（AAA）	−25.5 ± 0.3	5325 ± 25	5324 ± 24	pal-10483	YU-5630	
資料 6	3号土坑 土器 1	内側底部付近	炭質物	−	−	−	0.05M（AAA）	−27.5 ± 0.3	5365 ± 25	5365 ± 25	pal-10484	YU-5631	
資料 7	5号土坑		炭質物	−	−	−	0.05M（AAA）	−24.2 ± 0.4	6025 ± 25	6024 ± 25	pal-10485	YU-5632	
資料 8	4号土坑埋土		炭質物	−	−	−	0.05M（AAA）	−22.7 ± 0.3	5525 ± 25	5526 ± 24	pal-10486	YU-5633	
資料 9	ⅡB 8E	Ⅲb 層の赤さび	炭化材（クリ）	破片	無	不明	0.001M（AAA）	−29.9 ± 0.5	5325 ± 25	5324 ± 24	pal-10487	YU-5634	

3. 結　　果

結果を表 1 に示す。分析試料はいずれも、少量、脆弱であるため、試料の損耗を防ぐためアルカリ濃度を薄くして処理した。特に資料 2 は試料が微量であったため、アルカリ処理を実施しなかった。資料 2 を除く 8 点は、年代測定行うのに十分な炭素を回収できたが、資料 2 は必要量の半分程度であった。

同位体補正を考慮した年代値は、資料 1 は 1890 ± 20BP、資料 2 は 935 ± 20BP、資料 3 は 2330 ± 20BP、資料 4 は 3005 ± 20BP、資料 5 は 5325 ± 25BP、資料 6 は 5365 ± 25BP、資料 7 は 6025 ± 25BP、資料 8 は 5525 ± 25BP、資料 9 は 5325 ± 25BP である。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪（年輪は細胞壁のみなので、形成当時の ^{14}C 年代を反映している）等を用いて作られており、最新のものは 2013 年に発表された Intcal13（Reimer et al.,2013）である。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが（Stuiver & Polach 1977）、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う比較、再計算がしやすいように、表には丸めない値（1 年単位）を記し（表 2）、文章中では丸めた値を記す。

2σ の値は、資料 1 は 1885 ～ 1740calBP、資料 2 は 915 ～ 795calBP、資料 3 は 2355 ～ 2330calBP、資料 4 は 3325 ～ 3080calBP、資料 5 は 6185 ～ 6000calBP、資料 6 は 6275 ～ 6015calBP、資料 7 は 6940 ～ 6795calBP、資料 8 は 6395 ～ 6285calBP、資料 9 は 6185 ～ 6000calBP、である。

想定される年代と比べてみると、特に縄文時代前期と想定されている資料 1、縄文～弥生時代と想定されている資料 2 が新しい。資料 1 は試料の損耗を防ぐため通常の千分の一の濃度で処理を行っており、資料 2 はアルカリ処理を行わず、さらに最終的な炭素量が定法の半分程度であった。このように、試料が少量かつ脆弱であったため、試料の損耗を防ぐため強い薬品を使えなかった結果、後代の汚染を十分に取り切れなかったため、新しい測定年代が出た可能性がある分に取り切れなかったため、新しい測定年代が出た可能性がある。

表 2.　暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代																相対比	中央値	Code No.	
		年代値																			
資料 1	1888 ± 20	σ	cal	AD	84	–	cal	AD	128	cal	BP	1866	–	1822	1.000	calAD	pal-	YU-
		2 σ	cal	AD	65	–	cal	AD	172	cal	BP	1885	–	1778	0.967	106	10479	5626
			cal	AD	193	–	cal	AD	210	cal	BP	1757	–	1740	0.033			
資料 2	934 ± 21		cal	AD	1040	–	cal	AD	1053	cal	BP	910	–	897	0.152	calAD	pal-	YU-
		σ	cal	AD	1080	–	cal	AD	1109	cal	BP	870	–	841	0.374	1097	10480	5627
			cal	AD	1116	–	cal	AD	1152	cal	BP	834	–	798	0.474			
		2 σ	cal	AD	1034	–	cal	AD	1155	cal	BP	916	–	795	1.000			
資料 3	2328 ± 21	σ	cal	BC	403	–	cal	BC	391	cal	BP	2352	–	2340	1.000	calBC	pal-	YU-
		2 σ	cal	BC	408	–	cal	BC	379	cal	BP	2357	–	2328	1.000	397	10481	5628
資料 4	3005 ± 22	σ	cal	BC	1275	–	cal	BC	1214	cal	BP	3224	–	3163	1.000	calBC	pal-	YU-
			cal	BC	1374	–	cal	BC	1355	cal	BP	3323	–	3304	0.043	1244	10482	5629
		2 σ	cal	BC	1301	–	cal	BC	1190	cal	BP	3250	–	3139	0.894			
			cal	BC	1179	–	cal	BC	1161	cal	BP	3128	–	3110	0.029			
			cal	BC	1144	–	cal	BC	1130	cal	BP	3093	–	3079	0.033			
資料 5	5324 ± 24		cal	BC	4233	–	cal	BC	4224	cal	BP	6182	–	6173	0.080	calBC	pal-	YU-
		σ	cal	BC	4207	–	cal	BC	4161	cal	BP	6156	–	6110	0.379	4146	10483	5630
			cal	BC	4131	–	cal	BC	4071	cal	BP	6080	–	6020	0.541			
		2 σ	cal	BC	4237	–	cal	BC	4053	cal	BP	6186	–	6002	1.000			
資料 6	5365 ± 25		cal	BC	4319	–	cal	BC	4294	cal	BP	6268	–	6243	0.217	calBC	pal-	YU-
		σ	cal	BC	4264	–	cal	BC	4228	cal	BP	6213	–	6177	0.485	4236	10484	5631
			cal	BC	4199	–	cal	BC	4171	cal	BP	6148	–	6120	0.273			
			cal	BC	4088	–	cal	BC	4084	cal	BP	6037	–	6033	0.026			
		2 σ	cal	BC	4326	–	cal	BC	4284	cal	BP	6275	–	6233	0.204			
			cal	BC	4271	–	cal	BC	4223	cal	BP	6220	–	6172	0.376			
			cal	BC	4208	–	cal	BC	4155	cal	BP	6157	–	6104	0.255			
			cal	BC	4131	–	cal	BC	4066	cal	BP	6080	–	6015	0.166			
資料 7	6024 ± 25		cal	BC	4957	–	cal	BC	4894	cal	BP	6906	–	6843	0.771	calBC	pal-	YU-
		σ	cal	BC	4887	–	cal	BC	4885	cal	BP	6836	–	6834	0.024	4918	10485	5632
			cal	BC	4868	–	cal	BC	4850	cal	BP	6817	–	6799	0.205			
		2 σ	cal	BC	4990	–	cal	BC	4845	cal	BP	6939	–	6794	1.000			
資料 8	5526 ± 24	σ	cal	BC	4439	–	cal	BC	4425	cal	BP	6388	–	6374	0.177	calBC	pal-	YU-
			cal	BC	4370	–	cal	BC	4340	cal	BP	6319	–	6289	0.823	4346	10486	5633
		2 σ	cal	BC	4447	–	cal	BC	4417	cal	BP	6396	–	6366	0.228			
			cal	BC	4403	–	cal	BC	4336	cal	BP	6352	–	6285	0.772			
資料 9	5324 ± 24		cal	BC	4233	–	cal	BC	4224	cal	BP	6182	–	6173	0.080	calBC	pal-	YU-
		σ	cal	BC	4207	–	cal	BC	4161	cal	BP	6156	–	6110	0.379	4146	10487	5634
			cal	BC	4131	–	cal	BC	4071	cal	BP	6080	–	6020	0.541			
		2 σ	cal	BC	4237	–	cal	BC	4053	cal	BP	6186	–	6002	1.000			

1）計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1 を使用
2）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3）1 桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線やプログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
4）統計的に真の値が入る確率は σ は 68％、2 σ は 95％ である
5）相対比は、σ、2 σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。
6）中央値は、確率分布図の面積が二分される値を年代値に換算したもの。

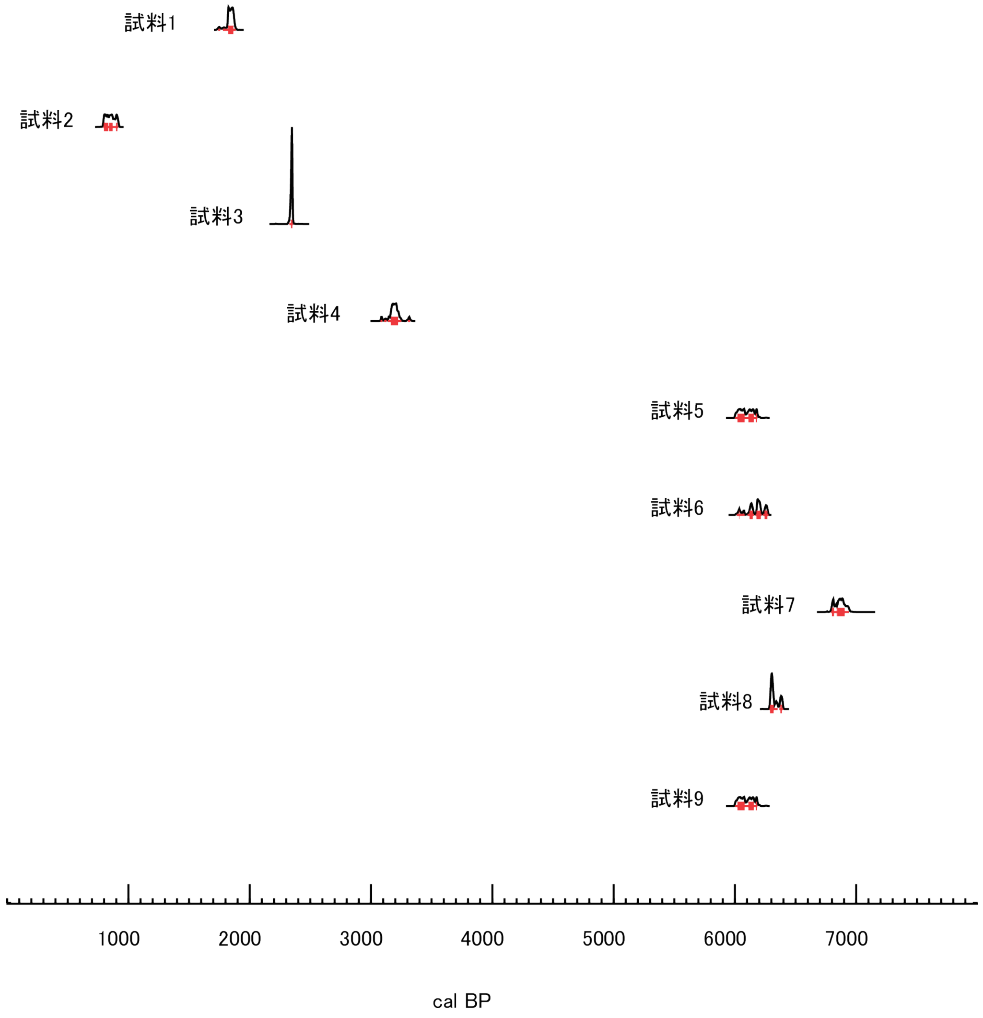


図1　暦年較正結果

引用文献

Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Haflidason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J. ,2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon , 55, 1869-1887.

Stuiver M, & Polach AH,1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.

Ⅵ　総　　括

１．概　　要

調査成果はⅣ章記載とおりである。

検出遺構は竪穴建物５棟（縄文前期４棟、弥生後期１棟）、土坑 11 基（縄文前期;フラスコ状１基、墓壙１基、土坑９基）、陥し穴状土坑８基（縄文後期以降；平面溝状）、焼土７基（縄文～弥生）、性格不明遺構３基（縄文前期）、遺物包含層１箇所（縄文前期；約 200㎡）である。

出土遺物は、縄文土器（前期）大コンテナ（42 × 32 × 30㎝）27 箱、弥生土器（中～後期）小コンテナ（42 × 32 × 10㎝）0.25 箱、縄文石器（前期）①剥片石器（石鏃・尖頭器・石匙・石錐・削器･掻器･剥片等）小コンテナ３箱、②礫石器（磨製石斧、磨石、特殊磨石、敲石等）中コンテナ（42 × 32 × 20㎝）６箱、土製紡錘車１点（弥生後期）である。

２．検　出　遺　構

竪穴建物は、検出面、地層、出土遺物から、１～３・５号竪穴建物が To-Cu 降下前の縄文時代前期前葉、４号竪穴建物が弥生後期である。縄文時代前期前葉の建物は平面が長方形･長楕円形が多く、ロングハウスを伴う事例も報告されている。近隣の調査事例では普代村力持遺跡、久慈市芦ヶ沢Ⅰ・Ⅱ遺跡がある。本遺跡では１・５号竪穴建物が平面長方形である。主柱穴は判然としない。時期は出土遺物から大木２a 式期であるが、１・２・５号竪穴建物の To-Cu 堆積層は床面ではなく、堆積土上部にある。そのため、To-Cu 降下前には廃絶されていたと考えられる。一方、本遺跡と同じ普代村に所在する力持遺跡では、床面直上に To-Cu の堆積する建物が一定数認められ、大木２a 式と大木２b 式が多く出土している。そのため、本遺跡が大木２a 式期のなかでもより古相、力持遺跡が新相を主体とした集落の可能性も考えられる。Ｓ字状連鎖沈文を指標とする大木２b 式土器は、二戸市中曽根Ⅱ遺跡などTo－Cuを跨いで出土した事例と､山田町沢田Ⅰ遺跡など同テフラ下位とする事例があり、解決をみていない。ただ、To-Cu 直下で出土する事例が近年増加しており、力持遺跡でも To － Cu 直下で大木２b 式土器出土遺構が散見される。同様の状況は､遠野市綾織新田遺跡､大槌町赤浜Ⅱ遺跡、久慈市芦ヶ沢Ⅰ・Ⅱ遺跡でも確認されている。これら最近の事例を踏まえると、To-Cu 降下と大木２b 式の新旧関係は未だ明確でない状況に変わりないものの、テフラ降下時期は限りなく大木２b 式土器が製作された時期の範疇である可能性が高い（つまり To － Cu 降下は大木２b 式期になることが言及できると判断される）。

性格不明遺構は、建物の可能性も否定できないが、底面の凹凸が顕著で、主柱穴が不明なことから建物とは捉えなかった。

溝状の陥し穴状土坑について、縄文時代後期以降に主体となる形状である。２～８号陥し穴状土坑は調査区中央部谷底状地形に密集し、列状配置である。

土坑は、縄文時代前期前葉と考えられる。１号土坑は貯蔵施設の可能性のあるフラスコ状土坑である。谷底状地形には２～ 11 号土坑が位置し土坑群を構成する。容積規模は、２・３・６～９・11 号土坑が小型、４・５・10 号土坑が大型に二分される。平面形は規模小型が楕円形、規模大型が長方形主体である。これらのうち、人為的堆積層が存在し、土器が完形に近い形状で出土する３・５号土坑は墓壙の可能性がある。また､容積特大型深鉢（№85）が出土した６号土坑は廃棄穴と考えられる。ただ、墓壙としても否定できないことから、類例がほとんどない大木２a 式期の墓壙の手掛かりとな

る資料の可能性もある。

Ⅱ層面検出焼土を遺構として登録した。弥生時代と考えらえる。

捨て場状遺構は、谷底状地形に堆積するⅡ～Ⅲ層へ遺物が廃棄された範囲について認知することとした。谷底状地形内では、縄文時代前期の居住施設はなく、廃棄穴、あるいは墓壙と考えられる土坑が散在する。この範囲は集落内で捨て場・モノ送り場と認識されていたと考えられる。

3．出　土　遺　物

（1）縄　文　時　代

縄文土器はTo-Cu降下前の前期前葉が主体的に出土した。当該期で出土を確認できたのは、大木１式～２a式、大木２a式、大木２b式、早稲田６類（６類a)、白座式である。今回の調査成果から、以下の３点を指摘しておきたい。

①　本遺跡資料は、大木１式と大木２a式の過渡期若しくは大木２a式古段階を含む土器群の可能性がある。地文の構成要素として非結束羽状縄文や単軸絡条体を主体とし、環付き末端ループは非常に少ない（※確認できたのは１点)。また、大木２a式では、組縄縄文は認めがたく、組紐は次の大木２b式から採用されることを指摘できそうである。

②　大木諸型式と早稲田６類の並行関係の方向性を示す資料を得られた。今後への問題提起含みで考察するなら、早稲田６類aと大木１～２a式（古？）は並行関係と推定され、将来的に大木２a式が新古段階に二分できれば、さらに細部の検討が可能になると展望する。

③　大木諸型式と白座式の関係について、本遺跡で出土した白座式は大木２b式期の可能性が窺える一方で大木２a式とも並行関係にあることを匂わせる。

第56・57図には主体を占めるⅠ群１類～５類について、代表的なものを抽出し示した。集成図の作成に際しては、Ⅰ群４類（早稲田６類）→Ⅰ群１類（大木１～２a式）→Ⅰ群２類（大木２a式）→Ⅰ群２～３類（大木２a～２b式）→Ⅰ群３類（大木２b式）→Ⅰ群５類（白座式）→Ⅰ群３・５類（大木２b・白座式）の順に編集した。

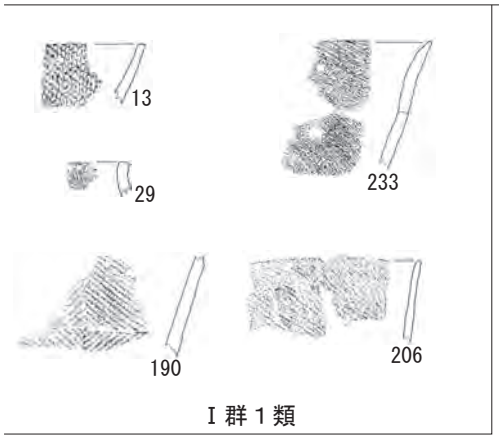
縄文時代の石器組成について、本遺跡は石匙・掻器・削器等のスクレーパーの数量が多い。尖頭器は、摘状基部をもつ押出型尖頭器が出土している。石匙では摘部と直行する刃部をもつ縦型が主体である。摘部をもつ石器は、押出型尖頭器、石匙、石錐があるが、摘部は縄文早期には石匙に適用されており、尖頭器にもその時期まで遡る可能性があるが、今のところ尖頭器は草創期以来継続する有舌尖頭器の系譜が早期や前期初頭まで追うことができるので、押出型尖頭器の出現は大木２a式期以降と考えられる。

（2）弥　生　時　代

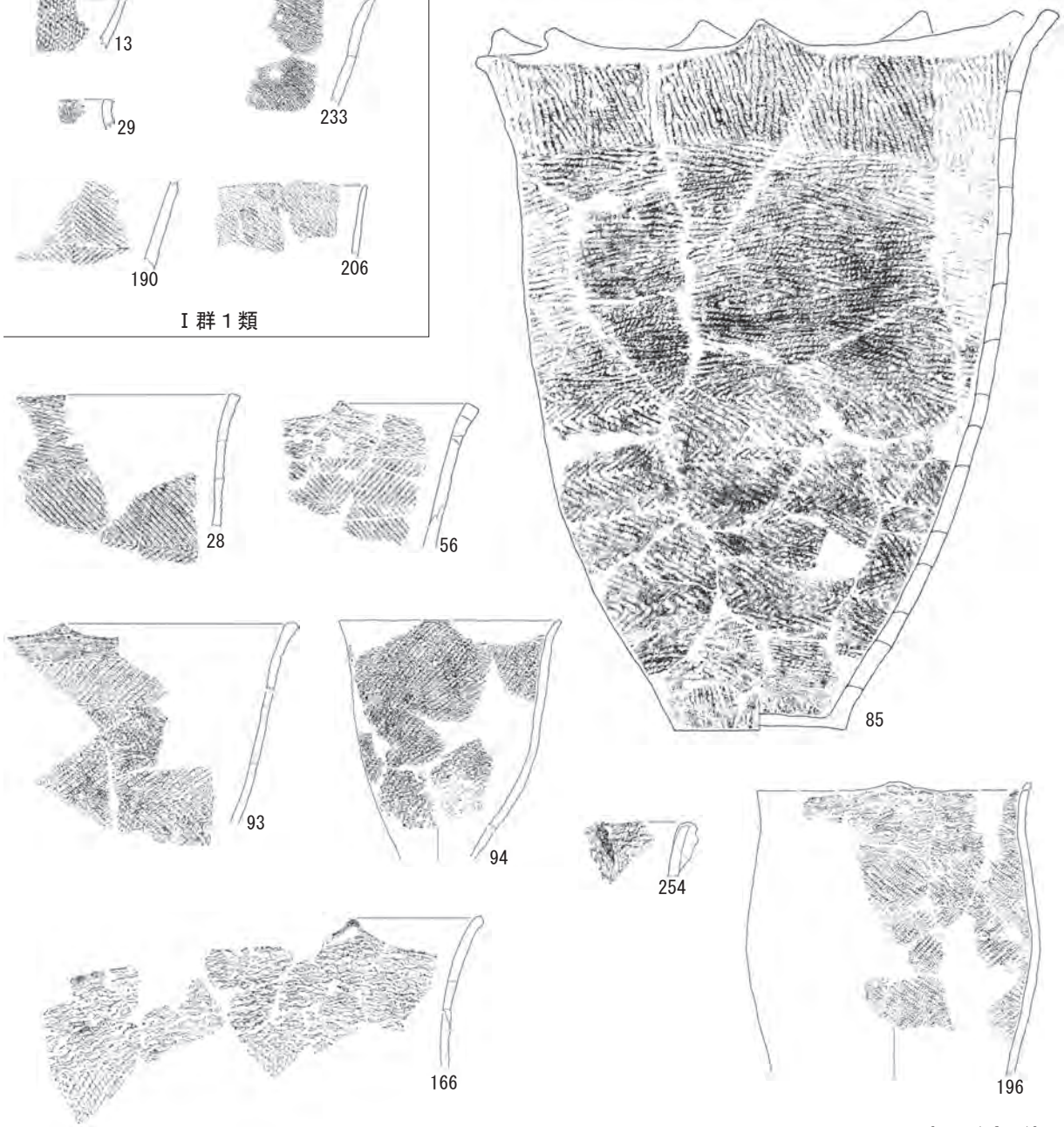
弥生土器はＲＬ縄文を地文とし、沈線で波状を表現した後期の土器が出土している。本遺跡出土の沈線文系は弥生時代中期末～後期初頭の天王山式、ＲＬ縄文施文土器はその胎土の特徴から後期前葉の赤穴式と考えられる。

弥生時代の土製品は、土製紡錘車が１点出土している。円盤状は全国的に弥生中期～後期の主体であり、古墳時代になると、断面台形の円錐形が主体となっていくので、本資料は弥生時代後期の特徴を良く表していると考えられる。

Ⅰ群４類

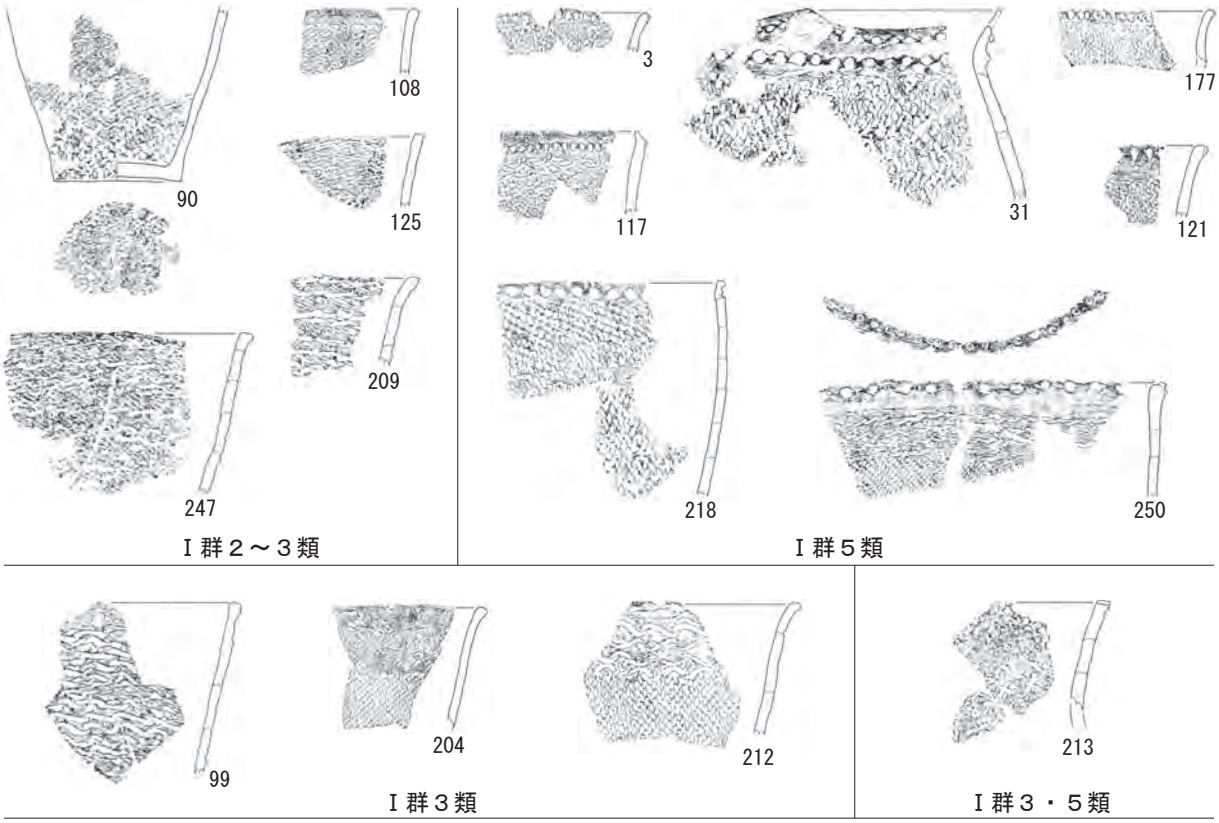


Ⅰ群１類



Ⅰ群２類

第56図　土器集成図１



第57図　土器集成図２

４．ま　と　め

2016 年度調査によって、縄文時代前期前葉の集落、縄文時代後期以降の狩猟地、弥生時代後期の集落であることが判明した。遺跡範囲は村道（旧国道 45 号）に沿った東側は道路敷設及び、上水道敷設工事のため削平されているが、西側は集落や狩猟地に伴う遺構が広がっていると考えられる。

参考・引用文献

＜報告書＞

※岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターを岩文振埋セ、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は集数記載。

岩文振埋セ　2000『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』第 318 集

岩文振埋セ　2008『力持遺跡発掘調査報告書』第 510 集

岩文振埋セ　2009『木戸井内Ⅳ遺跡・隠里Ⅲ遺跡発掘調査報告書』第 529 集

岩文振埋セ　2018『芦ヶ沢Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』第 685 集

山形県教育委員会　1990『押出遺跡発掘調査報告書（本文編）』山形県埋蔵文化財調査報告書第 150 集

山形県教育委員会　1990『押出遺跡発掘調査報告書（図版・表・分析編）』山形県埋蔵文化財調査報告書第 150 集

（公財）山形県埋蔵文化財センター　2017『押出遺跡６次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 227 集

遠野市教育委員会 2002　『新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』

二戸市教育委員会 1981　『中曽根Ⅱ遺跡発掘調査報告書』

＜論文・図録等＞

岩手県立博物館　1990『北の鉄文化』（財）岩手県文化振興事業団

小笠原雅行　2000「円筒下層ａ式といわゆる白座式について－現状と問題の把握－」『村越潔先生古稀記念論集』

工藤崇・佐々木寿　2007「十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年」『地学雑誌』116-5

佐藤達夫　1983「青森県上北郡早稲田貝塚　第二次調査概報」『東アジアの先史文化と日本』

大工原豊　2008「第４章縄文石器の型式変化に関する研究－範型・模倣・模造・型式変化－」p153 ～ 184『縄文石器研究序論』

早瀬亮介　2006「前期大木式土器」『総覧　縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

星雅之・茅野嘉雄 2006「十和田中掫テフラからみた円筒下層ａ式土器成立期の土器様相」『三内丸山遺跡の生態系史』植生史研究特別２号　日本植生史学会

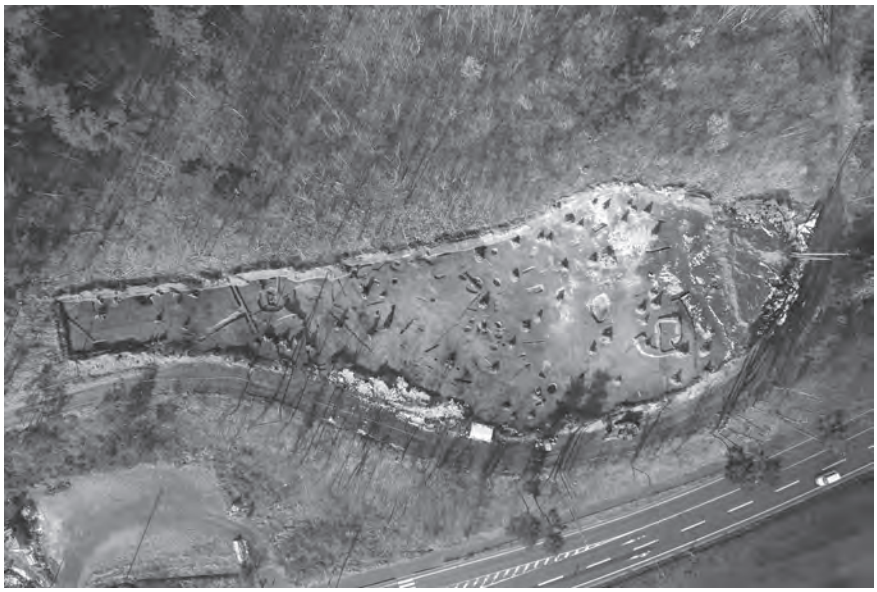
写　真　図　版

調査区遠景（現況）

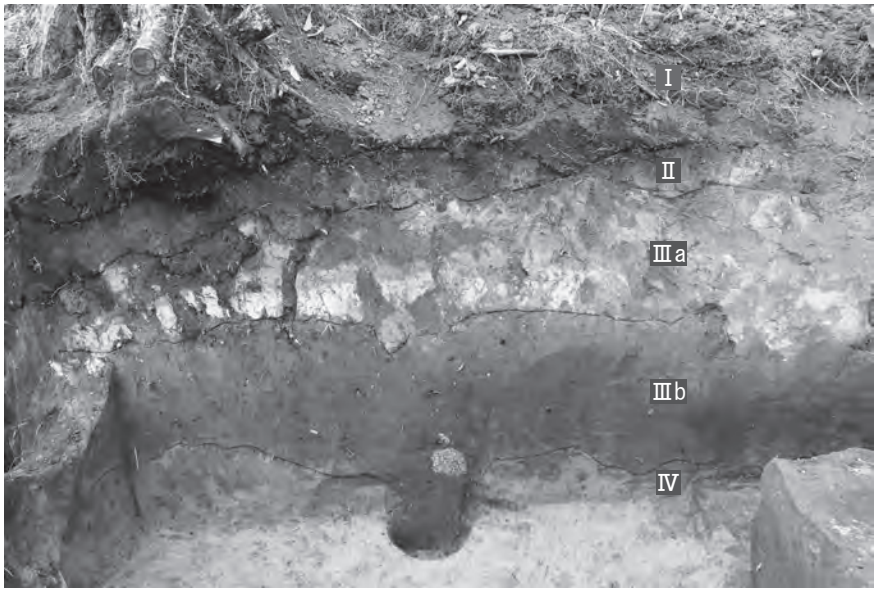
調査区遠景（完掘）

写真図版１　遺跡遠景

調査区現況

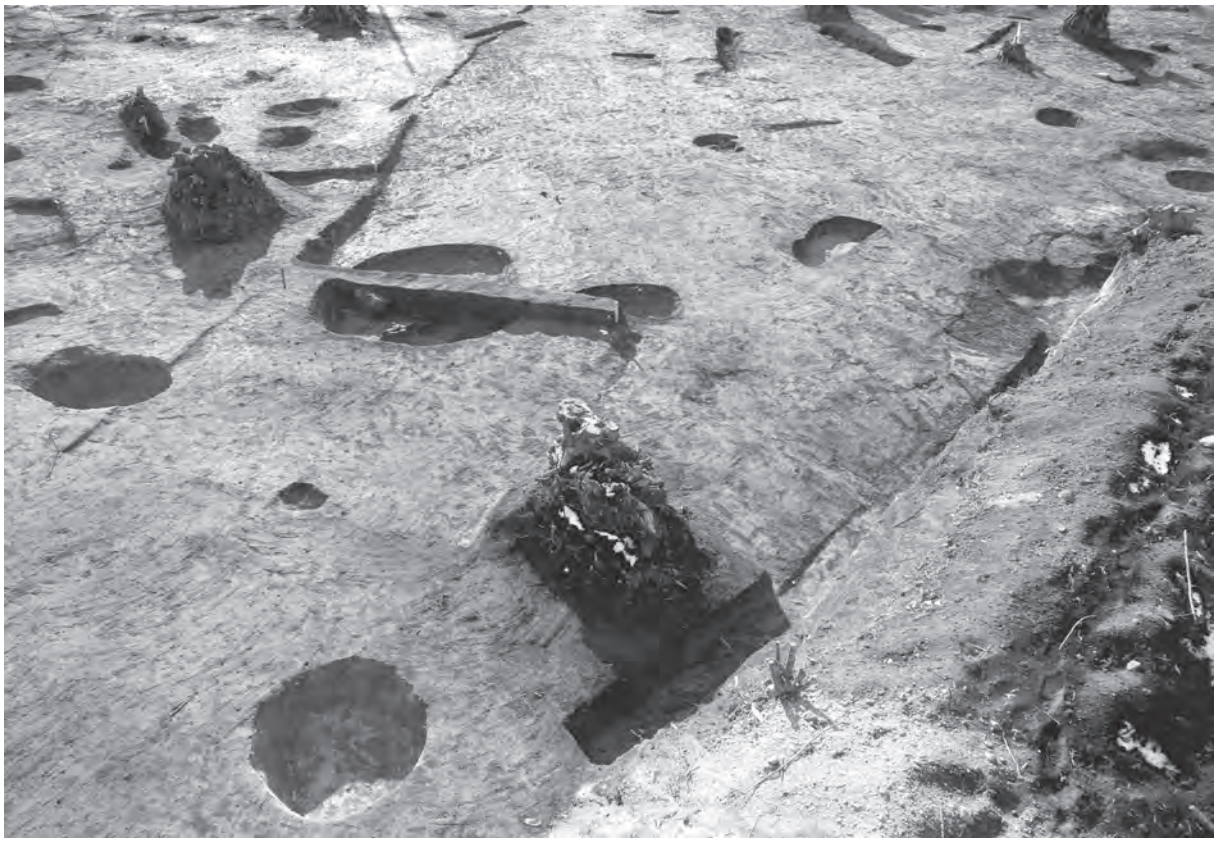


調査区完掘



基本土層　Ⅰ～Ⅳ層（東→）

写真図版２　調査区全景・基本土層



土坑群近景（北→）

谷部Ⅲａ層検出（北→）

谷部Ⅲａ層除去後（西→）

調査区北端斜面部Ⅲ層完掘（西→）

調査区北部近景（北西→）

写真図版３　調査区近景

近景（北西→）

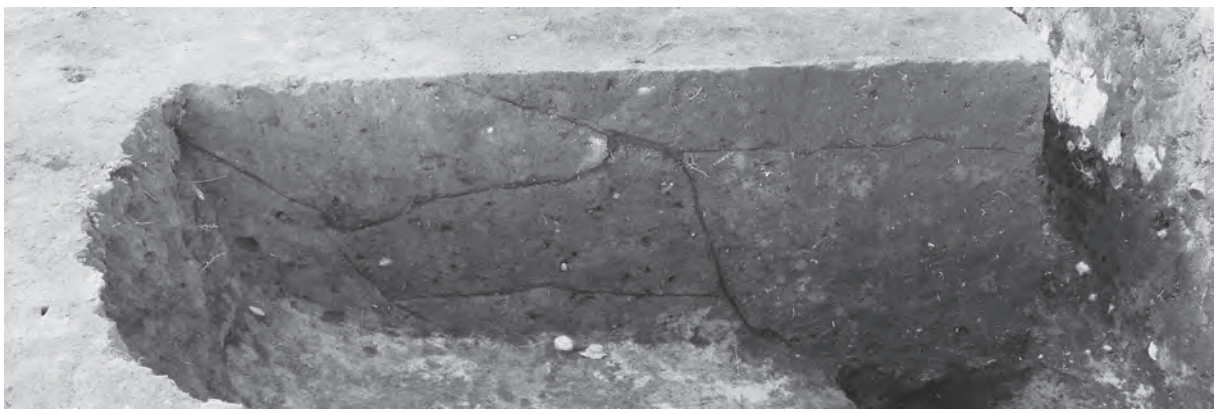
断面（南→）

断面（東→）

写真図版４　１号竪穴建物

近景（南→）

断面（南東→）



断面（北東→）

写真図版５　２号竪穴建物

近景（西→）

断面（西→）

断面（南→）

西壁際断面（北→）

写真図版６　３号竪穴建物

近景（南西→）

断面（南→）

断面（西→）

Ｐ２断面（南→）

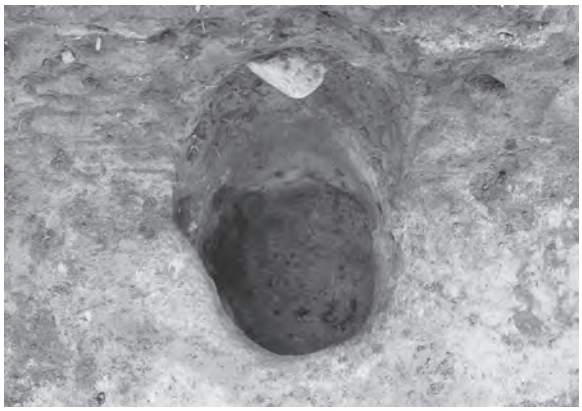
焼土１断面（西→）

写真図版７　４号竪穴建物

近景（東→）

断面（西→）

断面（西→）



Ｐ５近景（北東→）

Ｐ1断面（東→）

写真図版８　５号竪穴建物

１・２号性格不明遺構近景（北→）

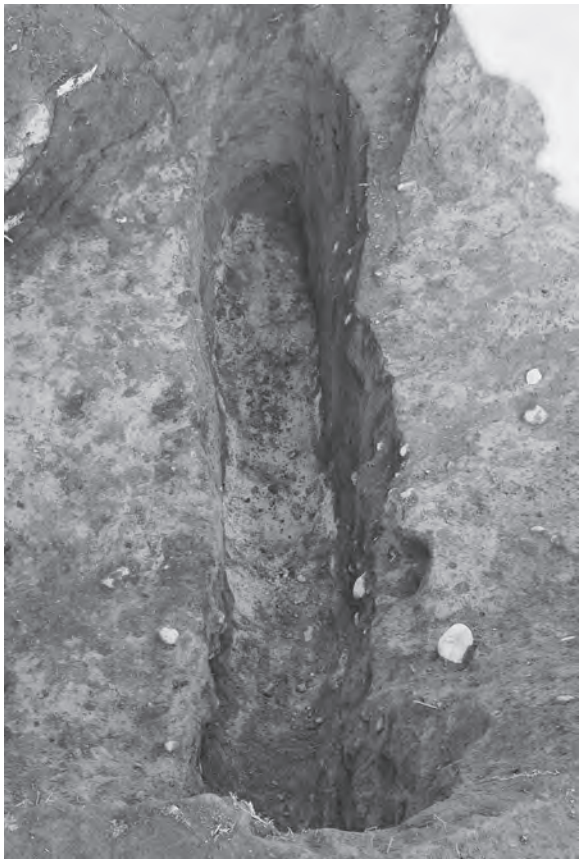
１号性格不明遺構上層遺物出土（西→）

１・２号性格不明遺構断面（東→）

１・２号性格不明遺構断面（南→）

３号性格不明遺構近景（東→）

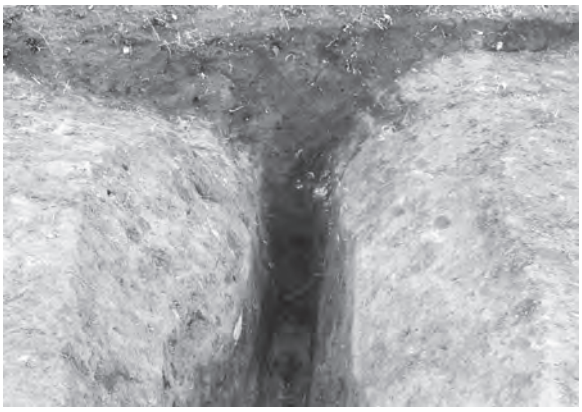
１号陥し穴状土坑断面（西→）



１号陥し穴状土坑近景（南→）

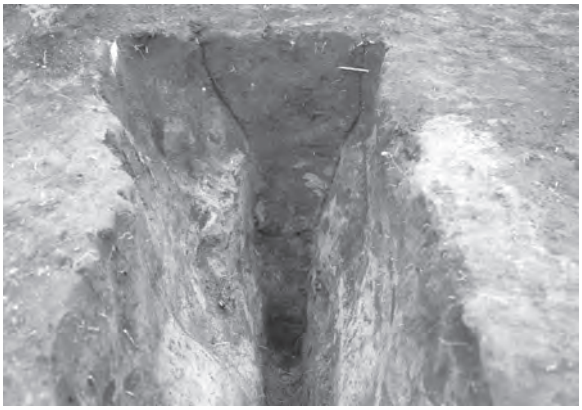
写真図版９　１～３号性格不明遺構、１号陥し穴状土坑

２号陥し穴状土坑近景（南→）



２号陥し穴状土坑断面（南→）

３号陥し穴状土坑近景（南→）



３号陥し穴状土坑断面（南→）

４号陥し穴状土坑近景（南→）

４号陥し穴状土坑断面（南→）

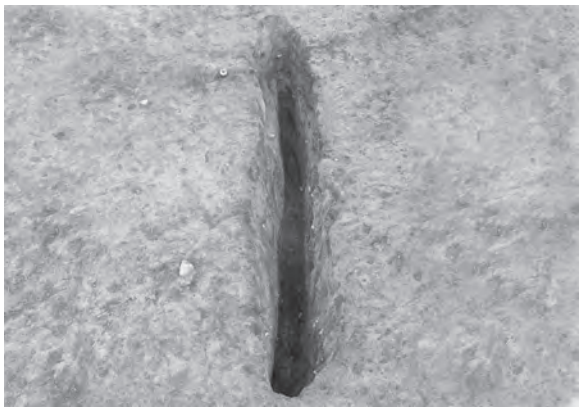
５号陥し穴状土坑近景（南→）

５号陥し穴状土坑断面（南→）

写真図版10　２～５号陥し穴状土坑

６号陥し穴状土坑近景（南→）

６号陥し穴状土坑断面（南→）



７号陥し穴状土坑近景（南→）

７号陥し穴状土坑断面（南→）

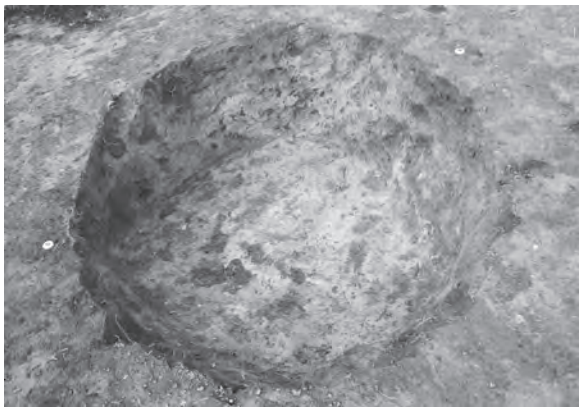
８号陥し穴状土坑近景（南西→）

８号陥し穴状土坑断面（南西→）

１号土坑近景（西→）

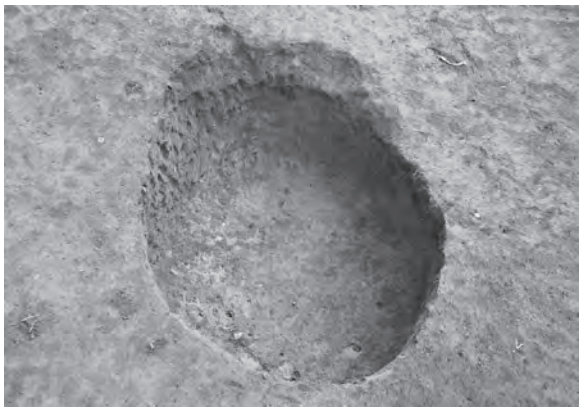
１号土坑断面（西→）

写真図版11　６～８号陥し穴状土坑、１号土坑



２号土坑近景（南→）

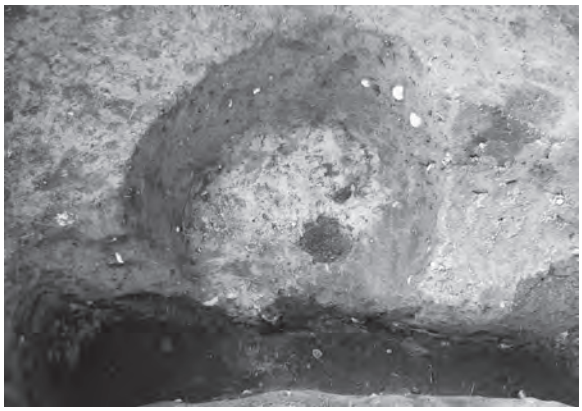
２号土坑断面（東→）



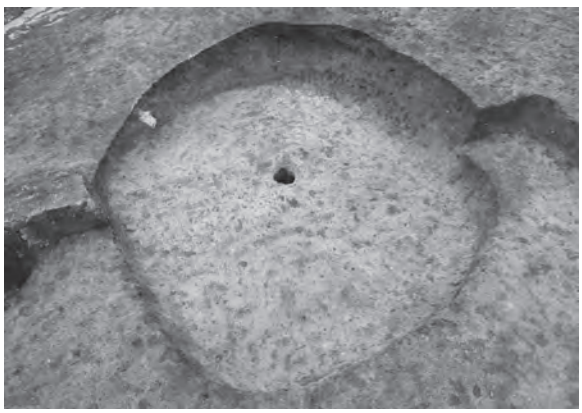
３号土坑近景（西→）

３号土坑遺物出土（西→）

３号土坑断面・遺物出土（西→）



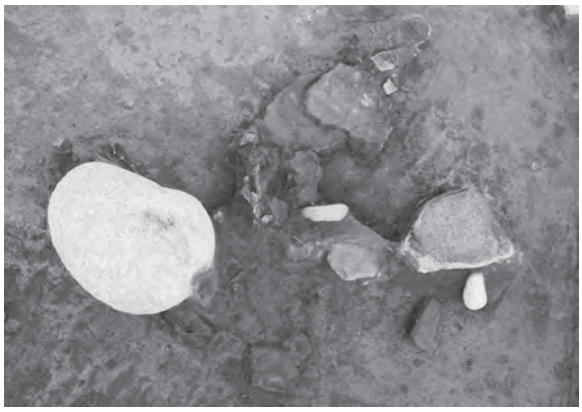
９号土坑近景（東→）



４号土坑近景（南→）

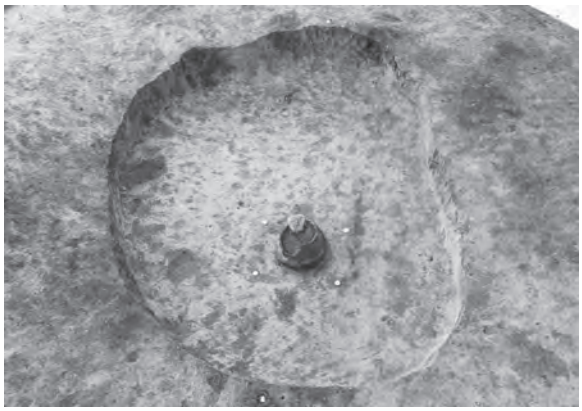
４号土坑遺物出土状況（西→）

写真図版12　２～４・９号土坑



４号土坑土器出土状況（直上→）

4号土坑断面（南→）

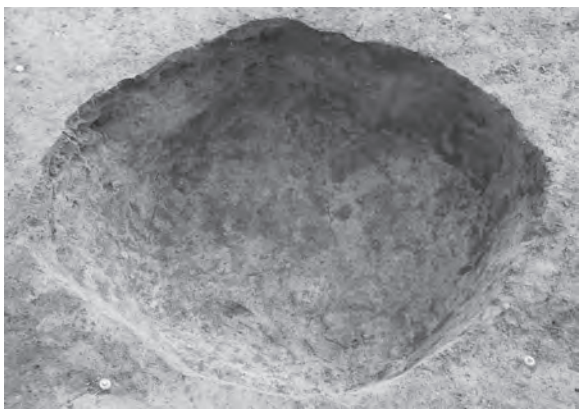


５号土坑近景（北→）

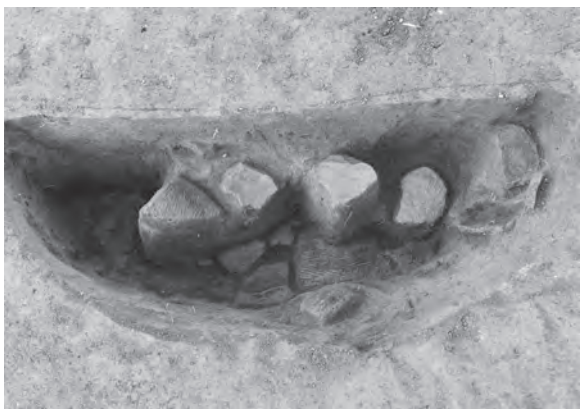
５号土坑遺物出土状況①（西→）

５号土坑遺物出土状況②（西→）

５号土坑断面（南東→）

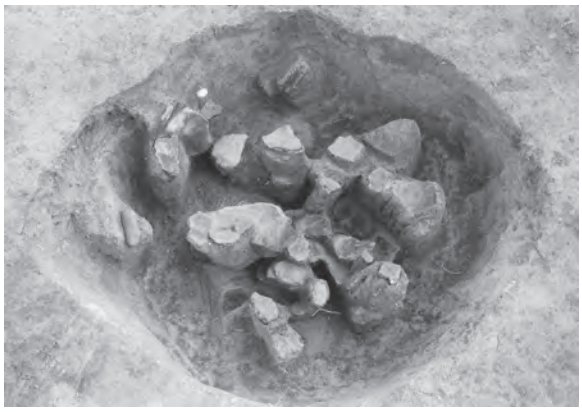


６号土坑近景（北西→）



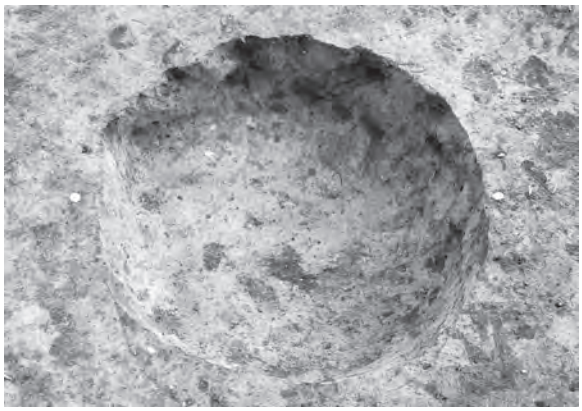
６号土坑土器出土状況①（南→）

写真図版13　４～６号土坑



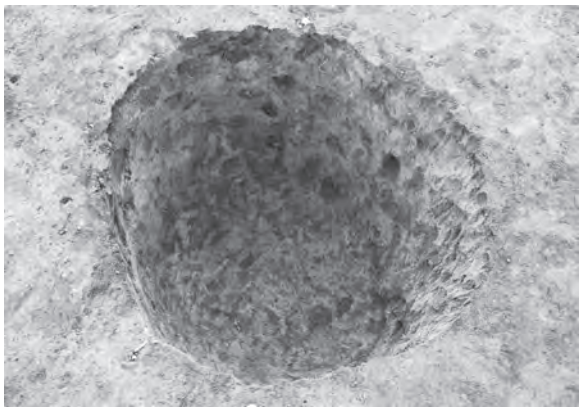
６号土坑土器出土状況②（西→）

６号土坑土器出土状況③（西→）

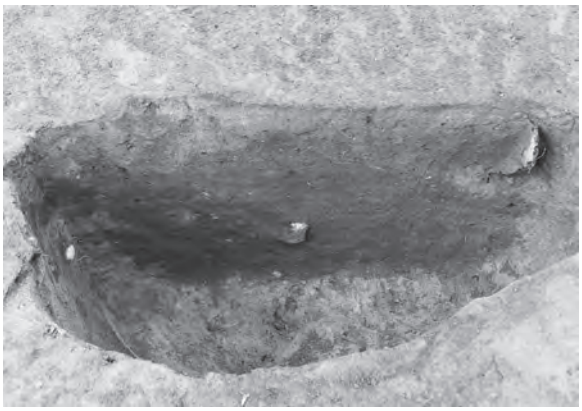


７号土坑近景（西→）

７号土坑断面（東→）



8号土坑近景（南東→）

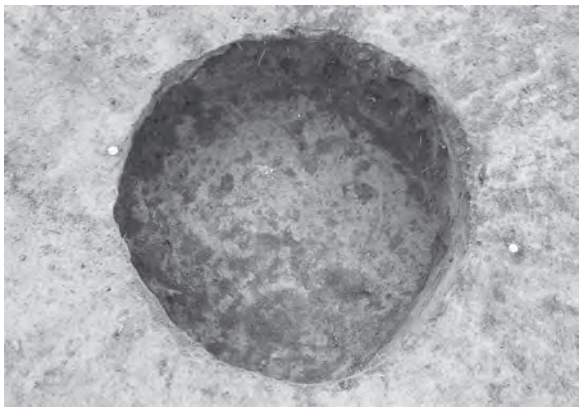


8号土坑断面（南東→）

10号土坑近景（西→）

10号土坑断面（西→）

写真図版14　６～８・10号土坑



11号土坑近景（北東→）

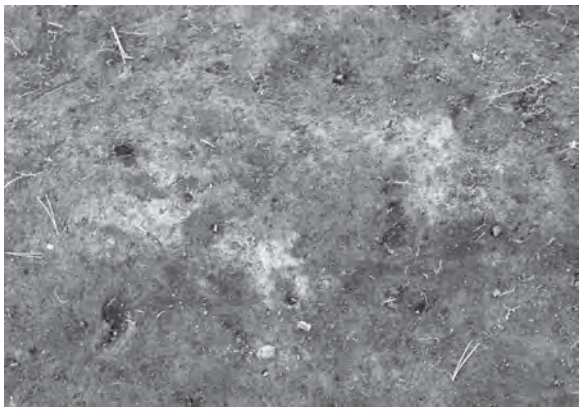
11号土坑断面（南西→）

１号焼土検出状況（北→）

１号焼土断面（東→）

２号焼土検出状況（東→）

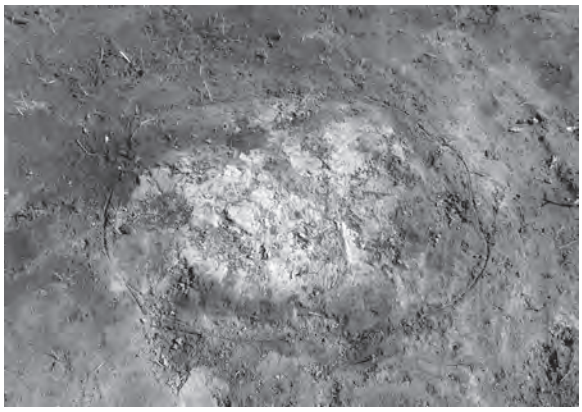
２号焼土断面（北→）



３号焼土検出状況（北→）

３号焼土断面（北東→）

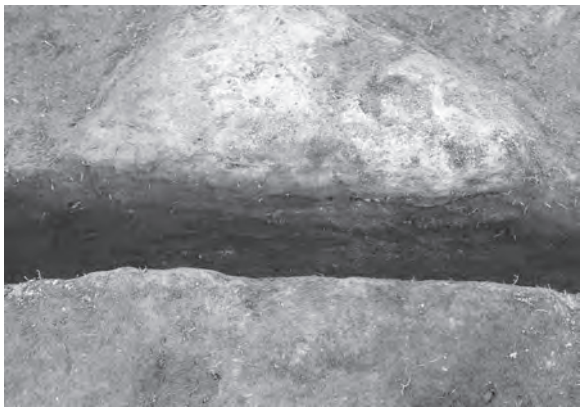
写真図版15　11号土坑、１～３号焼土



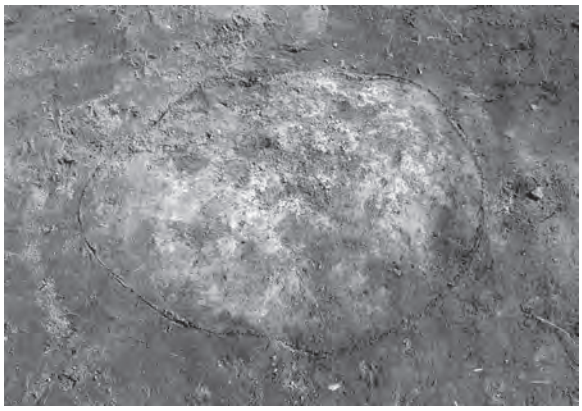
４号焼土検出状況（西→）

４号焼土断面（北東→）

５号焼土検出状況（南→）

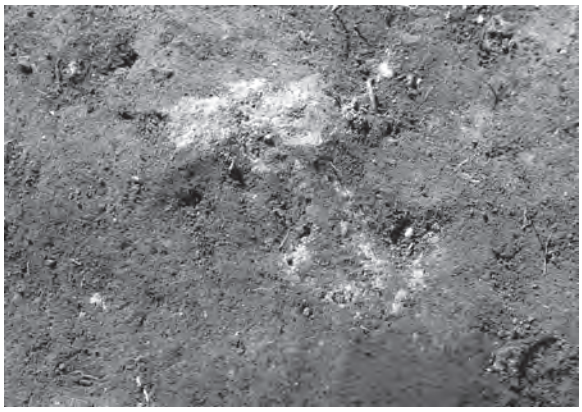


５号焼土断面（北→）

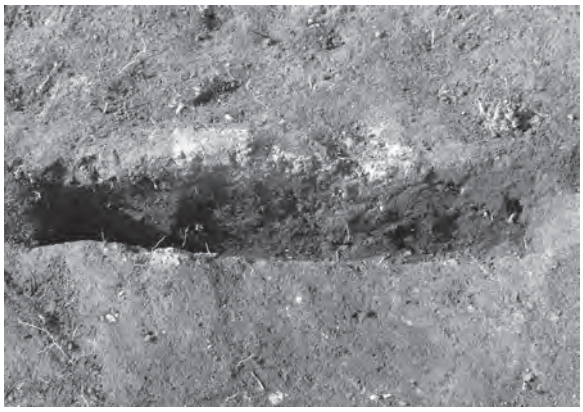


６号焼土検出状況（西→）

６号焼土断面（西→）



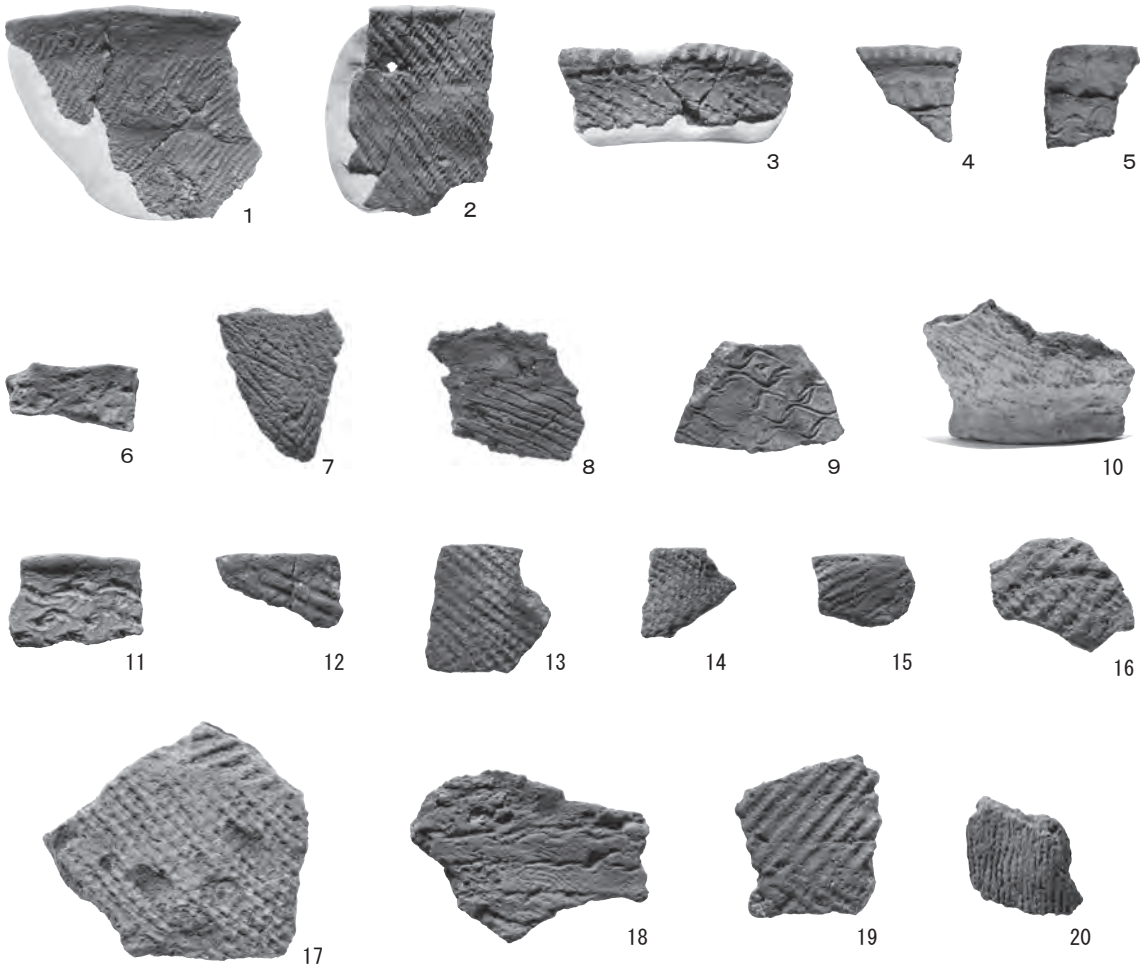
７号焼土検出状況（西→）



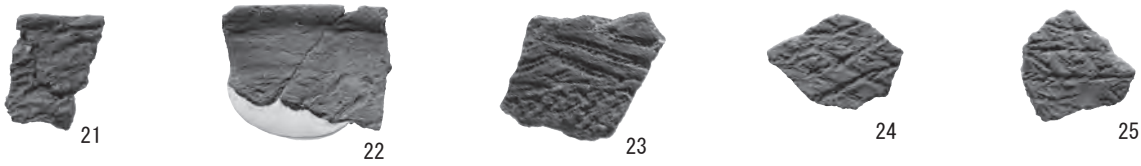
７号焼土断面（東→）

写真図版16　４～７号焼土

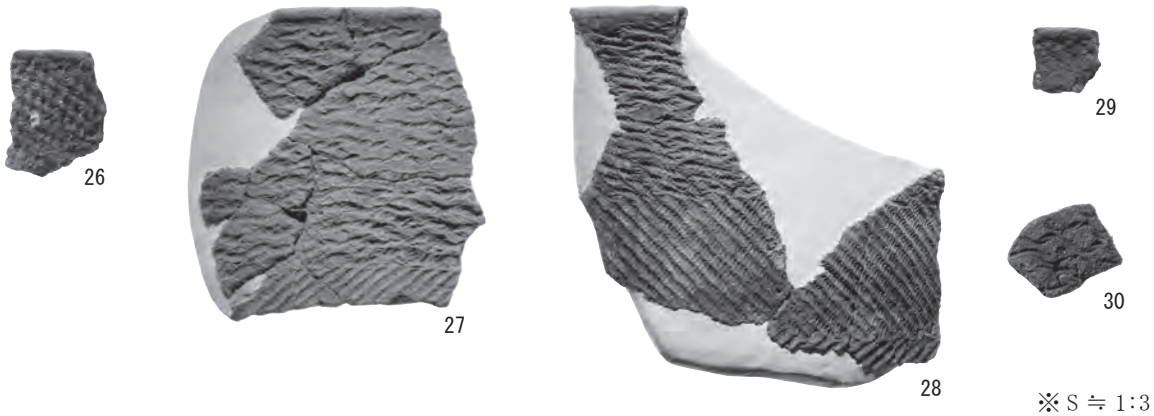
１号竪穴建物



２号竪穴建物



３号竪穴建物



※S ≒ 1:3

写真図版17　１～３号竪穴建物出土土器

４号竪穴建物

31

32

33

34

35

36

37

38

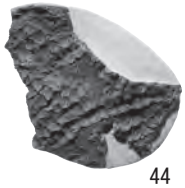
39

40

41

42

43


44

45

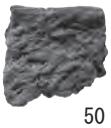
46

47

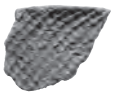
48

５号竪穴建物

49


50

51


52

55

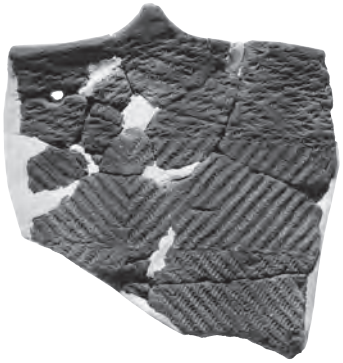
53

54

※S ≒ 1:3

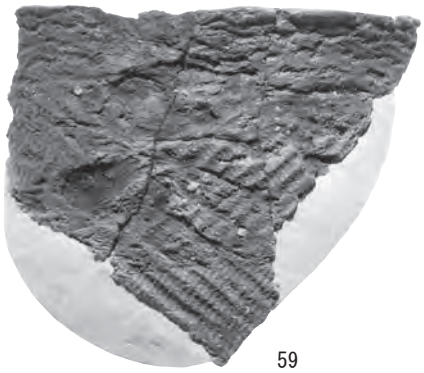
写真図版18　４・５号竪穴建物出土土器

１号性格不明遺構


56

57

58

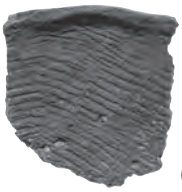

59

３号性格不明遺構

60

61

２号陥し穴状土坑


62

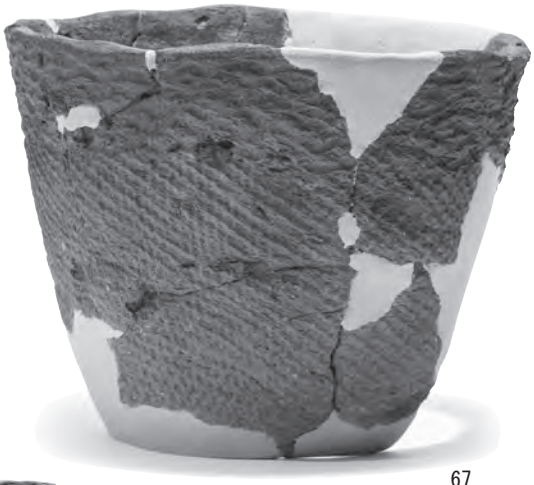
１号土坑

63

64

65

３号土坑


67

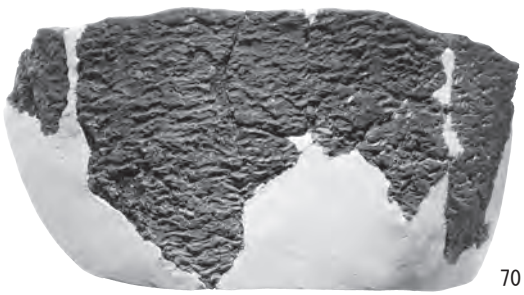
68

69

２号土坑

66

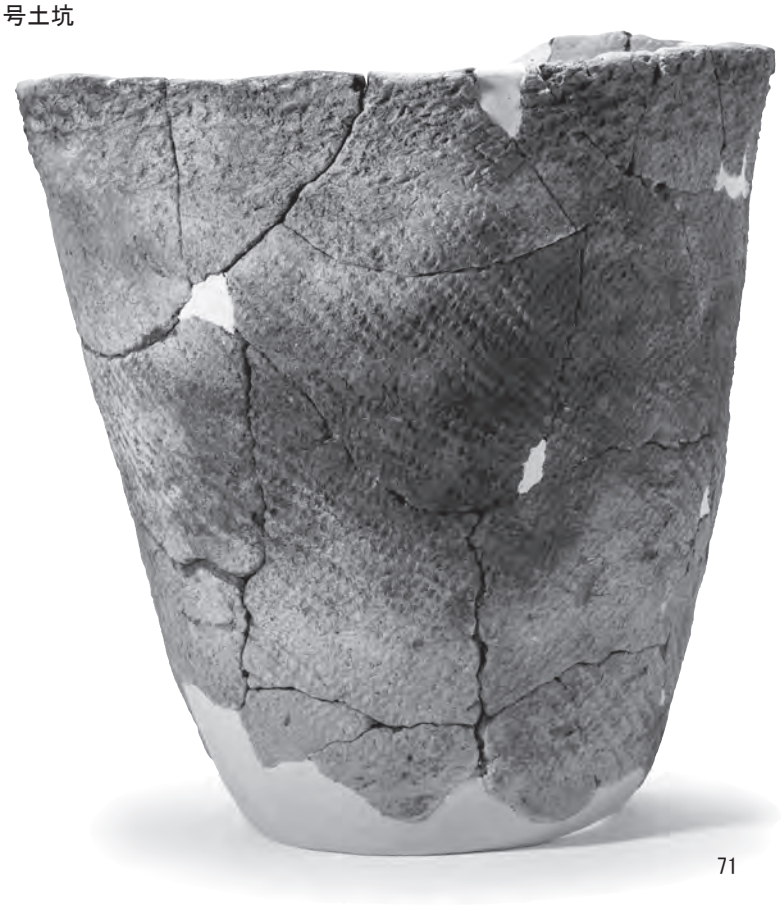
４号土坑

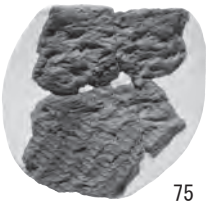

70

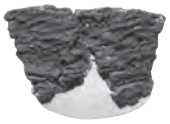
※S ≒ 1:3

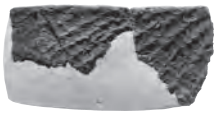
写真図版19　１・３号性格不明遺構、２号陥し穴状土坑、１～４号土坑出土土器

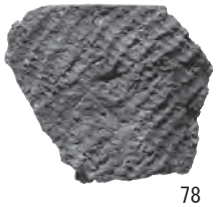
４号土坑


71


75


76

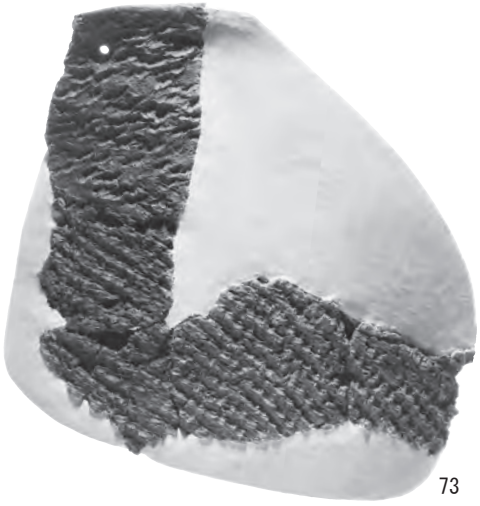

77

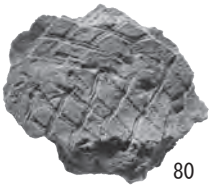

78

72

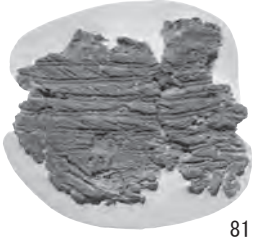
74

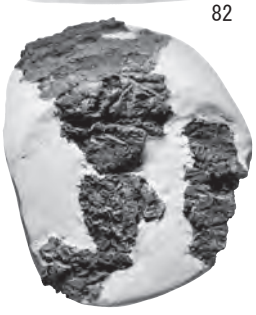
79


73


80

82


81



※S ≒ 1:3

写真図版20　４号土坑出土土器

５号土坑

83

84

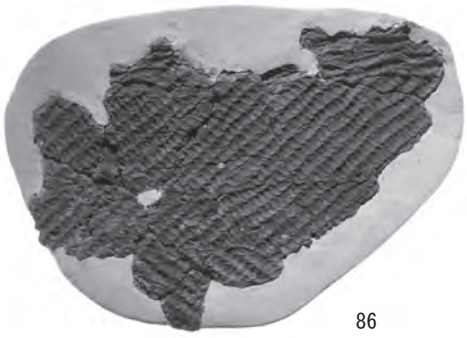
６号土坑

85

※S ≒ 1:3
※ 85 S ≒ 1:4

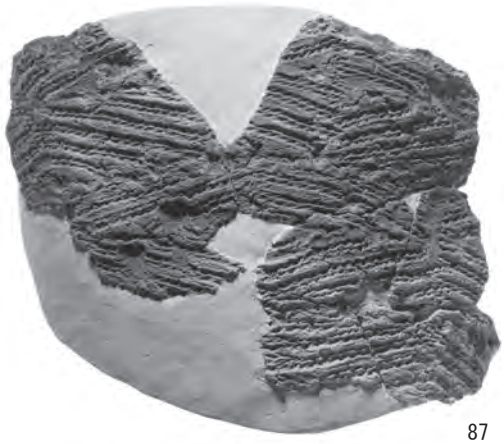
写真図版21　５・６号土坑出土土器

７号土坑



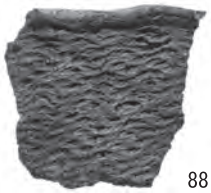
86

８号土坑



87

10号土坑



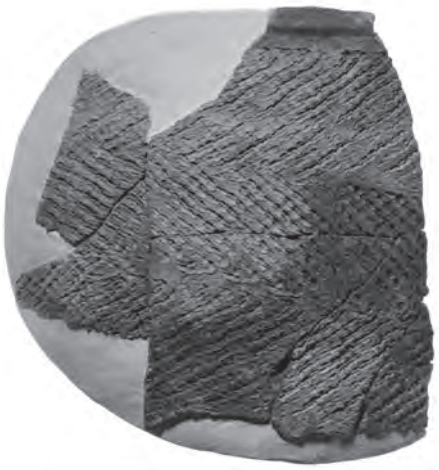
88

89

遺構外

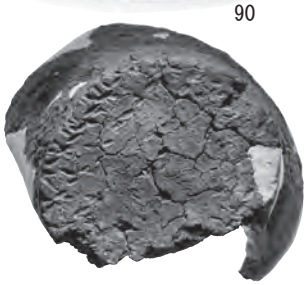
91

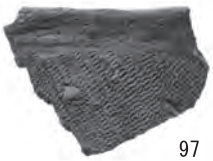
90



92

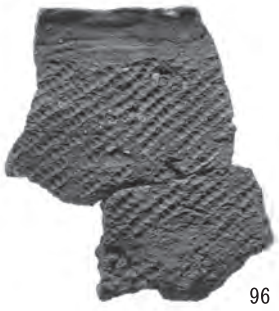
95





97

94



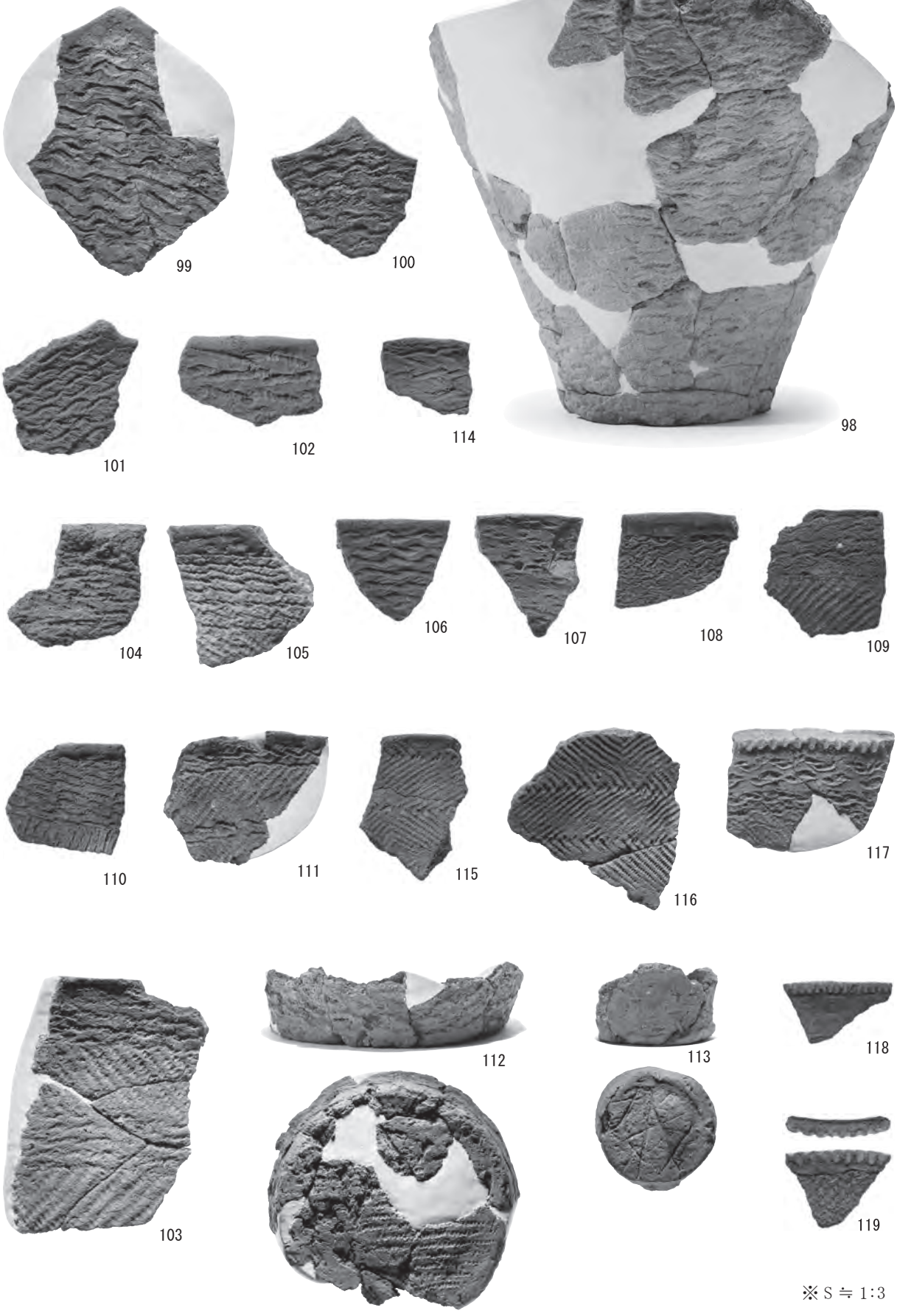
96

93

※S ≒ 1:3

写真図版22　７・８・10号土坑、遺構外出土土器（１）

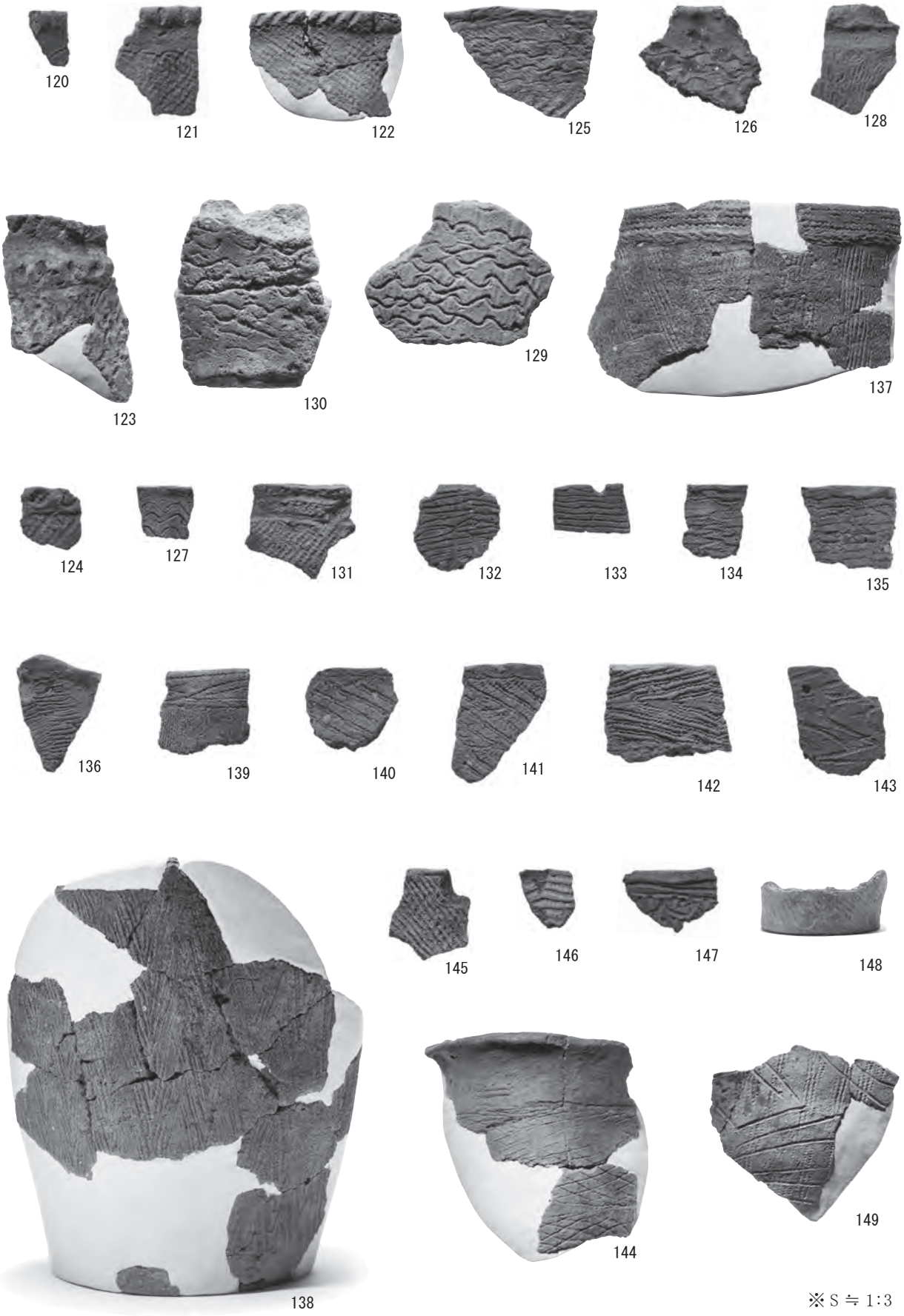
遺構外



※S ≒ 1:3

写真図版23　遺構外出土土器（２）

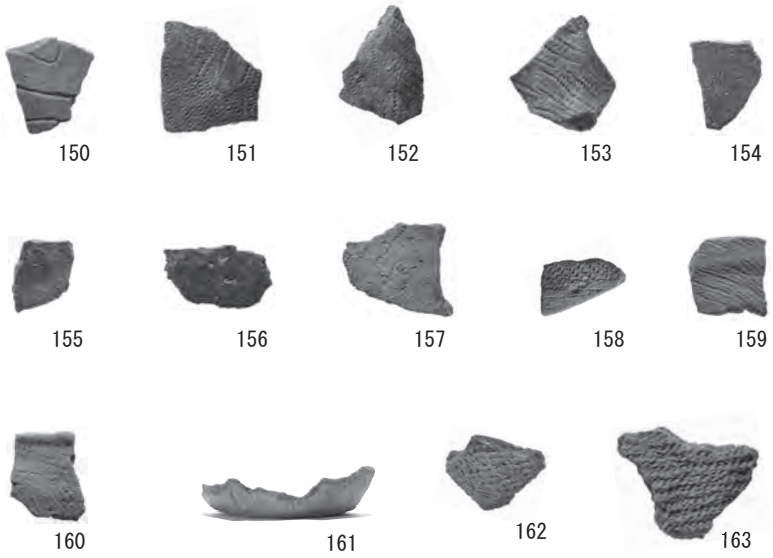
遺構外

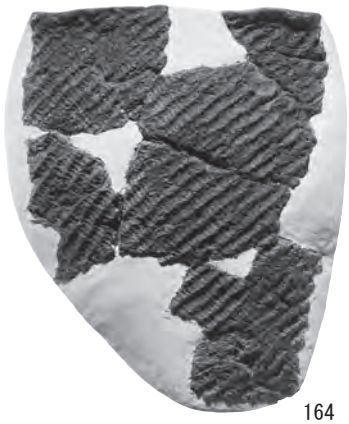


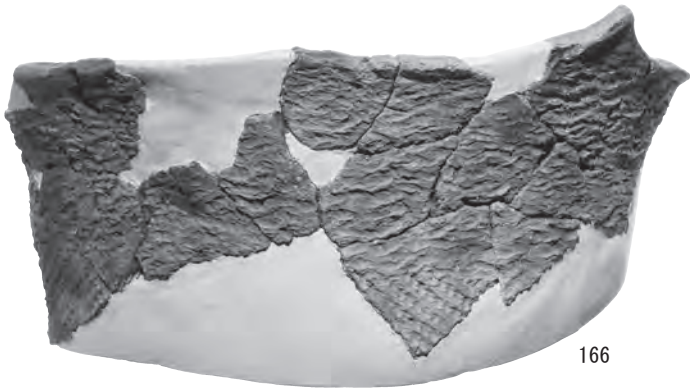
※S ≒ 1:3

写真図版24　遺構外出土土器（３）

遺構外



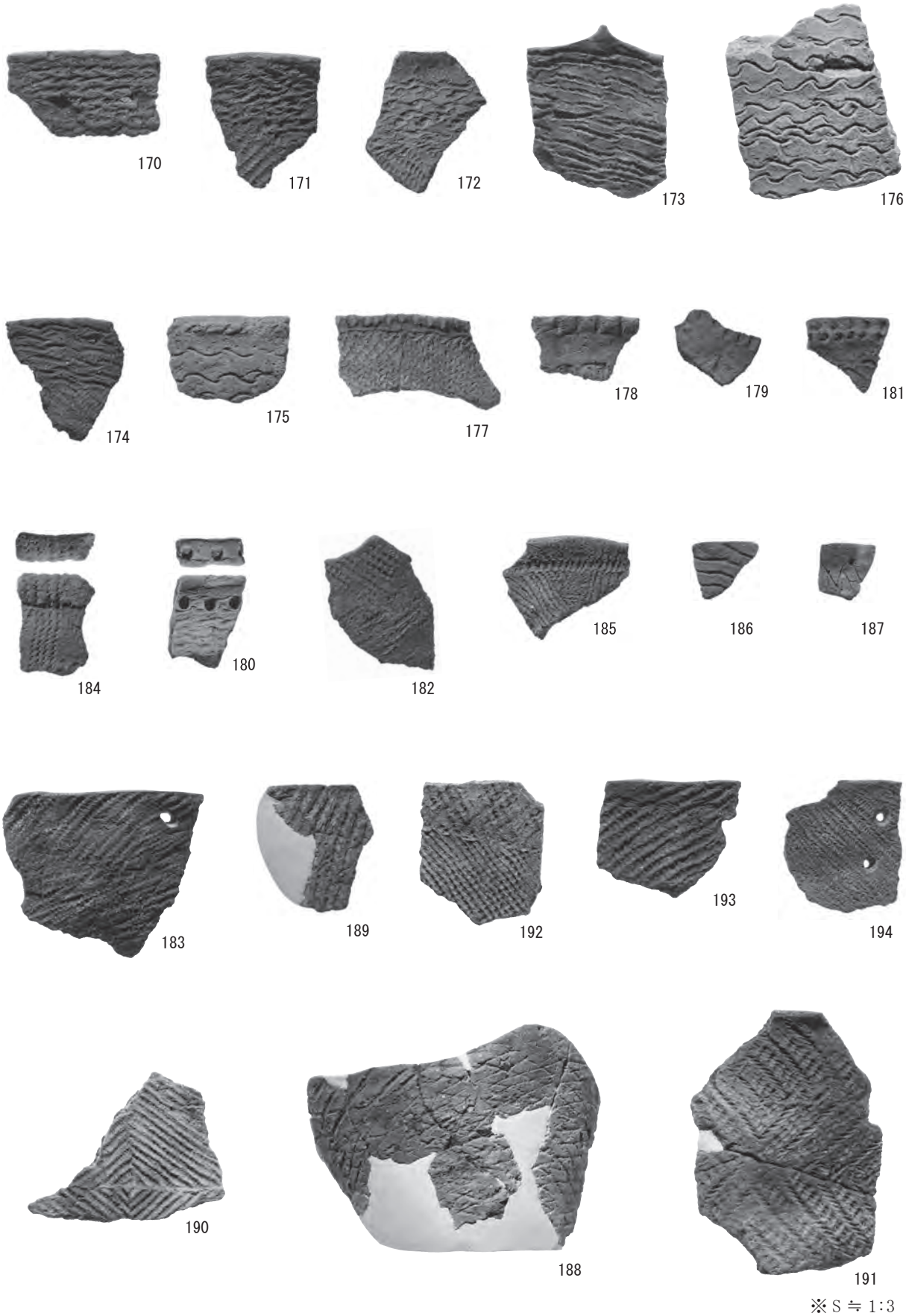




※S ≒ 1:3

写真図版25　遺構外出土土器（４）

遺構外



※S ≒ 1:3

写真図版26　遺構外出土土器（５）

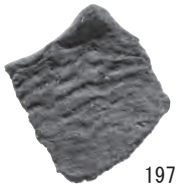
遺構外

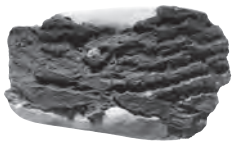
196

199

198

195


197


200

201

202

203

204

※S ≒ 1:3

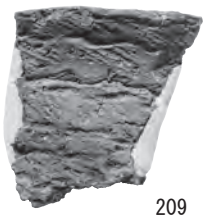
写真図版27　遺構外出土土器（６）

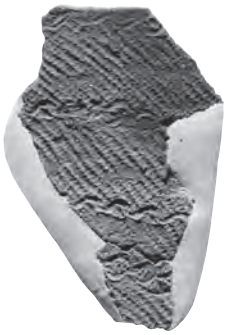
遺構外

205

206

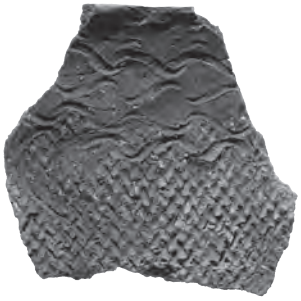
207


209


208

210

211


212

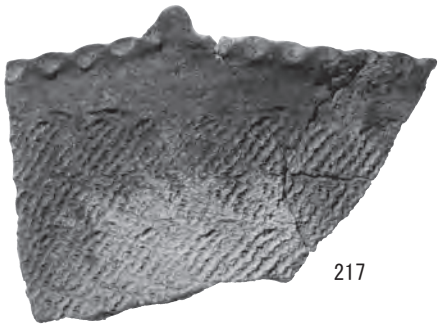
213

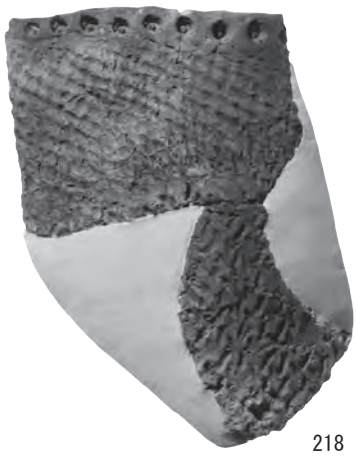
214

216

220

215


217

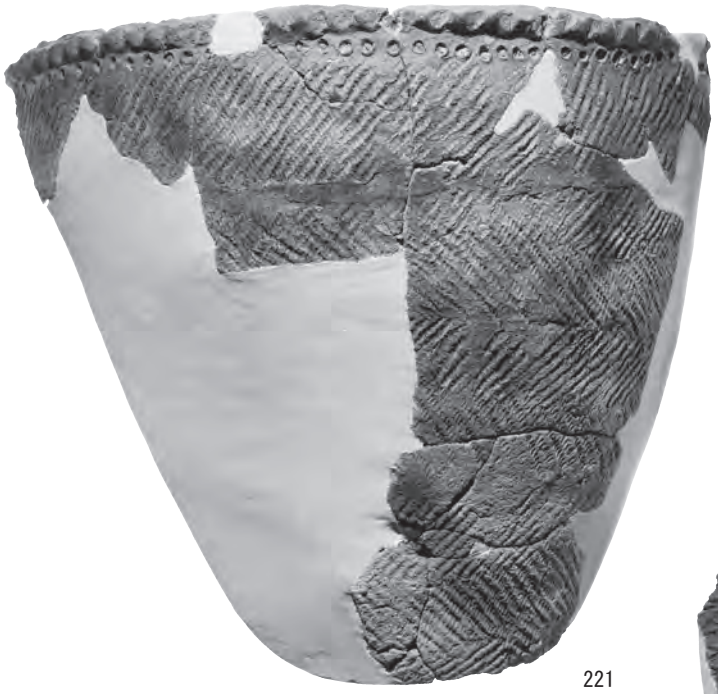

218

219

※S ≒ 1:3

写真図版28　遺構外出土土器（７）

遺構外



221

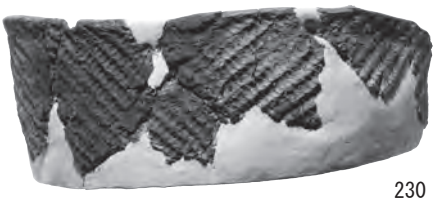
222

226

227

228

225

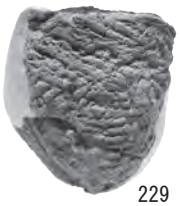


230

231

223

224



229

232

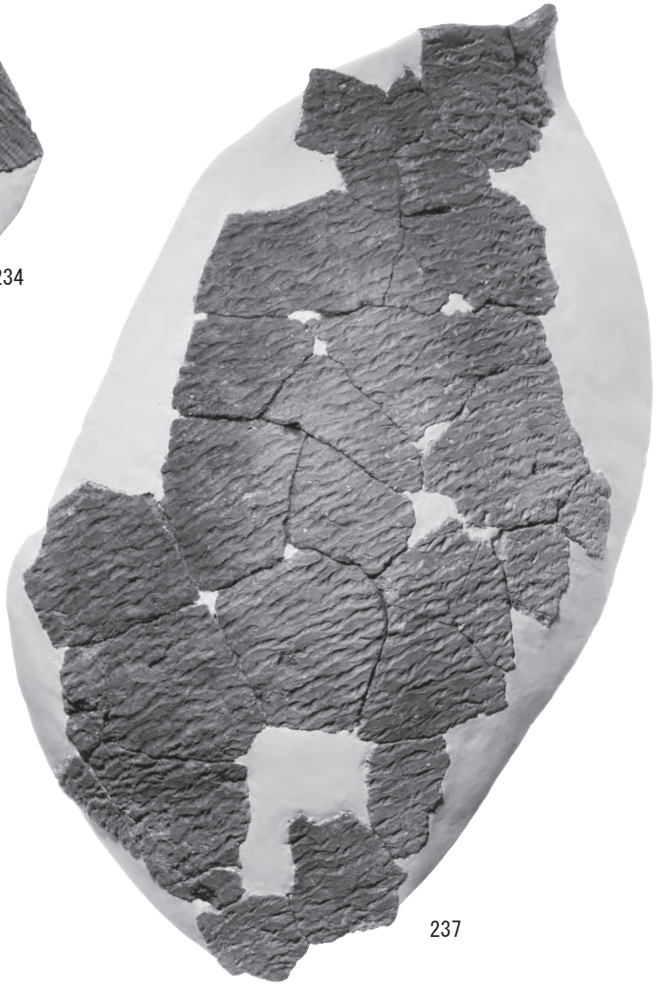
※S ≒ 1:3

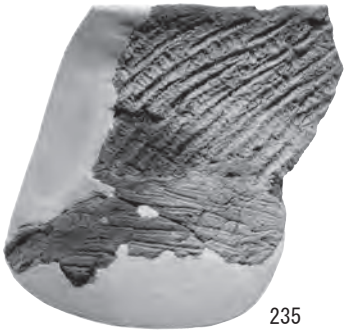
写真図版29　遺構外出土土器（８）

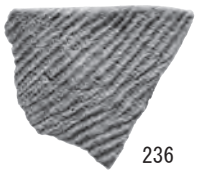
遺構外

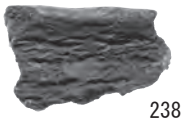
233

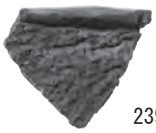
234


237

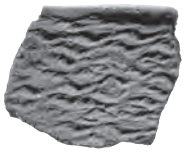

235


236

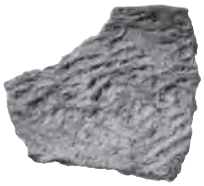

238

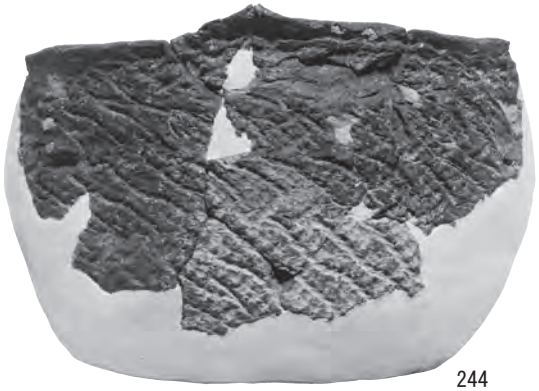

239

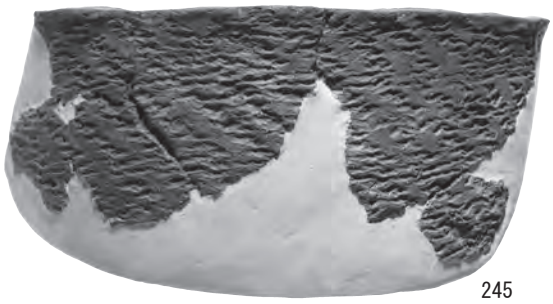
240


241

242


243


244


245

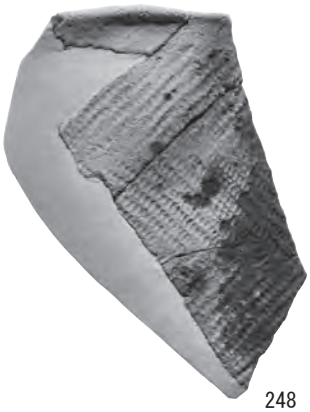
※S ≒ 1:3

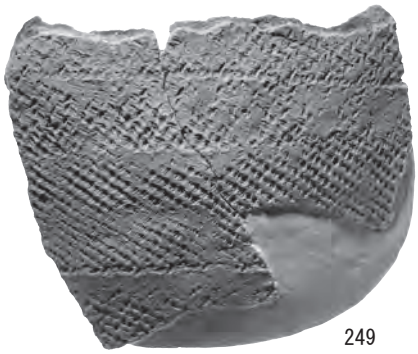
写真図版30　遺構外出土土器（９）

遺構外

246

247

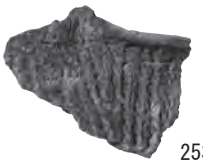

248


249

250

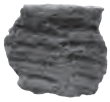
251

252


253

254

255


258

256

257

土製紡錘車

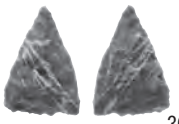
259

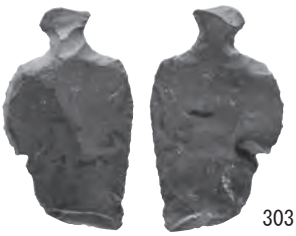
※S ≒ 1:3
※ 259 S≒2:3

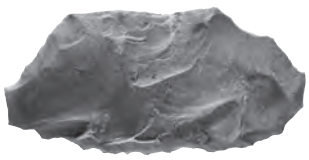
写真図版31　遺構外出土土器(10)、土製紡錘車

１号竪穴建物

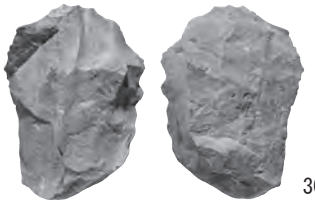
301


302


303



304


305

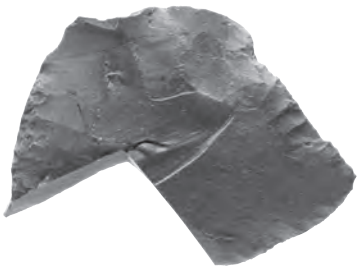
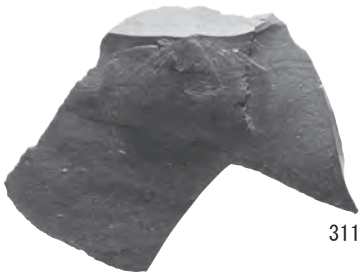
306

３号竪穴建物・１号土坑

307

308

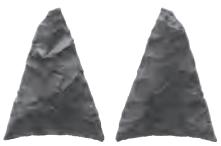
309

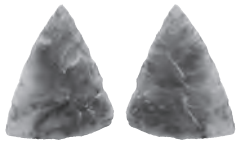


311

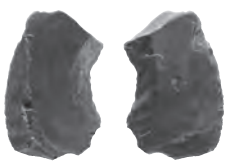
310

312

４号竪穴建物


313


314

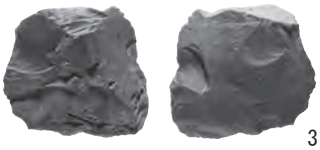

315

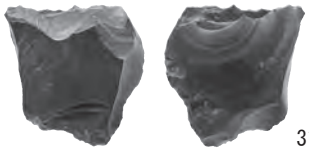
※ S ≒ 2:3

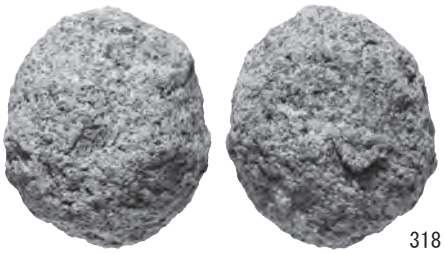
※ 305・306・312 S ≒ 1:3

写真図版32　１号竪穴建物、３号竪穴建物・１号土坑、４号竪穴建物出土石器

４号竪穴建物


316


317


318

319

320

321

322

323

324

５号竪穴建物

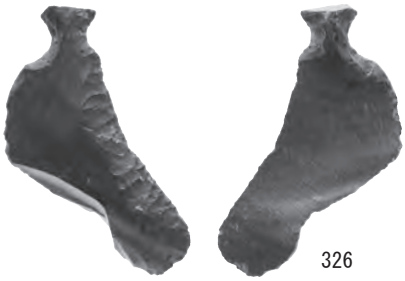
325

※316・317・325 S＝2:3

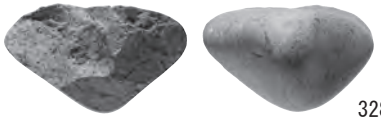
※S＝1:3

写真図版33　４・５号竪穴建物出土石器

５号竪穴建物


326

327


328

329

330

331

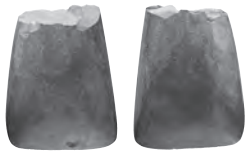
332

３号性格不明遺構

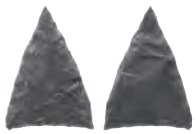
333

２号陥し穴状土坑

334


335

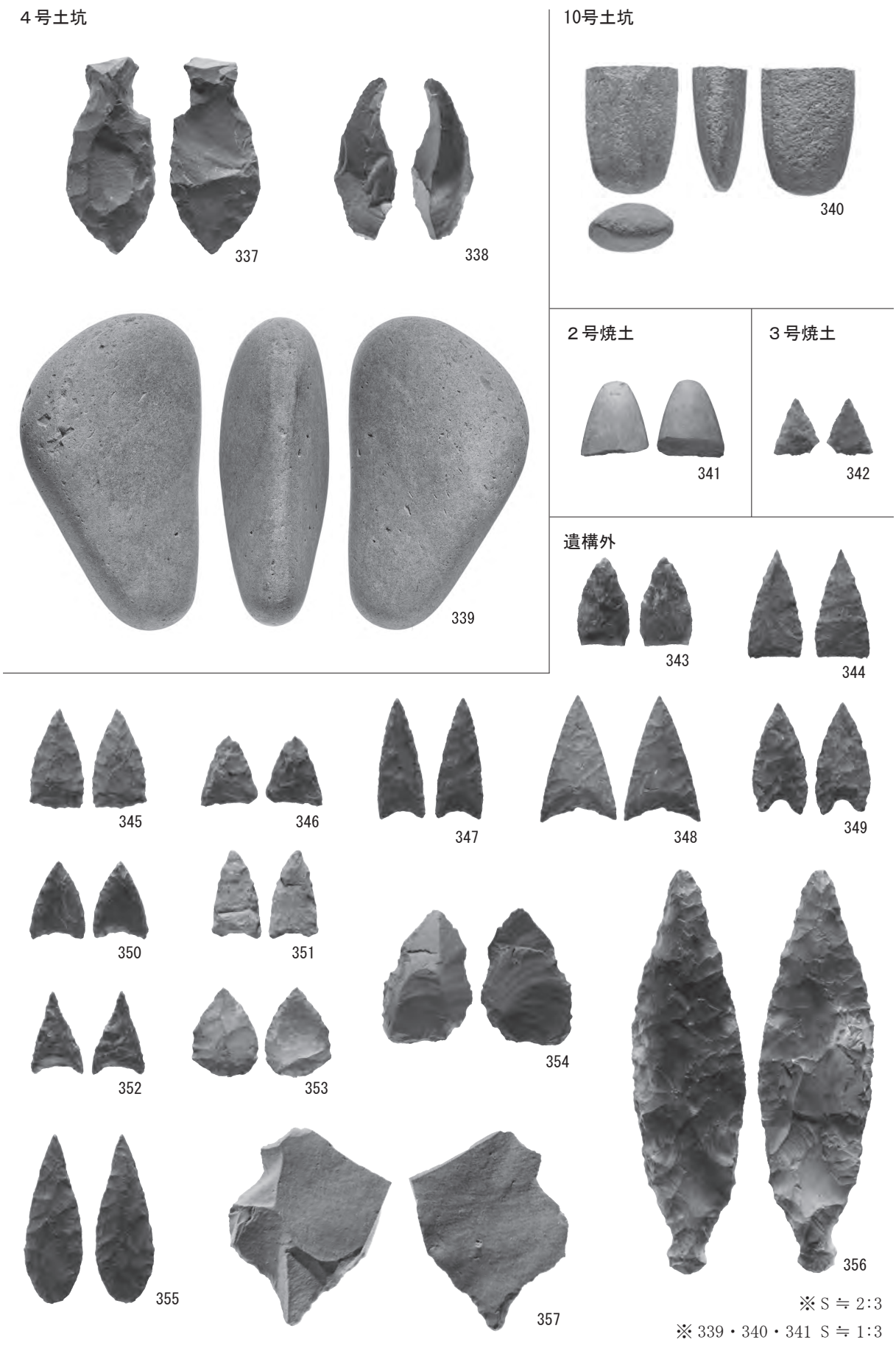
５号陥し穴状土坑


336

※326・327・334・336 S ≒ 2:3

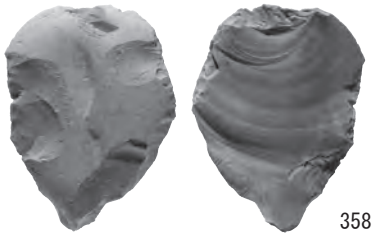
※S ≒ 1:3

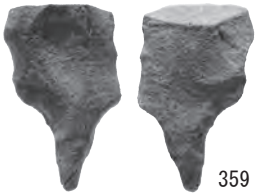
写真図版34　５号竪穴建物、３号性格不明遺構、２・３号陥し穴状土坑出土石器



写真図版35　４・10号土坑、２・３号焼土、遺構外出土石器（１）

遺構外


358


359

360

361

362

363

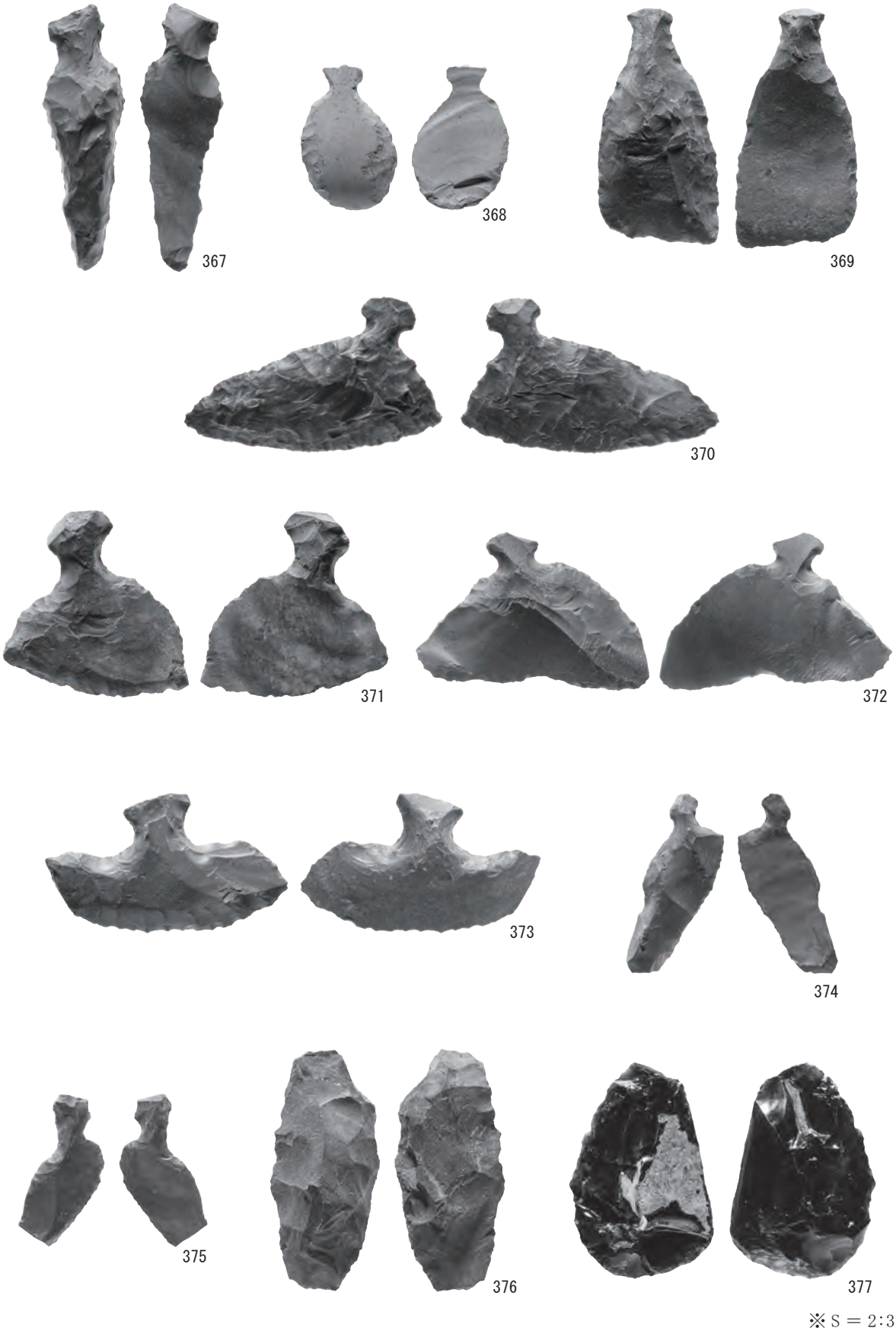
364

365

366

※S ≒ 2:3

写真図版36　遺構外出土石器（２）



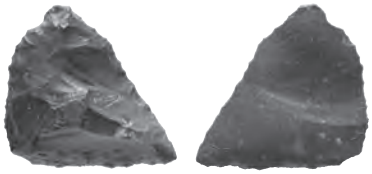
※S＝2:3

写真図版37　遺構外出土石器（３）

遺構外

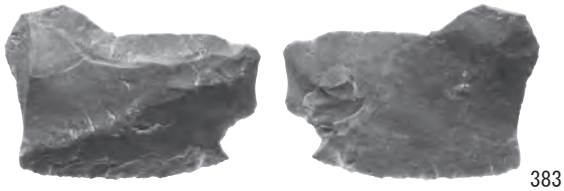
378

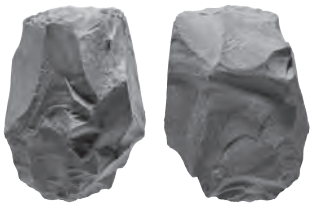
379

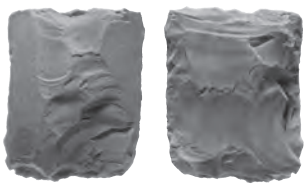

380

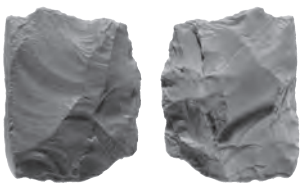
381

382


383

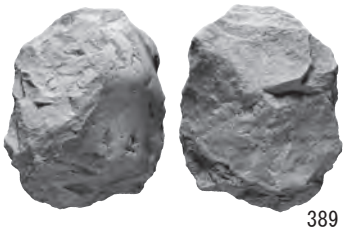

384


385


386

387

388


389

※ S ≒ 2:3

※ 387・388・389 S ≒ 1:3

写真図版38　遺構外出土石器（４）

遺構外

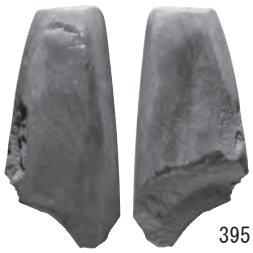
390

391

392

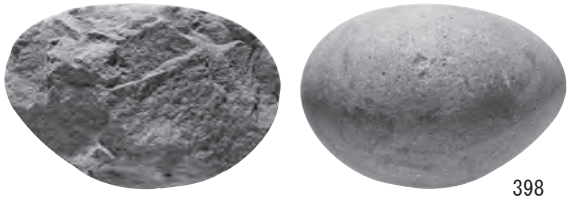
393

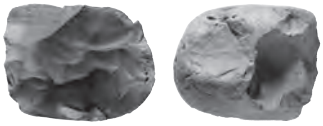
394

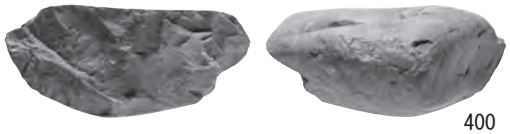

395

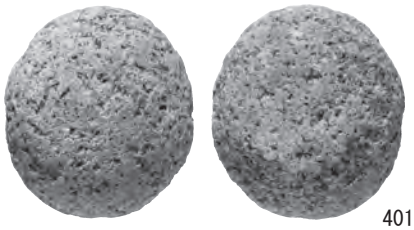
396

397


398

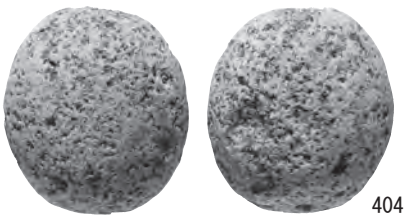

399


400


401

402

403


404

※390 S ≒ 2:3

※S ≒ 1:3

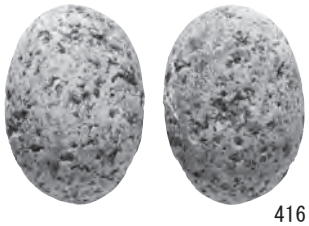
写真図版39　遺構外出土石器（５）

遺構外

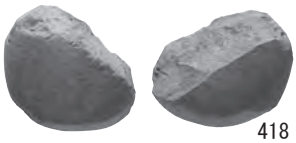
※S ≒ 1:3

写真図版40　遺構外出土石器（６）

遺構外


416

417


418

419

420

421

422

423

424

※ S ≒ 1:3

※ 420・421・422・423 S ≒ 1:5

写真図版41　遺構外出土石器（７）

報 告 書 抄 録

ふりがな	おさんどいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	長途遺跡発掘調査報告書
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第700集
編著者名	星　雅之・米田　寛・鈴木貞行・久保友咲
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185　　TEL　019－638－9001
発行年月日	西暦2019年2月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
長途遺跡	岩手県下閉伊郡普代村第19地割字白井91番地1、93番地9ほか	03485	JE82-1007	40度2分35秒	141度52分10秒	2016．9.16～2016.12.16	2,800㎡	三陸沿岸道路建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長途遺跡	集落・狩猟地	縄文	竪穴建物　4棟	縄文土器（前期）、石器	To-Cu降下前の集落。土坑は廃棄穴、墓壙等の可能性がある。
			土坑　11基		
			性格不明遺構　3基		
			陥し穴状土坑　8基		
			捨て場状遺構1箇所		
		弥生	竪穴建物　1棟	弥生土器（中期～後期）、土製紡錘車	
			焼土　7基		

要約	縄文時代前期と弥生時代後期を中心とした遺跡である。縄文時代前期前葉は、十和田中掫テフラ（To-Cu）降下前の集落が見つかった。長方形竪穴建物、墓壙や廃棄穴の可能性のある土坑、性格不明遺構を調査した。遺物では大木2a～2b式相当の土器と白座式が出土している。縄文時代後期以降では、谷底状地形に列状に陥し穴状土坑が配され、獣道に沿って形成されたと考えられる。弥生時代後期では、竪穴建物と焼土の存在から集落が営まれたと考えられる。弥生土器と土製紡錘車が出土している。

※緯度・経度は世界測地系による数値である。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第700集

長途遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印刷　平成31年２月21日
発行　平成31年２月28日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電　話（019）638－9001
ＦＡＸ（019）638－8563

発　行　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029　岩手県宮古市藤の川４番１号
電　話（0193）71－1711
（公財）岩手県文化振興事業団
〒020-0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電　話（019）654－2235
ＦＡＸ（019）625－3595

印　刷　株式会社　阿部印刷
〒020-0873　岩手県盛岡市松尾町２－２
電　話（019）624－2242

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019